



\* 0012104000 \*

0012104-000

特266-385

滿洲帝國文官考試六法全書

東京昭和書籍・〔編〕

東京昭和書籍

昭和18

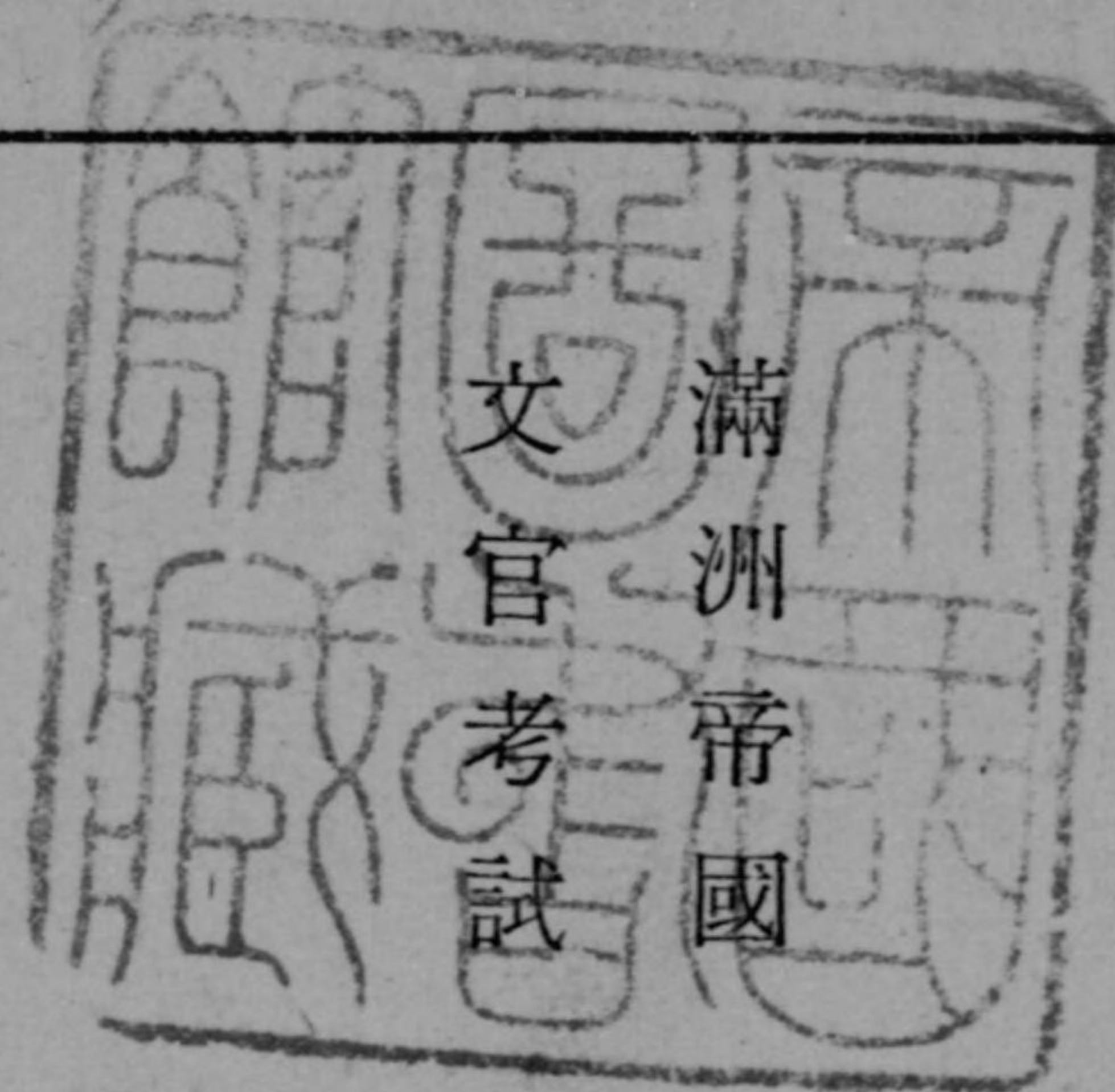
ACA







特 266  
385



滿洲帝國  
文官考試

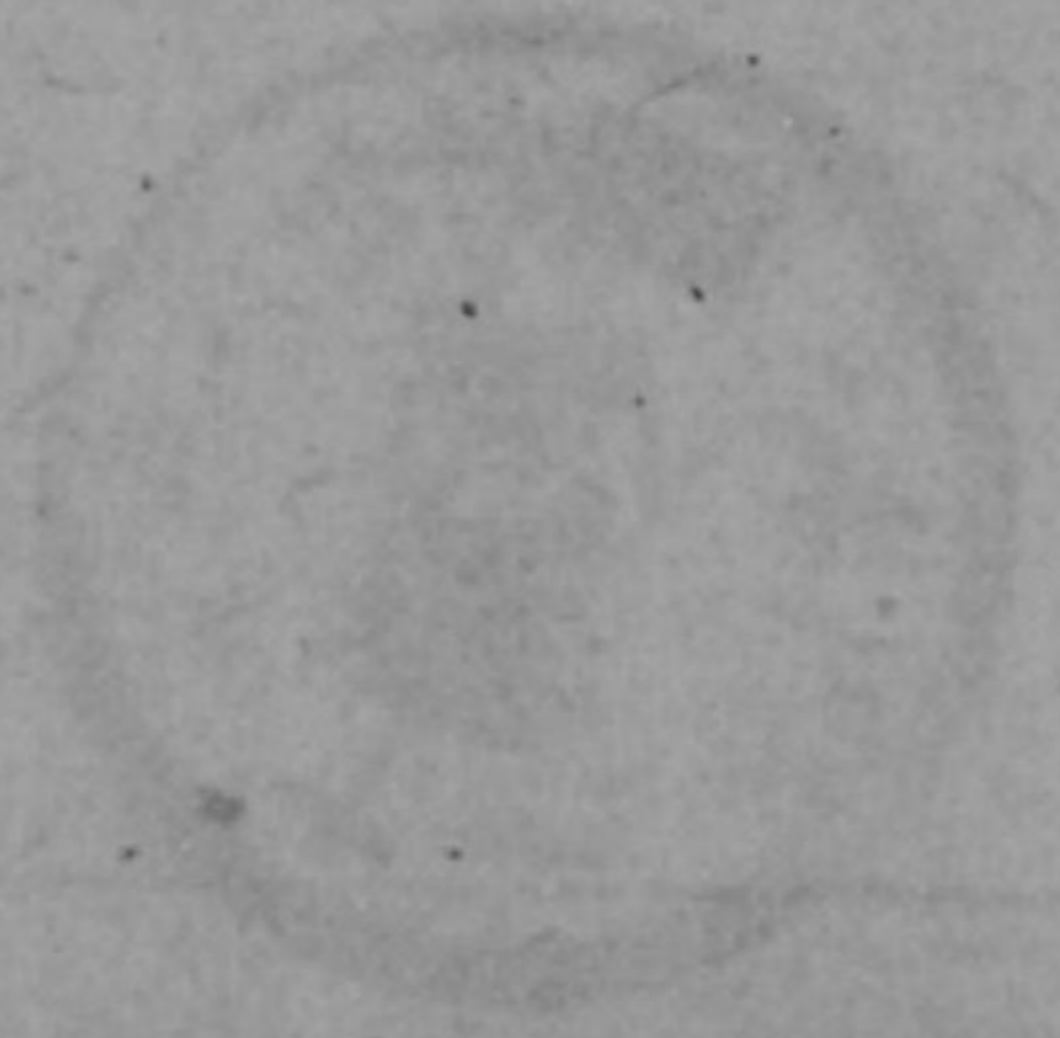
六法全書

東京昭和書籍





一  
基  
本  
法





目次

一 基本法

滿洲國建國宣言……………一  
 即位詔書……………二  
 回鑾訓民詔書……………二  
 國本奠定詔書……………二  
 組織法……………三  
 帝位繼承法……………四  
 人權保障法……………五  
 文官令……………六  
 文官考試規程……………一五  
 薦任官タル司法部高等官、執行官、書記  
 官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル  
 爲メ考試ニ關スル件……………三  
 暫ク從前ノ法令ヲ授用スルノ件……………三  
 法律命令ノ施行期日ニ關スル件……………三  
 公文程式令……………三  
 二 司法機關  
 法院組織法……………一五

三 民事法

法院組織法施行法……………三  
 民法……………三  
 民法總則編施行法……………七  
 民法物權編施行法……………七  
 民法債權編施行法……………七  
 商人通法……………七  
 商人通法施行法……………八  
 會社法……………八  
 會社法施行法……………一六  
 運送法……………一六  
 倉庫法……………一三  
 手形法……………一五  
 小切手法……………一四  
 海商法……………一〇  
 海商法施行法……………一五  
 保險業法……………一三  
 四 民事手續法  
 民事訴訟法……………一五  
 民事訴訟法施行法……………一七



五 刑事法

刑法……………一八一  
刑法施行法……………一九五  
建國神廟及其ノ攝廟ニ對スル不敬罪處  
罰法……………一九五

六 刑事手續法

刑事訴訟法……………一七  
刑事訴訟法施行法……………三六



○滿洲國建國宣言

(大正元年四月一日) 政府公報

想フニ我カ滿蒙各地ハ邊陲ニ屬シ開闢未遠ナリ。諸レヲ往績ニ徵シテ併併シテシ。地質膏腴、民風樸茂、開放ヲ經ルニ造ンテ生聚日ニ繁ク、物產豐饒實ニ奧府トナル。乃チ辛亥革命自リ共和民國成立以來、東省ノ軍閥中原變亂ノ機ニ乘シテ、政權ヲ攫取シ、三省ニ據リテ己カ有トナシ、魏牀相繼キ、竟ニ將ニ二十年ナラントス。讓厲貪婪、驅奢淫佚民生ノ休戚ヲ顧ミルコトナク一ニ惟レ私利ヲノミ是レ國也。

基本法

運、初メハ則チ群雄角逐シテ爭戰頻年、近クハ則チ一黨專橫ニシテ國政ヲ把持ス、何ヲカ民生ト云フ、實ニ之ヲ死ニ驅クナリ。何ヲカ民權ト云フ、唯利ヲ是レ事ラニスルナリ。何ヲカ民族ト云フ、但ク黨アルヲ知ルノミ。既ニ曰ク天下ヲ公ト爲スト。又曰ク黨ヲ以テ國ヲ治ムト。矛盾乘機、自ラ欺キ、人ヲ欺ク。種々ノ詐偽ハ究詰スルニ勝ヘス。比來内閣迭々起リ、疆土分崩シ黨且自ラ存スル能ハス、國何ソ能ク顯ミラレン。是ニ於テ赤匪横行シ災禍瀰リニ告ク毒、海内ヲ新マシメ、民怨沸騰シ政體ノ不良ヲ痛心疾首セサルハ無シ。而シテ曩昔ノ政治清明ノ會ヲ追思ス、直ニ唐虞三代ノ遺キ如キハ幾及スヘカラス。此レ我カ各友邦ノ共ニ目賭シ、而シテ同シク感慨ヲ深ウスル所ナリ。夫レ二十年試驗ノ得ル所ヲ以テスレハ、其ノ結果一ニ此ニ至ル。亦雖然トシテ返ルヘシ矣。乃チ瘡痍ヲ諱ミ、醫ヲ忌ミ其ノ舊惡ヲ怙ミ、詞ヲ民意ノ從違未タ過抑スヘカラサルニ趨ランカ、然ラハ則チ其ノ之ク所ヲ從ニセハ、浸ク共産ニ至ルノミニ非ス、自ラ亡國滅種ノ地ニ陥リテ已マザラン。

ヲ脫離シ、滿洲國ヲ創立ス。茲ニ特ニ建設綱要ヲ將テ中外ニ昭布シ、咸ク聞知セシム。竊ニ惟フニ政ハ道ニ本ツキ、道ハ天ニ本ツク。新國家建設ノ旨ハ一ニ以テ順天安民ヲ主ト爲ス。施政ハ必ス眞正ノ民意ニ徇ヒ、私見ノ或存ヲ容サス。凡ソ新國家領土内ニ在リテ居住スル者ハ皆種族ノ岐視尊卑ノ分別ナシ。原有ノ滿族、蒙族、蒙族及日本、朝鮮ノ各族ヲ除クノ外、即チ其ノ他ノ國人ニシテ長久ニ居留ヲ願フ者モ亦平等ノ待遇ヲ享クルコトヲ得。其ノ應ニ得ヘキ權利ヲ保障シ、其ヲシテ日無暗ノ政治ヲ鑄除シ、法律ヲ改良ヲ求メ、地方自治ヲ勵行シ、廣ク人材ヲ收メテ賢俊ヲ登用シ、實業ヲ獎勵シ、金融ヲ統一シ、富源ヲ開闢シ、生計ヲ維持シ、警兵ヲ訓練シ、匪禍ヲ肅清セム、更ニ進ンテ教育ヲ普及ヲ言ハ、當ニ禮教ヲ是レ崇フヘシ。王道主義ヲ實行シ、必ス境内一切ノ民族ヲシテ熙熙皞皞トシテ春臺ニ登ルカ如クナラシメ、東亞永久ノ光榮ヲ保チテ世界政治ノ模範ト爲サム。其ノ對外政策ハ則チ信義ヲ尊重シテ、力メテ親睦ヲ求メ、凡ソ國際間ノ舊有ノ通例ハ遵守ヲ敬テ求ムルコトナシ。其ノ中華民族以前々國トシテ、其ノ自ラ我カ新國家内ニ投資シテ商業ヲ創興シ利源ヲ開拓スルコトヲ願フモノ有ラハ、何國ニ論ナク一律ニ歡迎シ、以テ門戶開放機會均等ノ實際ヲ達セム。以上宣布セル各節ハ新國家立國主要ノ大綱ナリ。新國家成立ノ日ヨリ起リ、即チ當ニ新組ニ政府ニ由リテ其ノ責任ヲ負フヘシ、極メテ誠懇ナル表示ヲ以テ、三千萬民衆ノ前ニ向







皇帝之ヲ延長スルコトヲ得(康四・六、五本條改正)

第二十三條 立法院ハ總議員三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ(康四・六、五本條改正)

第二十四條 立法院ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル(康四・六、五本條改正)

第二十五條 立法院ノ會議ハ之ヲ公開ス但シ國務院ノ要求又ハ立法院ノ決議ニ依リ秘密會トスルニト得(康四・六、五本條改正)

第二十六條 立法院ノ議決セル法律豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件ハ皇帝之ヲ裁可シ公布施行セシム

立法院法律豫算案又ハ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件ヲ否決セルトキハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍ホ改メザルトキハ空議府ニ送リテ其ノ可否ヲ決ス(康四・六、五本條改正)

第二十七條 立法院議員ハ院內ニ於ケル言論及表決ニ關シ院外ニ於テ責任ヲ負フコトナシ(康四・六、五本條改正)

第五節 國務院

第二十八條 國務院ハ設ク行政ヲ掌理ス(康四・六、五本條改正)

第二十九條 國務院ニ國務總理大臣及各部大臣ヲ置ク

各部大臣ハ主管事務ニ付其ノ責ニ任ズ(康四・六、五本條改正)

第三十條 國務總理大臣及各部大臣ハ何時タリトモ立法院會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ表決ニ加ハルコトヲ得ズ(康四・六、五本條改正)

第三十一條 國務ニ關スル詔勅勅書法律及勅

令ニハ國務總理大臣及主管各部大臣之ニ副署ス(康四・六、五本條改正)

第六節 法院

第三十二條 法院ハ法律ニ依リ民事及刑事ノ訴訟ヲ審判ス但シ行政訴訟其ノ他ノ特別訴訟ニ關シテハ法律ヲ以テ別ニ之ヲ定ム(康四・六、五本條改正)

第三十三條 法院ノ構成及法官ノ資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(康四・六、五本條改正)

第三十四條 法官ハ獨立シテ其ノ職務ヲ行フ(康四・六、五本條改正)

第三十五條 法官ハ刑事事又ハ懲戒ノ裁判ニ依ルノ外其ノ職ヲ免ゼラレルコトナシ又其ノ意ニ反シテ停職轉官轉所及減俸セラルルコトナシ(康四・六、五本條改正)

第三十六條 法院ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ法院ノ決議ヲ以テ公開ヲ停止スルコトヲ得(康四・六、五本條改正)

第七節 附則

第三十七條 本法ハ康德元年三月一日ヨリ之ヲ施行ス(康四・六、五本條改正)

第三十八條 皇帝ハ當分ノ間參議府ノ諮詢ヲ經テ法律ト同一ノ效力ヲ有スル勅令ヲ發布シ豫算ヲ定メ及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スコトヲ得(康四・六、五本條改正)

第三十九條 敕令院令其ノ他何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ハラズ從前ノ法令ハ總テ仍ホ其ノ效力ヲ有ス(康四・六、五本條改正)

附則 (康德元年一月二十九日)  
本法ハ康德元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (康德四年六月五日)

○帝位繼承法

我ガ滿洲帝國ハ日本帝國ノ仗義援助ニ賴リ斯ノ洪業ヲ開キ斯ノ邦基ヲ奠ム是ヲ以テ朕登極以來仰テ

命命ノ本ヅク所ヲ體シ俯シテ國脈ノ繫ル所ヲ念ヒ有ニ守國ノ遠圖經邦ノ長策悉ク日本帝國ト協力同心以テ益兩國不可分離ノ關係ヲ敦クシ一德一心ノ誠義ヲ發揚シ夙夜勤求敢テ或ハ懈ルナシ今茲ニ帝位繼承法ヲ制定シ繼體付託ノ重キニオイテ朕ノ法典ヲ定メ諸ヲ久遠ニ示ス大寶儼然建中易ヲザル實ニ

日本天皇陛下ノ保佑ニ是レ頼ル夫レ皇統繼アリ推レ皇極トナリ天道ヲ踐成シ地宜ヲ輔相シ民ノ父母トナリ仁以テ其ノ政ヲ行ヒ義以テ其ノ法ヲ制スレバ則チ重熙累洽履歷ノ下永ク君民一體ノ美ヲ懋ニシ當ニ天地ト其ノ德ヲ合シ日月ト其ノ明ヲ合スベキナリ凡ソ朕ガ繼統ノ子孫及臣民タル者深ク維興ノ基其ノ無テ莫マ

受命ノ運其ノ無テ莫ク所トニ鑒ミ咸ク朕ガ萬方ヲ撫綏シテ膏肝膽マザルノ心ヲ以テ心トナシ非徒修徳レ價ミ欽敬ヲナクシテ統緒萬年必ズ無疆ノ休ヲ享ケク長治ノ福ヲ保タム

(國務總理、宮内府大臣 署)

第一條 滿洲帝國帝位ハ康德皇帝ノ男系子孫タル男子永世之ヲ繼承ス

第二條 帝位ハ帝長子ニ傳フ

○人權保障法

第三條 帝長子ヲザルトキハ帝長孫ニ傳フ帝長子及其ノ子孫皆在ラザルトキハ帝次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 帝子孫ノ帝位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス帝庶子孫ノ帝位ヲ繼承スルハ帝嫡子孫皆在ラザルトキニ限ル

第五條 帝子孫皆在ラザルトキハ帝兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 帝兄弟及其ノ子孫皆在ラザルトキハ帝伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 帝伯叔父及其ノ子孫皆在ラザルトキハ最近親ノ者及其ノ子孫ニ傳フ

第八條 帝兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 帝嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ奉議府ニ諮詢シ前條條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第十條 帝位繼承ノ順位ハ總テ實系ニ依ル

附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正 康德元年三月勅令第一二號  
敍二人權保障法ヲ制定シ之ヲ公布セシム  
(國務總理大臣 署)

(大同元年四月一日)  
敍令第一二號

第一條 滿洲國人民ハ身體ノ自由ヲ侵害セラレルコトナシ公ノ權力ニ據ル制限ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二條 滿洲國人民ハ財產權ヲ侵害セラレルコトナシ公益上ノ必要ニ由ル制限ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第三條 滿洲國人民ハ種族宗教ノ如何ヲ問ハズ凡テ國家ノ平等ナル保護ヲ享ク

第四條 滿洲國人民ハ法律ノ定ムル所ニ依リ國又ハ地方團體ノ公務ニ參與スルノ權利ヲ有ス

第五條 滿洲國人民ハ法律ノ定ムル所ニ依リ均シク官公吏ニ任ゼラルル權利ヲ有シ或ニ其ノ他ノ名譽職ニ就任スルノ義務ヲ負フ

第六條 滿洲國人民ハ法令ノ定ムル手續ニ從ヒ罰則ヲ爲スコトヲ得

第七條 滿洲國人民ハ法律ノ定メタル法官ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第八條 滿洲國人民ハ行政官署ノ違法處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ救済ヲ請求スルコトヲ得

第九條 滿洲國人民ハ法令ニ依ルニ非ザレバ如何ナル名義ニ於テモ課稅徵發罰款ヲ命ゼラルルコトナシ

第十條 滿洲國人民ハ公益ニ反セザル限り共同ノ組織ニ依リ其ノ經濟上ノ利益ヲ保護増進スルコトヲ得

第十一條 滿洲國人民ハ高利發利其ノ他凡ユル不當ナル經濟的壓迫ヨリ保護セララル

第十二條 滿洲國人民ハ均シク國又ハ地方團體ノ公費ニ依ル各種ノ施設ヲ享用スル權利ヲ有ス

第十三條 本法ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

附則 (康德元年三月一日)

本令ハ康德元年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (勅令第一二號)



○文官令

(明治五年五月七日) 勅令第九五號

改正 康維七年一〇月勅令第二四五號  
我が國建國ノ始ヨリ國是ヲ世界ニ表正シテ民  
族ヲ協和ニ安シクシテ一徳一心國基ヲ固ク  
命國ヲ天日ノ如ク實濟ノ精神ヲ養ヒ在リ  
實官吏ニ繁ル布テ政治ノ隆ヲ期セシムル  
ヲ事トシ英使ヲ遣キ下付テ國々實業ヲ  
公ニ奉ジ自ラ清シテ身ヲ獻スルノ士ヲ優取シ  
國運ヲ隆進シ國權ヲ振興スルニ非ザレバ何  
以テカ信ヲ高邦ニ彰カニシテ天下ニ立テ  
ンヤ然ラバ則チ吾國ノ門ヲ開ク宜シク公明正  
大ニシテ民族ヲ分テズ門地ヲ限ラズ任用ノ材  
ヲ選スル宜シク試験詳慎以テ國運隆進ノ志ヲ  
勵マズベシ庶クハ清キタル多士四方ニ集ヒ興  
リ我が國運ヲ相ク光大發達ノ功必ズ期スベキ  
ナリ故ニ參照府ノ諮詢ヲ經テ文官令ヲ訂可シ  
之ヲ公布セシメ以テ官吏ノ職ニ由ルニ非ズ所  
ヲ昭カニス爾有司其レ設ガ宜ク備シ情禮備ル  
コト勿レ

- 國務總理大臣 隈 景 惠
- 治安部大臣 子 正 山
- 民生部大臣 藤 其 昌
- 司法部大臣 藤 田 鳴 鶴
- 農商務大臣 岡 本 武 三

經濟部大臣 藤 田 鳴 鶴  
交通部大臣 藤 田 鳴 鶴

文官令目次

- 第一章 總則
- 第二章 官制
- 第三章 任用
- 第四章 考選
- 第五章 考選及任用
- 第六章 考選
- 第七章 考選
- 第八章 考選
- 第九章 考選
- 第十章 考選
- 第十一章 考選
- 第十二章 考選
- 第十三章 考選
- 第十四章 考選
- 第十五章 考選
- 第十六章 考選
- 第十七章 考選
- 第十八章 考選
- 第十九章 考選
- 第二十章 考選
- 第二十一章 考選
- 第二十二章 考選
- 第二十三章 考選
- 第二十四章 考選
- 第二十五章 考選
- 第二十六章 考選
- 第二十七章 考選
- 第二十八章 考選
- 第二十九章 考選
- 第三十章 考選
- 第三十一章 考選
- 第三十二章 考選
- 第三十三章 考選
- 第三十四章 考選
- 第三十五章 考選
- 第三十六章 考選
- 第三十七章 考選
- 第三十八章 考選
- 第三十九章 考選
- 第四十章 考選
- 第四十一章 考選
- 第四十二章 考選
- 第四十三章 考選
- 第四十四章 考選
- 第四十五章 考選
- 第四十六章 考選
- 第四十七章 考選
- 第四十八章 考選
- 第四十九章 考選
- 第五十章 考選

第二章 文官ハ法令ヲ遵守シ上官ノ命令ニ遵  
從シ其身譽公以テ其ノ職務ヲ盡スベシ  
第三章 文官ハ其ノ職務ノ内外ヲ問ハズ誠實清  
廉、檢束勤儉ニシテ一般人民ノ師表タルベ  
シ苟モ職務責備以テ名譽ヲ損傷スルガ如キ  
行爲アルベカラズ  
第四章 文官ハ職務ノ内外ヲ問ハズ互ニ禮和  
協力スベシ苟モ國體比國以テ相排擠スルガ  
如キコトアルベカラズ  
第五章 文官ハ職務ニ付常ニ民黨ヲ察シ研鑽  
ヲ加ヘ進テ謀議ヲ行ヒ時世ノ進退ニ伴ヒ結  
政ノ伸張改善ニ努ムベシ苟モ國體比國以テ  
廢政ヲ沈滞セシムルガ如キコトアルベカラ  
ズ  
第六章 文官ハ事務ノ進退ヲ密ニシ其ノ簡捷  
ヲ期シ能率ノ増進ニ努ムベシ苟モ形式ニ隨  
シ事務ヲ沈滞セシムルガ如キコトアルベカ  
ラス  
第七章 文官ハ職務ノ執行ニ付至公至平ニシ  
テ私情ヲ斷リ事ナルベシ苟モ偏私偏重ニ陥リ職  
權ヲ濫用スルガ如キコトアルベカラズ  
第八章 文官ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ  
問ハズ官ノ職務ヲ嚴守スベシ其ノ官職ヲ退  
キタル後亦同シ  
第九章 文官ハ職務ノ召喚ニ依リ職人又ハ職定  
人トナリ職務上ノ責任ニ付職權ヲ受ケタルト  
キハ本職長官ノ許可ヲ得タルモノニ限り供  
應スルコトヲ得

第九條 文官ハ職務ニ關スル未發ノ文書ヲ私  
ニ漏示スベカラズ  
第十條 文官ハ職務ノ内外ヲ問ハズ部下ヨリ  
金品其ノ他ノ利益ノ供與ヲ受ケベカラズ  
第十一條 文官ハ公務ノ爲ニ職ニ私人ヲ使用  
シ又ハ私用ノ爲ニ部下ヲ使用スベカラズ  
第十二條 文官ハ本職長官ノ許可ヲ受ケタルニ  
非ザレバ直接又ハ間接ニ其ノ職務ニ關シ自  
己又ハ他人ノ爲ニ報酬請負其ノ他如何ナル  
名義ヲ以テスルモ他人ヨリ金品其ノ他ノ利  
益ノ供與ヲ受ケルコトヲ得ズ  
第十三條 文官外國ノ君主又ハ政府ヨリ榮  
賜、俸給又ハ贈進ヲ受ケタルニハ勅許ヲ要ス  
第十四條 文官及其ノ配偶者ハ本職長官ノ許  
可ヲ受ケタルニ非ザレバ直接又ハ間接ニ營業  
ヲ爲スコトヲ得ズ  
第十五條 文官ハ本職長官ノ許可ヲ受ケタルニ  
非ザレバ營利會社ノ職員又ハ従業員トナル  
コトヲ得ズ  
第十六條 文官ハ本職長官ノ許可ヲ受ケタルニ  
非ザレバ報酬ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ  
得ズ  
第十七條 文官ハ職務長官ノ許可ヲ受ケタルニ  
非ザレバ職權ヲ離レ又ハ勤務地ヲ離ル  
ルコトヲ得ズ  
第十八條 文官ハ部下ヲ指導監督シ官紀ノ撰  
作ニ努ムベシ  
第十九條 文官ヲ分テテ高等官、委任官及試  
用官ニ分テテ任用スルコトヲ得

補トス  
第二十條 高等官ヲ分テテ特任官、簡任官及  
委任官トス  
第二十一條 試補ヲ分テテ高等官試補及委任  
官試補トス  
本令ノ適用ニ付テハ高等官試補ハ高等官ニ  
準ジ委任官試補ハ委任官ニ準ズ  
第二十二條 文官ノ任用、考選、官等、給與、  
服忌及職暇ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ  
除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル(康七、第二  
四五號本條中改正)  
第二十三條 文官ハ法令ニ別段ノ規定アル場  
合ヲ除クノ外本令ニ依ルニ非ザレバ其ノ官  
ヲ免ゼラレ若ハ休職ヲ命ビラレ又ハ懲戒ヲ  
受ケルコトヲ得  
第二十四條 本令ニ於テ本職長官トハ官制上  
部下ノ進退及賞罰ヲ獎勵シ又ハ專行スル權  
限ヲ有スル官署長ヲ謂ヒ職務長官トハ官制  
上職務ニ付部下ヲ指導監督スル權限ヲ有ス  
ル官署長ヲ謂フ  
第二十五條 本令ニ於テ行政官トハ司法官、  
技術官及教官以外ノ文官ヲ謂ヒ司法官トハ  
判例官及檢察官ノ外執行官、書記官及刑務  
官ヲ謂フ(康七、第二四五號本條中改正)  
第二十六條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ  
國務總理大臣之ヲ定ム  
第二十七條 文官初メテ任用セラレタルトキ  
第一節 總則(康七、第二四五號本  
條中改正)  
第二十八條 特任官ノ任用ハ特任式ヲ以テ之  
ヲ行フ  
簡任官及委任官ノ任用ハ國務總理大臣奏請  
シ裁可ニ依リ之ヲ行フ  
委任官ノ任用ハ本職長官之ヲ專行ス(康七、  
第二四五號本條中改正)  
第二十九條 本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除  
クノ外行政官及司法官ハ文官考選ニ及格シ  
タル者ヨリ之ヲ任用シ技術官及教官ハ檢衡  
ヲ經テ之ヲ任用ス(康七、第二四五號本條改  
正)  
第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ  
文官ニ任用セズ  
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
二 禁治產者  
三 禁治產者  
外國ニ於テ前項各號ノ一ニ該當スル處分又  
ハ宣告ヲ受ケタル者亦前項ニ準ズ(康七、第  
二四五號本條中改正)  
第三十一條 特任官、簡任官及別ニ定ムル文  
官ハ任用ノ資格ニ制限ナク自由ニ之ヲ任用  
スルコトヲ得(康七、第二四五號本條中改正)  
第三十二條 外國ノ官吏ヨリ聘用スル場合ニ  
於テハ簡任官ニ在リテハ簡任文官檢衡委員  
會、委任官又ハ委任官ニ在リテハ夫夫高等  
文官考選委員會又ハ委任文官考選委員會ノ  
檢衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ簡任官ニ任用セラレタル  
者ハ第三十六條第一項第三號及第五十四條  
第一項第一號ノ規定ニ依ル在職年數ニ滿テ  
ザルモノ之ヲ簡任官ニ任用スルコトヲ得(康



七・第二四五號本條改正

第三十三條 二年以上擔任官一等ニ在職シタル者公務ニ因ル傷病ノ爲ニ危篤ニ陥リ若ハ現職ニ堪ヘザルニ至リタルトキ又ハ在職中特ニ功勞アリ退官セントスルトキ若ハ危篤ニ陥リタルトキハ第三十六條又ハ第五十四條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ之ヲ前任官ニ陞任スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十四條 文官給與令別表第四表第一號ノ俸給ヲ受タル委任官ニシテ五年以上其ノ職ニ在リタル者公務ニ因ル傷病ノ爲ニ危篤ニ陥リ若ハ現職ニ堪ヘザルニ至リタルトキ又ハ在職中特ニ功勞アリ退官セントスルトキ若ハ危篤ニ陥リタルトキハ第四十五條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ前任官ニ陞任スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十五條 高等官試補又ハ委任官試補ニシテ公務ニ因ル傷病ノ爲ニ危篤ニ陥リ又ハ現職ニ堪ヘザルニ至リタルトキハ第三十七條第一項第一號、第四十六條第一項第一號、第五十五條第一項第一號、第五十六條第一項第一號、第六十一條第二項、第三項及第六十二條第二項本文ノ規定ニ拘ラズ夫之ヲ前任官又ハ委任官ニ陞任スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十六條 前任行政官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ前任行政官銜委任官ノ銜ヲ經テ之ヲ任用ス  
一 第三十七條ノ資格ヲ有シ三年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
二 第三十七條ノ資格ヲ有セズ二年以上擔任

ノ者ノ經歷其ノ他ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得  
外國ノ官吏又ハ國務總理大臣ノ指定スル關ノ職員ヨリ任用セラレタル者ノ外國ニ於ケル官更在職期間又ハ當該機關ノ職員トシテノ在職期間ハ第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ同項ノ在職期間ト看做ス第百十五條第一項第七號ニ依リ休職ヲ命ゼラレタル者ノ休職期間ニ付亦同シ(康七・第二四五號本條改正)

第四十六條 委任行政官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用ス  
一 行政科委任官適格考試ニ及格シタル者  
二 委任官第二種採用考試又ハ之ニ代ルベキ第六十七條第四項ニ定ムル銜衡ニ及格シタル者  
三 二年以上委任司法官ノ職ニ在リタル者

委任官一種採用考試又ハ之ニ代ルベキ第六十七條第四項ニ定ムル銜衡ニ及格シタル者ハ第五十二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ文官給與令別表第四表第二號ノ俸給ヲ受タル委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
第七十七條第一號ニ定ムル資格ヲ有スル者又ハ第八十六條ノ規定ニ依リ委任官第一種採用考試ニ及格シタル者ト看做サレタル者ハ第五十二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ文官給與令別表第四表第一號ノ俸給ヲ受タル委任行政官ニ任用スルコトヲ得

委任司法官ハ第一項第三號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間

任用司法官、前任軍法官、前任技術官又ハ前任教育官ノ職ニ在リタル者  
第三十七條ノ資格ヲ有セズ四年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ前任行政官ニ任用セラレタル者ハ前項第三號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ前任行政官ニ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十七條 委任行政官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用ス  
一 行政科高等官適格考試又ハ登格考試ニ及格シタル者  
二 二年以上擔任司法官ノ職ニ在リタル者  
三 二年以上擔任軍法官ノ職ニ在リタル者  
委任司法官ハ前項第二號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間ハ第一項第三號ノ適用ニ付テハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

八

第三十八條 產製經濟其ノ他ニ關スル特別ノ學識、技能及經驗ヲ要スル前任又ハ前任行政官ハ第三十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ資格ヲ有セザルモ其ノ學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ夫前任行政官銜委任官又ハ高等文官考試委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十九條 國務總理大臣ノ指定スル地方官署長タル前任又ハ前任行政官ハ第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ資格ヲ有セザルモ其ノ學識、技能及經驗ヲ要スル前任又ハ前任行政官ハ第三十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ資格ヲ有セザルモ其ノ學識、技能及經驗ヲ有スル者ヨリ夫前任行政官銜委任官又ハ高等文官考試委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第四十條 前任行政官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用ス  
一 行政科高等官適格考試又ハ登格考試ニ及格シタル者  
二 二年以上擔任司法官ノ職ニ在リタル者  
三 二年以上擔任軍法官ノ職ニ在リタル者  
委任司法官ハ前項第二號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間ハ第一項第二號ノ適用ニ付テハ前任司法官ノ在職期間ト看做ス(康七・第二四五號本條改正)

第四十一條 將官ハ軍事行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得二年以上擔任武官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ軍行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第四十二條 二年以上擔任教育行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用セラレタル者ニシテ二年以上其ノ職ニ在リタル者ハ第三十七條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ行政科高等官適格考試ニ及格シタル者ト看做ス(康七・第二四五號本條改正)

第四十三條 第四十一條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ教育行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用セラレタル者ニシテ二年以上其ノ職ニ在リタル者ニ之ヲ準用ス(康七・第二四五號本條改正)

第四十四條 將官ハ軍事行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得二年以上擔任武官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ軍行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第四十五條 文官給與令別表第四表第一號ノ俸給ヲ受タル委任行政官ニシテ七年以上其ノ職ニ在リタル者ハ高等文官考試委員ノ銜ヲ經テ之ヲ前任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ在職期間ハ第四十七條ニ依リ銜衡ヲ經テ任用セラレタル委任行政官ニ付テハ其

ハ第一項第三號ノ適用ニ付テハ委任司法官ノ在職期間ト看做ス(康七・第二四五號本條改正)  
第四十七條 警備、地方行政其ノ他ニ關スル技能及經驗ヲ要スル前任行政官ハ前條第一項ノ規定ニ依リ資格ヲ有セザルモ其ノ技能及經驗ヲ有スル者ヨリ委任行政官考試委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第四十八條 文官ニ非ズシテ八年以上上官署ニ勤務シ勤務成績優秀ナル者ニ付當該官署ノ長ノ推薦アリタルトキハ委任行政官考試委員會ノ銜ヲ經テ之ヲ委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ期間ハ其ノ者ノ經歷其ノ他ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第四十九條 五年以上委任教育官ノ職ニ在リタル者ハ之ヲ教育行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ期間ハ教育官以外ノ職ニ在リタル者ニ付テハ其ノ者ノ經歷其ノ他ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

九

第五十條 前條第一項ノ規定ニ依リ教育行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用セラレタル者ニシテ二年以上其ノ職ニ在リタル者ハ第四十六條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ行政科高等官適格考試ニ及格シタル者ト看做ス(康七・第二四五號本條改正)

第五十一條 高等官採用考試ニ及格シタル者ハ之ヲ高等官試補ニ任用ス(康七・第二四五號本條改正)  
委任官第一種採用考試又ハ之ニ

代ルベキ第六十七條第四項ニ定ムル銜衡ニ及格シタル者ハ之ヲ委任官試補ニ任用ス(康七・第二四五號本條改正)  
第七十二條ノ規定ニ依リ應試シタル者ニシテ二等級以上ノ採用考試ニ及格シタル者ハ其ノ志望ノ職位ニ依リ之ヲ任用ス(康七・第二四五號本條改正)

第三節 司法官ノ任用(康七・第二四五號本條改正)  
第五十四條 前任司法官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ前任行政官銜委任官ノ銜ヲ經テ之ヲ任用ス  
一 法院組織法ニ依リ審判官又ハ檢察官トシテ任用セラレタル者  
二 三年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
三 三年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
三 十年以上律師トシテ實務ニ從事シタル者

外國ニ於テ十年以上審判官若ハ檢察官トシテシテ又ハ律師トシテ實務ニ從事シタル者  
前項第三號ノ期間ハ審判官又ハ檢察官トシテ任用セラレタル者ノ官歴其ノ他ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第五十五條 前任審判官及前任檢察官以外ノ前任司法官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ委任司法官ニ任用ス  
一 司法科高等官適格考試又ハ登格考試ニ及格シタル者  
二 二年以上擔任行政官ノ職ニ在リタル者  
委任司法官ハ前項第二號ノ在職年數ニ滿

タザルモ之ヲ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間

任用司法官、前任軍法官、前任技術官又ハ前任教育官ノ職ニ在リタル者  
第三十七條ノ資格ヲ有セズ四年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ前任行政官ニ任用セラレタル者ハ前項第三號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ前任行政官ニ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

第三十七條 委任行政官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用ス  
一 行政科高等官適格考試又ハ登格考試ニ及格シタル者  
二 二年以上擔任司法官ノ職ニ在リタル者  
三 二年以上擔任軍法官ノ職ニ在リタル者  
委任司法官ハ前項第二號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ヲ掌ル前任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間ハ第一項第三號ノ適用ニ付テハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)

委任司法官ハ第一項第三號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ司法行政事務ニ從事スル委任行政官ニ任用セラレタル者ノ在職期間

任用司法官、前任軍法官、前任技術官又ハ前任教育官ノ職ニ在リタル者  
第三十七條ノ資格ヲ有セズ四年以上擔任官一等ニ在職シタル者  
第三十八條又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ前任行政官ニ任用セラレタル者ハ前項第三號ノ在職年數ニ滿タザルモ之ヲ前任行政官ニ任用スルコトヲ得(康七・第二四五號本條改正)



職ノ在職年數ニ滿テザルモ之ヲ委任等判官及前任判官以外ノ前任判官ニ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第五十六條 委任司法官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

- 一 司法科委任官資格考試ニ及格シタル者
- 二 一年以上委任行政官ノ職ニ在リタル者
- 三 委任官第二種採用考試又ハ之ニ代ルベキ第六十七條第四項ニ定ムル銓衡ニ及格シタル者

第四十六條第二項及第三項ノ規定ハ委任司法官ノ任用ニ付テ之ヲ準用ス

司法行政事務ニ從事スル委任官ハ第一項第二號ノ在職年數ニ滿テザルモ之ヲ委任司法官ニ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第五十七條 翻譯事務ヲ擔當スル書記官又ハ委任書記官ハ前二條ノ規定ニ依ル資格ヲ有セザルモ其ノ技能及經驗ヲ有スル者ヨリ夫夫高等文官考試委員會又ハ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第五十八條 委任刑務官ハ第五十六條第一項ノ規定ニ依ル資格ヲ有セザルモ或種其ノ他ニ關シ經驗ヲ有スル者ヨリ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第五十九條 文官ニ非ズシテ八年以上官署ニ勤務シタル者ニ付テハ第四十八條ノ規定ヲ準用シ之ヲ委任刑務官ニ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第六十條 第四十五條第一項、第三項及第五十一條乃至第五十三條ノ規定ハ司法官ノ任用ニ付テ之ヲ準用ス(第七、第二四五號本條改正)

第六十一條 前任技術官ハ前任文官銓衡委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

前任技術官タルベキ高等官候補員ノ高等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

委任技術官ハ技術官タルベキ委任官候補員ニ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ高等文官考試委員會又ハ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ試補以外ノ者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第六十二條 前任教員ハ前任文官銓衡委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス前任教員ハ教員タルベキ高等官候補員ヨリ高等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス但シ必要アリト認ムルトキハ高等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ試補以外ノ者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

委任教員ハ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

學校長ハ前三項ノ例ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第六十三條 技術官タルベキ者ニシテ初メテ高等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經タル者ハ高等官候補員ニ、委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ經タル者ハ委任官候補員ニ之ヲ任用ス但シ第六十一條第四項ノ規定ニ依リ銓衡ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラズ(第七、第二四五號本條改正)

第六十四條 教員タルベキ者ニシテ初メテ高等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經タル者ハ高等官候補員ニ之ヲ任用ス但シ第六十二條ノ規定ニ依リ銓衡ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラズ(第七、第二四五號本條改正)

正)

等文官考試委員會ノ銓衡ヲ經タル者ハ高等官候補員ニ之ヲ任用ス但シ第六十二條第二項但書ノ規定ニ依リ銓衡ヲ經タル者ハ此ノ限ニ在ラズ(第七、第二四五號本條改正)

第六十五條 第七十七條又ハ第七十九條ノ規定ハ技術官又ハ教員タルベキ高等官候補員ノ高等官採用考試又ハ適格考試ニ該當スル銓衡ニ、第八十條ノ規定ハ技術官又ハ教員ノ高等官資格考試ニ該當スル銓衡ニ、第八十七條ノ規定ハ技術官タルベキ委任官候補員ノ委任官資格考試ニ該當スル銓衡ニ、第九十條ノ規定ハ教員ノ委任官資格考試ニ該當スル銓衡ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ第八十條ヲ準用スル教員ノ銓衡ニ付テハ第四十九條第二項ノ規定ヲ準用ス(第七、第二四五號本條改正)

第二節 文官考試(第七、第二四五號本條改正)

第一節 選則(第七、第二四五號本條改正)

第六十六條 文官考試ヲ分チテ高等官考試及委任官考試ノ二等級トス(第七、第二四五號本條改正)

第六十七條 高等官考試ヲ分チテ資格考試、採用考試、適格考試及登格考試トス

委任官考試ヲ分チテ採用考試、適格考試及登格考試トス

委任官ノ採用考試ヲ分チテ第一種及第二種ノ二等級トス

本廳長官特別ノ事由アリト認ムルトキハ國務總理大臣ノ認可ヲ經テ委任文官考試委員會ノ銓衡ヲ以テ前項ノ採用考試ニ代フルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第六十八條 適格考試及登格考試ヲ分チテ行

政科及司法科ノ二科トス(第七、第二四五號本條改正)

第六十九條 高等官資格考試ニ於テハ基礎的學術ニ付考査ス

高等官採用考試ニ於テハ人物及職見ニ關スル考査並ニ身體検査ヲ行フ

委任官採用考試ニ於テハ人物、職見及基礎的學術ニ關スル考査並ニ身體検査ヲ行フ

適格考試ニ於テハ既往ノ勤務成績ヲ考査シ且職見、職務能力及語學ニ付考査ス

登格考試ニ於テハ既往ノ勤務成績ヲ考査シ且職見、基礎的學術、職務能力及語學ニ付考査ス

前項ノ基礎的學術ノ考査ハ第四十六條第二項又ハ第五十六條第二項ノ規定ニ依リ文官給與令別表第四表第二號ノ條給與受タル委任官ニ任用セラレタル者ニ付テハ之ヲ免除ス

語學ノ考査ハ適格考試ニ及格シタル者及國務總理大臣ニ於テ必要ナシト認ムル者ニ付テハ之ヲ免除ス(第七、第二四五號本條改正)

第七十條 文官考試ハ毎年一回以上之ヲ行フ(第七、第二四五號本條改正)

第七十一條 第三十條ノ規定ニ該當スル者ハ文官考試ヲ受クルコトヲ得ズ(第七、第二四五號本條改正)

第七十二條 應試者ハ其ノ資格ニ應ジ二等以上ノ採用考試ヲ併セ受クルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第七十三條 不正ノ方法ニ依リ文官考試ヲ受ケントシタル者ニ對シテハ其ノ考試ヲ停止シ又ハ其ノ及格ヲ無効トス

前項ノ規定ニ該當スル者ハ以テ文官考試ヲ

受クルコトヲ得ズ但シ本廳長官ハ情狀ニ依リ應試ヲ許可スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第七十四條 文官考試ノ及格者ヲ定ムル方法ハ文官考試委員會ノ規定スル所ニ依ル(第七、第二四五號本條改正)

第二節 高等官考試(第七、第二四五號本條改正)

第七十五條 高等官考試ハ高等官トシテ必要ナル人格、職見及能力ヲ備フル者ヲ銓衡スルヲ以テ目的トス(第七、第二四五號本條改正)

第七十六條 高等官考試ハ高等文官考試委員會ノ行フ(第七、第二四五號本條改正)

第七十七條 高等官資格考試ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ付受クルコトヲ得

- 一 大學卒業程度以上ノ學力アリト國家ニ於テ認定又ハ檢定セラレタル者
- 二 國務總理大臣ノ指定スル機關ヨリ推薦セラレタル者(第七、第二四五號本條改正)

第七十八條 高等官採用考試ハ高等官資格考試ニ及格シタル者ニ付受クルコトヲ得

國務總理大臣ニ於テ高等官資格考試ト同等以上ト認ムル外國ノ文官考試ニ及格シタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ高等官採用考試ヲ受クルコトヲ得

國務總理大臣必要アリト認ムルトキハ高等官採用考試應試者ノ年齡ニ制限ヲ附スルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第七十九條 各科高等官資格考試ハ高等官採用考試ニ及格シ高等官採用考試ニ任用セラレタル者ニシテ在職一年以上ノ者ニ付受クルコトヲ得(第七、第二四五號本條改正)

第八十條 各科高等官資格考試ハ文官給與令

別表第四表第一號ノ條給與受クル常務科委任官ニシテ三年以上其ノ職ニ在リ且本廳長官ノ推薦アリタル者ニ付受クルコトヲ得

司法行政事務ニ從事スル委任行政官ノ在職前項ノ採用ニ付テハ之ヲ委任司法官ノ在職ト看做スコトヲ得

第四十五條第三項ノ規定ハ第一項ノ在職期間ニ付テ之ヲ準用ス(第七、第二四五號本條改正)

第八十一條 各科高等官資格考試ニ於ケル基礎的學術ノ考査ニ及格シタル者ニ付テハ前項ノ規定ニ依リ翌年ニ關シ該科ノ基礎的學術ノ考査ヲ免ズ(第七、第二四五號本條改正)

第八十二條 司法科高等官資格考試ハ判官及檢察官ト執行官書記官及判事官トニ分別シテ之ヲ行フ(第七、第二四五號本條改正)

第三節 委任官考試(第七、第二四五號本條改正)

第八十三條 委任官考試ハ委任官トシテ必要ナル人格、職見及能力ヲ備フル者ヲ銓衡スルヲ以テ目的トス(第七、第二四五號本條改正)

第八十四條 委任官考試ハ委任文官考試委員會ノ行フ(第七、第二四五號本條改正)

第八十五條 國務總理大臣必要アリト認ムルトキハ委任官ノ第一種及第二種採用考試應試者ノ年齡ニ制限ヲ附スルコトヲ得第六十七條第四項ニ定ムル銓衡ノ應試者ノ年齡ニ付亦同シ(第七、第二四五號本條改正)

第八十六條 高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任文官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任



官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第八十七條 各科委任官適格考試ハ委任官第一種採用考試ニ及格シテ在職一年以上ノ者之ヲ受タルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第八十八條 高等官試補ニシテ各科高等官適格考試ニ及格セザルモ其ノ語學考査ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ當該科委任官適格考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第八十九條 委任官試補ニシテ各科委任官適格考試ニ及格セザルモ其ノ語學考査ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ當該科委任官第一種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第九十條 各科委任官適格考試ハ文官給與令別表第四表第二號ノ條給與受タル當該科委任官ニシテ一年以上其ノ職ニ在リタル者之ヲ受タルコトヲ得

委任官資格考試ニ關スル事項ハ國務總理大臣ノ認可ヲ經テ本廳長官之ヲ定ム(康七.第二四五號本條改正)

第九十一條 司法科委任官適格考試ハ必要アルトキハ執行官、書記官又ハ刑務官ニ分別シテ之ヲ行フコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第三章 官 等

第九十二條 前任官ノ官等ヲ分チテ二等トシ前任官ノ官等ヲ分チテ三等トス(康七.第二四五號本條改正)

第九十三條 初メテ前任官ニ任用セララル者ノ官等ハ二等トシ前任官ニ任用セララル者ノ官等ハ三等トス

ノ官等ハ三等トス

文官考試ヲ經ズシテ文官ヲ任用スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ官等ヲ定ムルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第九十四條 前任官又ハ前任官ニシテ退官シタル者ヲ再ビ前任官又ハ前任官ニ任用スル場合ニ於テハ前項ノ官等以下トス但シ前項ノ官等ニ在職スルコト三年ヲ超エタル者ニ付テハ前項ノ官等ニ一等級ヲ進ムルコトヲ得

特別ノ事由ニ依リ外國政府ニ聘用セラレ又ハ國務總理大臣ノ指定スル機關ニ採用セララル官ニ任用スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ官等ヲ定ムルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第九十五條 前任官又ハ前任官ノ官等ハ三年以上其ノ官等ニ在職シタル者ニ非ザレバ陸等スルコトヲ得ズ但シ文官考試ヲ經ズシテ文官ヲ任用シタル場合ニ於テハ權衡上必要アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

武官ヲ軍事行政事務ヲ掌ル文官ニ任用シタル場合ニ於テハ武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス(康七.第二四五號本條改正)

第九十六條 官制上他官ニ在ル者ヲ以テ充ツル官ノ官等ハ本官ノ官等ニ依ル(康七.第二四五號本條改正)

第九十七條 前任官又ハ前任官ニシテ一年以上其ノ官等ニ在職シタル者公務ニ因ル傷病疾病ノ爲危險ニ陥リ若ハ現職ニ堪ヘザルニ至リタルトキ又ハ在職中特ニ功勞アリ退官セントスルトキ若ハ危險ニ陥リタルトキハ第九十五條ノ規定ニ拘ラス陸等スルコトヲ得

得(康七.第二四五號本條改正)

第四章 給與

第九十八條 文官ノ給與ハ俸給、職務津貼、冬季津貼及勤務地津貼トス(康七.第二四五號本條改正)

第九十九條 俸給ハ本令ニ於テ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外官階別及文官考試ノ等級別ニ之ヲ定ム但シ文官考試ヲ經ズシテ任用セララル文官ニ付テハ別ニ定ムルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第一百條 職務津貼ハ職務ノ性質及職務上實際ノ程度其ノ他ニ依リ必要アリト認ムル者ニ之ヲ給ス

冬季津貼ハ冬季ニ於テ生活費增加ノ狀況ニ應ジ之ヲ給ス

勤務地津貼ハ勤務地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムル者ニ之ヲ給ス(康七.第二四五號本條改正)

第一百一條 文官給與ニ付テハ前三條ノ規定ニ依ルノ外別ニ之ヲ定ム(康七.第二四五號本條改正)

第五章 服忌及賜暇

第一百二條 文官其ノ父母、祖父母、曾祖父母、伯叔父母、配偶者又ハ兄弟姉妹死亡シタルトキハ服忌ス

服忌中ハ之ヲ出勤ト看做ス(康七.第二四五號本條改正)

第一百三條 服忌中ト雖モ官署事務ノ都合ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ職務長官ハ除服出勤ヲ命ズルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第一百四條 文官ニハ休養ノ爲毎年二十日ノ特別賜暇ヲ與フ但シ初メテ任用セラレ又ハ休職若ハ停職ヲ命ゼラレタルトキ其ノ他國務

總理大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減ジ又ハ與ヘザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ與フベキ特別賜暇日數ノ全部又ハ一部ヲ與ヘザルトキハ之ヲ翌年度以降ノ特別賜暇日數ニ加算シテ與フルコトヲ得但シ其ノ總日數ハ八十日ヲ超ユルコトヲ得ズ(康七.第二四五號本條改正)

第一百五條 前條第二項ノ規定ニ依リ與フベキ特別賜暇日數八十日ニ達シタルトキハ本廳長官ハ之ニ代ヘ四十日以内公務出張ノ例ニ依リ歸省又ハ觀察旅行ヲ行ハシムルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第一百六條 文官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別賜暇ヲ請フコトヲ得

一 子又ハ孫ノ死亡ノトキ

二 父母、祖父母、配偶者又ハ子ノ忌辰ノトキ

三 本人、子又ハ孫ノ婚姻ノトキ

四 子又ハ孫ノ出生ノトキ

五 婦人タル文官分娩ノトキ

六 兵役其ノ他特別ノ公務ノ爲其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ

七 公務ニ因ル傷病疾病ノ爲其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ(康七.第二四五號本條改正)

第十七條 特別賜暇中ハ之ヲ出勤ト看做ス(康七.第二四五號本條改正)

第十八條 文官傷病疾病其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ普通賜暇ヲ請フコトヲ得

普通賜暇日數ハ第四條ノ規定ニ依ル特別賜暇日數ニ充當ス(康七.第二四五號本條改正)

第九條 賜暇ヲ與ヘタルトキト雖モ職務長官ハ官署事務ノ都合ニ依リ出勤ヲ命ズルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

トヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第六章 分限

第一百十條 文官禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ當然其ノ官ヲ失フ(康七.第二四五號本條改正)

第一百十一條 文官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免ズルコトヲ得

一 不具癡疾又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ其ノ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ

二 不良ナル嗜好ヲ有シ矯正ノ見込ナキトキ

三 傷病疾病ノ爲其ノ職ニ堪ヘザルニ因リ其ノ他正當ノ事由ニ因リ免官ヲ願出デタルトキ

前項第一號又ハ第二號ニ依リ其ノ官ヲ免ズルトキハ文官分限委員會ノ諮問ヲ經ルコトヲ要ス第一號ノ場合ニ於テ文官分限委員會ハ審議ヲ爲ス前項ノ顧問醫ノ意見ヲ徴スベシ(康七.第二四五號本條改正)

第一百十二條 文官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退官トス

一 停年ニ達シタルトキ

二 第一百十五條第一項第三號乃至第六號又ハ第一百十六條ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼラレ滿期ニ至リタルトキ

前項第一號ノ停年ハ滿五十五歳トス但シ高等官ニシテ官署事務ノ都合ニ依リ特ニ必要アリト認ムル者ニ付テハ引續キ在官セシムルコトヲ得(康七.第二四五號本條改正)

第一百十三條 適格考試又ハ檢査ニ及格セザル高等官試補又ハ委任官試補ニシテ成業ノ見込ナキ者ハ本廳長官之ヲ退官セシムルコトヲ得(康七.第二四五號本條追加)

第一百十四條 文官ハ其ノ職ニ反シテ現官階又

ハ現官等ヨリ下位ニ轉セララルルコトナシ(康七.第二四五號本條改正)

第一百十五條 文官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命ズルコトヲ得

一 文官懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

三 定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ

四 官署事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

五 六月以上生利不明ナルトキ

六 身體又ハ精神ノ故障ニ因リ三月以上其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ

七 兵役其ノ他特別ノ公務ノ爲六月以上其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ

前項ノ休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ文官懲戒委員會又ハ法院ニ繫屬中トシ第三號及第四號ノ場合ニ在リテハ一年、第五號ノ場合ニ在リテハ六月、第六號ノ場合ニ在リテハ二年、第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ノ存續中トス但シ第五號ノ場合ニ在リテ公務ニ因ルトキハ二年トス(康七.第二四五號本條改正)

第一百十六條 文官ハ原官又ハ原署ノ場合ニ於テハ之ヲ他官ニ任用ス此ノ場合ニ於テハ休職ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ休職ノ期間ハ一年トス(康七.第二四五號本條改正)

第一百十七條 休職文官ハ定員外トシ其ノ本官ヲ奉ジテ職務ニ從事セズ及俸給其ノ他ノ給與ヲ減ゼラレ又ハ之ヲ受ケザルノ外體テ在職文官ト認ルコトナシ(康七.第二四五號本條改正)

第一百十八條 第一百十五條第一號第三號、第四號又ハ第一百十六條ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼ



ラレタル者ニハ官署事務ノ都合ニ依リ何時ニテ免職ヲ命ズルコトヲ得  
 第百十五條 第一項第五號又ハ第六號ニ依リ免職ヲ命ゼラレタル者職ヲ執行スルニ至ラザルトキハ何時ニテモ復職ヲ命ズルコトヲ得(康七。第二四五號本條改正)  
 第百十九條 休職ヲ命ゼラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一及冬季津貼ヲ給シ職務津貼及勤務地津貼ヲ給セズ但シ第百十五條第一項第五號乃至第七號ニ依リ休職ヲ命ゼラレタル者ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十條 特任官及勳章官ニハ第百十一條、第百十二條及第百十四條乃至前條ノ規定ヲ適用セズ(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十一條 高等官ノ免官ハ國務總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ高等官ノ休職及復職ハ前任官ニ在リテハ國務總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ前任官ニ在リテハ國務總理大臣之ヲ命ズ  
 特任官ノ免官、休職及復職ハ本部長官之ヲ專行ス(康七。第二四五號本條改正)  
 第七條 第二四五號本條改正)  
 第百二十二條 遺棄ノ職或テ受クベキ場合左ノ如シ  
 一 職務上ノ遺棄ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リテ失職スル者  
 二 職務ノ内外及關係ハズ官ノ職權ヲ濫シ又ハ濫用シ失職スル者  
 七。第二四五號本條改正)  
 第百二十三條 遺棄ハ左ノ如シ  
 一 免官  
 二 停職  
 三 懲罰

四 申 諭(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十四條 遺棄免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ズ(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十五條 停職ハ二月以上一年以下職務ヲ停止シ起居ヲ自戒セシム  
 停職中ハ俸給ノ三分ノ二以下ノ減俸ヲ併科シ職務津貼及勤務地津貼ヲ給セズ(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十六條 懲罰ハ二月以下其ノ職務及起居ヲ自戒セシム  
 懲罰ニ因リ其ノ關係給ノ三分ノ一以下ノ減俸ヲ併科スルコトヲ得(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十七條 文官ニシテ懲戒ニ當ルベキ所アリト認ムルトキハ高等官ニ在リテハ國務總理大臣、委任官ニ在リテハ國務總理大臣又ハ本部長官ヲ請テ具シ書面ヲ以テ文官懲戒委員會ノ審査ヲ要求スベシ(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十八條 高等官ノ懲戒免官ハ高等文官懲戒委員會ノ議決ヲ具シ國務總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ  
 高等官ノ停職及懲罰ハ高等文官懲戒委員會ノ議決ヲ具シ國務總理大臣之ヲ命ズ  
 委任官ノ懲戒免官停職及懲罰ハ委任文官懲戒委員會ノ議決ヲ具シ本部長官之ヲ命ズ但シ併合審査ノ必要アル爲メ高等文官懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキハ其ノ議決ヲ聽テ之ヲ命ズ  
 申諭ハ高等官ニ在リテハ國務總理大臣又ハ本部長官之ヲ行フ但シ併合審査ノ必要アル爲メ文官懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタ

ルトキハ其ノ議決ヲ聽テ之ヲ行フコトヲ得(康七。第二四五號本條改正)  
 第百二十九條 懲戒ニ付セラレタル事件法院ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ文官懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ズ  
 文官懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スベキ事件ニ關シ訴訟アリタルトキハ其ノ議決ノ確定スルニ至ル迄文官懲戒委員會ノ審査ヲ停止ス(康七。第二四五號本條改正)  
 第百三十條 特任官ニハ本令ノ規定ヲ適用セズ(康七。第二四五號本條改正)  
 附則  
 第百三十一條 本令施行ノ期日ハ國務總理大臣之ヲ定ム(康七。第五九五號令第三十五號)ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行(康七。第二四五號本條改正)  
 第百三十二條 左ノ勅令及勅令ハ之ヲ廢止ス  
 一 大同元年十二月十日勅令第百十四號暫行文官休職規則  
 二 大同二年六月二十八日勅令第五十五號官吏服務規程  
 三 康德元年六月三十日勅令第八十九號高等官官制令  
 四 康德元年六月三十日勅令第九十號委任官官制令  
 五 康德元年六月三十日勅令第九十一號特別津貼支給ニ關スル件  
 六 康德元年十月二十九日勅令第百七十七號低級懲罰給官ニ任ズル者ノ懲罰ニ關スル件  
 七 康德二年八月二十二日勅令第九十八號公務ノ爲メ懲罰ニ附ケタル者等ノ懲罰及給給ニ關スル件  
 八 康德三年五月二十一日勅令第六十九號

司法考試令  
 九 康德三年五月二十一日勅令第七十號將記官考試令  
 十 康德三年五月二十一日勅令第七十一號執行官考試令  
 十一 康德四年六月二十七日勅令第百九十二號特別階級及階級ニ關スル件  
 十二 康德四年十二月二十七日勅令第四百七十六號暫ク總務廳總務課及總務廳學院ニ關スル官制ノ條給テ定ムルノ件(康七。第二四五號本條改正)  
 第百三十三條 本令中考試、任用、官等、給與、服忌及職權ニ關スル規定ニシテ本令施行ノ際現ニ在職スル者ニ對シ適用シ難キモノニ付テハ別ニ之ヲ定ム(康七。第二四五號本條改正)  
 第百三十四條 本令施行ノ際現ニ休職ヲ命ゼラレタル者ノ休職期間ニ付テハ休職發令ノ日ヨリ起算シ本令ノ規定ヲ適用ス(康七。第二四五號本條改正)  
 第百三十五條 懲戒スベキ所爲ハ本令施行前ニ關スルモノト雖モ本令ノ規定ヲ適用ス(康七。第二四五號本條改正)  
 附則 (康七。第七年一月十五日)勅令第二四五號  
 本令ハ康德七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 改正 康德七年一月十五日勅令第四五號  
 文官考試規程ヲ左ノ通制定ス

第一章 資格考試及採用考試  
 第一條 高等官資格考試ハ筆記ニ依ル  
 第二條 採用考試ニ於ケル學術ノ審査ハ筆記ニ依リ人物及識見ノ審査ハ口述ニ依ル  
 第三條 高等官資格考試ニ於ケル學術ノ審査ハ左ノ必須科目及選擇科目ニ付テ行フ  
 必須科目  
 一 基本法  
 二 行政法又ハ民法  
 三 經濟學  
 四 東洋史  
 五 國語  
 六 常識  
 七 國語ハ滿語、日語、蒙古語、英語、佛語及露語ノ中應試者ノ常用語ヲ除キタルモノニ付テハ其ノ一ヲ選擇セシム  
 選擇科目  
 一 哲學概論  
 二 世界地理  
 三 社會學  
 四 經濟學  
 五 財政學  
 六 外交史  
 七 刑法  
 八 民法  
 九 行政法又ハ民法(必須科目ニ於テ應試者ノ選擇セザリシモノ)  
 十 民事訴訟法  
 十一 刑事訴訟法  
 十二 國際公法  
 十三 國際私法  
 十四 選擇科目ハ應試者ヲシテ種々ニ科目ヲ選擇セシム  
 第十四條 日本ノ高等試驗本試驗ハ文官令第七十八條第二項ノ適用ニ付テハ高等官資格考

試ト同等ノモノト認定ス  
 第十五條 委任官第一種採用考試ニ於ケル學術ノ審査ハ左ノ科目ニ付テ行フ  
 一 國語  
 二 算術  
 三 東洋史、滿洲地理  
 四 作文  
 五 常識  
 六 前項ノ科目ハ國民高等學校卒業程度トス  
 七 前條 第三條及前二條ノ規定ニ依リ科目ノ外當該考試委員會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ國務總理大臣ノ認可ヲ經テ別ニ科目ヲ加フルコトヲ得  
 第八條 學術審査科目ノ中必要アリト認ムル科目ニ付テハ當該考試委員會ニ於テ考試問題提出ノ範圍ヲ定ムルコトヲ得  
 第九條 法制ニ關スル科目ハ應試者ノ願ニ依リ日本ニ於ケルニ相當スル科目ヲ以テ代フルコトヲ得  
 第十條 法制ニ關スル科目ノ中當該考試委員會ニ於テ必要アリト認ムル科目ノ考試ハ應試者ニ法文ヲ示シテ之ヲ行フコトヲ得  
 第十一條 各高等官資格考試ニ於ケル學術ノ審査ハ筆記ニ依リ職務能力ノ審査ハ筆記又ハ口述ニ依リ識見ノ審査ハ口述ニ依ル  
 第十二條 各高等官資格考試ニ於ケル學術

○文官考試規程

基本法 官制 文官考試規程 資格考試及採用考試 高等官資格考試



ノ考査ハ筆記又ハ口述ニ依ル前項ノ語學ハ  
滿語、日語、蒙古語及露語ノ中應試者ノ常  
用語ヲ除キタルモノニ付豫メ其ノ一ヲ選擇  
セシム

語學檢定考試ニ於テ三等以上ニ及格シタル  
者ニ對シテハ各科高等官資格考試ニ於ケル  
語學ノ考査ヲ免ズ

第十三條 各科高等官資格考試ニ於ケル既往  
ノ勤務成績ノ審査ハ高等文官考試委員會ノ  
各官署分科會之ヲ行フ

高等文官考試委員會ハ各官署分科會ヲシテ  
各科高等官資格考試ニ於ケル執務能力ノ考  
査ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 既往ノ勤務成績優秀ニシテ且學  
術、執務能力及語學ノ考査ニ及格シタル者  
ニ非ザレバ語學ノ考査ヲ受クルコトヲ得ズ

第十五條 行政科高等官資格考試ニ於ケル學  
術ノ考査ハ左ノ必須科目及選擇科目ニ付之  
ヲ行フ

必須科目  
一 基本法  
二 行政法  
三 經濟學  
四 東洋史  
五 常識

選擇科目  
一 哲學概論  
二 世界地理  
三 社會學  
四 財政學  
五 經濟史  
六 外交史  
七 民法  
八 商法

九 刑法  
十 國際公法  
十一 選擇科目ハ應試者ヲシテ豫メ一科目ヲ  
選擇セシム

第十六條 司法科高等官資格考試ニ於ケル學  
術ノ考査ハ左ノ必須科目及選擇科目ニ付之  
ヲ行フ

審判官及檢察官考試  
必須科目  
一 基本法  
二 民法  
三 刑法  
四 東洋史  
五 常識

選擇科目  
一 經濟學  
二 世界地理  
三 商法  
四 民事訴訟法  
五 刑事訴訟法  
六 國際公法  
七 國際私法

執行官、書記官及刑務官考試  
必須科目  
一 基本法  
二 民法  
三 刑法  
四 東洋史  
五 常識

選擇科目  
一 商法  
二 民事訴訟法

三 刑事訴訟法  
四 不動產登錄法  
五 強制執行法  
六 拍賣法  
七 監獄法

選擇科目ハ應試者ヲシテ豫メ二科目ヲ  
選擇セシム

第十七條 前二條ノ規定ニ依ル科目ノ外高等  
文官考試委員會ニ於テ必要アリト認ムルト  
キハ國務總理大臣ノ認可ヲ經テ別ニ科目ヲ  
加フルコトヲ得

第十八條 第八條及第十條ノ規定ハ高等官登  
格考試ニ之ヲ準用ス

第十九條 適格考試ニ於ケル執務能力ノ考査  
ハ筆記又ハ口述ニ依リ語學ノ考査ハ口述ニ  
依ル

第二十條 既往ノ勤務成績優秀ニシテ且語學  
及執務能力ノ考査ニ及格シタル者ニ非ザレ  
バ語學ノ考査ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十一條 第十二條ノ規定ハ適格考試ニ之  
ヲ準用ス

第二十二條 第十三條ノ規定ハ各科高等官適  
格考試ニ之ヲ準用ス

第二十三條 高等官資格考試ヲ受ケントスル  
者ハ應試願書(第一號書式ノ一)ニ左記書類  
ヲ添ヘ高等文官考試委員會委員長ニ提出ス  
ベシ

一 文官令第七十七條ノ資格ヲ證明スルニ  
足ル書類  
二 本人自筆ノ履歷書(第二號書式)  
三 寫眞一葉(出願前一年以内ニ撮影シタ  
ル上半身、脱帽、正面ノ手札型寫眞ニシ

テ裏面ニ撮影年月日、生年月日及氏名ヲ  
自署シタルモノ)

應試願書年度内ニ卒業ノ見込アル應試者ニ付  
テハ前項第一號ノ書類ヲ添付スルヲ要セズ

第二十四條 高等官採用考試ヲ受ケントスル  
者ハ應試願書(第一號書式ノ一、甲)ニ左記  
書類ヲ添ヘ高等文官考試委員會委員長ニ提  
出スベシ

一 本人自筆ノ履歷書(第二號書式)  
二 家族調書(第三號書式)  
三 健康診斷書(第四號書式)、學校醫又ハ  
官公立醫院ノ證明シタルモノ)  
四 寫眞一葉(出願前一年以内ニ撮影シタ  
ル上半身、脱帽、正面ノ手札型寫眞ニシ  
テ裏面ニ撮影年月日、生年月日及氏名ヲ  
自署シタルモノ)  
五 民務抄本若ハ身許證明書又ハ戶籍抄  
本

大卒卒業者又ハ採用迄ニ卒業ノ見込アル者  
ニ付テハ前項ノ外最終學校ノ人物考査書  
(第五號書式)及畢業成績表ヲ添付スベシ

國務總理大臣ノ指定シタル機關ヨリ推薦セ  
第一號書式ノ一(用紙美濃紙)

高等官資格考試應試願書

寫眞貼附欄  
現住所  
通知ヲ受クベキ場所

氏  
年 月 日 生 名

ラレタル者ニ付テハ第一項ノ外當該機關ノ  
長ノ人物考査書(第五號書式)ヲ添付スベ  
シ

高等官資格考試ニ及格後直ニ高等官採用考  
試ヲ受ケントスル者ハ第一項第一號及第四  
號ノ書類ヲ添付スルヲ要セズ

第二十五條 委任官採用考試ヲ受ケントスル  
者ハ應試願書(第一號書式ノ一、乙)ニ前條  
第一項第一號乃至第五號所定ノ書類ヲ添ヘ  
當該委任文官考試委員會委員長ニ提出スベ  
シ

第二十六條 適格考試又ハ高等官資格考試ヲ  
受ケントスル者ハ應試願書(第一號書式ノ  
三又ハ四)ニ第二十四條第一項及第四號所  
定ノ書類ヲ添ヘ當該考試委員會委員長ニ提  
出スベシ

第二十七條 應試願書ニハ考試ノ分科、等級  
其ノ他所定事項ヲ記載スベシ

第五節 雜則

第二十八條 應試者考試當日開始ノ時間迄ニ  
出席セズ又ハ考試中途ニテ休止シタルトキ  
ハ其ノ考試ヲ受クルコトヲ得ズ

高等官資格考試應試致度候ニ付書類相添ヘ此段及出願候也

年 月 日

高等文官考試委員會委員長 殿  
註  
右 氏 名

第二十九條 應試者ハ當該考試委員會ノ委員  
長ノ告示其ノ他委員ノ指示ヲ遵守スベシ

第三十條 文官考試ノ出願期限、考試施行ノ  
期日及考試地ハ豫メ政府公報ヲ以テ之ヲ公  
告ス

第三十一條 文官考試ノ及格者ノ氏名ハ政府  
公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 文官考試ノ及格者ニハ及格證書  
ヲ付與ス

第三十三條 應試願書及其ノ添付書類ハ之ヲ  
還付セズ但シ證書ハ請求ニ因リ之ヲ還付ス

第三十四條 文官考試ニ關シ本令ニ規定スル  
モノノ外必要ナル事項ハ當該考試委員會之  
ヲ定ム

附則  
本規程ハ文官令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (應德七年(一〇月三〇日)  
院令 第四五號)

本規程ハ應德七年勅令第二百四十五號文官令  
中改正ノ件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

應德六年院令第二十四號文官考試規程ニ依ル  
認定及指定ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

如シ  
一 「必須科目」「選擇科目」及「希望應試地」ノ記載例ヲ示セバ左ノ  
(記載例)  
一 必須科目 (一)基本法(又ハ日本憲法) (二)民法(又ハ日  
本民法) (三)經濟學 (四)東洋史 (五)獨語



一 選擇科目 (一)社會學 (二)民事訴訟法 (又ハ日本民事訴訟法)

一 希望應試地 新京

二 寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

三 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ二、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

寫眞貼附欄

現住所  
通知ヲ受クベキ場所

氏名  
年 月 日生

一 高等官資格考試及格證書番號

一 希望應試地

一 文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無

高等官採用考試應試致度候ニ付書類相添ヘ此段及出願候也

高等文官考試委員會委員長 殿

一 「高等官資格考試及格證書番號」ノ記載例ヲ示セバ左ノ如シ

(記載例)

一 康徳七年度第一三四號(但シ文官令第七十八條第二項ニ依ル外國ノ文官考試ニ及格シタル者ハ上記ニ相當スル年度及番號)

未ダ資格考試及格證書ヲ付與セラレザル者ハ其ノ旨ヲ記載スベシ

二 「文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲同規定ヲ準グレバ

氏名  
年 月 日生

高等文官考試委員會委員長 殿

一 「高等官資格考試及格證書番號」ノ記載例ヲ示セバ左ノ如シ

(記載例)

一 康徳七年度第一三四號(但シ文官令第七十八條第二項ニ依ル外國ノ文官考試ニ及格シタル者ハ上記ニ相當スル年度及番號)

未ダ資格考試及格證書ヲ付與セラレザル者ハ其ノ旨ヲ記載スベシ

二 「文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲同規定ヲ準グレバ

文官令第八十六條

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

三 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ二、乙(用紙美濃紙)

委任官採用考試應試願書

寫眞貼附欄

現住所  
通知ヲ受クベキ場所

氏名  
年 月 日生

一 考試ノ等級

一 希望應試地 (一)學術考査 (二)人物考査

一 文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無

委任官採用考試應試致度候ニ付書類相添ヘ此段及出願候也

何官委任文官考試委員會委員長 殿

一 「考試ノ等級」ハ委任官第一種採用考試又ハ委任官第二種採用考試ノ別ヲ記載スベシ

(記載例)

一 考試ノ等級 委任官第一種採用考試

一 希望應試地「ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

(記載例)

一 希望應試地 (一)學術考査 奉天 (二)人物考査 新京

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

三 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、乙(用紙美濃紙)

委任官採用考試應試願書

三 「文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲同規定ヲ準グレバ

文官令第八十六條

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

四 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

寫眞貼附欄

現住所  
通知ヲ受クベキ場所

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

氏名  
年 月 日生

高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試者ニシテ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任官考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得

寫眞ハ裏面上部ニ糊ヲ著ケ寫眞貼附欄ニ貼附スベシ

五 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ヅベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第一號書式ノ三、甲(用紙美濃紙)

高等官採用考試應試願書

氏名  
年 月 日生



- 一 考試ノ分科
- 一 選擇語學
- 一 委任官第一種採用考試ニ及格シタル年月日
- 一 委任官試補ニ任用セラレタル年月日
- 一 文官令第八十九條ノ規定適用ノ希望ノ有無

何科委任官資格考試應試致度候ニ付書類相添へ此段及出願候也  
 年 月 日 氏 名

何官署委任文官考試委員會委員長 殿

一 「考試ノ分科」ハ行政科又ハ司法科ノ別ヲ記載スベシ

一 「考試ノ分科」行政科

二 「選擇語學」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

一 「選擇語學」滿語

三 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

一 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」 康徳七年十月一日

四 「委任官試補ニ任用セラレタル年月日」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

一 「委任官試補ニ任用セラレタル年月日」 康徳八年四月十五日

五 「文官令第八十九條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲同規定ヲ

六 「所屬官署」ハ司處廳科名迄之ヲ記載スベシ

所屬官署 民生部教育司大學教育科  
 五 寫眞ハ裏面上部ニ翻テ著ケ寫眞貼附欄ニ貼付スベシ  
 六 應試願書及其ノ添附書類ハ高等文官考試委員會ノ各官署分科會宛提出スベシ  
 七 本籍、現住所、所屬官署又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ツベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ

第二號書式 (用紙美濃紙)  
 現住所 氏 年 月 日生 名

一 宗 教  
 二 運 動  
 三 語 學  
 四 特 殊 技 能  
 右ノ通相違無之候也  
 第三號書式 (用紙美濃紙)  
 現住所 氏 年 月 日生 名

扶養ノ義務アル家族  
 現住所 戶主 何某、何男 年 月 日生 名

基本法 官規 文官考試規程 雜則

- 一 考試ノ分科
- 一 選擇語學
- 一 高等文官資格考試應試致度候ニ付書類相添へ此段及出願候也
- 年 月 日 氏 名

高等文官資格考試委員會委員長 殿

寫眞貼附欄

現住所 所屬官署

一 「考試ノ分科」ハ行政科或ハ司法科ノ別ヲ記載スベシ

一 「考試ノ分科」行政科

二 「選擇語學」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

一 「選擇語學」日語

三 「選擇科目」財政學

四 「所屬官署」ハ司處廳科名迄之ヲ記載スベシ

一 「選擇科目」財政學

二 「選擇科目」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ

一 「選擇語學」日語

三 「選擇科目」財政學

四 「所屬官署」ハ司處廳科名迄之ヲ記載スベシ

本人トノ續柄	戶主トノ續柄	氏 名	生年月日
其ノ他ノ家族	主トノ續柄	氏 名	生年月日

右之通相違無之候也

第四號書式 (用紙美濃紙)  
 健康診斷書 氏 年 月 日生 名

身長	體 重	胸 圍	呼 吸	視 力	視 聽	精 神	各 部	摘 要
			張ノ吸	正視力	屈折力	鼻口咽喉	關節運動	

第五號書式 (用紙美濃紙)  
 醫師 氏 年 月 日生 名



基本法 官制 委任官タル司法官、書記官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用ス  
 凡そメ考試ニ關スル件 憲法令

人物考査書

性 質	(快活、穩健、 重厚、輕快等)	氏 名	(優良可ヲ以テ 記入ス)
素 行	(優良可ヲ以 テ記入ス)		(優良可ヲ以テ 記入ス)
思想傾向			(同 右)
実行力			(同 右)

趣 味	(種類、程度 等)	調 和 性	(同 右)
軍事教育ノ 成績		長所及短所	
體 評	(優良可ヲ以テ記入ス)		

年 月 日  
 學校(學部又ハ機關)長 氏 名

**○ 委任官タル司法官、書記官、執行官、審判官、書記官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル爲メ考試ニ關スル件**

(康徳七年十二月二十四日 勅令第三四六號)

朕參議府ノ諮詢ヲ經テ委任官タル司法官、書記官、執行官、審判官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル爲メ考試ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (國務總理、司法官大臣 署)

第一條 委任官タル司法官、書記官、執行官、審判官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル爲メ考試ニ關スル件

第二條 考試ハ司法官大臣之ヲ監督ス

第三條 考試ハ法官特別考試委員會之ヲ行フ

法官特別考試委員會ハ委員長及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 委員長ハ司法官次長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ司法官高等官、審判官及檢察官ノ中ヨリ司法官大臣之ヲ命ズ

司法官大臣必要アリト認ムルトキハ前項ニ掲グル以外ノ者ニ委員ヲ委嘱スルコトヲ得

委員長ハ會務ヲ綜理ス

第五條 考試ハ毎年一回新東京特別市ニ於テ之ヲ行フ

第六條 考試ハ司法官高等官、執行官、書記官及刑務官ニテ應任官タル者之ヲ受クルコトヲ得

第七條 考試ハ筆記及口述トス筆記考試ニ及格シタル者ニ非ザレバ口述考試ヲ受クルコトヲ得ズ

第八條 考試ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一 民法  
 二 商法  
 三 刑法  
 四 民事訴訟法  
 五 刑事訴訟法

第六條 審判及檢察ノ實務

第九條 考試ハ應試者ニ法文ヲ示シテ之ヲ行フ

第十條 考試ノ及格者ヲ定ムル方法ハ法官特別考試委員會ノ議定スル所ニ依ル

第十一條 司法官大臣ハ及格者ニ及格證書ヲ付與ス

第十二條 不正ノ方法ニ依リ考試ヲ受ケントシタル者ニ對シテハ其ノ考試ヲ停止シ又ハ其ノ及格ヲ無効トス

前項ノ規定ニ該當スル者ハ以後考試ヲ受ケルコトヲ得ズ

附 則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**○ 暫ク從前ノ法令ヲ援用スルノ件**

(大同元年四月一日 勅令第三號)

茲ニ暫ク從前ノ法令ヲ援用スルノ件ヲ制定シ之ヲ公布セシム (國務總理 署)

暫ク從前ノ法令ヲ援用スルノ件

第一條 從前施行セル法令ハ建國ノ主旨、國情及法令ニ抵觸セザル條項ニ限リ一律ニ之ヲ援用ス

第二條 前條ノ規定ニ抵觸スルニ由リ援用スヘキ法令ナキトキハ國民政府ノ法令ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタル法令ト雖モ前條ノ規定ニ該當スル條項ハ其ノ效力ヲ恢復シテ之ヲ援用ス

第三條 前二條ノ規定ニ依リ尚適用スルモノナキトキハ從來ノ習慣及慣行ニ依リ習慣又ハ慣行ナキトキハ條理ニ依リ可シ

第四條 本令ハ大同元年三月九日ヨリ施行ス

**○ 法律命令ノ施行期日ニ關スル件**

(康徳元年三月一日 勅令第三號)

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ法律命令ノ施行期日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (國務總理、各部大臣 署)

法律命令ノ施行期日ニ關スル件

法律、勅令、院令、部令、署令、省令、區令、基本法、法例、暫ク從前ノ法令ヲ援用スルノ件、法律命令ノ施行期日ニ關スル件、公文程式令

**○ 公文程式令**

(康徳元年三月一日 勅令第一號)

朕參議府ノ諮詢ヲ經テ公文程式令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (國務總理、各部大臣 署)

公文程式令

第一條 皇室ニ關スル重要ナル勅旨及國務ニ關スル勅旨ヲ宣讀スル詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ帝室ニ關スルモノニハ宮内府大臣年月日ヲ記入シ國務總理大臣ト供ニ之ニ副署ス其ノ國務ニ關スルモノニハ國務總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ祭禮府ノ主管ト關連スルモノニ付テハ主管ノ各部大臣ト供ニ之ニ副署ス其ノ帝室及國務ニ關連スルモノハ國務總理大臣年月日ヲ記入シ宮内府大臣ト供ニ之ニ副署ス(康七、第二二八號本條中改正)

第二條 宣讀セザル勅旨ハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ帝室ニ關スルモノニハ宮内府大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務ニ關スルモノニハ國務總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ祭禮府ノ主管大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ祭禮府ノ

主管ト關連スルモノニ付テハ祭禮府總裁ト供ニ、各部大臣ノ主管ト關連スルモノニ付テハ主管ノ各部大臣ト供ニ之ニ副署ス(康七、第二二八號本條中改正)

第三條 宮内府官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經タル規定ニシテ公示ヲ要スルモノハ帝室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ參議府ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内府大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務ニ關連スルモノニ付テハ主管ノ各部大臣ト供ニ之ニ副署ス(康七、第二二八號本條中改正)

第四條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ參議府ノ諮詢及立法院ノ贊成ヲ經タル旨ヲ記載シ其ノ組織法第二十六條第二項ノ規定ニ依リモノニ付テハ其ノ旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ國務總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ主管ノ各部大臣ト供ニ之ニ副署ス(康四、第二五四號、七、第二〇三號本條中改正)

第五條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ參議府ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ國務總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ祭禮府ノ主管ト關連スルモノニ付テハ祭禮府總裁ト供ニ、各部大臣ノ主管ト關連スルモノニ付テハ主管ノ各部大臣ト供ニ之ニ副署ス其ノ組織法第八條又ハ第三十八條ノ規定ニ依リモノニ付テハ其ノ旨ヲ記載シ(康四、第二五四號、七、第二〇三號、第二二八號本條中改正)

第六條 國際條約ヲ公示スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

第六條 國際條約ヲ公示スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

基本法 法例 暫ク從前ノ法令ヲ援用スルノ件 法律命令ノ施行期日ニ關スル件 公文程式令



前項ノ上ニハ參議府ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ  
記入シ後御璽ヲ鈐シ國務總理大臣年  
月日ヲ記入シ主官ノ各部大臣ト俱ニ之ニ副  
署ス

國務總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス官  
内官ニ付テハ官内府大臣年月日ヲ記入シ之  
ニ署名ス

第七條 豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルベキ  
契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲシテ之ヲ公布ス  
前項ノ上諭ニハ參議府ノ諮詢及立法院ノ贊  
成ヲ經タル旨ヲ記入シ組織法第二十六條第  
二項又ハ第三十八條ノ規定ニ依ルモノニ付  
テハ其ノ旨及參議府ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記  
入シ後御璽ヲ鈐シ國務總理大臣年月日  
ヲ記入シ主官ノ各部大臣ト俱ニ之ニ副署  
ス(康四。第二五四號。七。第二〇三號本條  
中改正)

委任官ノ任命狀ニハ官印ヲ鈐シ番號ヲ附シ  
本部長官年月日ヲ記入ス  
第十二條 特任官ノ解任狀ニハ御璽ヲ鈐シ國  
務總理大臣年月日ヲ記入ス官内官ニ付テハ  
官内府大臣年月日ヲ記入ス  
委任官ノ解任狀ニハ國務院ノ印ヲ鈐シ國務  
總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス官内官  
ニ付テハ官内府ノ印ヲ鈐シ官内府大臣年月  
日ヲ記入シ之ニ署名ス  
委任官ノ解任狀ニハ國務總理大臣年月日ヲ  
記入シ國務院ノ印ヲ鈐ス  
官内官ニ付テハ官内府大臣年月日ヲ記入シ  
官内府ノ印ヲ鈐ス  
委任官ノ解任狀ニハ官印ヲ鈐シ本部長官年  
月日ヲ記入ス

第八條 院令ニハ國務總理大臣年月日ヲ記入  
シ署名シテ之ヲ公布ス  
部令ニハ主官ノ各部大臣年月日ヲ記入シ署  
名シテ之ヲ公布ス  
祭祀府令ニハ祭祀府總裁年月日ヲ記入シ署  
名シテ之ヲ公布ス  
官内府令ヲ公示スルトキハ官内府大臣年月  
日ヲ記入シ署名シテ之ヲ公布ス(康元。第一  
六三號。七。第二二八號本條中改正)

第十三條 公文ノ公布ハ法令ニ別段ノ規定ア  
ル場合ヲ除クノ外政府公報ヲ以テス  
附則  
本令ハ康德元年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大同元年敕令第十五號暫行公文程式令ハ之ヲ  
廢止ス

第九條 國務其ノ他外交上ノ親善條約批准書  
全權委任令外國派遺官吏委任令名譽領事委  
任令外國領事認可狀ニハ御璽ヲ後御璽ヲ鈐  
シ國務總理大臣年月日ヲ記入シ主官ノ各部  
大臣ト俱ニ之ニ副署ス

附則  
本令ハ康德元年十一月二十九日  
(勅令第一六三號)  
附則  
本令ハ康德元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(勅令第一七三號)

第十條 特任官ノ任命狀ニハ御璽ヲ後御璽  
ヲ鈐シ番號ヲ附シ國務總理大臣年月日ヲ記  
入シ之ニ副署ス官内官ニ付テハ官内府大臣  
年月日ヲ記入シ之ニ副署ス  
簡任官ノ任命狀ニハ御璽ヲ鈐シ番號ヲ附シ

附則  
本令ハ康德三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (康德四年八月二十六日)  
勅令第二五四號  
本令ハ康德四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (康德七年八月一日)  
勅令第二〇三號  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附則 (康德七年九月一日)  
勅令第二二八號  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二 司法機關



○法院組織法

(康德三年一月四日) 勅令第一號

改正 康德四年三月勅令第三二號、四年一月第三三三號、五年五月第一〇二號、九月第二三八號、六年四月第七八號、七年四月第五七號、一二月第三四〇號、八一號三〇九

法院組織法

目次

- 第一編 法院及檢察廳ノ組織並ニ權限
第一章 總則
第二章 區法院
第三章 地方法院
第四章 高等法院
第五章 最高法院
第六章 檢察廳
第二編 法院及檢察廳ノ職員
第一章 審判官並ニ檢察官
第二章 書記官
第三章 執行官
第四章 送達吏
第五章 庭吏
第三編 司法事務ノ處理
第一章 司法事務ノ分配並ニ代理
第二章 合議
第三章 合議
第四章 司法事務ノ共助

司法機關

法院組織

法院組織法

法院及檢察廳ノ組織並ニ權限 總則

第四編 行政監督
第二章 司法行政ノ機關
第一節 監督官ノ行使

附則

第一條 法院及檢察廳ノ組織並ニ權限

第一條 法院ハ民事刑事ノ訴訟事件ヲ審判シ

第二條 檢察廳ハ偵査及公訴ノ實行、刑事裁判

第三條 法院ヲ分テ左記四級トス

第一 區法院

第二 地方法院

第三 高等法院

第四 最高法院

第五 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第六 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第七 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第八 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第九 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十一 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十二 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十三 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十四 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十五 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十六 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十七 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十八 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第十九 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十一 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十二 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十三 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十四 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

第二十五 對シテ高等檢察廳ヲ置キ最高法院ニ對シテ

三八號本條改正)

第六條 法院ニ審判官ヲ置キ檢察廳ニ檢察官

第七條 區法院ノ審判權ハ單獨ノ審判官之ヲ

行使ス

地方法院ノ審判權ハ第一審事件ニ付テハ單

獨ノ審判官之ヲ行使シ第二審事件ニ付テハ

審判官三人ヲ以テ組織シタル庭ノ合議ニ依

リ之ヲ行使ス

高等法院ノ審判權ハ審判官三人ヲ以テ組織

シタル庭ノ合議ニ依リ之ヲ行使ス

最高法院ノ審判權ハ審判官五人ヲ以テ組織

シタル庭ノ合議ニ依リ之ヲ行使ス

第八條 檢察廳ノ權限ハ檢察官之ヲ行使ス

第九條 審判官ハ法律ニ依リ獨立シテ審判權

ヲ行使シ檢察官ハ其ノ職務ノ執行ニ付上司

ノ指揮ヲ受ク

第十條 司法大臣ハ檢察事務ノ執行ニ付檢察官ヲ

指揮スルコトヲ得

第十一條 審判官二人以上存スル區法院ニ監督

審判官ヲ置キ地方法院高等法院及最高法院

ニ院長ヲ置ク

地方法院、高等法院及最高法院ニ次長ヲ置

クコトヲ得

第十二條 檢察官二人以上存スル區檢察廳ニ

監督檢察官ヲ置キ地方檢察廳、高等檢察廳

及最高檢察廳ニ廳長ヲ置ク

地方檢察廳、高等檢察廳及最高檢察廳ニ次

長ヲ置クコトヲ得

第十三條 法院及檢察廳ニ書記官ヲ置ク

書記官ハ審問ニ立會ヒ記録ヲ整理シ卷宗ヲ

保管シ通譯又ハ翻譯ヲ爲シ其ノ他法令ノ定

ムル職務ヲ執行シ庭ニ上司ノ命ヲ奉ケ法院

又ハ檢察廳ノ庶務ニ從事ス(康七、第五七號



本條中改正

第十三條 法院長、檢察廳長、監督審判官及監督檢察官ハ其ノ職ニ配屬セラレタル高等官補ヲシテ臨時ニ書記官又ハ執行官ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得(康五・第七八號本條改正)

第十四條 區法院及區檢察廳ニ監督書記官ヲ配屬シ地方法院、高等法院、最高法院、地方檢察廳、高等檢察廳及最高檢察廳ニ書記官長ヲ置ク

第十五條 削除(康七・第五七號) 第十六條 區法院ニ執行官ヲ置ク 執行官ハ裁判ノ執行其ノ他法令ノ定ムル事務ヲ管掌ス(康五・第二三八號本條改正)

第十七條 執行官二人以上存スル區法院ニ監督執行官ヲ置ク(康五・第二三八號本條追加) 第十八條 區法院ニ送達吏ヲ置ク 送達吏ハ文書ヲ送達其ノ他法令ノ定ムル事務ニ從事ス(康五・第二三八號本條追加)

事件

二 建物ノ質貸借關係ニ基ク訴訟事件 三 占有權ニ基ク訴訟事件(康五・第二三八號本條改正) 第二十一條 區法院ハ他ノ法院ノ管轄ニ屬セザル刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス(康五・第二三八號本條改正)

第二十二條 區法院ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外非訟事件ヲ管轄ス(康五・第二三八號本條改正) 第二十三條 區法院ノ管轄スル非訟事件中登記及公證ノ事務ハ高等官補及書記官ヲシテ公證ノ事務ハ執行官ヲシテ各之ヲ處理セシムルコトヲ得(康五・第二三八號本條改正)

第二十四條 司法部大臣ハ區法院ノ登記事務ノ一部ヲ處理セシムル爲其ノ分所ヲ設置スルコトヲ得(康五・第二三八號本條改正) 第二十五條 地方法院ハ左記民事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス

一 區法院ノ管轄ニ屬セザル訴訟事件 二 砂産事件(康五・第二三八號本條改正) 第二十六條 地方法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス 一 重罪ニ該ル事件 二 輕罪中情節繁雜ナル事件ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件(康五・第二三八號本條改正)

除ク(康五・第二三八號本條改正)

第二十八條 地方法院ハ第二審事件ヲ審判スル爲民事庭及刑事庭ヲ設ク 庭ハ審判官三人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長トナル 庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム(康五・第二三八號本條改正)

第二十九條 地方法院ノ庭ガ審判ヲ行フ場合ニ於テハ候補審判官一人ニ限リ其ノ組織員ト爲ルコトヲ得(康五・第二三八號本條改正) 第三十條 庭ニ庭長ヲ置ク 庭長及次長ハ庭長ト爲ル 庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル(康五・第二三八號本條改正)

第三十一條 高等法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス 一 內亂罪 二 脅奪罪 三 國交危害罪 四 軍機洩露罪ノ中重罪ニ該ル罪 五 治罪維持法ノ罪 六 國防保安法ノ罪 七 國防重要秘密保護法ノ中重罪ニ該ル罪 第三十二條 高等法院ハ第二審トシテ左記事件ヲ管轄ス

一 地方法院ノ第一審判決ニ對スル控訴事件 二 地方法院ノ第一審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件但シ最高法院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク(康五・第二三八號本條改正) 第三十三條 高等法院ハ終審トシテ左記事件

ヲ管轄ス

一 地方法院ノ第二審判決及區法院ノ判決ニ對スル上告事件 二 地方法院ノ第二審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件 三 區法院ノ爲シタル上告却下ノ確定ニ對スル抗告事件(康五・第二三八號本條改正)

第三十四條 高等法院ガ終審トシテ爲シタル裁判ニシテ法令ノ解釋ヲ宣示シタルモノハ當該事件ニ付下級審ヲ覆束ス(康五・第二三八號本條改正) 第三十五條 高等法院ニ民事庭及刑事庭ヲ設ク 庭ハ審判官三人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長ト爲ル 庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム(康五・第二三八號本條改正)

第三十六條 庭ニ庭長ヲ置ク 庭長及次長ハ庭長ト爲ル 庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル(康五・第二三八號本條改正) 第五條 最高法院

第三十七條 最高法院ハ第一審且終審トシテ大逆罪ニ該ル刑事訴訟事件ヲ管轄ス(康五・第二三八號本條改正) 第三十八條 最高法院ハ終審トシテ左記事件ヲ管轄ス 一 高等法院ノ判決及地方法院ノ第一審判決ニ對スル上告事件 二 高等法院ノ第一審又ハ第二審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件 三 地方法院ノ爲シタル上告却下ノ確定ニ對スル抗告事件(康五・第二三八號本條改正) 第三十九條 最高法院ガ終審トシテ爲シタル

裁判ニシテ法令ノ解釋ヲ宣示シタルモノハ當該事件ニ付下級審ヲ覆束ス(康五・第二三八號本條改正)

第四十條 最高法院ニ民事庭及刑事庭ヲ設ク 庭ハ審判官五人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長ト爲ル 庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム(康五・第二三八號本條改正) 第四十一條 庭ニ庭長ヲ置ク 庭長及次長ハ庭長トナル 庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル(康五・第二三八號本條改正)

第四十二條 最高法院ガ法令ノ解釋ニ關シ前ニ爲シタル裁判ト異ナル裁判ヲ爲サントスルトキハ聯合庭ノ審判ニ依ルコトヲ要ス 聯合庭ハ事件ノ性質ニ從ヒ民事庭又ハ刑事庭ノ審判官全員或ハ民事庭又刑事庭ノ審判官全員ヲ以テ之ヲ組織ス 院長ハ當該事件ヲ擔任スル庭ノ請求ニ因リ聯合庭ニ依ル審判ヲ命ジ並ニ聯合庭ノ組織ヲ定ム(康五・第二三八號本條改正)

第四十三條 聯合庭ノ審判ハ組織員三分ノ二以上参加スルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ 院長ハ聯合庭ノ審判長ト爲ル院長ニ支障アルトキハ資深審判官審判長ト爲ル(康五・第二三八號本條改正) 第六條 檢察廳

第四十四條 各級檢察廳ハ對置法院ノ管轄ニ屬スル事件ノ範圍内ニ於テ第二條ノ權限ヲ有ス(康五・第二三八號本條改正) 第四十五條 司法部大臣ハ高等官補、書記

官又ハ其ノ職ノ警察官若ハ憲兵軍官ヲシテ

區檢察廳ノ檢察官ノ行フべき事務ヲ處理セシムルコトヲ得(康五・第二三八號本條改正) 第四十六條 第四十四條ノ規定ハ緊急ノ必要又ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ニ檢察官ガ其ノ所屬檢察廳ノ管轄區域外ニ於テ爲シ又ハ其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付テ爲シタル偵查其ノ他ノ行爲ノ效力ヲ妨グルコトナシ(康五・第二三八號本條改正)

第四十七條 最高檢察廳、高等檢察廳及地方檢察廳ハ各其ノ直接下級檢察廳ノ爲シタル不起訴處分ニ對スル抗訴事件ヲ管轄ス(康五・第二三八號本條改正) 第二條 法院及檢察廳ノ職員

第一章 審判官並ニ檢察官 第四十八條 審判官及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス 一 司法科高等官資格考試又ハ審判官及檢察官タルベキ司法科高等官資格考試ニ及格シタル者 二 前任官タル司法部高等官、執行官、書記官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル爲ノ考試ニ及格シタル者

三 教授、教官又ハ前任官タル助教トシテ建國大學、新嘉坡大學、國立大學哈爾濱學院又ハ中央司法職員訓練所ニ於テ三年以上法律學ノ講義ヲ擔任シタル者 四 律師トシテ五年以上實務ニ從事シタル者 五 外國ニ於テ審判官又ハ檢察官タル得ベキ資格ヲ有スル者 前項第一號及第二號ノ考試ニ關スル事項ハ命令ノ定ムル所ニ依ル(康五・第二三八號本條改正) 司法部大臣ハ高等官補、書記



修正、六、第七八號、七、第三四〇號本條  
 中改正) 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之  
 第四十九條 審判官又ハ檢察官ニ任用セズ  
 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
 二 禁治産者  
 三 禁錮ノ處分ニ因リ免官セラレ又ハ律師  
 ノ資格ヲ喪失セラレ未ダ復權セザル者  
 外國ニ於テ前項各號ノ一ニ該當スル者分又  
 ハ宣告ヲ受ケタル者亦前項ニ準ズ(康五・第  
 二三八號本條改正)

第五十條 新ニ審判官又ハ檢察官ニ任用セラ  
 レタル者ハ一時之ヲ候補審判官又ハ候補檢  
 察官トシテ區法院、地方法院、區檢察廳又  
 ハ地方檢察廳ニ勤務セシムルコトヲ得  
 候補審判官及候補檢察官ハ法律ニ別段ノ規  
 定アル場合ヲ除ク外其ノ勤務ヲ命ゼラレ  
 タル處ノ審判官又ハ檢察官ト同一ノ職務ヲ  
 行フ(康五・第二三八號本條改正)

第五十一條 審判官及檢察官ハ特任、簡任又  
 ハ薦任トス(康五・第二三八號本條改正)

第五十二條 最高法院長ハ特任審判官ヲ以テ  
 之ヲ親補シ最高檢察廳長ハ特任檢察官ヲ以  
 テ之ヲ親補ス

最高法院ノ次長及庭長、高等法院ノ院長及  
 次長ハ司法部大臣ノ具狀ヲ經テ國務總理大  
 臣ノ奏請ニ依リ簡任審判官ヲ以テ之ヲ補シ  
 最高檢察廳ノ次長、高等檢察廳ノ廳長及次  
 長ハ司法部大臣ノ具狀ヲ經テ國務總理大臣  
 ノ奏請ニ依リ簡任檢察官ヲ以テ之ヲ補ス  
 前二項以外ノ審判官及檢察官ハ司法部大臣  
 ノ具狀ヲ經テ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ簡  
 任又ハ薦任ノ審判官或ハ檢察官ヲ以テ之ヲ

補ス(康五・第二三八號本條改正)

第五十三條 五年以上審判官タリシ者ニ非ザ  
 レバ高等法院ノ審判官ニ補セラルルコトヲ  
 得ズ  
 十年以上審判官タリシ者ニ非ザレバ最高法  
 院ノ審判官ニ補セラルルコトヲ得ズ  
 第五十四條 審判官タリ得ベキ資格ヲ有スル  
 者左記各號ノ職ニ在リタルトキハ前條ノ適  
 用ニ付テハ之ヲ審判官ノ在職ト看做ス、  
 一 檢察官  
 二 司法部高等官  
 三 軍法官  
 四 建國大學、新東京法政大學、國立大學哈  
 爾濱學院又ハ中央司法職員訓練所ニ於テ  
 法律學ノ講義ヲ擔任スル教授、教官又ハ  
 簡任官タル助教  
 五 實務ニ從事スル律師  
 審判官タリ得ベキ資格ヲ有スル者外國ニ於  
 テ審判官又ハ前項第一號乃至第三號及第五  
 號ノ職ニ在リタルトキ亦前項ニ同ジ(康五・第  
 二三八號本條改正、六、第七八號本條中  
 改正)

第五十五條 審判官及檢察官ハ左ノ事項ヲ爲  
 スコトヲ得ズ  
 一 政治ニ關與シ又ハ政黨若ハ政社ニ加入  
 スルコト  
 二 商業ヲ營ミ又ハ營利法人ノ役員ト爲ル  
 コト  
 審判官ハ行政官ヲ兼スルコトヲ得ズ(康五・  
 第二三八號本條改正)

第五十六條 審判官及檢察官禁錮以上ノ刑ニ  
 處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ(康五・第  
 二三八號本條改正)

第五十七條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ

該當スルトキハ退官トス  
 一 停年ニ達シタルトキ  
 二 第六十條第一項第三號及第四號ノ規定  
 ニ依リ休職ヲ命ゼラレ滿期ニ至リタルト  
 キ  
 前項第一號ノ停年ハ最高法院ノ院長及次長  
 及最高檢察廳ノ廳長及次長ニ在リテハ滿  
 六十三歳トシ其ノ他ノ審判官及檢察官ニ在  
 リテハ滿六十歳トス(康五・第二三八號本條  
 改正)

第五十八條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ  
 該當スルトキハ其ノ官ヲ免ズルコトヲ得  
 一 不具、廢疾又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ  
 因リ其ノ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ  
 二 不良ナル嗜好ヲ有シ矯正ノ見込ナキト  
 キ  
 三 傷疾疾病ノ爲其ノ職ニ堪ヘザルニ因リ  
 其ノ他正當ノ事由ニ因リ免官ヲ願出デタ  
 ルトキ  
 前項第一號又ハ第二號ニ依リ其ノ官ヲ免ズ  
 ルトキハ豫メ法官考選委員會ノ決議ヲ經ル  
 コトヲ要ス(康五・第二三八號本條改正)

第五十九條 司法行政上必要アルトキハ審判  
 官ノ職ニ反スル場合ト雖法官考選委員會ノ  
 決議ヲ經テ之ヲ轉職セシムルコトヲ得(康  
 五・第二三八號本條改正)

第六十條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ該  
 當スルトキハ休職ヲ命ズルコトヲ得  
 一 刑事訴訟又ハ懲戒裁判ノ請求アリタル  
 トキ  
 二 法院又ハ檢察廳ヲ廢止シ或ハ其ノ組織  
 ヲ變更シ因テ其ノ職ノ審判官又ハ檢察官  
 ヲ補スベキ關位ナキニ至リタルトキ  
 三 六月以上生死不明ナルトキ

四 身體又ハ精神ノ故障ニ因リ三月以上其  
 ノ職務ヲ執ルコト不能ハザルトキ  
 五 兵役其ノ他特別ノ公務ノ爲六月以上其  
 ノ職務ヲ執ルコト不能ハザルトキ  
 但シ第三號ノ場合ニ在リテハ公務ヲ因リト  
 キハ二年トス

前項ノ休職ノ期間ハ第一號ノ場合ニ在リテ  
 ハ其ノ事件ノ法院又ハ法官懲戒法院ニ屬  
 中、第三號ノ場合ニ在リテハ六月、第四號  
 ノ場合ニ在リテハ二年、第二號及第五號ノ  
 場合ニ在リテハ其ノ事由ノ存續中トス

第六十一條 審判官及檢察官ハ前五條ノ場合  
 ノ除ク外懲戒ノ處分ニ因リニ非ザレバ其  
 ノ職ニ反シテ免官、轉職、休職又ハ減俸セ  
 ラルルコトナシ但シ司法行政上ノ必要ニ因  
 リ檢察官ニ轉職ヲ命ズルハ此ノ限ニ在ラ  
 ズ

審判官及檢察官ハ法律ニ別段ノ規定アル場  
 合ヲ除ク外其ノ職務ノ執行ヲ停止セラレ  
 ルコトナシ(康五・第二三八號本條改正)

第六十二條 審判官及檢察官職務ノ執行ヲ停  
 止セラレタルトキハ其ノ期間中俸給ノ半額  
 ヲ支給ス(康五・第二三八號本條改正)

第六十三條 審判官及檢察官ノ懲戒ニ關スル  
 事項ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(康五・第二三八  
 號本條改正)

第六十四條 法官考選委員會ニ關スル事項ハ  
 勅令ヲ以テ之ヲ定ム(康五・第二三八號本條  
 改正)

第二章 書記官  
 第六十五條 書記官ハ薦任又ハ委任トス  
 最高法院、高等法院、最高檢察廳及高等檢  
 察廳ノ書記官長ハ薦任書記官地方法院及地

方檢察廳ノ書記官長ハ薦任又ハ委任ノ書記  
 官其ノ他ノ書記官ハ委任又ハ委任ノ書記官  
 ヲ以テ之ヲ補ス(康五・第二三八號本條改  
 正)

第六十六條 書記官長及監督書記官ハ上司ノ  
 命ヲ承ケ司法行政ニ關スル書記官ノ事務ヲ  
 指揮監督ス(康五・第二三八號本條改正)

第六十七條 書記官ノ職務執行ノ方法ニ關ス  
 ル事項ハ司法部大臣ノ定ム(康五・第二三  
 八號本條改正)

第六十八條 簡任(康五・第五八號)

第三章 執行官  
 第六十九條 執行官ハ薦任又ハ委任トス(康  
 五・第二三八號本條改正)

第七十條 監督執行官ハ上司ノ命ヲ承ケ司法  
 行政ニ關スル執行官ノ事務ヲ指揮監督ス  
 (康五・第二三八號本條改正)

第七十一條 執行官ハ其ノ所屬區法院ヲ管轄  
 スル地方法院ノ管轄區域内ニ於テ其ノ職務  
 ヲ行フ(康五・第二三八號本條改正)

第七十二條 執行官ノ職務ノ執行ニ關スル事  
 項ハ司法部大臣ノ定ム(康五・第二三八號  
 本條改正)

第四章 送達吏(康五・第二三八號本  
 章追加)

第七十三條 送達吏ハ委任トス  
 第七十四條 送達吏ハ其ノ所屬區法院ヲ管轄  
 スル地方法院ノ管轄區域内ニ於テ其ノ職務  
 ヲ行フ

第七十五條 送達吏ノ職務ノ執行ニ關スル事  
 項ハ司法部大臣ノ定ム

第五章 庭吏(康五・第二三八號本  
 章改正)

第七十六條 法院及檢察廳ニ庭吏ヲ置ク

庭吏ハ委任トス(康五・第二三八號本條中改  
 正)

第七十七條 庭吏ハ審判官、檢察官及書記官  
 ノ命ニ從ヒ訴訟關係人ヲ導引シ其ノ他司法  
 部大臣ノ定ムル事務ニ從事ス

第七十八條 書類ノ送達ヲ要スル場合ニ於テ  
 送達吏ニ支障アルトキハ庭吏ヲシテ之ヲ送  
 達セシムルコトヲ得

第七十九條 二 法院長、檢察廳長、監督審  
 判官、監督檢察官、簡任審判官及簡任檢察  
 官ハ其ノ職ニ關シテシテラレタル委任官試補ヲ  
 シテ庭吏ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得  
 (康五・第七八號本條追加)

第三編 司法事務ノ處理  
 第一章 事務ノ分配及代理  
 第七十九條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十  
 二月三十一日ニ終ル

第八十條 地方法院、高等法院及最高法院ニ  
 於ケル庭長及庭員ノ配置ハ院長次長及庭  
 長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第八十一條 法院ノ事務ハ處務規程ニ按照シ  
 區法院ニ在テハ各審判官ニ高等法院及最高法  
 院ニ在テハ各庭員ニ之ヲ分配ス

前項ノ事務分配ノ方法ハ區法院ニ在テハ區  
 審判官地方法院ニ在テハ第一審事件ニ付  
 テハ院長次長ト協議シ第二審事件ニ付テハ  
 院長次長及庭長ト協議シ高等法院及最高法  
 院ニ在テハ院長次長及庭長ト協議シテ毎年  
 豫メ之ヲ定ム

第八十二條 法院ノ事務分配一旦定マリタル  
 トキハ該司法年度中ノ變更セズ但シ事務  
 分配著シク其ノ均衡ヲ失シ又ハ審判官ノ疾  
 病其ノ他已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ  
 限ニ在ラズ



第八十三條 區法院ノ審判官中支障ノ爲其ノ擔任事務ヲ處理スルコト能ハズル者アルトキハ該法院ノ他ノ審判官之ヲ代理ス...

第九十條 前條ノ規定ニ依リ代理ヲ爲シ得ベキ審判官ナキトキハ最高法院長ハ次長及庭長ト協議シテ高等法院審判官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得...

第九十八條 審判長ハ開庭中法庭ノ秩序ヲ維持スルノ權ヲ有ス...

シ過半數ニ達スルニ至テ止ム 刑事ニ關シ審判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ達セザルトキハ被告ニ最モ不利ナル意見ヨリ順次之ヲ被告ニ次ニ不利ナル意見ニ入シ過半數ニ達スルニ至テ止ム...

ハ資深審判官又ハ資深檢察官之ヲ代理シ得任ノ審判官又ハ檢察官ニ支障アルトキハ其ノ司法事務ヲ代理スル等判官又ハ檢察官其ノ行政事務ヲ代理ス...

テ之ヲ改改セシム但シ被告ヲ加フル前該官更テ申辯セシムベシ 附則 (勅令第三二二號) 本法ハ康德四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス...

司法機關 法院組織 法院組織法 司法事務ノ處理 司法事務ノ共助 行政監督 司法行政ノ權



### ○法院組織法施行法

(康徳三年五月二十一日)  
勅令第六七號

改正 康徳五年九月勅令第二三九號、六年四月第七九號、七年二月第三四一號

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ法院組織法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(國務總理、司法大臣)

**法院組織法施行法**

第一條 從前ノ地方法院、高等法院又ハ最高法院ニ於テ爲シタル事件ノ受理其ノ他ノ手續ハ法院組織法ニ定ムル地方法院、高等法院又ハ最高法院ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

從來ノ地方檢察廳、高等檢察廳又ハ最高檢察廳ニ於テ爲シタル事件ノ受理其ノ他ノ手續ハ法院組織法ニ定ムル區檢察廳若ハ地方檢察廳、高等檢察廳又ハ最高檢察廳ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二條 前條第一項ノ規定ニ依リ法院組織法ニ定ムル地方法院、高等法院又ハ最高法院ニ於テ受理シタルモノト看做サル事件ハ其ノ法院ニ於テ之ヲ完結スベシ

第三條 法院組織法施行前發送シタル訴狀、上訴狀、抗告狀又ハ申請書ヲ同法施行後法院方受理シタル場合ニ於テ法院組織法ノ規定ニ依リ其ノ法院ニ該事件ノ管轄權ナキトキハ職權ニ依リ裁定ヲ以テ之ヲ管轄法院ニ

移送スベシ

第四條 司法部法學校ノ教授又ハ助教授タリシ者ハ法院組織法第四十八條第一項及第五十四條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ新法政大學ノ教授又ハ聘任官タル助教授タリシ者ト看做ス(康六・第七九號本條追加)

第五條 左ニ掲グル者ハ當分ノ開法院組織法第四十八條ノ規定ニ拘ラス之ヲ審判官又ハ檢察官ニ任用スルコトヲ得

一 推事又ハ檢察官タリシ者

二 軍法官

三 縣司法公署ノ審判官及檢察官

四 承審員(康五・第二三九號、六・第七九號、七・第三四一號本條中改正)

第六條 法院組織法第五十三條ノ要件ヲ具備セザル者ト雖モ當分ノ間之ヲ高等法院又ハ最高法院ノ審判官ニ補スルコトヲ得(康五・第二三九號、六・第七九號本條中改正)

第七條 司法部大臣ハ當分ノ開法院書記官ヲシテ執行官ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得(康五・第二三九號本條改正、六・第七九號本條中改正)

第八條 從前ノ法院及檢察廳以外ノ司法機關ノ組織權限ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外法院組織法ノ施行ニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ(康五・第二三八號本條改正、六・第七九號本條中改正)

附則

本法ハ法院組織法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(康徳三年七月一日)

附則

本法ハ康徳五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス(康徳五年九月二十二日)

附則 (康徳六年四月二〇日)  
勅令第七九號

附則 (康徳七年二月二十四日)  
勅令第三四一號

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 三 民事法



○民法

(康徳四年六月十七日勅令第一三〇號)

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ民法第一編第二編第三編ヲ編成シ茲ニ之ヲ公布セシム(國務總理、司法部長大臣)

民法目次

民法

- 第一編 總則
  - 第一章 通則
  - 第二章 人
    - 第一節 自然人
    - 第一節 權利能力及行為能力
    - 第二節 住所
    - 第三節 不在及失踪
    - 第二節 法人
      - 第一款 總則
      - 第二款 設立
      - 第三款 機關
      - 第四款 解散
      - 第五款 則
  - 第三章 物
    - 第四章 法律行為
      - 第一節 總則
      - 第二節 意思表示
      - 第三節 代理
      - 第四節 無效及取消
      - 第五節 條件及期限
      - 第六節 消滅時效

民法

第二編 物權

- 第一章 總則
- 第二章 占有
  - 第一節 所有權
  - 第一節 所有權ノ效力
  - 第二節 共有及總有
- 第三章 地上權
  - 第一節 地上權
  - 第二節 共有及總有
- 第四章 耕種權
- 第五章 地役權
- 第六章 典權
- 第七章 質權
  - 第一節 動產質權
  - 第二節 權利質權
- 第八章 留置權
- 第九章 抵押權
  - 第一節 抵押權
  - 第二節 權利質權
- 第十章 債權
  - 第一節 債權ノ目的
  - 第二節 債權ノ效力
  - 第三節 多數當事者ノ債權
  - 第一節 總則
  - 第二節 不可分債權及不可分債務
  - 第三節 連帶債務
  - 第四節 保證債務
  - 第五節 債權ノ讓渡
  - 第六節 債權ノ引受
  - 第七節 債權ノ消滅
  - 第八節 債權ノ混同
  - 第九節 債權ノ更替
  - 第十節 債權ノ相供託
  - 第十一節 債權ノ供託
  - 第十二節 債權ノ更替
  - 第十三節 債權ノ混同
  - 第十四節 債權ノ更替
  - 第十五節 債權ノ混同

第七節 證券債權

- 第一章 總則
- 第二章 契約
  - 第一節 契約ノ成立
  - 第二節 契約ノ效力
  - 第三節 契約ノ解除
  - 第四節 契約ノ與
  - 第五節 契約ノ買與
  - 第六節 契約ノ買與
  - 第七節 契約ノ買與
  - 第八節 契約ノ買與
  - 第九節 契約ノ買與
  - 第十節 契約ノ買與
  - 第十一節 契約ノ買與
  - 第十二節 契約ノ買與
  - 第十三節 契約ノ買與
  - 第十四節 契約ノ買與
  - 第十五節 契約ノ買與
- 第三章 事務管理
- 第四章 不當利得
- 第五章 不法行為
- 第六章 附則
- 第七章 總則
- 第八章 民法
- 第九章 依ル
- 第十章 依ル
- 第十一章 依ル
- 第十二章 依ル
- 第十三章 依ル
- 第十四章 依ル
- 第十五章 依ル
- 第十六章 依ル
- 第十七章 依ル
- 第十八章 依ル
- 第十九章 依ル
- 第二十章 依ル
- 第二十一章 依ル
- 第二十二章 依ル
- 第二十三章 依ル
- 第二十四章 依ル
- 第二十五章 依ル
- 第二十六章 依ル
- 第二十七章 依ル
- 第二十八章 依ル
- 第二十九章 依ル
- 第三十章 依ル
- 第三十一章 依ル
- 第三十二章 依ル
- 第三十三章 依ル
- 第三十四章 依ル
- 第三十五章 依ル
- 第三十六章 依ル
- 第三十七章 依ル
- 第三十八章 依ル
- 第三十九章 依ル
- 第四十章 依ル
- 第四十一章 依ル
- 第四十二章 依ル
- 第四十三章 依ル
- 第四十四章 依ル
- 第四十五章 依ル
- 第四十六章 依ル
- 第四十七章 依ル
- 第四十八章 依ル
- 第四十九章 依ル
- 第五十章 依ル
- 第五十一章 依ル
- 第五十二章 依ル
- 第五十三章 依ル
- 第五十四章 依ル
- 第五十五章 依ル
- 第五十六章 依ル
- 第五十七章 依ル
- 第五十八章 依ル
- 第五十九章 依ル
- 第六十章 依ル
- 第六十一章 依ル
- 第六十二章 依ル
- 第六十三章 依ル
- 第六十四章 依ル
- 第六十五章 依ル
- 第六十六章 依ル
- 第六十七章 依ル
- 第六十八章 依ル
- 第六十九章 依ル
- 第七十章 依ル
- 第七十一章 依ル
- 第七十二章 依ル
- 第七十三章 依ル
- 第七十四章 依ル
- 第七十五章 依ル
- 第七十六章 依ル
- 第七十七章 依ル
- 第七十八章 依ル
- 第七十九章 依ル
- 第八十章 依ル
- 第八十一章 依ル
- 第八十二章 依ル
- 第八十三章 依ル
- 第八十四章 依ル
- 第八十五章 依ル
- 第八十六章 依ル
- 第八十七章 依ル
- 第八十八章 依ル
- 第八十九章 依ル
- 第九十章 依ル
- 第九十一章 依ル
- 第九十二章 依ル
- 第九十三章 依ル
- 第九十四章 依ル
- 第九十五章 依ル
- 第九十六章 依ル
- 第九十七章 依ル
- 第九十八章 依ル
- 第九十九章 依ル
- 第一百章 依ル



第二條 權利ノ行使及義務ノ履行ハ誠實ニ且信義ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二章 人

第一節 自然人

第三條 人ノ權利能力ハ出生ニ始マリ死亡ニ終ル

第四條 滿二十年ヲ以テ成年トス

第五條 未成年者ガ法律行為ヲ爲スニハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルベキ行為ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法定代理人ガ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財產ハ其ノ目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メズシテ處分ヲ許シタル財產ノ處分ニ付亦同ジ

第七條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其ノ營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ行為能力ヲ有ス

第八條 前項ノ場合ニ於テ未成年者ガ未ダ其ノ營業ニ堪ヘザル事跡アルトキハ其ノ法定代理人ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得但シ其ノ取消又ハ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第九條 心神耗弱者又ハ浪費ノ爲自己若ハ家族ヲ窮乏ニ陥ラシムル虞アル者ニ付テハ法院ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、家長、後見人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ準禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 第五條及第六條ノ規定ハ準禁治產者ニ之ヲ準用ス

第十條 準禁治產ノ原因止ミタルトキハ法院ハ第八條ニ掲グル者ノ請求ニ因リ其ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス

第十一條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ法院ハ第八條ニ掲グル者ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 禁治產者ノ法律行為ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十三條 第十條ノ規定ハ禁治產ニ之ヲ準用ス

第十四條 無能力者ノ相手方ハ其ノ無能力者ガ能力者ト爲リタル後之ニ對シテ一定ノ期間内ニ其ノ取消シ得ベキ行為ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得若無能力者ガ其ノ期間内ニ確答ヲ發セザルトキハ其ノ行為ヲ追認シタルモノト看做ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

第十五條 無能力者ノ爲シタル契約ハ其ノ追認アル迄相手方ニ於テ之ヲ撤回スルコトヲ得但シ契約ノ當時相手方ガ無能力ノ事實ヲ知リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 無能力者ノ爲シタル單獨行為ハ其ノ追認アル迄相手方ニ於テ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第十七條 前二項ノ撤回又ハ拒絕ハ無能力者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得

第十八條 無能力者ガ能力者タルコトヲ借ゼシムル爲詐術ヲ用ヒタルトキハ其ノ行為ヲ取消スコトヲ得

第十九條 住所ノ知レザル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス

第二十條 滿洲國ニ住所ヲ有セザル者ニ付テハ滿洲國ニ於ケル居所ヲ以テ其ノ住所ト看做ス

第二十一條 成行爲ニ付假住所ヲ選定シタルトキハ其ノ行為ニ關シテハ之ヲ住所ト看做ス

第二十二條 從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者ガ其ノ財產ノ管理人ヲ置カザリシトキハ法院ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ其ノ財產ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ要ス本人ノ不在申管理入ノ權限ガ消滅シタルトキ亦同ジ

第二十三條 本人ガ後日ニ至リ管理入ヲ置キタルトキハ法院ハ其ノ管理人、利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ前項ノ命令ヲ取消スコトヲ要ス

第二十四條 不在者ガ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其ノ不在者ノ生死分明ナラザルトキハ法院ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ管理入ヲ改任スルコトヲ得

第二十五條 法院ニ於テ選任シタル管理人ハ其ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ要ス

第二十六條 不在者ガ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其ノ不在者ノ生死分明ナラザルトキハ法院ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ管理入ヲ改任スルコトヲ得

第二十七條 法院ニ於テ選任シタル管理人ハ其ノ管理ニ付必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ要ス

第二十八條 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定ムル時ト異リタル時ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ法院ハ本人、利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但シ失踪ノ宣告後其ノ取消前ニ善意ヲ以テ爲シタル行為ハ之ガ爲ニ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第二十九條 失踪ノ宣告ヲ取消アリタルトキハ失踪ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ハ其ノ受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ但シ惡意ノ受益者ハ其ノ受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ返還シ尙損害アリタルトキハ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第三十條 二人以上共同ノ危險ニ遭遇シテ死亡シタル場合ニ於テハ同時ニ死亡シタルモノト推定ス

第三十一條 法人ハ本法其ノ他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非ザレバ成立スルコトヲ得ズ

第三十二條 學術、宗教、慈善、技藝、社交其ノ他ノ非營利事業ヲ目的トスル社團又ハ財團ハ主管官署ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三十三條 法人ハ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第三十四條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒテ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第三十五條 法人ハ理事其ノ他ノ代表者ガ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ但シ其ノ理事其ノ他ノ代表者ハ之ガ爲ニ自己ノ損害賠償ノ責任ヲ免ル

第三十六條 法人ノ業務ハ主管官署ノ監督ニ關ス

第三十七條 主管官署ハ何時モ法人ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三十八條 法人ガ其ノ目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行為ヲ爲シタルトキハ主管官署ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十九條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

第四十條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 定款ノ變更ハ主管官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十二條 社團法人ノ設立者ハ一定ノ財產ヲ出捐シ且定款ヲ作リ之ニ第三十八條第一號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ記載シテ署名ス

第四十三條 法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及之ヲ履行シタル理事其ノ他ノ代表者連帶シテ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十四條 法人ノ住所ハ其ノ主事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四十五條 法人ノ業務ハ主管官署ノ監督ニ關ス

第四十六條 主管官署ハ何時モ法人ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十七條 法人ガ其ノ目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行為ヲ爲シタルトキハ主管官署ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十八條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

第四十九條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限り之ヲ變更スルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 定款ノ變更ハ主管官署ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五十一條 社團法人ノ設立者ハ一定ノ財產ヲ出捐シ且定款ヲ作リ之ニ第三十八條第一號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ記載シテ署名ス



ルコトヲ要ス  
 遺言ヲ以テ財團法人ヲ設立スル場合ハ定款ニ設立者ノ署名ヲ缺クトキト雖モ遺言ノ方式ヲ具備スルトキハ其ノ效力ヲ有ス  
 第四十一條 財團法人ノ設立者ガ其ノ名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定メズシテ死亡シタルトキハ法院ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ之ヲ定ムルコトヲ要ス  
 第四十二條 財團法人ノ定款ハ定款ニ其ノ變更ノ方法ヲ定メタルトキニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十九條第二項ノ規定ヲ準用ス  
 財團法人ノ目的ヲ維持シ又ハ其ノ財團ヲ保存スル爲メ必要アルトキハ主管官署ハ前項ノ規定ニ拘ラズ設立者、理事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ定款ノ規定ヲ變更スルコトヲ得  
 第四十三條 事情ノ變更ニ因リ財團法人ノ目的ヲ達スルコト能ハザルニ至リタル場合ニ於テ必要アルトキハ主管官署ハ設立者ノ意思ヲ斟酌シ目的ノ他定款ノ規定ヲ變更スルコトヲ得  
 第四十四條 生前贈分ヲ以テ財團法人ヲ設立スルトキハ贈與ニ關スル規程ヲ準用ス  
 遺言ヲ以テ財團法人ヲ設立スルトキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第四十五條 生前贈分ヲ以テ財團法人ヲ設立スルトキハ其ノ出捐シタル財產ハ法人成立ノ時ヨリ法人ノ財產ヲ組成ス  
 遺言ヲ以テ財團法人ヲ設立スルトキハ其ノ出捐シタル財產ハ遺言ガ效力ヲ生ジタル時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス  
 第四十六條 法人設立ノ許可アリタルトキハ三週間以内ニ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 一 目的  
 二 名稱  
 三 事務所  
 四 設立許可ノ年月日  
 五 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由  
 六 資産ノ總額  
 七 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ方法  
 八 理事ノ氏名及住所  
 九 法人ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間以内ニ分事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第四十七條 法人ノ成立後新ニ分事務所ヲ設ケタルトキハ主事務所ノ所在地ニ於テハ二週間以内ニ其ノ旨ヲ登記シ其ノ分事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ分事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス  
 主事務所又ハ分事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記處ノ管轄區域内ニ於テ新ニ分事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス  
 第四十八條 法人ガ其ノ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以内ニ第四十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 同一ノ登記處ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノミノ登記ヲ爲スルコトヲ要ス  
 第四十九條 第四十六條第二項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、分事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五十條 前三條ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ニシテ官署ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス  
 第五十一條 本節ノ規定ニ從ヒ登記スベキ事項ハ其ノ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 登記シタル事項ハ法院ニ於テ通知ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス  
 第五十二條 法人ハ成立ノ時及毎年始メ三月以内ニ財産目録ヲ作リ之ヲ事務所ニ備置クコトヲ要ス但シ特ニ事業年度ヲ設ケタルモノハ成立ノ時及其ノ年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス  
 社團法人ハ社員名簿ヲ備置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス  
 第三款 機關  
 第五十三條 法人ニハ理事ヲ置クコトヲ要ス  
 第五十四條 理事ハ法人ノ事務ヲ執行ス  
 理事數人アル場合ニ於テ定款ニ別段ノ定キトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
 第五十五條 理事ハ法人ノ事務ニ付各自法人ヲ代表ス但シ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ得ズ社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス  
 法人ノ代表ニ付テハ代理ニ關スル規定ニ從フ  
 第五十六條 理事ノ代表權ニ加ヘタル制限ハ

之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 第五十七條 理事ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス  
 第五十八條 理事ハ定款又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレザルトキニ限リ他人ヲシテ特定ノ行為ヲ代理セシムルコトヲ得  
 第五十九條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ運滯ノ爲メ損害ヲ生ズル虞アルトキハ法院ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任スルコトヲ要ス  
 第六十條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代表權ヲ有セズ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス  
 第六十一條 理事ガ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ理事ハ法人ニ對シテ連帶シ損害賠償ノ責ニ任ズ  
 第六十二條 法人ニハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ理事ヲ置クコトヲ得  
 第六十三條 理事ノ職務左ノ如シ  
 一 法人ノ財產ノ狀況ヲ監査スルコト  
 二 理事又ハ清算人ノ事務執行ノ狀況ヲ監査スルコト  
 三 財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ事跡アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主管官署ニ報告スルコト  
 四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ召集スルコト  
 第六十四條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其ノ他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除クノ外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム  
 第六十五條 社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回通常總會ヲ召集スルコトヲ要ス  
 第六十六條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得  
 第六十七條 總社員ノ五分ノ一以上ニ當ル社員ハ理事ニ對シ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ臨時總會ヲ召集ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ定款ハ定款ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得  
 前項ノ請求アリタル後二週間以内ニ理事ガ總會ヲ召集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求ヲ爲シタル社員ハ法院ノ許可ヲ得テ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得  
 第六十八條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ一週間以前ニ定款ニ定ムル方法ニ從ヒ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス  
 前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
 第六十九條 總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第七十條 各社員ノ表決權ハ平等トス  
 總會ニ出席セザル社員ハ書面ニ依リ又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得  
 前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第七十一條 社團法人ト社員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ社員ハ表決權ヲ有セズ  
 第七十二條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル表決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第七十三條 總會ノ議事ニ付テハ議事録ヲ作ルコトヲ要ス  
 第七十四條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス  
 一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル解散事由ノ發生  
 二 破産  
 三 設立許可ノ取消  
 社團法人ハ前項ニ掲グル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス  
 一 總會ノ決議  
 二 社員ノ死亡  
 第七十五條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非ザレバ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第七十六條 法人ガ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルニ至リタルトキハ理事ハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス  
 第七十七條 解散シタル法人ノ財產ハ定款ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス  
 定款ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セズ又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メザリシトキハ理事又ハ清算人ハ主管官署ノ許可ヲ得テ其ノ法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲ニ其ノ財產ヲ處分スルコトヲ得但シ社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス  
 前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレザル財產ハ國庫ニ歸屬ス  
 第七十八條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ



範圍内ニ於テノミ權利ヲ有シ義務ヲ負フ  
 第七十九條 法人ガ解散シタルトキハ破産ノ  
 場合ヲ除ク外理事其ノ清算人ト爲ル但シ  
 定款ニ別段ノ定アルトキハ總會ニ於テ他  
 人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第八十條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者  
 ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生  
 ズル虞アルトキハ法院ハ利害關係人若ハ破  
 察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ  
 選任スルコトヲ得  
 第八十一條 重要ナル事由アルトキハ法院ハ  
 利害關係人若ハ破察官ノ請求ニ因リ又ハ職  
 權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得  
 第八十二條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外  
 其ノ就職後主事務所ノ所在地ニ於テハ二週  
 間、分事務所ノ所在地ニ於テハ三週間に  
 一ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 一 解散ノ事由及其ノ年月日  
 二 清算人ノ氏名及住所  
 第四十九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用  
 ス  
 第八十三條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外  
 其ノ就職ノ日ヨリ二週間に於テハ第一項  
 ニ掲グル事項ヲ主管官署ニ届出ヅルコトヲ  
 要ス清算中ニ就職シタル清算人ハ其ノ氏名  
 及住所ヲ届出ヅルヲ以テ足ル  
 第八十四條 清算人ノ職務左ノ如シ  
 一 現務ノ結了  
 二 債權ノ取立及債務ノ辨濟  
 三 殘餘財産ノ引渡  
 清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲ニ必要ナル一  
 切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得  
 第八十五條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月  
 以内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ

對シ一定ノ期間内ニ其ノ債權ヲ申出ヅベキ  
 旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二  
 月ヲ下ルコトヲ得ズ  
 前項ノ公告ニハ債權者ガ期間内ニ申出ヅル  
 サザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ  
 附記スルコトヲ要ス  
 第一項ノ公告ハ法院ガ爲スベキ登記事項ノ  
 公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要  
 ス  
 第八十六條 清算人ハ知レタル債權者ニハ各  
 別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告スルコトヲ要  
 ス  
 知レタル債權者ハ之ヲ清算ヨリ除斥スルコ  
 トヲ得ズ  
 第八十七條 清算人ハ第八十五條第一項ノ債  
 權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲  
 スコトヲ得ズ但シ法人ハ之ガ爲ニ遲延ニ因  
 ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトナシ  
 第八十八條 法人ハ辨濟期ニ至ラザル債權ト  
 雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ條件附債權、存續期間  
 ノ不確定ナル債權其ノ他債權ノ不確定ナル  
 債權ニ付テハ法院ノ選任シタル鑑定人ノ評  
 價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス  
 第八十九條 清算ヨリ除斥セラル債權者  
 ハ法人ノ債務完済ノ後未ダ歸屬權利者ニ引  
 渡サザル財産ニ對シテノミ辨濟ヲ請求スル  
 コトヲ得  
 第九十條 清算中ニ法人ノ財産ガ其ノ債務ヲ  
 完済スルニ不足ナルコト分明スルニ至リタ  
 ルトキハ清算人ハ直ニ破産ノ申立ヲ爲シ且  
 其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス  
 清算人ハ破産管財人ニ其ノ事務ヲ引渡シタ  
 ルトキハ其ノ任務ヲ終リタルモノトス

第八十五條第三項ノ規定ハ第一項ノ公告ニ  
 之ヲ準用ス  
 第九十一條 清算ガ結了シタルトキハ清算人  
 ハ二週間以内ニ之ヲ主管官署ニ届出ヅ且主  
 事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、分事務所  
 ノ所在地ニ於テハ三週間に於テハ清算結了ノ  
 登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 第九十二條 法人ノ解散及清算ハ法院ノ監督  
 ニ則ス  
 法院ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル檢  
 査ヲ爲スコトヲ得  
 第九十三條 第五十四條第二項、第五十五條  
 第六十五條、第六十六條、第六十七條、第六十八條、  
 第六十九條、第七十條及第七十三條第二  
 項第三項ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス  
 第九十四條 第五款ノ則  
 第九十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ  
 左ノ場合ニ於テハ千圓以下ノ過料ニ處ス  
 一 本節ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタ  
 ルトキ  
 二 第五十二條ノ規定ニ違反シ又ハ財産目  
 録若ハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタル  
 トキ  
 三 第三十六條又ハ第九十二條ノ場合ニ於  
 テ主管官署又ハ法院ノ検査ヲ妨グタルト  
 キ  
 四 官署又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ  
 又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ  
 五 第七十三條又ハ第八十七條ノ規定ニ違  
 反シタルトキ  
 六 第七十六條又ハ第九十條ノ規定ニ反シ  
 破産ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ  
 七 第八十五條又ハ第九十條ニ定ムル公告  
 ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シ

タルトキ

第九十五條 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ  
 第九十六條 土地及其ノ定著物ハ之ヲ不動產  
 トス  
 不動產以外ノ物ハ體テ之ヲ動產トス  
 第九十七條 物ノ所有者ガ其ノ物ノ常用ニ供  
 スル爲自己ノ所有ニ屬スル他ノ物ヲ之ニ附  
 屬セシメタルトキハ其ノ附屬セシメタル物  
 ヲ從物トス  
 從物ハ主物ノ處分ニ隨フ  
 第九十八條 物ノ用法ニ從ヒ收取スル產出物  
 ヲ天然果實トス  
 物ノ使用ノ對價トシテ受クベキ金錢其ノ他  
 ノ物ヲ法定果實トス  
 第九十九條 天然果實ハ其ノ元物ヨリ分離ス  
 ル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有スル者ニ屬  
 ス  
 法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日  
 割ヲ以テ之ヲ取得ス  
 第四章 法律行爲  
 第一節 總則  
 第一百條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事  
 項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効トス  
 第一百一條 法律行爲ノ當事者ガ法令中ノ公ノ  
 秩序ニ關セザル規定ニ異リタル意思ヲ表示  
 シタルトキハ其ノ意思ニ從フ  
 第一百二條 法令中ノ公ノ秩序ニ關セザル規定  
 ニ異リタル慣習アル場合ニ於テ法律行爲ノ  
 當事者ノ意思明確ナラザルトキハ其ノ慣習  
 ニ從フ  
 第二節 意思表示  
 第一百三條 意思表示ハ表意者ガ其ノ眞意ニ非  
 ズルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル爲其ノ效力

ヲ妨ゲラルルコトナシ但シ相手方ガ表意者  
 ノ眞意ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリ  
 シトキハ其ノ意思表示ハ無効トス  
 前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第  
 三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 第一百四條 相手方ト通ジテ爲シタル處爲ノ意  
 思表示ハ無効トス前條第二項ノ規定ハ前項  
 ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第一百五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤  
 アリタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得但シ表  
 意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此ノ限  
 ニ在ラズ  
 前項ノ規定ニ依ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以  
 テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 第一百六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之  
 ヲ取消スコトヲ得  
 相手方アル意思表示ニ付第三者ガ詐欺又ハ  
 強迫ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方ガ其ノ  
 事實ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシ  
 トキニ限り其ノ意思表示ヲ取消スコトヲ  
 得  
 前條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準  
 用ス  
 第一百七條 兩地者ニ對スル意思表示ハ其ノ通  
 知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其ノ效力ヲ  
 生ズ  
 意思表示ハ表意者ガ其ノ通知ヲ發シタル後  
 ニ死亡シ又ハ行爲能力ヲ失フモ之ガ爲ニ其  
 ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ  
 第一百八條 意思表示ノ相手方ガ之ヲ受ケタル  
 時ニ無能力者ナリシトキハ其ノ意思表示ヲ  
 以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ法定代理  
 人ガ其ノ到達ヲ知リタル後ハ此ノ限ニ在ラ

第九十九條 表意者ガ過失ナクシテ相手方ノ氏  
 名又ハ所在ヲ知ラザル場合ニ於テハ意思表  
 示ハ民事訴訟法ノ公示送達ノ規定ニ從ヒ之  
 ヲ送達スルコトヲ得  
 第三節 代理  
 第一百條 代理人ガ其ノ權限内ニ於テ本人ノ  
 名ニ於テ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ  
 對シテ其ノ效力ヲ生ズ  
 前項ノ規定ハ第三者ガ代理人ニ對シテ爲シ  
 タル意思表示ニ之ヲ準用ス  
 第一百一條 代理人ガ本人ノ名ニ於テ爲スコ  
 トヲ表示セズシテ爲シタル意思表示ハ自己  
 ノ名ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ  
 相手方ガ其ノ代理人トシテ爲スコトナルコ  
 トヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシト  
 キハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス  
 第一百二條 意思表示ノ效力ガ意思ノ欠缺、  
 詐欺、強迫又ハ威事情ヲ知リタルコト若ハ  
 之ヲ知ラザル過失アリタルコトニ因リテ影  
 響ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ事實ノ有無ハ  
 代理人ニ付之ヲ定ム  
 特定ノ法律行爲ヲ爲ス授權アリタル場合ニ  
 於テ代理人ガ本人ノ指圖ニ從ヒ其ノ行爲ヲ  
 爲シタルトキハ本人ハ其ノ自ラ知リタル事  
 情ニ付代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ズ  
 其ノ過失ニ因リテ知ラザリシ事情ニ付亦同  
 シ  
 第一百三條 代理人ハ行爲能力者タルコトヲ  
 要セズ  
 第一百四條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行爲  
 ノミヲ爲ス權限ヲ有ス  
 一 保存行爲  
 二 物又ハ權利ノ性質ヲ變ゼザル範圍内ニ  
 於テ其ノ利用又ハ改良ヲ目的トスル行爲



第百十五條 代理人數人アルトキハ各自本人ヲ代理ス但シ法令又ハ授權行為ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百十六條 代理權ガ法律行為ニ因リ授與セラレタル場合ニ於テハ代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得ザル事由アルトキニ非ザレバ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ズ

第百十七條 代理人ガ前條ノ規定ニ依リ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及監督ニ付本人ニ對シテ其ノ責任ニ任ズ

第百十八條 法定代理人ハ其ノ責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得ザル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定ムル責任ノミヲ負フ

第百十九條 復代理人ハ其ノ權限内ノ行為ニ付本人ヲ代理ス復代理人ハ本人及第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第百二十條 代理人ハ本人ノ許諾アルニ非ザレバ本人ノ名ニ於テ自己ト法律行為ヲ爲シ又ハ同一ノ法律行為ニ付當事者雙方ヲ代理スルコトヲ得但シ債務ノ履行ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十一條 第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其ノ代理權ノ範圍内ニ於テ其ノ他人ト第三者トノ間ニ爲シタル法律行為ニ付其ノ責任ニ任ズ但シ其ノ第三者ガ代理權ナキコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十二條 代理人ガ其ノ權限外ノ法律行為ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者ガ其ノ權限アリト信ズベキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ本人ハ其ノ行為ニ付責任ニ任ズ

第百二十三條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人ノ死亡

二 代理人ノ死亡、禁治産又ハ破産

第百二十四條 法律行為ニ因リ授與セラレタル代理權ハ前條ノ場合ノ外其ノ授權ノ原因タル法律關係ノ終了ニ因リテ消滅ス但シ其ノ法律關係ノ終了前ト雖モ之ヲ撤回スルコトヲ妨ゲズ

第百二十五條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十六條 代理權ヲ有セザル者ガ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本人ガ其ノ追認ヲ爲スニ非ザレバ之ニ對シテ其ノ效力ヲ生ゼズ

第百二十七條 代理權ヲ有セザル者ガ他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ答スベキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若本人ガ其ノ期間内ニ確答ヲ發セザルトキハ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第百二十八條 追認又ハ其ノ拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ其ノ相手方ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ相手方ガ其ノ事實ヲ知リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十九條 追認ハ別段ノ意思表示ナキト

第百三十條 代理人トシテ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ追認ヲ爲スヤ否ヤヲ答スベキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若本人ガ其ノ期間内ニ確答ヲ發セザルトキハ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第百三十一條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者ガ其ノ代理權ヲ證明スルコト能ハズ且本人ノ追認ヲ得ザリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責任ニ任ズ

前項ノ規定ハ相手方ガ代理權ナキコトヲ知リ若ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者ガ行為能力ヲ有セザリシトキハ之ヲ適用セズ

第百三十二條 單獨行為ニ付テハ其ノ行為ノ當時相手方ガ代理人ト稱スル者ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其ノ代理權ヲ爭ハザリシトキニ限り前六條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セザル者ニ對シテ其ノ同意ヲ得テ單獨行為ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第百三十三條 無効ノ法律行為ハ追認ニ因リテ其ノ效力ヲ生ゼズ但シ當事者ガ其ノ無効ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル法律行為ヲ爲シタルモノト看做ス

第百三十四條 取消シ得ベキ法律行為ハ無能力者若ハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者、其ノ代理人又ハ承認人ニ限り之ヲ取消スコトヲ得

第百三十五條 取消シ得ベキ法律行為ノ相手

方ガ確定セル場合ニ於テハ其ノ取消ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第百三十六條 法律行為ガ取消サレタルトキハ其ノ行為ハ始ヨリ無効トス但シ無能力者ハ其ノ行為ニ因リテ受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ

第百三十七條 取消シ得ベキ法律行為ハ第百三十四條ニ掲グル者ガ追認ヲ爲シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ズ

第百三十五條ノ規定ハ前項ノ追認ニ之ヲ準用ス

第百三十八條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

前項ノ規定ハ法定代理人ガ追認ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

第百三十九條 前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得ベキ法律行為ニ付左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但シ異議ヲ留メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 全部又ハ一部ノ履行

二 履行ノ請求

三 更改

四 擔保ノ供與

五 取消シ得ベキ行為ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡

六 強制執行

第百四十條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ一年、法律行為ノ時ヨリ五年以内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五節 條件及期限

第百四十一條 停止條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

解除條件附法律行為ハ條件成就ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

當事者ガ條件成就ノ效力ヲ其ノ成就以前ニ溯ラシムル意思ヲ表示シタルトキハ其ノ意思ニ從フ

第百四十二條 條件附法律行為ノ當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其ノ行為ヨリ生ズベキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ

第百四十三條 條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分、相繼、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第百四十四條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クベキ當事者ガ不當ニ其ノ條件ノ成就ヲ妨ゲタルトキハ相手方ハ其ノ條件ヲ成就シタルモノト看做スコトヲ得

條件ノ成就ニ因リテ利益ヲ受クベキ當事者ガ不當ニ其ノ條件ヲ成就セシメタルトキハ相手方ハ其ノ條件ヲ成就セザリシモノト看做スコトヲ得

第百四十五條 始期ヲ附シタル法律行為ハ期限到來ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

終期ヲ附シタル法律行為ハ期限到來ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第百四十六條 第百四十二條及第百四十三條ノ規定ハ期限ヲ附シタル法律行為ニ之ヲ準用ス

第五章 期間

第百四十七條 期間ノ計算ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行為ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第百四十八條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第百四十九條 期間ヲ定ムルニ日、週、月、又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セズ但シ其ノ期間ガ午前零時ヨリ始ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五十條 年齡ノ計算ニ付テハ出生ノ日ヲ算入ス

第百五十一條 期間ヲ定ムルニ日、週、月、又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ末日ノ終了ハ以テ期間ノ滿了トス

第百五十二條 期間ヲ定ムルニ週、月、又ハ年ヲ以テシタルトキハ應ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月、又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月、又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月、又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期日トス

第百五十三條 期間ノ末日ガ祭日、日曜日其ノ他ノ休日ニ當ルトキハ其ノ日ニ取引ヲ爲サザル慣習アル場合ニ限り期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第六章 消滅時效

第百五十四條 債權ハ二十年間之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時效完成ス

債權又ハ所有權ニ非ザル財產權ハ三十年間



之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス  
 第五百五十五條 左ニ掲グル債權ハ五年間之ヲ  
 行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス  
 一 利息、扶養料、給料、質賃料其ノ他一  
 年以内ノ期間ヲ以テ定ムル定期給付ノ債  
 權  
 二 醫師、助産士、看護人及藥劑師ノ治療、  
 勤勞及調劑ニ關スル債權  
 三 請負人又ハ技師其ノ他工事ノ設計若ハ  
 監督ニ從事スル者ノ工事ニ關スル債權  
 四 律師、辨理士及公證人ニ對シ其ノ職務  
 ニ關シ交付シタル書類ノ返還ヲ求ムル債  
 權  
 五 律師、辨理士及公證人ノ職務ニ關スル  
 債權  
 六 生産者及商人ガ賣却シタル產物及商品  
 ノ代金債權  
 七 手工業者及製造人ノ仕事ニ關スル債權  
 八 學生及習業者ノ教育、衣食及止宿ニ關  
 スル債權  
 第九 校長、塾主及教師ノ債權  
 第五百五十六條 左ニ掲グル債權ハ二年間之ヲ  
 行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス  
 一 旅店、飲食店、貸座敷及娯樂場ノ宿泊料、  
 飲食料、膳料、入場料及消費物ノ代價或  
 ニ立替金ノ債權  
 二 衣服、器具及葬具其ノ他ノ動産ノ質賃  
 料債權  
 三 一月以内ノ期間ヲ以テ定ムル雇人ノ給  
 料債權  
 四 勞務者及藝人ノ賃金或ニ其ノ供給シタ  
 ル物ノ代金債權  
 第五百五十七條 確定判決ニ因リテ定シタル債  
 權ハ短期ノ消滅時効ヲ定ムルモノト雖モ二  
 十年間之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効

完成ス破産手續ニ依リテ確定シタル債權或  
 ニ裁判上ノ和解、調停及公正證書ニ基ク債  
 權ニ付亦同ジ  
 利息、扶養料、給料、質賃料其ノ他一年以  
 内ノ期間ヲ以テ定ムル定期給付ノ債權ニシ  
 テ未ダ其ノ給付ノ時期到來セザルモノニ付  
 テハ前項ノ規定ヲ適用セズ  
 第五百五十八條 消滅時効ハ權利ヲ行使スルコ  
 トヲ得ル時ヨリ進行ス  
 第五百五十九條 消滅時効ハ左ノ事由ニ因リテ  
 一 請求  
 二 差押、假差押又ハ假處分  
 三 承認  
 第五百六十條 前條ノ時効中斷ハ當事者及其ノ  
 承認人ノ間ニ於テノミ其ノ效力ヲ有ス  
 第五百六十一條 裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ  
 取下ノ場合ニ於テハ時効中斷ノ效力ヲ生ゼ  
 ズ  
 前項ノ場合ニ於テ六月以内ニ裁判上ノ請  
 求、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處  
 分ヲ爲シタルトキハ時効ハ最初ノ訴ノ提起  
 ニ因リテ中斷シタルモノト看做ス  
 第五百六十二條 破産手續參加ハ債權者ガ之ヲ  
 取消シ又ハ其ノ請求ガ却下セラレタルトキ  
 八時効中斷ノ效力ヲ生ゼズ  
 第五百六十三條 支拂命令ハ債權者ガ法定ノ期  
 間内ニ假執行ノ申立ヲ爲サザルニ因リ其ノ  
 效力ヲ失フトキハ時効中斷ノ效力ヲ生ゼズ  
 第五百六十四條 催告ハ六月以内ニ裁判上ノ請  
 求、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分  
 ヲ爲スニ非ザレバ時効中斷ノ效力ヲ生ゼズ

第五百六十五條 差押、假差押及假處分ハ權利  
 者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハザル  
 ニ因リテ取消サレタルトキハ時効中斷ノ効  
 力ヲ生ゼズ  
 第五百六十六條 差押、假差押及假處分ハ時効  
 ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ之ヲ爲サザルト  
 キハ之ヲ其ノ者ニ通知シタル後ニ非ザレバ  
 時効中斷ノ效力ヲ生ゼズ  
 第五百六十七條 時効中斷ノ效力ヲ生ズベキ事  
 認テ爲スニハ相手方ノ權利ニ付處分ノ能力  
 又ハ權限アルコトヲ要セズ  
 第五百六十八條 中斷シタル時効ハ其ノ中斷ノ  
 事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始  
 ム  
 裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁  
 判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム  
 第五百六十九條 消滅時効ノ期間滿了前六月以  
 内ニ於テ無能力者ガ法定代理人ヲ有セザル  
 トキハ其ノ者ガ能力者ト爲リ又ハ法定代理  
 人ガ就職シタル時ヨリ六月以内ハ之ニ對シ  
 テ時効完成セズ  
 第五百七十條 無能力者ガ其ノ法定代理人ニ對  
 シテ有スル權利ニ付テハ其ノ者ガ能力者ト  
 爲リ又ハ後任ノ法定代理人ガ就職シタル時  
 ヲ六月以内ハ消滅時効完成セズ  
 夫ガ妻ニ對シ又ハ妻ガ夫ニ對シテ有スル權  
 利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六月以内ハ消  
 滅時効完成セズ  
 第五百七十一條 相続財產ニ關スル權利又ハ相  
 續財產ニ對スル權利ニ付テハ相續人ノ確定  
 シ、管理人ノ選任セラレ又ハ破産ノ宣告ア  
 リタル時ヨリ六月以内ハ消滅時効完成セズ  
 第五百七十二條 消滅時効ノ期間滿了ノ時ニ當  
 リ天災其ノ他避クベカラザル事由ノ爲時効

ヲ中斷スルコト能ハザルトキハ其ノ妨礙ノ  
 止ミタル時ヨリ一月以内ハ時効完成セズ  
 第五百七十三條 權利ノ消滅時効完成シタルト  
 キハ其ノ權利ノ消滅ニ因リテ利益ヲ受クベ  
 キ當事者ハ其ノ權利ノ消滅ヲ主張スルコト  
 ヲ得  
 第五百七十四條 主タル權利ノ消滅時効ガ完成  
 シタルトキハ其ノ效力ハ之ニ從タル權利ニ  
 及ブ  
 第五百七十五條 時効ノ利益ハ豫メ之ヲ放棄ス  
 ルコトヲ得ズ  
 第二章 物 權  
 第一節 總 則  
 第五百七十六條 物權ハ本法其ノ他ノ法律ニ定  
 ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ズ  
 第五百七十七條 不動産ニ關スル物權ノ法律行  
 爲ニ因リ得喪變更ハ登録ヲ爲スニ非ザレバ  
 其ノ效力ヲ生ゼズ  
 第五百七十八條 判決、裁量、公用徵收、相續  
 其ノ他法律ノ規定ニ因リ不動産ニ關スル物  
 權ノ取得ハ登録ヲ要セスシテ其ノ效力ヲ生  
 ズ但シ其ノ登録ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之  
 ヲ處分スルコトヲ得ズ  
 第五百七十九條 登録簿ニ記載シタル權利關係  
 ハ其ノ權利ニ關シ法律行爲ヲ爲シタル者ノ  
 利益ノ爲ニ真正ナルモノト看做ス但シ其ノ  
 真正ナルコトニ付異議ノ登録アルトキ又ハ  
 真正ナルコトヲ知リ若ハ之ヲ知ルコト  
 ヲ得ベカリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第五百八十條 不動産ニ關スル物權ノ得喪變更  
 ヲ目的トスル法律行爲ハ書面ニ依リテ之ヲ  
 爲スコトヲ要ス  
 第五百八十一條 動産ニ關スル物權ノ讓渡ハ其  
 ノ動産ノ引渡ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ

生ゼズ但シ讓受人ガ既ニ其ノ動産ヲ占有セ  
 ルトキハ讓渡ノ意思表示ノミヲ以テ定ル  
 第五百八十二條 動産ニ關スル物權ヲ讓渡スル  
 場合ニ於テ讓渡人ガ引續キ其ノ動産ヲ占有  
 スルトキハ當事者間ニ讓受人ガ間接占有權  
 ヲ取得スベキ契約ヲ締結シテ動産ノ引渡ニ  
 代フルコトヲ得  
 第五百八十三條 第三者ノ占有スル動産ニ關ス  
 ル物權ヲ讓渡スル場合ニ於テハ讓受人ガ其  
 ノ第三者ニ對シテ有スル返還請求權ヲ讓受  
 人ニ讓渡シテ動産ノ引渡ニ代フルコトヲ得  
 第五百八十四條 同一物ニ付所有權及他ノ物權  
 ガ同一人ニ歸屬シタルトキハ其ノ物權ハ消  
 滅ス但シ其ノ物權ノ存續ニ付所有權又ハ第  
 三者ガ法律上ノ利益ヲ有スルトキハ此ノ限  
 ニ在ラズ  
 前項ノ規定ハ所有權以外ノ物權及之ヲ目的  
 トスル他ノ權利ガ同一人ニ歸屬シタル場合  
 ニ之ヲ準用ス  
 第二章 占有 權  
 第五百八十五條 物ニ對シ事實上ノ支配力ヲ有  
 スル者ハ之ヲ占有者トス占有者ガ一時物ニ  
 對スル事實上ノ支配力ヲ失ヒタルトキト雖  
 モ第五百九十七條ノ規定ニ依リ占有物ノ返還  
 ヲ受ケタルトキハ占有權ハ消滅セザリシモ  
 ノト看做ス  
 第五百八十六條 地上權、質權、質賃借、寄託  
 其ノ他之ニ類似スル關係ニ基キ他人ヲシテ  
 物ヲ占有セシムル者ハ之ヲ間接占有者トス  
 第五百八十七條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡  
 ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百八十八條 間接占有者ノ讓渡ハ物ノ返還  
 請求權ヲ讓渡スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百八十九條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善

意、平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定ス  
 善意ノ占有者ガ本權ニ基ク訴ニ於テ敗訴シ  
 タルトキハ其ノ訴ノ提起ノ時ヨリ惡意ノ占  
 有者ト看做ス  
 第五百九十條 前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル  
 事實アルトキハ占有ハ其ノ間斷續シタルモ  
 ノト推定ス  
 第五百九十一條 占有者ノ承認人ハ其ノ選擇ニ  
 從ヒ自己ノ占有ノミヲ主張シ又ハ自己ノ占  
 有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコト  
 ヲ得  
 前主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ  
 其ノ瑕疵モ亦之ヲ承繼ス  
 第五百九十二條 動産ノ占有者ガ占有物ノ上ニ  
 行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推  
 定ス  
 第五百九十三條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生  
 ズル果實ヲ取得ス  
 第五百九十四條 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ  
 且既ニ消費シ、過失ニ因リテ毀損シ又ハ收  
 取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ  
 負フ  
 前項ノ規定ハ強暴又ハ隱蔽ニ因リ占有者ニ  
 之ヲ準用ス  
 第五百九十五條 占有物ガ占有者ノ責ニ歸スベ  
 キ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ  
 惡意ノ占有者ハ其ノ回復者ニ對シ其ノ損害  
 ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ善意ノ占有者  
 ハ其ノ滅失又ハ毀損ニ因リ受ケタル利益ノ  
 存スル限度ニ於テ賠償ノ義務ヲ負フ但シ所  
 有ノ意思ナキ占有者ハ善意ナルトキト雖モ  
 全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十六條 占有者ガ占有物ヲ返還スル場  
 合ニ於テハ其ノ物ノ保存ノ爲ニ費シタル金











第二百六十九條 地上權設定者ハ第三者ト締結シタル買賣契約ノ内容ヲ遲滞ナク地上權者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百七十條 第二百六十八條ニ定ムル請求權ハ地上權者ガ前條ノ通知ヲ受ケタル後一月以内ニ之ヲ行使セザルトキハ消滅ス

第二百七十一條 地上權設定者ハ前條ノ期間經過ノ後ニ非ズレバ第三者ト締結シタル買賣契約ノ履行ヲ爲スコトヲ得ズ但シ其ノ買賣契約ノ締結アリタル後地上權者ガ第二百六十八條ニ定ムル權利ヲ拋棄シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百七十二條 地上權者ガ第二百六十八條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地上權者ト地上權設定者トノ間ニ地上權設定者ガ第三者ト締結シタル契約ノ條件ニ從ヒ買賣成立ス

第二百七十三條 前條ノ規定ハ強制執行法、拍賣法其ノ他法令ノ規定ニ依リテ爲ス

第二百七十四條 前條ノ規定ハ地上權者ガ其ノ土地ノ上ニ有スル工作物ニ付第三者ト買賣契約ヲ締結シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十五條 第二百四條、第二百五條、第五百八十四條、第五百八十五條、第五百九十五條、第六百六條、第六百二十九條及第六百三十條ノ規定ハ地上權ニ之ヲ準用ス

第五節 耕種權

第二百七十六條 耕種權者ハ耕作、樹木ノ栽植、採種又ハ牧畜ヲ爲ス爲他人ノ土地ヲ使用スル權利ヲ有ス

第二百七十七條 契約ヲ以テ耕種權ノ存續期間ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ期間ハ二十年

ヲ下ルコトヲ得ズ若シヨリ短キ期間ヲ以テ耕種權ヲ設定シタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ二十年ニ伸長ス

契約ヲ以テ耕種權ノ存續期間ヲ定メザルトキハ其ノ期間ハ樹木ノ栽植ヲ目的トスルモノニ付テハ五十年、其ノ他ノモノニ付テハ三十年トス

第二百七十八條 耕種權設定者ガ耕種權ノ存續期間滿了前六月乃至一年以内ニ耕種權者ニ對シ別段ノ意思ヲ表示セザルトキハ期間滿了ノ際前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更新ス耕種權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ期間ハ二十年トス

第二百七十九條 耕種權消滅ノ時ニ收穫季節アル作物存スルトキハ其ノ季節ノ終ル迄耕種權ハ存續スルモノト看做ス

第二百八十條 第二百五十九條ノ規定ハ樹木ノ栽植ヲ目的トスル耕種權ニ之ヲ準用ス

前項ノ耕種權ニ付契約ヲ更新スル場合ニ於テハ耕種權ノ存續期間ハ更新ノ時ヨリ起算シテ二十年トス但シ樹木ガ此ノ期間ノ滿了前滅失シタルトキハ耕種權ハ之ニ因リテ消滅ス

當事者ガ前項ノ期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

第二百八十一條 前條ノ規定ニ反スル契約ノ條件ニシテ耕種權者ニ不利ナルモノハ之ヲ定メザルモノト看做ス

第二百八十二條 第二百四條、第二百五條、第二百六十四條乃至第二百七十三條、第五百八十三條乃至第五百八十五條、第五百九十五條、第六百六條、第六百二十三條、第六百二十八條及第六百二十九條ノ規定ハ耕種權ニ之ヲ準用ス

第六章 地役權

第二百八十三條 地役權者ハ一定ノ目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便宜ニ供スル權利ヲ有ス

第二百八十四條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル所有權以外ノ權利ノ目的タルモノトス但シ契約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ズ

第二百八十五條 土地ノ共有者ノ一人ハ其ノ持分ニ付其ノ土地ノ爲ニ又ハ其ノ土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ズ

土地ノ分離又ハ其ノ一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其ノ各部ノ爲ニ又ハ其ノ各部ノ上ニ存ス但シ地役權ガ其ノ性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百八十六條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限リ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十七條 土地ノ共有者ノ一人ガ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取得ス

共有者ニ對スル取得時効ノ中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非ズレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ニ對シテ取得時効ノ停止ノ原因アルモ時効ハ各共有者ノ爲ニ進行ス

第二百八十八條 要役地ガ數人ノ共有ニ關スル場合ニ於テ其ノ一人ノ爲ニ消滅時効ノ中斷又ハ停止アルトキハ其ノ中斷又ハ停止ハ

他ノ共有者ノ爲ニモ亦其ノ效力ヲ生ズ

第二百八十九條 契約ニ因リテ要役地ノ所有權ガ其ノ權利ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲ニ工作物ヲ設ケ又ハ其ノ修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其ノ義務ハ要役地ノ所有權ノ特

定事項人モ亦之ヲ負擔ス

第二百九十條 要役地ノ所有權ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二百九十一條 要役地ノ所有權ハ地役權ノ行使ヲ妨ゲザル範圍内ニ於テ其ノ行使ノ爲ニ要役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ要役地ノ所有權ハ其ノ利益ヲ受ケル場合ニ應ジテ工作物ノ設置及保存ノ費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百九十二條 第二百五條ノ規定ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二百九十三條 處地方ノ住民ガ其ノ總合體ヲ成ス關係ニ基キ他人ノ土地ニ於テ草木、野生物若ハ土砂ノ採取又ハ放牧其ノ他ノ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テハ慣習ニ從フ外本條ノ規定ヲ準用ス

第七節 典權

第二百九十四條 典權者ハ典價ヲ支拂ヒテ他人ノ不動産ヲ占有シ且其ノ用法ニ從ヒ使用及收益ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百九十五條 他人ノ土地ノ上ニ存スル建築物ノ典權ヲ設定シタルトキハ其ノ效力ハ建築物ノ敷地ノ地上權又ハ賃借權ニ及ブ

前項ノ場合ニ於テハ典權設定者ハ典權者ノ同意アルニ非ズレバ地上權ヲ消滅セシメ又ハ賃借借ヲ終了セシムルコトヲ得ズ

第二百九十六條 建築物ト其ノ敷地トガ同一

ノ所有權ニ關スル場合ニ於テ建築物ノミニ典權ヲ設定シタルトキハ典權設定者ハ爾後其ノ建築物ト敷地トノ所有權ヲ異ニシタル場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ地代ハ當事者ノ請求ニ因リ法院之ヲ定ム

第二百九十七條 前條ノ場合ニ於テハ典權設定者ハ第三者ニ對シ建築物ノ敷地ニ地上權ヲ設定シ又ハ之ヲ買賣スルコトヲ得ズ

第二百九十八條 典權者ハ管理ノ費用ヲ支拂ヒ其ノ他不動産ノ負擔ニ任ズ

第二百九十九條 典權ノ期間ハ三年以上三十年以下トス其ノ期間ガ三年ニ滿タザルモノハ之ヲ三年ニ伸長シ三十年ヲ超ユルモノハ之ヲ三十年ニ短縮ス

第三百條 典權ニ期間ノ定アルトキハ典權設定者ハ其ノ期間滿了後典價ヲ提供シテ典物ノ請戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請戻請求權ハ典權ノ期間滿了ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス但シ典權設定ノ時ヨリ十五年ヲ經過セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百一條 典權ニ期間ノ定ナキトキハ典權設定者ハ典權設定後三年ヲ經過シタル後何時ニテモ典價ヲ提供シテ典物ノ請戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請戻請求權ハ典權設定ノ時ヨリ三十年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第三百二條 典權設定者ハ豫メ典物ノ請戻請求權ヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第三百三條 典權設定者ガ典物ノ請戻ヲ請求セントスルトキハ六月以前ニ其ノ旨ヲ典權者ニ通知スルコトヲ要ス

典權設定者ガ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ

之ニ因リテ典權者ノ受ケタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第三百四條 典權ノ目的物ガ耕作地ナル場合ニ於テ請戻ノ請求アリタル時ニ收穫季節アル作物存スルトキハ典權者ハ其ノ季節ノ終ル迄其ノ土地ノ使用及收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 典物ノ請戻請求權ガ消滅シタルトキハ典權者ハ典物ノ所有權ヲ取得ス

第三百六條 典權者ハ其ノ權利ノ範圍内ニ於テ典物ヲ他人ニ轉典スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉典ヲ爲サザレバ生ゼザルベシ不可抗力ニ因リ損害ニ付テモ亦其ノ責ニ任ズ

第三百七條 典物ノ一部ガ滅失シタル場合ニ於テ典權設定者ガ殘存部分ノ請戻ヲ請求セントスルトキハ其ノ滅失シタル部分ノ價格ノ割合ニ應ジテ減額シタル典價ヲ提供スルヲ以テ足ス

第三百八條 典物ノ一部ガ滅失シタルトキハ典權者ハ其ノ部分ヲ修繕シテ原狀ニ回復スルコトヲ得

典權者ガ前項ノ規定ニ依リ典物ヲ原狀ニ回復シタルトキハ典物ハ始ヨリ滅失セザリシモノト看做ス

第三百九條 典權者ガ典物ニ付有益費ヲ支出シタルトキハ其ノ價格ノ增加ガ現存スル場合ニ限リ典權設定者ノ選擇ニ從ヒ其ノ費シタル金額又ハ增加額ヲ償還セシムルコトヲ得但シ法院ハ典權設定者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許スルコトヲ得

第三百十條 前三條ノ規定ニ異リタル慣習アルトキハ其ノ慣習ニ從フ

第三百十一條 第二百四條、第二百五條及第二百六十八條乃至第二百七十四條ノ規定ハ典權ニ之ヲ準用ス







第三百四十八條 抵押權者ガ利息其ノ他ノ定期金ヲ請求スル權利有スルトキハ其ノ満期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其ノ抵押權ヲ行フコトヲ得但シ其ノ以前ノ定期金ニ付テモ満期後抵押權ノ登録ニ附記ヲ爲シタルトキハ其ノ登録ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨グズ

第三百四十九條 抵押權者ハ其ノ權利ノ範圍内ニ於テ抵押權ヲ以テ他ノ債權ノ抵押ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其ノ抵押權若ハ其ノ順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百五十條 抵押權者ハ其ノ債權ノ消滅ヲ受クル爲メ抵押物ヲ賣買スルコトヲ得

第三百五十一條 土地及其ノ上ニ存スル建築物ノ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ土地又ハ建築物ノミヲ抵押ト爲シタルトキハ抵押權設定者ハ賣買ノ場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ地代ハ當事者ノ請求ニ因リ法院之ヲ定ム

第三百五十二條 抵押權設定ノ後其ノ設定者ガ抵押地ニ建築物ヲ築造シタルトキハ抵押權者ハ土地ト共ニ之ヲ賣買スルコトヲ得但シ其ノ優先權ハ土地ノ賣得金ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得

第三百五十三條 抵押物ノ上ニ權利ヲ取得シタル者ガ必要費又ハ有益費ヲ支出シタルトキハ第九十六條ノ區別ニ從ヒ抵押物ノ賣得金ヲ以テ最モ先ニ償還ヲ受クルコトヲ得

第三百五十四條 債權者ガ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ不動産ノ上ニ抵押權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ賣得金ヲ配當スベキトキハ其ノ各不動産ノ價額ノ割合ニ際ジテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

第三百五十五條 第五百五十七條ニ定ムル期間ヲ超エザル貸借ハ抵押權ノ設定後ニ登録シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵押權者ニ對抗スルコトヲ得但シ其ノ貸借額ガ抵押權者ノ損害ヲ及ボストキハ抵押權者ハ法院ニ其ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第三百五十六條 抵押權ハ其ノ擔保スベキ最高金額ノミヲ定メ債權ノ確定ヲ將來ニ留保シテ之ヲ設定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ確定ニ至ル迄ノ間ニ於ケル債權ノ消滅又ハ移轉ハ抵押權ニ影響ヲ及ボスコトヲ減又ハ移轉ハ抵押權ニ影響ヲ及ボスコトヲ債權ガ利息附ナルトキハ其ノ利息ハ前項ノ最高金額中ニ之ヲ算入ス

第三百五十七條 地上權、耕種權又ハ典權ヲ抵押ト爲シタル者ハ抵押權者ノ同意アルニ非ザレバ其ノ權利ヲ消滅セシムルコトヲ得ズ

第三百五十八條 第二百五條、第三百十三條、第三百二十一條、第三百二十四條、第三百二十五條、第三百三十二條及第三百三十三條ノ規定ハ抵押權ニ之ヲ準用ス

第三百五十九條 本章ノ規定ハ法律ノ規定ニ依リテ生ジタル抵押權ニ之ヲ準用ス

第三百六十條 債權ハ金錢ニ見換ルコトヲ得ズルモノト雖モ之ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得

第三百六十一條 債權ノ目的ガ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其ノ引渡ヲ爲ス迄善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ物ヲ保存スルコトヲ要ス

第三百六十二條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其ノ品質ヲ定ムルコト能ハザルトキハ債務者ハ中略

第三百六十三條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其ノ品質ヲ定ムルコト能ハザルトキハ債務者ハ中略

第三百六十四條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ其ノ履行地ニ於ケル履行期ノ爲替相場ニ依リ滿洲國ノ通貨ヲ以テ解決ヲ爲スコトヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滞シタルトキハ債權者ハ其ノ選擇ニ依リ履行期又ハ支拂ノ日ノ爲替相場ニ從ヒ滿洲國ノ通貨ヲ以テ之ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

第三百六十五條 利息ヲ生ズベキ債權ニ付別段ノ意思表示ナキトキハ其ノ利率ハ年五分トス

第三百六十六條 利息ガ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者ガ其ノ利息ヲ支拂ハザルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ加入ルコトヲ得

第三百六十七條 債權ノ目的ガ數箇ノ給付中ニ依リテ定マルベキトキハ其ノ選擇權ハ債務者ニ屬ス

第三百六十八條 債權者又ハ債務者ガ選擇權ヲ行使スベキ場合ニ於テハ其ノ選擇ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百六十九條 選擇權ノ行使ニ付期間ノ定アル場合ニ於テ選擇權ヲ有スル當事者ガ其ノ期間内ニ之ヲ行使セザルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ選擇權ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ選擇權ヲ有スル當事者ガ其ノ期間内ニ選擇權ヲ爲サザルトキハ其ノ選擇權ハ相手方ニ屬ス

第三百七十條 第三者ガ選擇權ヲ爲スベキ場合ニ於テハ其ノ選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百七十一條 選擇權ヲ爲スベキ第三者ガ選擇權ハ債權者ニ屬ス

第三百七十二條 債權ノ目的タルベキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其ノ殘存スルモノニ付存在ス

第三百七十三條 選擇ハ債權發生ノ時ニ起リテ其ノ效力ヲ生ズ

第三百七十四條 債務ノ履行ニ付確定期限アルトキハ債務者ハ其ノ期限ノ到來シタル時ヨリ遲滞ノ責任ヲ負フ

第三百七十五條 債務者ハ左ノ場合ニ於テハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得ズ

第三百七十六條 債務者ガ任意ニ債務ノ履行ヲ爲サザルトキハ債權者ハ其ノ強制履行ヲ法院ニ請求スルコトヲ得但シ債務ノ性質ガ之ヲ許サザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百七十七條 債務者ガ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲サズ又ハ之ヲ爲スコト能ハザルトキハ債權者ハ其ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ不履行ガ債務者ノ故意又ハ過失ニ因ルモノニ非ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百七十八條 債務者ノ法定代理人ガ其ノ



債務者ノ爲ニ履行ヲ爲シ又ハ債務者ガ他人ヲ使用シテ履行ヲ爲ス場合ニ於テ債務者ハ其ノ法定代理人又ハ被用者ノ故意又ハ過失ニ付自己ノ故意又ハ過失ニ於ケルト同一ノ責任ヲ負フ

第三百七十九條 債務者ハ遲滞ニ在ル間ニ生ジタル損害ニ付テハ過失ナキコトヲ以テ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ但シ債務者ガ其ノ履行ヲ爲スベキ時ニ履行スルモ損害ノ生ズベカリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百八十條 債務者ハ履行ニ因ル損害賠償ノ請求ハ不履行ニ因リテ通常生ズベキ損害ニ付テハ爲スコトヲ得

第三百八十一條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百八十二條 債務者ハ履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ法院ハ損害賠償ノ責任及其ノ金額ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第三百八十三條 金錢債務ノ不履行ニ付テハ其ノ損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但シ約定利率ガ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

第三百八十四條 當事者ハ債務者ノ不履行ニ付損害賠償トシテ一定ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ豫メ約定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ其ノ額ヲ増減スルコトヲ得ズ

第三百九十八條 前條ノ規定ニ依リテ他ノ債權者ニ對シテモ效力ヲ生ズベキモノヲ除クノ外不可分債權者ノ一人ノ履行又ハ其ノ一人ニ付生ジタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三百九十九條 數人ガ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第四百四條乃至第四百九條及第四百一一條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百條 不可分債權又ハ不可分債務ガ可分債權又ハ可分債務ニ變ジタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債權者ハ其ノ負擔部分ニ付テノミ履行ノ責任ヲ負フ

第四百一一條 連帶債務 數人ガ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フモ其ノ一人ノ履行ニ因リテ他ノ者モ亦其ノ義務ヲ免ルベキトキハ其ノ債務ハ連帶債務トス

第四百二條 債權者ハ連帶債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若ハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三條 連帶債務者ノ一人ニ付法律行為ノ無効又ハ取消ノ原因ノ存スルトキト雖モ他ノ債務者ノ債務ハ之ガ爲ニ其ノ效力ヲ妨ゲラルコトナシ

第四百四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ボス

損害賠償ノ豫定ハ履行ノ請求又ハ契約ノ解除ヲ妨ゲズ

第三百八十五條 前條ノ規定ハ當事者ガ金錢ニ非ザルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツベキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十六條 債務者ガ損害賠償トシテ其ノ債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其ノ物又ハ權利ニ付當然債權者ニ代位ス

第三百八十七條 債權者ガ債務ノ履行ヲ受ケルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受ケルコト能ハザルトキハ其ノ債權者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責任ヲ負フ

第三百八十八條 債權者ガ遲滞ニ在ル間ハ債務者ハ故意又ハ重大ナル過失アルニ非ザレバ不履行ニ因リテ生ズル一切ノ責任ヲ負フ

第三百八十九條 利息ヲ生ズベキ債權ニ付テハ債權者ガ遲滞ニ在ル間ハ債務者ハ利息ヲ支拂フコトヲ要セズ

第三百九十條 債權者ノ遲滞ニ因リテ債務者ノ費用又ハ債務ノ目的物保管ノ費用ガ増加シタルトキハ其ノ増加額ハ債權者ノ負擔ス

第三百九十一條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其ノ債務者ニ關スル權利ヲ行フコトヲ得但シ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百九十二條 債權者ガ前條第一項ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス但シ保存行為ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權者ハ總債務者ノ利益ノ爲ニ消滅ス

第四百六條 連帶債務者ノ一人ガ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ債權者ガ利益ノ爲ニ消滅ス

第四百七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其ノ債權者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債權者ノ利益ノ爲ニモ其ノ效力ヲ生ズ

第四百八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其ノ債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債權者モ亦其ノ義務ヲ免ル

第四百九條 連帶債務者ノ一人ノ爲ニ消滅時効ガ完成シタル場合ニ於テ其ノ債權者ガ時効ノ抗辯ヲ爲シタルトキハ其ノ債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債權者モ亦其ノ義務ヲ免ル

第四百十條 連帶債務者ノ一人ニ對スル債權者ノ遲滞ハ他ノ債務者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

債務者ガ前項ノ通知ヲ受ケタル後ニ爲シタル權利ノ處分ハ之ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三百九十三條 債權者ハ債務者ガ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知りテ爲シタル法律行為ノ取消及原狀ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者ガ其ノ行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スベキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセザル法律行為ニハ之ヲ適用セズ

第三百九十四條 前條第一項ノ請求ハ訴ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ訴ハ債權者ガ取消ノ原因ヲ知りタル時ヨリ一年、行為ノ時ヨリ十年以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第三百九十五條 前二條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消及原狀ノ回復ハ總債務者ノ利益ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ズ

第三節 多數當事者ノ債權

第三百九十六條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

第二款 不可分債權及不可分債務

第三百九十七條 債權ノ目的ガ其ノ性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債務者ノ爲ニ履行ヲ請求シ又ハ債務者ハ總債權者ノ爲ニ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 連帶債務者ノ負擔部分ハ相均シキモノト推定ス

第四百十三條 連帶債務者ノ一人ガ債務ヲ負擔シ其ノ自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其ノ各自ノ負擔部分ニ付テ求償權ヲ有ス

前項ノ求償ハ辨濟其ノ他免責アリタル日以後ノ法定利息及選クルコトヲ得ザリシ費用其ノ他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

第四百十四條 連帶債務者ノ一人ガ免責又ハ他ノ債權者ニ通知スルコトヲナクシテ辨濟ヲ爲シ其ノ自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者ガ債權者ニ對抗スルコトヲ得ベキ事由ヲ有セシトキハ其ノ負擔部分ニ付テ之ヲ以テ其ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得但シ相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ之ニ因リテ消滅スベカリシ債權ハ免責行為ヲ爲シタル債務者ニ移轉ス

連帶債務者ノ一人ガ辨濟其ノ自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者ガ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其ノ他有價ニ免責ヲ得タルトキハ其ノ債務者ハ自己ノ辨濟其ノ他免責ノ行為ヲ有效ナリシモノト看做スコトヲ得



第四百十七條 保證ハ將來ノ債務ニ付テモ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十八條 保證債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其ノ他總テ其ノ債務ニ從タルモノヲ包含ス

第四百十九條 保證人ノ負擔ガ債務ノ目的又ハ體裁ニ付主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百二十條 債務者ガ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其ノ保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

- 一 行爲能力者タルコト
- 二 辨別ノ實力ヲ有スルコト
- 三 債務ノ履行地ヲ管轄スル高等法院ノ管轄區域内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト

保證人ガ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者ガ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百二十一條 債務者ガ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハザルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百二十二條 保證人ハ主タル債務者ニ別スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

主タル債務者ノ抗辯權ノ拋棄ハ保證人ニ對シテ其ノ效力ヲ有セズ

第四百二十三條 保證人ハ主タル債務者ノ債

權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百二十四條 主タル債務者ガ其ノ債權者ニ對シテ消滅權又ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ保證人ハ債權者ニ對シテ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得

第四百二十五條 保證人債權者ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ主タル債務者ニ辨別ノ實力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シテ先ヅ主タル債務者ノ財産ニ付執行ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第四百二十六條 保證人ガ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前條ニ定ムル權利ヲ有セズ

第四百二十七條 第四百二十五條ノ規定ニ依リ保證人ノ請求アリタルニ拘ラズ債權者ガ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其ノ後主タル債務者ヨリ全部ノ辨別ヲ得ザルトキハ保證人ハ債權者ガ直ニ執行ヲ爲セバ辨別ヲ得ベカリシ限度ニ於テ其ノ義務ヲ免ル

第四百二十八條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其ノ他消滅時効ノ中断ハ保證人ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

第四百二十九條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其ノ保證人ガ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキハ第三百九十六條ノ規定ヲ適用ス但シ其ノ保證人中辨別ヲ爲ス實力ナキ者アルトキハ其ノ辨別スルコト能ハザル部分ハ他ノ保證人連帶シテ其ノ辨別ノ責ニ任ズ

第四百三十條 保證人ガ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシメタルトキハ其ノ保證人ハ主タル債務者ニ對シテ請求權ヲ有ス

有ス

第四百三十一條 保證人ガ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其ノ保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ請求權ヲ行フコトヲ得

- 一 主タル債務者ガ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者ガ其ノ財團ノ配當ニ加入セザルトキ
- 二 債務ガ辨別期ニ在ルトキ但シ保證契約ノ後債權者ガ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ズ
- 三 保證人ガ過失ナクシテ債權者ニ辨別スベキ裁判ノ言渡ヲ受ケタルトキ
- 四 債務ノ辨別期ガ不確定ニシテ且其ノ最長期ヲモ確定スルコト能ハザル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百三十二條 前條ノ規定ニ依リ主タル債務者ガ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者ガ全部ノ辨別ヲ受ケザル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得シムベキ旨ヲ請求スルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ賠償ヲ爲スベキ場合ニ於テ主タル債務者ハ其ノ賠償スベキ金額ヲ供託シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得シメテ其ノ賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百三十三條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケシテ保證ヲ爲シタル者ガ債務ヲ辨別シ其ノ他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其ノ債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其ノ當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ガ自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其ノ債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其ノ受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス但シ主タル債務者ガ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ其ノ相殺ニ因リテ消滅スベカリシ債權ハ當然保證人ニ移轉ス

第四百三十四條 第四百三十四條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人ガ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨別其ノ他免責ノ爲ニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百三十四條第二項ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百三十五條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲ニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其ノ負擔部分ノミニ付求償權ヲ有ス

第四百三十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務者ガ不可分ナル爲又ハ各保證人ガ相互ニ若ハ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔セル爲一人ノ保證人ガ全額其ノ他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨別シタルトキハ第四百三十三條乃至第四百三十五條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非ズシテ保證人ノ一人ガ全額其ノ他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨別シタルトキハ第四百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第四百三十七條 債權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ其ノ性質ガ之ヲ許サザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ當事者ガ反對ノ意思ヲ表示シ

タル場合ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百三十八條 債權ノ讓渡ハ讓渡人ガ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債權者ガ之ヲ承認スルニ非ザレバ之ヲ以テ債權者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

前項ノ通知又ハ承認ハ確定日附アル證書ヲ以テ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ債權者以外ノ第三者ニ對シテ抗スルコトヲ得ズ

第四百三十九條 債務者ガ異議ヲ留メズシテ前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對シテ抗スルコトヲ得ベカリシ事由アルモノ之ヲ以テ讓受人ニ對シテ抗スルコトヲ得ズ但シ債務者ガ其ノ債務ヲ消滅セシムル爲讓受人ニ拂渡シタルモノアルトキハ其ノ返還ヲ請求シ又讓受人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セザルモノト看做スコトヲ妨ゲズ

讓渡人ガ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其ノ通知ヲ受ケル迄ニ讓渡人ニ對シテ生ジタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十二條 第三者ガ債務者トノ契約ニ依リ債務ヲ引受ケタル場合ニ於テ其ノ第三項者又ハ債務者ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ承認ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スベキ旨ヲ債權者ニ催告スルコトヲ得若シ債權者ガ其ノ期間内ニ確答ヲ發セザルトキハ承認ヲ拒絶シタルモノト看做ス

第四百四十三條 第三者ト債務者トノ契約ニ依ル債務ノ引受ハ債權者ノ承認アル迄其ノ當事者ニ於テ之ヲ撤回又ハ變更スルコトヲ得

第四百四十四條 承認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ債務ノ引受ノ成立シタル時ニ溯リテ其ノ效力ヲ生ズ但シ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ズ

第四百四十五條 引受人ハ舊債務者ニ屬セシ抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百四十六條 保證又ハ第三者ガ債權ニ付供シタル擔保ハ其ノ保證人又ハ第三者ガ債權ノ引受ニ同意シタル場合ヲ除クノ外債權ノ引受ニ因リテ消滅ス

第六節 債權ノ消滅

第一款 辨別

第四百四十七條 辨別ノ提供ハ債權ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ債權者ガ豫メ其ノ受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨別ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

第四百四十八條 辨別ノ提供ハ其ノ場合ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生ズベキ一切ノ責任ヲ免レシム

第四百四十九條 債權ノ目的ガ特定物ノ引渡



ナルトキハ債務者ハ其ノ引渡ヲ爲スベキ時ノ現狀ニテ其ノ物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百五十條 債務者ガ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル引渡ヲ爲スニ非ザレバ其ノ物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四百五十一條 債權ノ能力ナキ所有者ガ引渡シテ物ヲ引渡シタル場合ニ於テ其ノ引渡ヲ取消シタルトキハ其ノ所有者ハ更ニ有效ナル引渡ヲ爲スニ非ザレバ其ノ物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四百五十二條 前二條ノ場合ニ於テ債權者ガ引渡シテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其ノ引渡ハ有效トス但シ債權者ガ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對シテ賠償ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四百五十三條 債務者ガ債權者ノ承諾ヲ得テ其ノ引渡シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ハ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百五十四條 引渡ヲ爲スベキ場所ガ其ノ取引ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リテ定マラザル場合ニ於テハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其ノ物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債權ノ目的ガ特定物ノ引渡以外ノモノナルトキハ其ノ引渡ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ營業ニ關シ生ジタル債權ノ引渡ハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十五條 債務者ハ別段ノ意思表示ナキトキハ引渡前ノ物ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ營業ニ關シ生ジタル債權ノ引渡ハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十六條 債務ノ引渡ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ債務ノ性質ガ之ヲ許サザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百五十七條 債權ノ準占有者ニ爲シタル引渡ハ債權者ノ善意ナリシトキニ限り其ノ效力ヲ有ス

第四百五十八條 受取證書ノ持參人ニ爲シタル引渡ハ其ノ者ガ引渡受領ノ權限ヲ有セザルトキト雖モ其ノ效力ヲ有ス但シ債權者ガ其ノ權限ナキコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百五十九條 前二條ノ場合ヲ除クノ外債權者ノ權限ヲ有セザル者ニ爲シタル引渡ハ債權者ガ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ之ニ其ノ效力ヲ有ス

第四百六十條 支拂ノ禁止ヲ受ケタル債務者ガ自己ノ債權者ニ爲シタル引渡ハ之ヲ以テ差押債務者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百六十一條 引渡ノ費用ニ付別段ノ意思表示ナキトキハ其ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス但シ債權者ノ住所ヲ移轉シ他ノ行爲ニ因リテ引渡ノ費用ガ増加シタルトキハ其ノ増加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百六十二條 債權者ハ引渡受領者ニ對シテ受取證書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 債權者ハ引渡受領者ニ對シテ引渡前ノ物ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ヲ返還ヲ請求スルコトヲ得債權者ガ引渡以外ノ事由ニ因リテ全部消滅シタルトキ亦同シ

第四百六十四條 債務者ガ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數箇ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ債務トシテ提供シタル給付ガ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラザルトキハ債務者ハ給付ノ時ニ於テ其ノ引渡ヲ充當スベキ債務ヲ指定スルコトヲ得

債務者ガ前項ノ指定ヲ爲サザルトキハ債務者ハ其ノ受領ノ時ニ於テ其ノ引渡ノ充當ヲ爲スコトヲ得但シ債務者ガ其ノ充當ニ對シテ直ニ異議ヲ述べタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ場合ニ於テ引渡ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百六十五條 當事者ガ引渡ノ充當ヲ爲サザルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其ノ引渡ヲ充當ス

一 總債務中引渡期ニ在ルモノト引渡期ニ在ラザルモノトアルトキハ引渡期ニ在ルモノヲ先ニス

二 總債務ガ引渡期ニ在ルモノトキハ引渡期ニ在ラザルモノヲ先ニス

三 債務者ノ爲ニ引渡ノ利益相同ジキトキハ引渡期ノ先ツ至リタルモノノ先ツ至ルモノヲ先ニス

四 前二號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ債務ノ引渡ハ各債務ノ額ニ應ジテ之ヲ充當ス

第四百六十六條 一箇ノ債務ノ引渡トシテ數箇ノ給付ヲ爲スベキ場合ニ於テ債務者ガ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラザル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十七條 債務者ガ一箇又ハ數箇ノ債務ニ付元本ノ外利息及費用ヲ支拂フベキ場合ニ於テ引渡者ガ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラザル給付ヲ爲シタルトキハ之

ヲ以テ順次ニ費用、利息及元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百六十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十八條 債務者ノ爲ニ引渡ヲ爲シタル者ハ其ノ引渡ト同時ニ債權者ノ同意ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十九條 第四百三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十條 引渡ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ハ引渡ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第四百七十一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ベキ範圍ニ於テ債權ノ效力及擔保トシテ其ノ債權者ガ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

一 保證人ハ讓渡ノ抵押權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルニ非ザレバ其ノ抵押物ノ上ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ債權者ニ代位セズ

二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セズ

三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應ズルニ非ザレバ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セズ

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五 保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其ノ頭數ニ應ズルニ非ザレバ債權者ニ代位セズ但シ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條 前六條ノ規定ハ第三者ガ供託其ノ他ノ自己出捐ヲ以テ債務者ニ其ノ債務ヲ免レシメタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十五條 債權者ガ引渡ノ受領ヲ拒ミシテ同種ノ目的ヲ有スル數箇ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ債務トシテ提供シタル給付ガ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラザルトキハ債務者ハ給付ノ時ニ於テ其ノ引渡ヲ充當スベキ債務ヲ指定スルコトヲ得

債務者ガ前項ノ指定ヲ爲サザルトキハ債務者ハ其ノ受領ノ時ニ於テ其ノ引渡ノ充當ヲ爲スコトヲ得但シ債務者ガ其ノ充當ニ對シテ直ニ異議ヲ述べタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ場合ニ於テ引渡ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百六十五條 當事者ガ引渡ノ充當ヲ爲サザルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其ノ引渡ヲ充當ス

一 總債務中引渡期ニ在ルモノト引渡期ニ在ラザルモノトアルトキハ引渡期ニ在ルモノヲ先ニス

二 總債務ガ引渡期ニ在ルモノトキハ引渡期ニ在ラザルモノヲ先ニス

三 債務者ノ爲ニ引渡ノ利益相同ジキトキハ引渡期ノ先ツ至リタルモノノ先ツ至ルモノヲ先ニス

四 前二號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ債務ノ引渡ハ各債務ノ額ニ應ジテ之ヲ充當ス

第四百六十六條 一箇ノ債務ノ引渡トシテ數箇ノ給付ヲ爲スベキ場合ニ於テ債務者ガ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラザル給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十七條 債務者ガ一箇又ハ數箇ノ債務ニ付元本ノ外利息及費用ヲ支拂フベキ場合ニ於テ引渡者ガ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラザル給付ヲ爲シタルトキハ之

又ハ之ヲ受領スルコト能ハザルトキハ引渡者ハ債權者ノ爲ニ引渡ノ目的物ヲ供託シテ其ノ債務ヲ免ルルコトヲ得但シ債務者ノ過失ナシテ債權者ノ過失ニ因リテ能ハザルトキ亦同シ

第四百七十六條 供託ハ債權者ノ行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

供託所ニ付法合ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ法院ハ引渡者ノ請求ニ因リテ供託所ノ指定及供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス

供託者ハ選任ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百七十七條 債權者ガ供託ヲ受諾セズ又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決ガ確定セザル間ハ引渡者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ供託ヲ爲サザリシモノト看做ス

前項ノ規定ハ供託ニ因リテ債權者ハ抵押權ガ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百七十八條 引渡ノ目的物ガ供託ニ過セズ又ハ其ノ物ニ付滅失若ハ毀損ノ虞アルトキハ引渡者ハ法院ノ許可ヲ得テ之ヲ毀損シキハ代金ヲ供託スルコトヲ得其ノ物ノ保存ニ付過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百七十九條 債務者ガ債權者ノ給付ニ對シテ引渡ヲ爲スベキ場合ニ於テハ債權者ハ其ノ給付ヲ爲スニ非ザレバ供託物ヲ受取ルコトヲ得ズ

第四百八十條 二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方ノ債務ガ引渡期ニ在ルトキハ各債務者ハ其ノ對當額ニ付相殺ニ因リテ其ノ債務ヲ免ルルコトヲ得但シ債務ノ性質ガ之ヲ許サザルトキハ此ノ



限ニ在ラズ  
前項ノ規定ハ當事者ガ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セズ但シ其ノ意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百八十一條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其ノ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但シ其ノ意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ズ

前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務ガ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ適リテ其ノ效力ヲ生ズ

第四百八十二條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地ガ異ルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但シ相殺ヲ爲ス當事者ハ其ノ相手方ニ對シ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第四百八十三條 消滅時効ノ完成シタル債權ガ其ノ完成以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ債權者ハ之ヲ以テ相殺ヲ爲スコトヲ得

第四百八十四條 債務ガ不法行為ニ因リテ生ジタルモノナルトキハ其ノ債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百八十五條 債權ガ差押ヲ禁ジタルモノナルトキハ其ノ債權者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百八十六條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其ノ後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ爲スコトヲ得以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百八十七條 第四百六十四條乃至第四百六十七條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第四百八十八條 當事者ガ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

第四百八十九條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ利害ノ關係ヲ有セザル者ハ舊債權者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四百九十條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四百九十一條 第四百三十九條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第四百九十二條 更改ニ因リテ生ジタル債務ガ不法ノ原因ノ爲又ハ當事者ノ知ラザル事由ニ因リテ成立セズ又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セズ

第四百九十三條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其ノ債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵押權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但シ第三三者ガ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百九十四條 債權者ガ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其ノ債權ハ消滅ス

第四百九十五條 債權及債務ガ同一人ニ歸シタルトキハ其ノ債權ハ消滅ス但シ其ノ債權ガ第三三者ノ權利ノ目的タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七節 證券債權

第一款 指圖式ノ證券債權

第四百九十六條 指圖式ノ證券債權ノ讓渡ハ證券ニ裏書ヲ爲シ讓受人ニ交付スルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十七條 裏書ハ證券ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得裏書ニ依リテ證券債權

補ヲ讓受ケタル債務者ハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第四百九十八條 裏書ハ證券又ハ之ト結合シタル補遺ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十九條 裏書ガ前條第二項ノ白地式ノ方法ニ依リタルモノナルトキハ所持人ハ自己又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得又白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ證券ヲ裏書スルコトヲ得又白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ證券ノ交付ノミヲ以テ之ヲ第三三者ニ讓渡スルコトヲ得

第五百條 持受人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百一條 證券ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同シ

白地式裏書ニ次テ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ依リテ證券ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其ノ記載ナキモノト看做ス

第五百二條 何人ト雖モ證券ノ適法ノ所持人ニ對シテ其ノ證券ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ取得ノ當時讓渡人ニ權利ナキコトヲ知リタルトキ又ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五百三條 證券ノ債務者ハ所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ

對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ裏書スルコトヲ知リテ證券ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五百四條 辨濟ヲ爲スベキ場所ニ付證券ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若營業所ナキトキハ其ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百五條 債務者ハ辨濟ニ付期限ノ定アルトキト雖モ其ノ期限方到來シタル後所持人ガ證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲延ノ責ニ任ズ

第五百六條 債務者ハ裏書ノ連續ノ察否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名及所持人ノ裏書ヲ調査スル義務ヲ負フコトナシ但シ債務者ガ辨濟ノ當時所持人ノ權利者ニ非ザルコトヲ知リタルトキ又ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ其ノ辨濟ハ無効トス

第五百七條 債務者ハ證券ト引換ニノ辨濟ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五百八條 債務者ハ辨濟ヲ爲スニ當リ所持人ニ對シ證券ニ受取ヲ認スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

債權者ガ一部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テ債務者ノ請求アリタルトキハ債權者ハ證券上ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五百九條 所持人ノ意思ニ依ラズシテ占有ヲ離レ又ハ滅失シタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第五百十條 所持人ガ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其ノ債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其ノ證券ノ超過ニ從ヒ辨濟ヲ爲サシムルコトヲ

得

第二款 無記名式ノ證券債權

第五百十一條 無記名式ノ證券債權ノ讓渡ハ讓受人ニ其ノ證券ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第五百十二條 第五百二條乃至第五百十條ノ規定ハ無記名式ノ證券債權ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 證券ニ債權者ヲ指定シタルモノ持受人ニ辨濟スベキ旨ヲ附記シテ之ヲ發行シタルトキハ其ノ證券ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス

第五百十四條 本款ノ規定ハ債務者ガ單ニ證券ヲ持受人ニ辨濟スルコトニ因リテ其ノ責任ヲ免レントスル目的ヲ以テ發行シタル證券ニハ之ヲ適用セズ

第五百四條乃至第五百六條及第五百八條ノ規定ハ前項ノ證券ニ之ヲ準用ス

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百十五條 契約ノ申込ハ之ヲ撤回スルコトヲ得ズ

第五百十六條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ申込者ガ其ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ效力ヲ失フ

承諾ノ通知ガ前項ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其ノ期間内ニ到達スベカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ベキトキハ申込者ハ遲延ナク相手方ニ對シテ其ノ承諾ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ其ノ到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

申込者ガ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セザリシモノト看做ス

第五百十七條 承諾ノ期間ヲ定メズシテ爲シタル契約ノ申込ハ申込ヲ受ケタル者ガ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セザルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五百十八條 前二條ノ場合ニ於テ遲延シタル承諾ハ之ヲ新ナル申込ト看做ス

第五百十九條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

第五百二十條 申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセザル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムベキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十一條 承諾者ガ申込ニ條件ヲ附シ其ノ他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其ノ申込ノ拒絕ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第二款 契約ノ效力

第五百二十二條 契約ノ目的ノ下爲シタル給付ガ始ヨリ不能ナル場合ニ於テ當事者ノ一方ガ契約締結ノ當時其ノ不能ナルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシトキハ其ノ契約ヲ有效ナリト信ジタルニ因リテ損害ヲ受ケタル相手方ニ對シ其ノ賠償ノ責ニ任ズ但シ相手方ガ其ノ給付ノ不能ナルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五百二十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方ガ其ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但シ相手方ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但シ相手方ノ債務ガ辨濟期ニ在ラザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五百二十四條 雙務契約當事者ノ一方ノ債務ガ當事者雙方ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト自ハザルニ至リタ







買主が過失ニ因リテ瑕疵アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 買主が過失ニ因リテ瑕疵アルコトヲ知ラザリシトキト雖モ買主ハ其ノ知リテ告ゲザリシ瑕疵ニ付テハ前項ニ定ムル擔保ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ  
 前二項ノ規定ハ強制執行法、拍賣法其ノ他法令ノ規定ニ依リテ爲ス買主ノ場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第五百六十一條 買主ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ給付シタル目的物ニ瑕疵アリタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス  
 前項ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲サズシテ更ニ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得  
 前項ニ定ムル請求ハ買主ガ事實ヲ知リタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百六十二條 第五百二十三條ノ規定ハ第六十條及前條ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第五百六十三條 買主ハ前十四條ニ定ムル擔保ノ責任ヲ負ハザル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其ノ知リテ告ゲザリシ事實及自ラ第三者ノ爲ニ設定シタル之ヲ讓渡シタル權利ニ付テハ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ  
 第五百六十四條 債權ノ買主ガ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス  
 辦濟期ニ至ラザル債權ノ買主ガ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辦濟期ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス  
 第五百六十五條 買主ノ目的物ノ引渡ニ付期

限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス  
 第五百六十六條 買主ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ支拂フベキトキハ其ノ引渡ノ場所ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス  
 第五百六十七條 未ダ引渡サザル買主ノ目的物ガ果實ヲ生ジタルトキハ其ノ果實ハ買主ニ屬ス  
 買主ハ引渡アリタル日ヨリ代金ノ利息ヲ支拂フ義務ヲ負フ但シ代金ノ支拂ニ付期限アルトキハ其ノ期限ノ到來スル迄ハ利息ヲ支拂フコトヲ要セズ  
 第五百六十八條 買主ノ目的物ニ付權利ヲ主張スル者アリテ買主ガ其ノ買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ處アルトキハ買主ハ其ノ危險ノ限度ニ應ジテ代金ノ全部又ハ一部ヲ支拂フ拒ムコトヲ得但シ買主ガ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 前項ノ場合ニ於テ買主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得  
 第四百節 交換  
 第五百六十九條 交換ハ當事者ガ互ニ金錢ノ所有權ニ非ザル財産權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 當事者ノ一方ガ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其ノ金錢ニ付テハ買主ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第五節 消費貸借  
 第五百七十條 消費貸借ハ當事者ノ一方ガ金錢ノ他ノ代替物ノ所有權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方ガ其ノ移轉ヲ受ケタル後之ト種類、品等及數量ノ同ジキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第五百七十一條 貸主ガ目的物ノ引渡ヲ爲スベキ時迄ニ當事者ノ一方ガ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ  
 第五百七十二條 利息附ノ消費貸借ニ於テハ利息ハ借主ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタル時ヨリ、若シ借主ガ其ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リテ其ノ引渡ヲ受ケザルトキハ貸主ガ履行ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ之ヲ支拂フコトヲ要ス  
 第五百七十三條 利息附ノ消費貸借ニ於テハ目的物ノ引渡ナキ間ハ借主ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ貸主ニ生ジタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス  
 第五百七十四條 當事者ガ返還ノ時期ヲ定メザリシ場合ニ於テハ返還ノ催告ハ相當ノ期間ヲ定メテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ場合ニ於テ借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得  
 第五百七十五條 借主ガ種類、品等及數量ノ同ジキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルトキハ其ノ時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但シ第三百六十三條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第五百七十六條 消費貸借ニ因ラズシテ金錢ノ他ノ代替物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者ガ其ノ物ヲ以テ消費貸借ニ於ケル返還義務ノ目的物ト爲スコトヲ約シタルトキハ爾後本節ノ規定ニ從フ  
 第六節 使用貸借  
 第五百七十七條 使用貸借ハ當事者ノ一方ガ相手方ニ於テ無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲ス爲之ニ或物ヲ交付スルコトヲ約シ相手方ガ

其ノ使用又ハ收益ヲ爲シタル後其ノ物ヲ返還スルコトヲ約スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百七十八條 借主ハ契約又ハ其ノ目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用法ニ從ヒ其ノ物ノ使用又ハ收益ヲ爲スコトヲ要ス  
 借主ハ貸主ノ同意アルニ非ザレバ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ズ  
 借主ガ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
 第五百七十九條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス  
 借主ガ借用物ニ付通常ノ必要費以外ノ費用ヲ支出シタルトキハ貸主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但シ有益費ニ付テハ法院ハ貸主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許スルコトヲ得  
 第五百八十條 第五百四十二條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス  
 第五百八十一條 當事者ガ使用貸借ノ期間ヲ定メザリシトキハ使用貸借ハ借主ガ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用又ハ收益ヲ終リタル時ニ終了ス但シ其ノ以前ト雖モ使用又ハ收益ヲ爲スニ足ルベキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
 當事者ガ使用貸借ノ期間又ハ使用若ハ收益ノ目的ヲ定メザリシトキハ貸主ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
 第五百八十二條 借主ガ死亡シタルトキハ貸主ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
 第五百八十三條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ回復

シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得  
 第五百八十四條 數人ガ共同シテ或物ヲ借用シタルトキハ各自連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス  
 第五百八十五條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償及借主ガ支出シタル費用ノ償還ハ貸主ガ借用物ノ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス  
 第七節 質貸借  
 第五百八十六條 質貸借ハ當事者ノ一方ガ相手方ニ或物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方ガ之ニ借賃ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百八十七條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セザル者ガ質貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ質貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ  
 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ質貸借ハ十年  
 二 其ノ他ノ質貸借ハ五年  
 三 建築物ノ質貸借ハ三年  
 四 動産ノ質貸借ハ六月  
 第五百八十八條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ期間満了前土地ニ付テハ一年、建築物ニ付テハ三月、動産ニ付テハ一月以内ニ其ノ更新ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十九條 不動産ノ質借人ハ質貸人ニ對シ其ノ質貸借ノ登録ヲ爲スニ付協力スベキコトヲ請求スルコトヲ得  
 不動産ノ質貸借ハ之ヲ登録シタルトキハ爾後其ノ不動産ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百九十條 建築物ノ所有ヲ目的トスル土

地ノ質貸借ハ其ノ登録ナキモ質借人ガ其ノ土地ノ上ニ登録シタル建築物ヲ有スルトキハ爾後其ノ土地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ  
 建築物ガ土地ノ質貸借ノ期間満了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ土地ノ質借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ前項ノ物權ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 第五百九十一條 建築物ノ質貸借ハ其ノ登録ナキモ建築物ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ建築物ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ  
 第五百九十二條 質貸人ハ質貸物ノ使用又ハ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ  
 第五百九十三條 質貸人ガ質貸物ノ保存ニ必要ナル行為ヲ爲サントスルトキハ質借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ  
 質貸人ガ質借人ノ意思ニ反シテ保存行為ヲ爲サントスル場合ニ於テ之ガ爲質借人ガ質借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ質借人ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
 第五百九十四條 質借人ガ質貸物ニ付質貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ支出シタルトキハ質貸人ニ對シテ直ニ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得質借人ガ有益費ヲ支出シタルトキハ質貸人ハ質貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其ノ償還ヲ爲スコトヲ要ス但シ法院ハ質借人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許スルコトヲ得  
 第五百九十五條 質借物ノ一部ガ質借人ノ過失ニ因ラザル滅失其ノ他ノ事由ニ因リテ使用又ハ收益ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルトキハ質借人ハ其ノ使用又ハ收益ヲ爲スコト能ハザル部分ノ割合ニ應ジテ借賃ノ減額







二之ヲ準用ス但シ賃借ノ期間ニ付テハ前  
 條第二項及第三項ノ規定ニ從フ  
 第六百二十七條 第二百六十四條及第二百七  
 十九條ノ規定ハ耕作、樹木ノ栽植、採鹽又  
 ハ牧畜ノ目的トスル土地ノ賃借ニ之ヲ準  
 用ス  
 第二百六十五條ノ規定ハ樹木ノ栽植ノ目  
 のトスル土地ノ賃借ニ之ヲ準用ス  
 第六百二十八條 前八條ノ規定ニ反スル契約  
 條件ニシテ賃借人又ハ轉借人ニ不利ナルモ  
 ノハ之ヲ定メザルモノト看做ス  
 第六百二十九條 土地ノ賃借人ハ賃借關係  
 ヲリ生ズル債權ニ付賃借地ニ備附ケ又ハ其  
 ノ土地ノ利用ニ供スル賃借人所有ノ動産及  
 賃借人ノ占有ニ在ル其ノ土地ノ果實ノ上ニ  
 質權ヲ有ス  
 第六百三十條 土地ノ賃借人ハ辨濟期ニ至リ  
 タル最後ノ二年分ノ借賃ニ付賃借人ガ其ノ  
 土地ニ於テ所有スル建築物ノ上ニ抵押權ヲ  
 有ス  
 前項ノ抵押權ハ建築物ノ上ニ設定シタル抵  
 押權ニ先ツ  
 第六百三十一條 建築物ノ賃借人ハ賃借關係  
 係ヨリ生ズル債權ニ付其ノ建築物ニ備附ケ  
 タル賃借人所有ノ動産ノ上ニ質權ヲ有ス  
 第六百三十二條 第五百七十八條第一項及第  
 五百八十三條乃至第五百八十五條ノ規定ハ  
 賃借借ニ之ヲ準用ス  
 第八節 雇 傭  
 第六百三十三條 雇傭ハ當事者ノ一方ガ相手  
 方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手ガ  
 ノ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其  
 ノ效力ヲ生ズ  
 第六百三十四條 勞務者ハ其ノ約シタル勞務  
 ヲ終リタル後ニ非ザレバ報酬ヲ請求スルコ  
 トヲ得ズ  
 期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其ノ期間ノ經過  
 シタル後之ヲ請求スルコトヲ得  
 第六百三十五條 使用者ハ勞務者ノ同意アル  
 ニ非ザレバ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡スルコ  
 トヲ得ズ  
 勞務者ガ使用者ノ同意アルニ非ザレバ第三  
 者ヲシテ自己ニ代リテ勞務ニ服セシムルコ  
 トヲ得ズ  
 勞務者ガ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞  
 務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ解約ノ申  
 込ヲ爲スコトヲ得  
 第六百三十六條 雇傭ノ期間ガ五年ヲ超過シ  
 又ハ當事者ノ一方若ハ第三者ノ終身間繼續  
 スベキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シ  
 タル後何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ  
 得此ノ場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後三  
 月ヲ經過スルニ因リテ終了ス  
 第六百三十七條 當事者ガ雇傭ノ期間ヲ定メ  
 ザリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ  
 申入ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ雇傭  
 ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過スルニ因リテ  
 終了ス  
 期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解  
 約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコト  
 ヲ得  
 前項ノ申入ハ當期ノ前中ニ於テ之ヲ爲スコ  
 トヲ要ス但シ六月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ  
 定メタル場合ニ於テハ其ノ申入ハ三月以前  
 ニ之ヲ爲スコトヲ以テ足ル  
 第六百三十八條 當事者ガ雇傭ノ期間ヲ定メ  
 タルトキト雖モ已ムテ得ザル事由アルトキ  
 ハ各當事者ハ直ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ  
 得但シ其事由ガ當事者ノ一方ノ過失ニ因  
 リテ生ジタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠  
 償ノ責任ヲ負フ  
 第六百三十九條 雇傭ノ期間満了ノ後勞務者  
 ガ引續キ其ノ勞務ニ服スル場合ニ於テ使用  
 者ガ遲滞ナク異議ヲ述べザルトキハ前雇傭  
 ヲ爲シタルモノト推定ス但シ各當事者ハ第  
 六百三十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申込ヲ  
 爲スコトヲ得  
 前雇傭ニ付當事者ガ擔保ヲ供シタルトキハ  
 其ノ擔保ハ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但シ  
 身元保證金ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第六百四十條 使用者ガ破産ノ宣告ヲ受ケタ  
 ルトキハ雇傭ノ期間ノ定アルトキト雖モ勞  
 務者又ハ破産管財人ハ第六百三十七條ノ規  
 定ニ依リテ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得此ノ  
 場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解  
 約ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコ  
 トヲ得ズ  
 第九節 請 買  
 第六百四十一條 請買ハ當事者ノ一方ガ或仕  
 事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方ガ其ノ仕  
 事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約  
 スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第六百四十二條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡  
 ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但シ物ノ引  
 渡ヲ要セザルトキハ第六百三十四條第一項  
 ノ規定ヲ準用ス  
 第六百四十三條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルト  
 キハ注文者ハ請買人ニ對シ相當ノ期限ヲ定  
 メテ其ノ瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但シ  
 瑕疵ガ重要ナラザル場合ニ於テ其ノ修補ガ  
 過分ノ費用ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其ノ修補ト  
 得但シ其事由ガ當事者ノ一方ノ過失ニ因  
 リテ生ジタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠  
 償ノ責任ヲ負フ  
 第六百四十四條 請買ノ期間満了ノ後勞務者  
 ガ引續キ其ノ勞務ニ服スル場合ニ於テ使用  
 者ガ遲滞ナク異議ヲ述べザルトキハ前雇傭  
 ヲ爲シタルモノト推定ス但シ各當事者ハ第  
 六百三十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申込ヲ  
 爲スコトヲ得  
 前雇傭ニ付當事者ガ擔保ヲ供シタルトキハ  
 其ノ擔保ハ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但シ  
 身元保證金ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第六百四十條 使用者ガ破産ノ宣告ヲ受ケタ  
 ルトキハ雇傭ノ期間ノ定アルトキト雖モ勞  
 務者又ハ破産管財人ハ第六百三十七條ノ規  
 定ニ依リテ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得此ノ  
 場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シテ解  
 約ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコ  
 トヲ得ズ

共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場  
 合ニ於テハ第五百二十三條ノ規定ヲ準用ス  
 第六百四十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ  
 之ガ爲ニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト  
 ヲ能ハザルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲  
 スコトヲ得但シ建築物其ノ他土地ノ工作物  
 ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 第六百四十五條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的  
 物ノ瑕疵ガ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質  
 又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生ジタ  
 ルトキハ之ヲ適用セズ但シ請買人ガ其ノ材  
 料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ  
 告ゲザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第六百四十六條 前三條ニ定ムル瑕疵修補又  
 ハ損害賠償ノ請求及契約ノ解除ハ仕事ノ目  
 的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ爲  
 スコトヲ要ス  
 仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セザル場合ニ於テ  
 ハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算  
 ス  
 第六百四十七條 土地ノ工作物ノ請買人ハ其  
 ノ工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後  
 五年間其ノ擔保ノ責任ヲ負フ但シ此ノ期間ハ  
 石造、混凝土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作  
 物ニ付テハ之ヲ十年トス  
 工作物ガ前項瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シ  
 タルトキハ注文者ハ其ノ滅失又ハ毀損ノ時  
 ヲ一年以内ニ第六百四十三條ノ權利ヲ行  
 使スルコトヲ要ス  
 第六百四十八條 第六百四十六條及前條第一  
 項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限リ契約ヲ  
 以テ之ヲ伸長スルコトヲ得  
 第六百四十九條 請買人ハ第六百四十三條及  
 第六百四十四條ニ定ムル擔保ノ責任ヲ負ハ  
 ザル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其ノ知リテ  
 告ゲザリシ事實ニ付テハ其ノ責ヲ免ルルコ  
 トヲ得ズ  
 第六百五十條 請買人ガ仕事ヲ完成セザル間  
 ハ注文者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコ  
 トヲ得但シ之ニ因リテ請買人ニ生ジタル損  
 害ノ賠償スルコトヲ要ス  
 第六百五十一條 注文者ガ破産ノ宣告ヲ受ケ  
 タルトキハ請買人又ハ破産管財人ハ契約ノ  
 解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ請買  
 人ハ其ノ既ニ爲シタル仕事ノ報酬及其ノ報  
 酬中ニ包含セザル費用ニ付財團ノ配當ニ加  
 入スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對  
 シ解約ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求  
 スルコトヲ得ズ  
 第六百五十二條 不動産工事ノ請買人ハ其ノ  
 報酬ニ付其ノ不動産ノ上ニ抵押權ヲ有ス  
 前項ノ抵押權ハ登録ヲ爲スニ因リテ其ノ効  
 力ヲ生ズ此ノ登録ハ工事ヲ始ムル前ト雖モ  
 之ヲ爲スコトヲ得  
 第十節 懸賞廣告  
 第六百五十三條 懸賞廣告ハ廣告者ガ或行爲  
 ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フルコトヲ  
 約シ懸賞者ガ其ノ廣告ニ定メタル行爲ヲ完  
 了スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第六百五十四條 廣告者ハ其ノ指定シタル行  
 爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ  
 方法ニ依リテ其ノ廣告ヲ撤回スルコトヲ得  
 但シ其ノ廣告中ニ撤回ヲ爲サザル旨ヲ表示  
 シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 前項ニ定ムル方法ニ依リテ撤回ヲ爲スコト  
 能ハザル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依リテ之  
 ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ撤回ハ之ヲ知リタ  
 ル者ニ對シテ之ニ其ノ效力ヲ有ス  
 廣告者ガ其ノ指定シタル行爲ヲ爲スベキ期  
 間ヲ定メタルトキハ其ノ撤回權ヲ喪失シタ  
 ルモノト推定ス  
 第六百五十五條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シ  
 タル者數人アルトキハ最初ニ其ノ行爲ヲ爲  
 シタル者ノミ報酬ヲ受ケル權利ヲ有ス  
 廣告ニ定メタル行爲ヲ數人が同時ニ爲シタ  
 ル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ  
 受ケル權利ヲ有ス但シ報酬ガ其ノ性質上分  
 割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於テ一人ノミ  
 之ヲ受ケベキモノト爲シタルトキハ抽籤ヲ  
 以テ之ヲ受ケベキ者ヲ定ム  
 第六百五十六條 前三條ノ規定ハ廣告ヲ知ラ  
 ザシテ廣告ニ定メタル行爲ヲ完了シタル者  
 アル場合ニ之ヲ準用ス  
 第六百五十七條 廣告ニ定メタル者數人アル  
 場合ニ於テ其ノ優等者ノミ報酬ヲ與フルベ  
 キトキハ其ノ廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタル  
 トキニ限リ其ノ效力ヲ有ス  
 前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲ガ優  
 等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ制定ス  
 若廣告中ニ判定者ヲ定メザリシトキハ廣告  
 者之ヲ判定ス  
 應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述ブル  
 コトヲ得ズ  
 數人ノ行爲ガ同等ト判定セラレタルトキハ  
 第六百五十五條第二項ノ規定ヲ準用ス  
 第十一節 委任  
 第六百五十八條 委任ハ當事者ノ一方ガ或事  
 務ヲ處理スルコトヲ相手方ニ委託シ相手方  
 ガ之ヲ承諾スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第六百五十九條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ



善良ナル管理ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處  
理スル義務ヲ負フ  
第六百六十條 委任者ハ委任者ノ許諾ヲ得テ  
受任者ヲ選任シ得ルコトヲ得ル事由アルトキ  
ニ非ズレバ第三者ヲシテ自己ニ代リテ委任  
事務ヲ處理セシムルコトヲ得ズ  
受任者ガ第三者ヲシテ委任事務ヲ處理セシ  
ムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第六百十七條及  
第六百十九條第二項ノ規定ヲ準用ス  
第六百六十一條 委任者ハ委任者ノ請求アル  
トキハ何時ニモ委任事務處理ノ狀況ヲ報  
告シ又ハ委任終了ノ後ハ還附ナク其ノ願末  
ヲ報告スルコトヲ要ス  
第六百六十二條 委任者ハ委任事務ヲ處理ス  
ルニ當リテ受任者タル金銀其ノ他ノ物ヲ委  
任者ニ引渡スコトヲ要ス其ノ收取シタル果  
實亦同シ  
委任者ガ委任者ノ自己ノ名ヲ以テ取得  
シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ  
要ス  
第六百六十三條 委任者ガ委任者ニ引渡スベ  
キ金額又ハ其ノ利益ノ爲ニ用フベキ金額ヲ  
自己ノ爲ニ消費シタルトキハ其ノ消費シタ  
ル日以後ノ利息ヲ支拂フコトヲ要ス尙損  
アリタルトキハ其ノ賠償ノ責ニ任ズ  
第六百六十四條 委任者ハ特約アルニ非ズレ  
バ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得  
ズ  
受任者ガ報酬ヲ受クベキ場合ニ於テハ委任  
履行ノ後ニ非ズレバ之ヲ請求スルコトヲ得  
ズ但シ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第  
六百三十四條第二項ノ規定ヲ準用ス  
委任者ガ委任者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ  
因リテ其ノ履行ノ中途ニ於テ終了シタルト  
キハ受任者ハ其ノ既ニ爲シタル履行ノ割合  
ニ應ジテ報酬ヲ請求スルコトヲ得  
第六百六十五條 委任事務ヲ處理スルニ付費  
用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ  
因リテ其ノ前拂ヲ爲スコトヲ要ス  
第六百六十六條 委任者ガ委任事務ヲ處理ス  
ルニ必要ト認ムベキ費用ヲ支出シタルトキ  
ハ委任者ニ對シテ其ノ費用及支出ノ日以後  
ニ於ケル其ノ利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ  
得  
委任者ガ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ム  
ベキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ  
自己ニ代リテ其ノ辨濟ヲ爲サシメ又ハ其ノ  
債務ガ辨濟期ニ在ラザルトキハ相當ノ擔保  
ヲ供セシムルコトヲ得  
受任者ガ委任事務ヲ處理スル爲自己ニ過失  
ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對  
シテ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得  
第六百六十七條 委任ハ各當事者ニ於テ何時  
ニテモ其ノ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得  
當事者ノ一方ガ相手方ニ不利ナル時期ニ於  
テ解約ノ申入ヲ爲シタルトキハ其ノ損害ヲ  
賠償スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル  
事由アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第六百六十八條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ  
死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者ガ禁治  
産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ  
第六百六十九條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫  
ノ事情アルトキハ受任者其ノ相續人又ハ法  
定代理人ハ委任者、其ノ相續人又ハ法定代  
理人ガ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至  
ル迄其ノ事務ノ處理ヲ繼續スルコトヲ要ス  
此ノ場合ニ於テハ委任ハ尙存續スルモノト  
看做ス

第六百七十條 委任終了ノ事由ハ其ノ委任者  
ニ出デタルト受任者ニ出デタルトヲ問ハズ  
之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方ガ之ヲ知リ  
タルトキニ非ズレバ之ヲ以テ其ノ相手方ニ  
對抗スルコトヲ得ズ  
第十二節 寄託  
第六百七十一條 寄託ハ當事者ノ一方ガ金銀  
其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ保管ヲ爲スコト  
ヲ相手方ニ委託シ相手方ガ之ヲ承諾スルニ  
因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
第六百七十二條 受寄者ハ寄託者ノ同意アル  
ニ非ズレバ受寄物ヲ使用スルコトヲ得ズ  
第六百七十三條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル  
者ハ受寄物ノ保管ニ付自己ノ財産ニ於ケル  
同一ノ注意ヲ爲ス責任ニ任ズ  
第六百七十四條 寄託物ニ付權利ヲ主張スル  
第三者ガ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差  
押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ還附ナク其ノ  
事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス  
第六百七十五條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ  
取崩ヨリ生ジタル損害ヲ受寄者ニ賠償スル  
コトヲ要ス但シ寄託者ガ過失ナクシテ其ノ  
性質若ハ取崩ヨリ知ラザリシトキ又ハ受寄者  
ガ之ヲ知リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第六百七十六條 當事者ガ寄託ノ期間ヲ定メ  
タルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ解約ノ  
申入ヲ爲スコトヲ得  
第六百七十七條 當事者ガ寄託ノ期間ヲ定メ  
ザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ解約ノ申  
入ヲ爲スコトヲ得  
期間ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得  
ザル事由アルニ非ズレバ期間満了前ニ解約  
ノ申入ヲ爲スコトヲ得ズ  
第六百七十八條 寄託物ノ返還ハ其ノ保管ヲ

爲スベキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但  
シ受寄者ガ正當ノ事由ニ因リテ其ノ物ヲ轉  
讓シタルトキハ其ノ現在ノ場所ニ於テ之ヲ  
返還スルコトヲ得  
第六百七十九條 旅店、飲食店、浴場其ノ他  
客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ガ客ヨリ  
寄託ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ受寄物ガ滅  
失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ其ノ  
滅失又ハ毀損ガ不可抗力ニ因リタルコトヲ  
證明スルニ非ズレバ損害賠償ノ責ヲ免ル  
コトヲ得ズ  
客ガ特ニ寄託セザル物ト雖モ場屋中ニ携帶  
シタル物ガ場屋ノ主人又ハ其ノ使用人ノ過  
失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋  
ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ズ  
客ノ携帶物ニ付責任ヲ負ハザル旨ヲ告示シ  
タルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任  
ヲ免ルルコトヲ得ズ  
第六百八十條 金銀、有價證券其ノ他ノ高價  
物ニ付テハ客ガ其ノ種類及價額ヲ明示シテ  
之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非ズ  
レバ其ノ場屋ノ主人ハ其ノ物ノ滅失又ハ毀  
損ニ因リテ生ジタル損害賠償ノ責ニ任  
ゼズ  
第六百八十一條 前二條ニ定ムル損害賠償ノ  
請求ハ場屋ノ主人ガ受寄物ヲ返還シ又ハ客  
ガ携帶物ヲ持去リタル時ヨリ一年以内ニ之  
ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ期間ハ物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ  
客ガ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス  
前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ガ故意又ハ重大  
ナル過失ニ因リテ損害ヲ生ゼシメタル場合  
ニハ之ヲ適用セズ  
第六百八十二條 旅店、飲食店、浴場其ノ他

客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ其ノ場  
屋ノ取引ニ因リテ生ジタル債權ニ付客ガ其  
ノ場屋中ニ携帶シタル物ノ上ニ質權ヲ有ス  
第六百八十三條 第六百六十條、第六百六十  
二條乃至第六百六十五條及第六百六十六條  
第一項第二項ノ規定ハ寄託ニ依リ受寄物  
ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸  
借ニ關スル規定ヲ準用ス但シ契約ニ返還ノ  
時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテ  
モ返還ヲ請求スルコトヲ得  
第十三節 組合  
第六百八十五條 組合契約ハ各當事者ガ出資  
ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ  
因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
出資ハ義務ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得  
第六百八十六條 組合員ノ出資其ノ他ノ組合  
財產ハ總組合員ノ共有ニ屬ス  
第六百八十七條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲  
シタル場合ニ於テ組合員ガ其ノ出資ヲ爲ス  
コトヲ怠リタルトキハ其ノ利息ヲ支拂フ外  
尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス  
第六百八十八條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ  
過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
組合契約ヲ以テ業務ヲ執行ヲ委任シタル者  
數人アルトキハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決  
ス  
組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ各組合  
員又ハ各業務執行者ノ專行スルコトヲ得  
但シ其ノ終了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行  
者ガ異議ヲ述べタルトキハ此ノ限ニ在ラ  
ズ  
第六百八十九條 組合ノ業務ヲ執行スル組合  
員ニハ第六百五十九條乃至第六百六十六條

ノ規定ヲ準用ス  
第六百九十條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人  
ノ組合員ニ業務ヲ執行ヲ委任シタルトキハ  
其ノ組合員ハ正當ノ事由アルニ非ズレバ辭  
任ヲ爲スコトヲ得ズ又辭任セラルルコトヲ  
解任ニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要  
ス  
第六百九十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合  
員ハ其ノ業務ノ執行ニ付代理權ヲ有スルモ  
ノト推定ス  
第六百九十二條 組合員ハ組合ノ業務ヲ執行  
スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其ノ業務及  
組合財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得  
第六百九十三條 當事者ガ損益分配ノ割合ヲ  
定メザリシトキハ其ノ割合ハ各組合員ノ出  
資ノ額ニ應ジテ之ヲ定ム  
利益又ハ損失ニ付テノ分配ノ割合ヲ定メ  
タルトキハ其ノ割合ハ利益及損失ニ共通ナ  
ルモノト推定ス  
第六百九十四條 組合ノ債權者ハ其ノ債權發  
生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザ  
リシトキハ各組合員ニ對シテ均一部分ニ付其  
ノ權利ヲ行フコトヲ得  
第六百九十五條 組合員中ニ辨濟ヲ爲ス實力  
ナキ者アルトキハ其ノ辨濟スルコト能ハザ  
ル部分ハ他ノ組合員連帶シテ其ノ辨濟ノ責  
ニ任ズ  
第六百九十六條 組合員ガ組合財產ニ付有ス  
ル持分ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ  
組合員ハ清算前ニ組合財產ノ分割ヲ求ムル  
コトヲ得ズ  
第六百九十七條 組合ノ債務者ハ其ノ債務ト  
組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得







相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 使用者ニ代リテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ズ  
 前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨グズ  
 第七百三十八條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ノ損害ヲ生ジタルトキハ其ノ工作物ノ占有者ハ被用者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ズ但シ占有者ガ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其ノ損害ハ所有者ノ賠償スルコトヲ要ス  
 前項ノ規定ハ樹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス  
 前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付テ其ノ責ニ任ズベキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得  
 第七百三十九條 動物ノ占有者ハ其ノ動物ガ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ但シ動物ノ種類及性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其ノ保管ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第七百四十條 數人ガ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶シテ其ノ賠償ノ責ニ任ズ共同行爲者中ノ孰レガ其ノ損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハザルトキ亦同ジ  
 教唆者及幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス  
 第七百四十一條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲ムコトヲ得ズシテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任ズ但シ被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ  
 前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生ジタル急迫ノ危難ヲ避クル爲其ノ物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第七百四十二條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做ス  
 第七百四十三條 第三百八十八條乃至第三百八十二條及第三百八十六條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス  
 第七百四十四條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ法院ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命ズルコトヲ得  
 第七百四十五條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其ノ法定代理人ガ損害及加害者ヲ知りタル時ヨリ三年間之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同ジ  
 附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 (康徳四年十一月勅令第三五〇號)  
 (ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○民法總則編施行法

ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ  
 第二條 外國人ハ法律又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除クノ外權利能力ヲ有ス  
 第三條 民法總則編施行前ニ精神耗弱ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其ノ施行ノ日ヨリ禁治產者ト看做ス  
 第四條 未成年者ニ父母ナキトキ又ハ父母共ニ未成年ノ子女ニ對シ法定代理人タル職務ヲ行フコト能ハザルトキハ未成年者ガ既ニ結婚シタル場合ト雖モ後見人ヲ附スルコトヲ要ス  
 第五條 禁治產者ニハ後見人ヲ附スルコトヲ要ス  
 禁治產者ノ後見ニ關スル規定ハ準禁治產者ノ後見ニ之ヲ準用ス  
 第六條 無能力者ノ法定代理人ハ無能力者ニ代リテ財產ニ關スル一切ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ得但シ無能力者ノ行爲ノ目的トスル債務ヲ生ズベキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
 後見人ガ被後見人ニ代リテ營業ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
 第七條 從前ノ規定ニ依リ死亡ノ宣告ヲ受ケタル者ハ民法總則編施行ノ日ヨリ民法總則編ノ規定ニ依リ失踪ノ宣告ヲ受ケタル失蹤者ト看做ス  
 第八條 從前ノ規定ニ依リテ成立シタル法人ハ民法總則編ノ規定ニ依リテ成立シタル法人ト看做ス  
 民法總則編施行前ニ法人設立ノ許可ヲ得タルモノ其ノ施行ノ當時未ダ設立ノ登記ヲ完了セザル社團又ハ財團ニ付テハ民法第四十六條第一項ノ期間ハ民法總則編施行ノ日ヨリ

之ヲ起算ス  
 第九條 前條第一項ノ法人ガ未ダ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘザルトキハ民法總則編施行ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ作ルコトヲ要ス  
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ理事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス  
 第十條 從前ノ規定ニ依リテ成立シタル法人ニシテ民法總則編施行前未ダ民法第四十六條第三項、第四十七條第一項、第四十八條第一項及第四十九條ノ登記ヲ爲サザルモノニ付テハ其ノ登記ノ期間ハ民法總則編施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
 第十一條 民法總則編施行前ニ社員ヨリ總會招集ノ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ社員ノ數ハ總社員ノ十分ノ一以上ナルヲ以テ足ル  
 前項ノ場合ニ於テハ民法第六十七條第二項ノ期間ハ民法總則編施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
 第十二條 民法總則編施行前ニ社員ガ法院ニ對シ爲シタル總會ノ決議無効ノ宣告ノ請求ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十三條 法人ガ民法總則編施行前ニ解散シタル場合ニ於テハ其ノ清算手續ハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 前項ノ場合ニ於テ清算終了シタルトキハ清算人ハ民法第九十一條ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ清算人ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス  
 第十四條 民法第九十四條ノ規定ハ民法總則編施行前ニ生ジタル事項ニハ之ヲ適用セズ

民法總則編施行前ニ法人ニ付從前ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ其ノ施行後ト雖モ其ノ罰則ヲ適用ス民法總則編施行後ニ於テモ從前ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキ亦同ジ  
 第十五條 民法總則編施行前ニ發生シタル取除アル意思表示ノ取消權ヲ行使シ得ベキ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十六條 民法總則編施行前ニ進行ヲ始メタル消滅時効ノ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十七條 民法總則編施行前ニ爲サレタル訴訟ノ告知ニ因ル消滅時効ノ中斷ノ效力ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十八條 民法總則編ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム  
 附則  
 本法ハ民法總則編施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 (康徳四年十二月一日)

○民法物權編施行法

民法總則編施行前ニ法人ニ付從前ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ其ノ施行後ト雖モ其ノ罰則ヲ適用ス民法總則編施行後ニ於テモ從前ノ規定ニ依ルベキ場合ニ於テ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキ亦同ジ  
 第十五條 民法總則編施行前ニ發生シタル取除アル意思表示ノ取消權ヲ行使シ得ベキ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十六條 民法總則編施行前ニ進行ヲ始メタル消滅時効ノ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十七條 民法總則編施行前ニ爲サレタル訴訟ノ告知ニ因ル消滅時効ノ中斷ノ效力ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第十八條 民法總則編ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム  
 附則  
 本法ハ民法總則編施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 (康徳四年十二月一日)







因リテ終了ス  
 民法債權編施行前ニ建築物ノ他ノ工作物ノ所有ヲ目的トシテ成立シタル土地ノ質貸ニ付當事者ガ期間ヲ定メザリシ場合ニ於テ既ニ堅固ナル建築物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付三十年、堅固ナラザル建築物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付十五年、建築物以外ノ工作物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付五年以上ノ期間ヲ定メタル場合ニ付五ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年、堅固ナラザル建築物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ十五年、建築物以外ノ工作物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ五年毎ニ契約ヲ更新シタルモノト看做ス

民法債權編施行前ニ建築物ノ他ノ工作物ノ所有ヲ目的トシテ成立シタル土地ノ質貸ニシテ當事者ガ堅固ナル建築物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付三十年、堅固ナラザル建築物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付十五年、建築物以外ノ工作物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付五年以上ノ期間ヲ定メタル場合ニ於テハ質貸借ハ其ノ期間ヲ滿了ニ因リテ終了ス

第一項ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲メ土地ノ質貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三十二條 民法第六百二十條乃至第六百二十六條ノ規定ハ民法債權編施行前ニ成立シタル質貸借ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ質貸借ガ期間ヲ滿了又ハ解約ノ申入ニ因リテ終了シタル後民法第六百八條第一項ノ條件ヲ具備スル爲メ更ニ質貸借ヲ爲シタルモノト看做サルル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル

ルモノト看做サルル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ新質貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 民法債權編施行前ニ耕作地ト共ニ農具、家畜其ノ他ノ附屬物ヲ質貸シタル場合ニ於テ質貸人及質借人ノ負擔スベキ責任ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三十四條 民法債權編施行前ニ質借人ガ死亡シタルトキハ質貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ其ノ相続人ハ仍從前ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 民法債權編施行前ニ使用借貸又ハ質貸借ガ終了シタル場合ニ於テ契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償及借主ガ支出シタル費用ノ償還ヲ請求シ得ベキ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三十六條 民法債權編施行前ニ爲シタル請負ノ請負人ノ擔保責任ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三十七條 民法債權編施行前ニ受任者ガ概括委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三十八條 民法第六百七十九條乃至第六百八十一條ノ規定ハ民法債權編施行前ニ民法第六百七十九條第一項ニ定ムル場屋ニ於テ客ノ物品ガ滅失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

民法債權編施行前ニ旅店其ノ他客ノ宿泊ニ供スル場屋ノ目的トスル場屋又ハ飲食店若ハ浴場ニ於テ客ノ物品ガ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テ客ノ責任ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三十九條 混合ガ民法債權編施行前ニ解散シタル場合ニ於テハ其ノ清算手續ハ仍從前

ノ規定ニ依ル

第四十條 民法第七百三十六條第二項ノ規定ハ無能力者ヲ監督スベキ法定ノ義務アル者ニ代リテ無能力者ヲ監督スル者アル場合ニ於テ其ノ無能力者ガ民法債權編施行前ニ遺法ニ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキニハ之ヲ適用セズ

第四十一條 民法第七百三十七條第二項ノ規定ハ或事業ノ爲メ他人ヲ使用スル者ニ代リテ事業ヲ監督スル者アル場合ニ於テ被用者ガ民法債權編施行前ニ其ノ事業ノ執行ニ付第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキニハ之ヲ適用セズ

第四十二條 民法債權編施行前ニ土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ限アルニ因リテ他人ノ損害ヲ生ジタル場合ニ於テハ其ノ損害ノ賠償ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第四十三條 民法債權編施行前ニ進行ヲ始メタル不法行為ニ因リ損害賠償請求權ノ消滅時効ノ期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則  
 本法ハ民法債權編施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 (康德四年十二月一日)

### ○商人通法

(康德四年六月二十四日)  
 (勅令第一三一號)

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ商人通法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 (國務總理、司法部長大臣)

商人通法目次

第一章 總則

第二章 商業登記

第三章 商號

第四章 商業帳簿

第五章 營業讓渡

第六章 商業代理及商業使用人

第七章 代理商

第八章 仲立人

第九章 問屋

第十章 匿名組合

第十一章 商人ノ行為ニ關スル特別附則

商人通法

第一章 總則

第一條 商人トハ左ニ掲グル行為ヲ營業トスル者ヲ謂フ但シ專ラ資金ヲ得ル目的ヲ以テ物ノ製造加工ヲ爲シ又ハ勞務ニ服スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 動産、不動産其ノ他ノ財産ノ有價取得及之ニ製造加工ヲ施スト否トヲ問ハズ其ノ財産ノ有價讓渡

二 動産、不動産其ノ他ノ財産ノ有價取得又ハ質借及其ノ財産ノ質貸

三 他人ノ爲ニスル製造又ハ加工

四 電氣、瓦斯ノ供給又ハ水道ニ依ル水ノ供給

五 運送又ハ曳船ノ引受

六 作業又ハ勞務ノ請負

七 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行為

八 通報ニ關スル行為

九 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

十 兩替其ノ他ノ銀行取引

十一 金銀又ハ有價證券ノ貸付

十二 無盡

十三 寄託ノ引受

十四 仲立

十五 取次

十六 代理ノ引受

十七 信託ノ引受

十八 店舖其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スル者及會社ハ前條各號ノ行為ヲ爲スル者トセザルモ之ヲ商人ト看做ス營業ヲ營ム者亦同ジ

第十九條 未成年者ガ前二條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス法定代理人ガ親族會ノ同意ヲ得テ未成年者、準禁治產者又ハ禁治產者ノ爲ニ前二條ノ營業ヲ爲ストキ亦前項ニ同ジ

第二十條 前項ノ場合ニ於テハ法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十一條 本法中商業登記、商號、商業帳簿及支配人ニ關スル規定ハ小商人ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 商業登記

第五條 本法又ハ會社法ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ノ登記ハ法院ニ於テ之ヲ爲ス

第六條 本店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ハ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七條 登記シタル事項ニ變更ヲ生ジ又ハ其ノ事項ガ消滅シタルトキハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 登記官更ハ登記申請ニ係ル事實ノ存否ヲ調査スルコトヲ得

第九條 登記シタル事項ハ法院ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ガ登記ト相違スルトキハ公告ナカリシモノトス

第十條 登記スベキ事項ハ登記及公告ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ登記及公告ノ後ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ

第十一條 支店ニ於テシタル取引ニ付テハ登記及公告ノ有無ハ其ノ支店所在地ニ於ケル登記及公告ヲ以テ之ヲ決定ス

第十二條 故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不實ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三章 商號

第十三條 商人ハ氏、氏名其ノ他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十四條 會社ノ商號中ニハ其ノ種類ニ從ヒ株式會社、合名會社又ハ合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第十五條 會社ニ非ズシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同ジ



前項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十五條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ其ノ登記後同特別市、同市、同縣又ハ同旗ニ於テ同一ノ營業ヲ爲同一又ハ類似ノ商號ヲ登記シタル者ニ對シテ其ノ登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ營業ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得

第十七條 何人ト雖モ不正ノ目的ヲ以テ他人ノ營業ナリト誤認セシムベキ商號ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十八條 不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ登記シタル他人ノ商號ト同一又ハ類似ノ商號ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス前條第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同シ

第十九條 自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ他人ニ許諾シタル者ハ自己ヲ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲シタル者ニ對シテ其ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付其ノ他人ト連帯シテ債務ノ責任ヲ負フ

第二十條 商號ハ營業ト共ニスル場合又ハ營業ヲ廢止スル場合ニ限りテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

商號ノ讓渡ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ズレバ之ヲ第三者ニ對スルコトヲ得ズ

第二十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ正當ノ事由ナクシテ二年間其ノ商號ヲ使用セザルトキハ商號ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十二條 商號ノ廢止又ハ變更アリタル場合ニ於テ其ノ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲サザルトキハ利害關係人ハ其ノ登記ノ抹消ヲ法院ニ請求スルコトヲ得

第四章 商業帳簿

第二十三條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引其ノ他財產ニ影響ヲ及ボスベキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但シ家事費用ハ一月毎ニ其ノ總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十四條 商人ハ開業ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ財產、不動產、債權、債務其ノ他ノ財產ノ總目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 商人ハ成立ノ時及毎決算期ニ前項會社ニ在リテハ成立ノ時及毎決算期ニ前項ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス

第二十六條 貸借對照表ハ之ヲ編纂シ又ハ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 貸借對照表ニハ作成者之ニ署名スルコトヲ要ス

第二十八條 財產目録ニハ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財產目録ヲ編纂スベキ時ニ於ケル價格ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十九條 商人ハ前項ノ規定ニ拘

ラス其ノ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得

第二十六條 商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關スル重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ最後ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五章 營業讓渡

第二十七條 營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ガ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同特別市、同市、同縣又ハ同旗ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

讓渡人ガ同一ノ營業ヲ爲サザル特別市、同市、同縣又ハ同旗且三十年ヲ超エザル範圍ニ於テ之ヲ其ノ效力ヲ有ス

讓渡人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十八條 營業ヲ讓渡人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓渡スル場合ニ於テハ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓渡人モ亦其ノ責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ營業ヲ讓渡後連帶ナク讓渡人ガ讓渡人ノ債務ニ付實ニ任ゼザル旨ヲ登記シタル場合ニハ之ヲ適用セズ營業ヲ讓渡後連帶ナク讓渡人及讓渡人ヨリ第三者ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル第三者ニ付亦同シ

第二十九條 營業ヲ讓渡人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓渡スル場合ニ於テ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付讓渡人ニ爲シタル債務ハ讓渡人ガ讓渡人ニシテ且重大ナル過失ナカリシトキニ限り其ノ效力ヲ有ス

第三十條 營業ヲ讓渡人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓

用セザル場合ニ於テモ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ヲ引受クル旨ヲ廣告シタルトキハ債權者ハ其ノ讓渡人ニ對シテ債務ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 營業ヲ讓渡人ガ第二十八條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ讓渡人ノ債務ニ付實ニ任ズル場合ニ於テハ讓渡人ノ責任ハ營業ノ讓渡又ハ前條ノ廣告ノ後二年以内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル債權者ニ對シテハ二年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第六章 商業代理及商業使用人

第三十二條 商人ハ支配人ヲ選任シ本店又ハ支店ニ於テ其ノ營業ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十三條 支配人ハ營業主ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ他ノ支配人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得ズ

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對スルコトヲ得ズ

第三十四條 商人ハ數人ノ支配人ガ共同シテ代理權ヲ行使スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ營業主ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ

第三十五條 支配人ノ選任ハ之ヲ罷キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定ムル事項亦同シ

第三十六條 本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル者ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スルモノト看做ス但シ裁判上ノ行為ニ付

テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ相手方ガ同意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ

第三十七條 商人ノ營業ニ關スル種類又ハ特定ノ事項ニ付代理權ヲ授與セラレタル者ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十八條 支配人及前條ノ代理人ノ代理權ハ營業主ノ死亡ニ因リテ消滅セズ

第三十九條 物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ從業員ハ其ノ店舗ニ於テ爲ス物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス

第三十六條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第四十條 商業使用人ハ營業主ノ許諾アルニ非ズレバ左ノ行為ヲ爲スコトヲ得ズ

一 自己又ハ第三三者ノ爲ニ營業ヲ爲スコト

二 自己又ハ第三三者ノ爲ニ營業主ノ營業ノ部類ニ關スル取引ヲ爲スコト

三 會社ハ無責任社員又ハ取締役ト爲ルコト

四 他ノ商人ノ使用人ト爲ルコト

商業使用人ガ前項ノ規定ニ違反シテ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ取引ガ自己ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ營業主ハ之ヲ以テ營業主ノ爲シタルモノト看做スコトヲ得第

三三者ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ營業主ハ使用人ニ對シテ之ヲ取得シタル權限ハ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ營業主ヨリ使用人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第二項ニ定ムル權利ハ營業主ガ取引ヲ知リ

タル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第七章 代理商

第四十一條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ繼續シテ其ノ營業ノ部類ニ關スル取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲スコトヲ引受クル者ヲ謂フ

第四十二條 代理商ガ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ連帶ナク本人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四十三條 物品又ハ有價證券ノ販賣又ハ媒介ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ實價ノ目的物ノ販賣又ハ數量ノ不足其ノ他實價ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第四十四條 代理商ノ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セズ

第四十五條 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ二月ヲ下ラザル期間ヲ附シテ契約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

當事者ガ契約ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ其ノ辨濟ヲ受ケル迄本人ノ爲ニ占有スル物品又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但シ別段ノ意思表示アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八章 仲立人

第四十七條 仲立人トハ商人ノ營業ノ部類ニ關スル契約ノ媒介ヲ引受クルヲ業トスル者ヲ謂フ

第四十八條 仲立人ハ其ノ媒介シタル契約ニ



付當事者ノ爲ニ支拂其ノ他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ズ但シ別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十九條 仲立人ガ其ノ媒介スル契約ニ付見本ヲ受取リタルトキハ其ノ契約ガ完了スル迄之ヲ保管スルコトヲ要ス但シ別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 當事者間ニ於テ契約ガ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、契約ノ年月日及其ノ要領ヲ記載シテ署名シタル書面ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

第五十一條 當事者ガ直ニ履行ヲ爲スベキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其ノ相手方ニ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 當事者ノ一方ガ書面ヲ受領セズ又ハ之ニ署名セザルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五十三條 仲立人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ前條第一項ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十四條 前四條ノ規定ハ小賣ノ取引ヲ媒介シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五十五條 仲立人ガ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其ノ相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ズ

第五十六條 仲立人ハ第五十條ノ手續ヲ終リタル後ニ非ザレバ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ小賣ノ取引ヲ媒介シタル場合ニハ契約ガ成立シタルトキ直ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ支拂フ義務ヲ負フ但シ別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條 問屋ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ物品又ハ有價證券ノ販賣又ハ買入ヲ爲スコトヲ引受クルヲ業トスル者ヲ謂フ

第五十九條 問屋ト委託者トノ間ノ關係ハ本章ノ規定ノ外委任ニ關スル規定ニ從フ

第六十條 問屋ハ他人ノ爲ニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得義務ヲ負フ

第六十一條 問屋ガ相手方ト爲シタル取引ニ因リ取得シタル債權ハ委託者ト問屋及問屋ノ債權者トノ間ノ關係ニ於テハ之ヲ委託者ニ歸屬シタルモノト看做ス

第六十二條 問屋ガ委託者ノ指定シタル金額ヨリ販賣ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其ノ差額ヲ負擔スルトキハ其ノ販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ

第六十三條 問屋ガ取引所ノ相場アル物品又ハ有價證券ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣買ノ代價ハ問屋ガ買主又ハ賣主ト爲リタルコトト通知ハ問屋ガ買主時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

第六十四條 問屋ガ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者ガ買入レタル物品又ハ有價證券ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ第八十九條ノ規定ヲ準用ス

第六十五條 商人タル委託者ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ買入ノ委託ヲ爲シタル場合ニハ委託者ト問屋トノ間ニ於テ第九十條乃至第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 第四十二條及第四十六條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第六十七條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ物品又ハ有價證券ノ販賣又ハ買入ニ非ザル行爲ヲ爲スコトヲ引受クルヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第六十八條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方ガ相手方タル商人ノ營業ノ爲ニ出資ヲ爲シ相手方ガ其ノ營業ヨリ生ズル利益ヲ分配スベキコトヲ約スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第六十九條 匿名組合員ノ出資ノ目的ハ金錢其ノ他ノ財産ニ限ル

第七十條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

第七十一條 匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ對シテ前項ノ規定ハ第八十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲ

第七十一條 出資ガ損失ニ因リテ減少シタルトキハ其ノ填補ノ後ニ非ザレバ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ズ

第七十二條 匿名組合員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業者ノ財産目録及貸借對照表ノ閲覧ヲ求メ且其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得但シ其ノ事由アルトキハ匿名組合員ハ何時ニテモ法院ノ許可ヲ得テ營業者ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第七十三條 當事者ガ組合ノ存続期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存続スベキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ組合契約ノ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得但シ六月以前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 匿名組合員ノ權利ノ差押ハ匿名組合員ガ將來利益ノ配當又ハ出資ノ價額ノ返還ヲ請求スル權利ニ對シテモ亦其ノ效力ヲ有ス

第七十五條 匿名組合員ノ權利ヲ差押ヘタル債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ匿名組合契約ノ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得但シ營業者及其ノ匿名組合員ニ對シテ六月以前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第七十六條 匿名組合員ガ解散ヲ爲シ前項但書ノ豫告ハ匿名組合員ガ解散ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第七十七條 第七十三條及前條ニ定ムル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 營業者ノ死亡又ハ禁治産

二 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

三 營業ノ廢止又ハ讓渡

第七十七條 組合契約ガ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其ノ出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但シ出資ガ損失ニ因リテ減少シタルトキハ其ノ殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第七十八條 組合契約終了ノ當時ニ於テ未ダ結了セザル事項ニ付テハ其ノ結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 商人ガ行爲ニ關スル特別ノ營業ノ種類ニ關スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク諸事ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シテ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

第八十條 商人ガ其ノ營業ノ範圍ニ關スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品又ハ有價證券アルトキハ其ノ申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込答ノ費用ヲ以テ其ノ物品又ハ有價證券ヲ保管スルコトヲ要ス但シ其ノ物品又ハ有價證券ハ價額ガ其ノ費用ヲ償フニ足ラザルトキ又ハ商人ガ其ノ保管ニ關リテ損害ヲ受ケベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十一條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ金錢ヲ貸付ケ又ハ他人ノ爲ニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其ノ貸付又ハ立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 商人ガ他ノ商人ニ對シテ其ノ得ル利益ノ範圍内ニ於テ爲シタル取引ニ因リテ取得シタル債權者ノ清算期ニ在ルトキハ債

權者ハ清算ヲ受クル迄債務者所有ノ物品又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但シ當事者ノ孰レカノ一方ノ營業ノ範圍内ニ關スル行爲ニ因リテ其ノ占有ヲ取得シタル場合ニ限ル

第八十三條 民法第三百三十一條ノ規定ハ商人ノ營業ノ範圍内ニ關スル行爲ニ因リテ生ズル債權ヲ擔保スル爲メ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セズ

第八十四條 商人間又ハ商人ト商人ニ非ザル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生ズル債權債務ノ總額ニ付相殺ヲ爲シ其ノ殘額ヲ支拂フ爲スベキ旨ノ交互計算契約ヲ爲シタルトキハ計算ニ因リテ生ズル債權ニ付債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條 當事者ガ交互計算ニ關スル契約ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ關スル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨グズ

第八十六條 當事者ガ交互計算ニ於ケル相殺ヲ爲スベキ期間ヲ定メザリシトキハ其ノ期間ハ之ヲ六月トス

第八十七條 手形、小切手其ノ他ノ有價證券ノ授受ニ因リテ生ズル對價支拂ノ債務ヲ交互計算ニ關スル場合ニ於テ支拂其ノ他ノ證券上ノ債務ノ擔保ガ拒マレタルトキハ當事者ハ其ノ債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第八十八條 交互計算ノ當事者ガ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ記載ヲ爲シタルトキハ其ノ各項目ニ付異議ヲ述ブルコトヲ得ズ但シ錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算契約ノ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此ノ場合



第九十條 商人間ノ買賣ガ其ノ雙方ノ營業ノ範圍内ニ於テ爲サレタル場合ニ於テ買主ガ其ノ目的物ヲ受取リタルトキハ運送ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其ノ數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルニ非ザレバ其ノ瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金ノ減額若ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ買主ノ目的物ニ直ニ發見スルコト能ハザル限リ瑕疵アリタル場合ニ於テ買主ガ六月以内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同ジ

第九十一條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ他ノ地ヨリ送付ヲ受ケタル買主ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但シ其ノ目的物ニ付減失又ハ毀損ノ虞アルトキハ法院ノ許可ヲ得テ之ヲ發賣シ其ノ代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

第九十二條 前項ノ規定ニ依リ買主ガ發賣ヲ爲シタルトキハ運送ナク買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第九十三條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケザルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

ルコトヲ要ス但シ其ノ目的物ニ付減失又ハ毀損ノ虞アルトキハ法院ノ許可ヲ得テ之ヲ發賣シ其ノ代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

第九十二條 前項ノ規定ニ依リ買主ガ發賣ヲ爲シタルトキハ運送ナク買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第九十三條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケザルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(康徳四年十一月二日勅令第三二四號)  
(ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○商人通法施行法

第二章 從前ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商人通法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第三章 商人通法施行前ニ設立シタル會社ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ商人通法第十條ノ規定ニ從ヒテ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役又ハ業務ヲ執行スル社員ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四章 商人通法第十五條ノ規定ハ後ニ登記セラレタル商號ガ商人通法施行前ヨリ使用セラルルモノナル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五章 商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ商人通法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商人通法第十六條ニ定ムル權利ヲ行フコトヲ得ズ

第六章 商人通法第十八條ノ規定ハ商人通法施行前ノ行爲ニハ之ヲ適用セズ

第七章 商人通法第二十一條ノ規定ハ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ商人通法施行前ヨリ商號ヲ使用セザル場合ニ於テハ其ノ施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第八章 商人通法第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ商人通法施行前ニ營業ヲ廢止シタル者ガ同ノ營業ヲ爲スコトヲ得ザル期間及區域ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九章 支配人が商人通法施行前營業主ノ許諾ヲ得ズシテ自己又ハ他人ノ爲ニ營業ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲リタルニ因リ營業主ノ有スル權利ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

○會社法

第十條 商人通法施行前ニ爲シタル匿名組合員ノ解約ノ申入ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十一條 商人通法第七十八條ノ規定ハ商人通法施行前ニ契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 商人通法第八十條ノ規定ハ商人通法施行前ニ爲サレタル行爲ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條 商人通法第八十一條ノ規定ハ商人通法施行前ニ金銭ヲ貸付ケ又ハ立替ヘタル場合ニハ之ヲ適用セズ

附則  
本法ハ商人通法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(康徳四年十二月一日)

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(康徳四年十一月二十五日)  
(勅令第三一七號)

第一章 總則  
第一節 株式會社  
第一條 株式會社ノ組織  
第二條 株式會社ノ取締役  
第三條 株式會社ノ監査役  
第四條 株式會社ノ清算  
第五條 株式會社ノ解散  
第六條 株式會社ノ合併  
第七條 株式會社ノ分割  
第八條 株式會社ノ消滅  
第九條 株式會社ノ清算  
第十條 株式會社ノ解散

第一章 總則  
第一條 本法ニ於テ會社トハ營利ヲ目的トシテ設立シタル社團ヲ謂フ

第二條 會社ハ株式會社、合名會社及合資會社トス

第三條 會社ハ之ヲ法人トス

第四條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ

第六條 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得

第七條 會社ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社ナルコトヲ要ス

第八條 會社ハ存立中ノ會社ヲ存続セシムル場合ニ限リ合併ヲ爲スコトヲ得

第九條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 前項ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第十一條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年以内ニ營業ヲ爲サズ又ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキハ法院ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 解散後又ハ會社ノ業務ヲ執行スル取締役、監査役又ハ會社ノ業務ヲ執行スル



社員方法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ  
反スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ會社ノ存  
立ヲ許スベカラザル事由アルトキ亦前項ニ  
同ジ

前二項ノ場合ニ於テハ法院ハ解散ノ命令前  
ト雖モ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ  
又ハ職權ヲ以テ管理人ノ選任其ノ他會社財  
産ノ保全ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得  
第九條 利害關係人ガ前條第一項又ハ第二項  
ノ請求ヲ爲シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ  
相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第十條 利害關係人ノ爲シタル第八條第一項  
又ハ第二項ノ請求ガ却下セラレタル場合ニ  
於テ其ノ者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタ  
ルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責  
ニ任ズ

第十一條 本法ノ規定ニ依リ登記スベキ事項  
ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可  
書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章 株式會社

第一節 設立

第十二條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發  
起人アルコトヲ要ス

第十三條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項  
ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 目的  
二 資本ノ總額  
三 資本ノ金額  
四 本店及支店ノ所在地  
五 會社ガ公告ヲ爲ス方法  
六 發起人ノ姓名及住所  
七 會社ノ公告ハ政府公報又ハ時事ニ關スル事  
項ヲ掲載スル日刊新聞紙ニ掲ゲテ之ヲ爲ス

第十四條 定款ハ公認人ノ認許ヲ受タルニ非  
ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十五條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ  
非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

一 存立時期又ハ解散ノ事由  
二 數種ノ株式ノ發行額ニ其ノ各種ノ株式  
ノ内容及數  
三 株式ノ額面以上ノ發行  
四 發起人ガ受クベキ特別ノ利益及之ヲ受  
クベキ者ノ氏名  
五 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的  
タル財產、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フ  
ル株式ノ種類及數  
六 會社ノ成立後ニ課受タルコトヲ約シタ  
ル財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名  
七 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用  
八 發起人ガ受クベキ報酬ノ額

第十六條 各發起人ハ書面ニ依リテ株式ノ引  
受ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタル  
トキハ總額ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲  
シ且取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要  
ス

第十八條 選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以  
テ之ヲ決ス此ノ場合ニ於テハ第九十六條第  
一項ノ規定ヲ準用ス

第十九條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコ  
トヲ得ズ

第二十條 第一回拂込ノ金額ハ株式ノ四分ノ一ヲ下ル  
コトヲ得ズ

第二十一條 額面以上ノ株式ヲ發行シタルト  
キハ其ノ額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込

同時ニ之ヲ拂込ムコトヲ要ス

第十九條 現物出資者ハ第一回ノ拂込ノ期日  
ニ出資ノ目的タル財產ノ全部ヲ給付スルコ  
トヲ要ス但シ登錄、登記其ノ他權利ノ設定  
又ハ移轉ニ關シ必要ナル行爲ハ會社成立後  
ニ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第二十條 取締役ハ其ノ選任後過期ナク第十  
五條第一項第四號乃至第八號ニ掲グル事項  
並ニ前三條ノ規定ニ依リ拂込及現物出資ノ  
給付アリタルトキ否ヲ調査セシムル爲メ檢  
査役ノ選任ヲ法院ニ請求スルコトヲ要ス

第二十一條 法院ハ檢査役ノ報告ヲ聽キ第十五條第一項  
メタルトキハ之ニ變更ヲ加ヘテ各發起人ニ  
通告スルコトヲ得

第二十二條 前項ノ變更ニ服セザル發起人ハ其ノ株式ノ  
引受ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定  
款ヲ變更シテ設立ニ關スル手續ヲ續行スル  
コトヲ妨ゲズ

第二十三條 通告後二週間以内ニ株式ノ引受ヲ取消シタ  
ル者ナキトキハ定款ハ通告ニ從ヒ變更セラ  
レタルモノト看做ス

第二十四條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザ  
ルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

第二十五條 株式ノ中込ヲ爲サントスル者ハ  
株式申込證ニ通シ其ノ引受クベキ株式ノ數  
及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第二十六條 株式申込證ハ發起人ノ作り之ニ左ノ事項  
ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款ノ認許ノ年月日及其ノ認許ヲ爲シ  
タル公認人ノ氏名  
二 第十三條第一項及第十五條第一項ニ掲  
グル事項  
三 各發起人ガ引受ケタル株式ノ種類及數

四 第一回拂込ノ金額

五 株式ノ讓渡ノ禁止若ハ制限、株券ノ裏  
書ノ禁止又ハ株主ノ議決權ノ制限ヲ定メ  
タルトキハ其ノ規定

六 株金ノ拂込ヲ取扱フベキ銀行及其ノ取  
扱ノ場所

七 一定ノ時期迄ニ創立總會ガ終結セザル  
トキハ株式ノ中込ヲ取消スコトヲ得ベキ  
コト

第八條 株式發行スル場合ニ於テハ株式申  
込人ハ株式申込證ニ其ノ引受クベキ株式ノ  
種類ヲ記載シ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ  
發行スル場合ニ於テハ其ノ引受價額ヲ記載  
スルコトヲ要ス

第九條 株式申込人ガ其ノ眞意ニ非ザル  
コトヲ知リテ爲シタル申込ハ發起人ニ於テ  
之ヲ知リ又ハ知ルコトヲ得ベカリシトキト  
雖モ其ノ效力ヲ妨ゲザルルコトナシ發起人  
ト對シテ爲シタル虛偽ノ申込亦同ジ

第十條 株式ノ中込ヲ爲シタル者ハ發起  
人ノ適當ナル株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲  
ス義務ヲ負フ

第十一條 株式總數ノ引受アリタルトキハ  
發起人ハ總額ナク各株式ニ付第一回ノ拂込  
ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十二條 前項ノ拂込ハ株式申込證ニ記載シタル株式  
拂込ノ取扱場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 第十八條及第十九條ノ規定ハ發  
起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザル場合ニ之ヲ  
準用ス

第十四條 株金ノ拂込ヲ取扱フ銀行ヲ變更  
シ又ハ拂込金ノ保管替ヲ爲スニハ法院ノ許  
可ヲ得ルコトヲ要ス

第十五條 株式引受人ガ第二十五條ノ規定

第十六條 依リ拂込ヲ爲サザルトキハ發起人ハ期日  
ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ  
其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ  
通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二  
週間以前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 株式引受人ガ前項ノ通知ニ定メタル期日迄  
ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此  
ノ場合ニ於テ發起人ハ其ノ者ガ引受ケタル  
株式ニ付更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

第十八條 第二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠  
償ノ請求ヲ妨ゲズ

第十九條 第二十五條及第二十六條ノ規定  
ハ發起人ハ總額ナク創立總會ヲ召集スルコ  
トヲ要ス

第二十條 創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ  
資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其ノ  
議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第二十一條 第九十四條第三項、第九十五條、第九  
十六條第一項、第九十八條、第九十九條、第  
百零二條乃至第一百零九條及第二百二十二條ノ規  
定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

第二十二條 定款ヲ以テ第十五條第一項第四號  
乃至第八號ニ掲グル事項ヲ定メタルトキハ  
發起人ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲メ檢  
査役ノ選任ヲ法院ニ請求スルコトヲ要ス

第二十三條 前項ノ檢査役ノ報告書ハ之ヲ創立總會ニ提  
出スルコトヲ要ス

第二十四條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事  
項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二十五條 第四十一條第一項ノ證明書ハ之ヲ創立總會  
ニ提出スルコトヲ要ス

第二十六條 創立總會ニ於テハ取締役及監査

役ヲ選任スルコトヲ要ス

第二十七條 取締役及監査役ハ左ノ事項ヲ調  
査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルトキハ  
第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依リ  
拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ  
取締役及監査役ハ第三十條第二項ノ報告書  
ヲ調査シ創立總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコ  
トヲ要ス

二 取締役及監査役中發起人ヨリ選任セラレタ  
ル者アルトキハ創立總會ハ特ニ檢査役ヲ選  
任シ前二項ノ調査及報告ヲ爲サシムルコト  
ヲ得

第二十八條 創立總會ニ於テ第十五條第一項  
第四號乃至第八號ニ掲グル事項ヲ不當ト認  
メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得第二十  
條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
ヲ準用ス

第二十九條 前二項ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ  
請求ヲ妨ゲズ

第三十條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又  
ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 前項ノ決議ハ招集ノ通知ニ其ノ旨ヲ記載ナ  
カリシトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第三十二條 株式會社ノ設立ニ關シ發起人  
ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第二十條  
ノ手續終了ノ日、發起人ガ株式ノ總數ヲ引  
受ケザリシトキハ創立總會終結ノ日又ハ第  
三十四條第一項及第二項ノ手續終了ノ日ヨ  
リ二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スル  
コトヲ要ス

一 第十三條第一項第一號乃至第四號及第  
六號ニ掲グル事項







第六十六條 株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非レバ之ヲ消却スルコトヲ得ズ但シ定款ノ規定ニ基キ株主ニ配當スベキ利益ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 株式ノ拂込ハ其ノ期日ノ一月以前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

第六十八條 會社ガ前條第一項及第二項ニ定ムル手續ヲ踐ミタルモ株主ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ株式ヲ賣買スルコトヲ要ス但シ法院ノ許可ヲ得テ他ノ方法ニ依リ之ヲ賣却スルコトヲ妨グズ

第六十九條 會社ハ前條第一項ノ規定ニ著手スル日ノ三週間以前ニ株式ノ讓渡人ニシテ

第七十條 第六十八條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ賣買ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 第三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第七十二條 株主ガ第六十七條第二項ノ期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株式及株主名簿ニ記載アル賣買者ニ對シテ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株式ハ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條 第六十八條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡人株主名簿ニ記載シタル後二年以内ノ日ヲ拂込期日トシテ催告シタル株金ニ關スルモノニ限ル

第七十四條 會社ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 株式ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シタル者ハ會社ニ對シテ株主ト連帶シテ其ノ株式ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七十六條 株主ハ株式ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得第六十八條第三項ノ規定ニ依リテ前項ノ株主及讓渡人ノ責任不足額辨濟ノ義務ニ付亦同ジ

第七十七條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ利益若ハ利息ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ付株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定メヲ爲スコトヲ得

第七十八條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株主ノ氏名及住所

二 各株主ノ有スル株式ノ種類及數額ニ株式ノ拂込ミタル株金額及拂込ノ年

三 各株式ノ取得ノ年月日

四 各株式ノ取得ノ年月日

五 無記名式ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ號、番號及發行ノ年月日

第六十九條 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其ノ者ガ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第七十條 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第七十一條 前二項ノ規定ハ株式申込人、株式引受人、從前ノ株主、株式ノ讓渡人又ハ買權者ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

第七十二條 株式ハ會社ノ成立後ニ非レバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七十三條 前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株式ハ無効トス但シ株式ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第七十四條 株式ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 會社成立ノ年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 株式ノ種類アルトキハ其ノ株式ノ内容株式ノ讓渡ノ禁止若ハ制限又ハ株式ノ讓渡ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定

六 一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメザル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其ノ金額ヲ株式ニ記載スルコトヲ要ス

第七十三條ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シ其ノ總分ヲ爲スベキ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス讓渡人ガ株式ノ總分ニ先チ前項ノ金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額以上ノ金額ヲ提供シテ株式ヲ買受ヲ申出デタルトキハ會社ハ最初ニ申出ヲ爲シタル讓渡人ニ對シ申出額額ヲ以テ株式ヲ讓渡スルコトヲ要ス

第七十四條 第六十八條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ賣買ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 第三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第七十六條 株主ガ第六十七條第二項ノ期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株式及株主名簿ニ記載アル賣買者ニ對シテ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株式ハ其ノ效力ヲ失フ

第七十七條 第六十八條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡人株主名簿ニ記載シタル後二年以内ノ日ヲ拂込期日トシテ催告シタル株金ニ關スルモノニ限ル

第七十八條 會社ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 株式ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シタル者ハ會社ニ對シテ株主ト連帶シテ其ノ株式ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第八十條 株主ハ株式ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得第六十八條第三項ノ規定ニ依リテ前項ノ株主及讓渡人ノ責任不足額辨濟ノ義務ニ付亦同ジ

第八十一條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ利益若ハ利息ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ付株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定メヲ爲スコトヲ得

第八十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株主ノ氏名及住所

二 各株主ノ有スル株式ノ種類及數額ニ株式ノ拂込ミタル株金額及拂込ノ年

三 各株式ノ取得ノ年月日

四 各株式ノ取得ノ年月日

五 無記名式ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ號、番號及發行ノ年月日

第六十九條 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其ノ者ガ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第七十條 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第七十一條 前二項ノ規定ハ株式申込人、株式引受人、從前ノ株主、株式ノ讓渡人又ハ買權者ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

第七十二條 株式ハ會社ノ成立後ニ非レバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七十三條 前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株式ハ無効トス但シ株式ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第七十四條 株式ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 會社成立ノ年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 株式ノ種類アルトキハ其ノ株式ノ内容株式ノ讓渡ノ禁止若ハ制限又ハ株式ノ讓渡ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定

六 一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメザル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其ノ金額ヲ株式ニ記載スルコトヲ要ス

第七十八條 會社ハ前條第一項ノ規定ニ著手スル日ノ三週間以前ニ株式ノ讓渡人ニシテ

第七十九條 第六十八條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ賣買ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八十條 第三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第八十一條 株主ガ第六十七條第二項ノ期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株式及株主名簿ニ記載アル賣買者ニ對シテ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株式ハ其ノ效力ヲ失フ

第八十二條 第六十八條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡人株主名簿ニ記載シタル後二年以内ノ日ヲ拂込期日トシテ催告シタル株金ニ關スルモノニ限ル

第八十三條 會社ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 株式ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シタル者ハ會社ニ對シテ株主ト連帶シテ其ノ株式ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第八十五條 株主ハ株式ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得第六十八條第三項ノ規定ニ依リテ前項ノ株主及讓渡人ノ責任不足額辨濟ノ義務ニ付亦同ジ

第八十六條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ利益若ハ利息ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ付株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定メヲ爲スコトヲ得

第八十七條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株主ノ氏名及住所

二 各株主ノ有スル株式ノ種類及數額ニ株式ノ拂込ミタル株金額及拂込ノ年

三 各株式ノ取得ノ年月日

四 各株式ノ取得ノ年月日

五 無記名式ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ號、番號及發行ノ年月日

第六十九條 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其ノ者ガ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第七十條 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スベカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第七十一條 前二項ノ規定ハ株式申込人、株式引受人、從前ノ株主、株式ノ讓渡人又ハ買權者ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス

第七十二條 株式ハ會社ノ成立後ニ非レバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

第七十三條 前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株式ハ無効トス但シ株式ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第七十四條 株式ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 會社成立ノ年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

五 株式ノ種類アルトキハ其ノ株式ノ内容株式ノ讓渡ノ禁止若ハ制限又ハ株式ノ讓渡ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定

六 一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメザル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其ノ金額ヲ株式ニ記載スルコトヲ要ス

第七十八條 會社ハ前條第一項ノ規定ニ著手スル日ノ三週間以前ニ株式ノ讓渡人ニシテ

第七十九條 第六十八條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ賣買ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八十條 第三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第八十一條 株主ガ第六十七條第二項ノ期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株式及株主名簿ニ記載アル賣買者ニ對シテ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株式ハ其ノ效力ヲ失フ

第八十二條 第六十八條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡人株主名簿ニ記載シタル後二年以内ノ日ヲ拂込期日トシテ催告シタル株金ニ關スルモノニ限ル

第八十三條 會社ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得



第九十五條 總會ノ決議ニ付以別ノ利害關係ヲ有スル者ハ自己又ハ他人ノ爲ニ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

第九十六條 各株主ハ一付一議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ十以上ノ有スル株主ノ議決權ヲ制限シ又ハ株式ノ讓受ヲ株主名簿ニ記載シタル後六月ヲ超エザル株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得

第九十七條 會社ガ發行者株式ヲ發行スル場合同ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ種類ノ株式ニ付株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ種類ノ株式ヲ有スル株主ニ第五十條第一項、第九十二條第一項、第九十九條、第一百零二條第一項、第三百二十九條、第三百五十六條第一項、第三百六十條第二項及第三百六十四條ノ權利ナキモノトスルコトヲ妨グズ

第九十八條 總會ニ於テハ延期又ハ續行ノ決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十條ノ規定ニ依リテ行使スルコトヲ得ザル議決權ノ數ハ前條第一項ノ議決權ノ數ニ之ヲ算入セズ

第九十九條 總會ノ議事ニ付テハ議事録ヲ作ルコトヲ要ス

第一百條 議事録ニハ議事ノ經過ノ要領及其ノ結果ヲ記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役之ニ署名スルコトヲ要ス

第一百零一條 會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第二百零一條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 營業全部ノ買入、其ノ經營ノ委任、他ノ人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約、其ノ他之ニ準ズル契約ハ締結、變更又ハ解約

二 他ノ會社ノ營業全部ノ讓渡

三 依ル取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除

四 第二百二十八條又ハ第三百九十九條ノ規定ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百零二條 前條第一項ノ規定ハ會社ガ其ノ成立後二年以内ニ其ノ成立前ヨリ存在スル財ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百零三條 總會召集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ著シク不公正ナルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テ決議ノ取消ヲ請求スルコトヲ得決議ガ第二百十條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ亦同ジ

第一百零四條 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方法院ノ管轄ニ專屬ス

第一百零五條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非

第九十條 株式ノ價額者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第九十一條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ種類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

第九十二條 取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ取引ガ自己ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ會社ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

第九十三條 株主ガ第九十五條第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ著シク不當ニシテ其ノ株主ガ議決權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 決議取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ決議ノ内容、會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ取消ヲ不適當ト認ムルトキハ法院ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得

第九十五條 第三百三條、第三百四條第三項第四項及第三百五條乃至第三百七條ノ規定ハ總會ノ決議ノ内容ガ法令又ハ定款ニ違反スルコトヲ理由トシテ決議ノ無効ヲ確認ヲ請求スルコトヲ準用ス

第九十六條 株主ガ第九十五條第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ著シク不當ニシテ其ノ株主ガ議決權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第九十七條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ延長スルコトヲ妨グズ

第九十八條 取締役ハ何時ニモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ事由大クシテ其ノ任期ヲ満了前ニ之ヲ解任シタルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第九十九條 法律又ハ定款ニ定ムル取締役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テハ任期ノ満了又ハ解任ニ因リテ退任シタル取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役ノ就職スル迄仍舊職務ヲ行フ

第一百條 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ監査役其ノ他利害關係人ノ請求ニ因リ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百零一條 定款ヲ以テ取締役ノ有スベキ株式ノ數ヲ定メタル場合ニ於テ別段ノ定ナキトキハ取締役ハ其ノ員數ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第一百零二條 取締役ハ善良ナル管理者ノ注意

第一百零三條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決定スル

第一百零四條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第一百零五條 取締役ガ各々會社ノ決議ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メ又ハ定款ノ規定ニ基キ取締役ノ五選ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定ムルコトヲ妨グズ

第一百零六條 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ取締役又ハ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ會社ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ

第一百零七條 會社ヲ代表スベキ取締役ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス前項ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第一百零八條 會社ハ取締役ガ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ヲ負但シ其ノ取締役ハ之ガ爲ニ自己ノ損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

第一百零九條 社長、副社長、專務取締役、常務取締役其ノ他會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノト認ムベキ名稱ヲ附シタル取締役ノ爲シタル行爲ニ付テハ會社ハ其ノ者ガ代表權ヲ有セザル場合ト雖モ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責任ヲ負

第一百一十條 取締役ハ定款及總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、株主名簿及社債原簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

第九十一條 株式ノ價額者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第九十二條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ種類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

第九十三條 取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ取引ガ自己ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ會社ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

第九十四條 株主ガ第九十五條第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ著シク不當ニシテ其ノ株主ガ議決權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第九十五條 決議取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ決議ノ内容、會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ取消ヲ不適當ト認ムルトキハ法院ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得

第九十六條 第三百三條、第三百四條第三項第四項及第三百五條乃至第三百七條ノ規定ハ總會ノ決議ノ内容ガ法令又ハ定款ニ違反スルコトヲ理由トシテ決議ノ無効ヲ確認ヲ請求スルコトヲ準用ス

第九十七條 株主ガ第九十五條第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ著シク不當ニシテ其ノ株主ガ議決權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得



第百二十七條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテハ決議ノ一ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

第百二十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテハ決議ノ一ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

第百二十九條 取締役ガ受クベキ報酬ハ定款ニ其ノ額ヲ定メザリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十條 取締役ノ選任決議ノ取消又ハ無効確認ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テハ本會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル株主ハ會社ニ生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第百三十一條 取締役ノ選任決議ノ取消又ハ無効確認ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テハ本會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル株主ハ會社ニ生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第百三十二條 急迫ナル事情アルトキハ第九十二條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ヲ執行ノ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ法院ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル取締役又ハ監査役亦同ジ

第百三十三條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第百三十四條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第百三十五條 監査役ハ取締役ガ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第百三十六條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼スルコトヲ得ズ但シ取締役中ニ缺員アル

ノ緊要前ト雖モ急迫ナル事情アルトキ亦同

法院ハ當事者ノ申立ニ因リ前項ノ假處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スルコトヲ得

前二項ノ處分アリタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十一條 前條ノ職務代行者ハ假處分命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行為ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特ニ本會社ノ管轄法院ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

職務代行者前項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ

第百三十二條 急迫ナル事情アルトキハ第九十二條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ヲ執行ノ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ法院ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル取締役又ハ監査役亦同ジ

第百三十三條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第百三十四條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第百三十五條 監査役ハ取締役ガ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第百三十六條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼スルコトヲ得ズ但シ取締役中ニ缺員アル

トキハ取締役及監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ定メタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第四十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ル迄ハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ズ

第百三十七條 會社ガ取締役ニ對シテハ取締役ガ會社ニ對シテ提起スル場合ニ於テハ其ノ訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但シ株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

第百三十八條 監査役ガ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於テ取締役モ亦其ノ責ニ任ズベキトキハ其ノ監査役及取締役ハ之ヲ連帶債務者トス

第百三十九條 第四十九條、第五十條、第一百一十條、第一百十三條但書、第一百十四條、第一百十五條、第一百十七條、第一百二十六條、第一百二十九條、第一百三十條及第三百三十二條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第百四十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間以前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

一 財産目録

二 貸借對照表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 準備金及利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第百四十一條 取締役ハ定時總會ノ會日ノ一週間以前ヨリ前條ニ掲グル書類及監査役ノ報告書ヲ本店ニ備置シコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ會社ノ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ原本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第百四十二條 取締役ハ第四百十條ニ掲グル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後遲滞テタ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百四十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ得シタル後二年以内ニ別段ノ決議ナキトキハ會社ハ監査役又ハ監査役ニ對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但シ取締役又ハ監査役ニ不正ノ行為アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十四條 財産目録ニ記載スル營業用ノ固定財産ニ付テハ其ノ取得價額又ハ製作價額ヲ超ユル價額ノ取引所ノ相場アル有價證券ニ付テハ其ノ決算期前一月ノ平均價格ヲ超ユル價額ヲ附スルコトヲ得ズ

第百四十五條 第十五條第一項第七號及第八號ノ規定ニ依リテ支出シタル金額ニ設立登記ノ爲ニ支出シタル税額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會社成立ノ後、若開業前ニ利息ヲ配當スルコトヲ定メタルトキハ其ノ配當ヲ止メタル後五年以内ニ毎決算期ニ於テ均等

額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第百四十六條 社債償還ニ依リテ返還スベキ金額ノ總額ガ社債ノ募集ニ依リテ得タル實額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債償還ノ期限内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第百四十七條 資本總額ハ之ヲ貸借對照表ノ負債ノ部ニ計上スルコトヲ要ス

第百四十八條 會社ガ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ償却ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキハ其ノ株式ノ種類及金額ヲ營業報告書中ニ記載スルコトヲ要ス其ノ株式ヲ處分シタルトキ亦同ジ

第百四十九條 會社ハ其ノ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ毎決算期ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立スルコトヲ要ス

額面以上ノ額額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ額面ヲ超ユル金額ヨリ發行ノ爲ニ必要ナル費用ヲ控除シタル金額ハ前項ノ額ニ達スル迄之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第百五十條 前條ノ準備金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第百五十一條 會社ハ損失ヲ填補シ且第百四十九條第一項ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第百五十二條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ

開業ヲ爲スコト能ハザルモノト認めルルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキコトヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ定款ノ規定ハ法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リテ配當シタル金額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年六分ヲ超ユル利益ヲ配當スル毎ニ其ノ超過額ト同額以上ノ金額ヲ償却スルコトヲ要ス

第百五十三條 前條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ配當スル會社ガ其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テハ新株ニ對シテモ亦利息ヲ配當スルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テハ配當期間ヲ伸長スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百五十四條 利益又ハ利息ノ配當ハ拂込ミタル株主金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ第七十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

營業年度中ニ拂込アリタル株式ニ對スル利益又ハ利息ノ配當ハ其ノ拂込期日以後ノ日數ニ應ジテ之ヲ爲ス

第百五十五條 定款ヲ以テ利益又ハ利息ノ配當請求權ニ付消滅期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ三年ヲ下ルコトヲ得ズ若シ短キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ三年ニ伸長ス

第百五十六條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行為又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ



三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ  
當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産  
ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ検査役ノ選  
任ヲ請求スルコトヲ得  
検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ法院ニ報告スル  
コトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ  
法院ハ監督役ヲシテ株主總會ヲ召集セシム  
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條第二  
項及第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五節 社債

第一款 總則  
第五百五十七條 社債ハ第二百十條ニ定ムル決  
議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得  
第五百五十八條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金  
額ヲ超ユルコトヲ得ズ  
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純  
財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキ  
ハ社債ノ總額ハ其ノ財産額ヲ超ユルコトヲ  
得ズ  
舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ  
其ノ舊社債ノ額ハ前二項ノ社債ノ總額中ニ  
之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期  
日、若數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキ  
ハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債  
ヲ償還スルコトヲ要ス  
第五百五十九條 會社ハ前ニ募集シタル社債總  
額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非ザレバ更ニ  
社債ヲ募集スルコトヲ得ズ  
第六十條 各社債ノ金額ハ二十四ヲ下ルコ  
トヲ得ズ  
同一種類ノ社債ニ在リテハ各社債ノ金額ハ  
均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ベキ

モナルコトヲ要ス  
第六十一條 社債權者ニ償還スベキ金額ガ  
券面額ヲ超ユベキコトヲ定メタルトキハ其  
ノ超過額ハ各社債ニ付同率ナルコトヲ要ス  
第六十二條 社債ノ募集ニ應ゼントスル者  
ハ社債申込證ニ通シ其ノ引受クベキ社債ノ  
數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要  
ス  
社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項  
ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 會社ノ商號  
二 社債ノ總額  
三 各社債ノ金額  
四 社債ノ利率  
五 社債償還ノ方法及期限  
六 利息支拂ノ方法及期限  
七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムル  
トキハ各回ノ拂込ノ金額及時期  
八 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額  
九 債券ヲ記名式又ハ無記名式ニ限リタル  
トキハ其ノ旨  
十 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額  
十一 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存  
スル純財産額  
十二 舊社債ノ償還ノ爲メ第五百五十八條第一  
項及第二項ノ制限ヲ超エテ社債ヲ募集ス  
ルトキハ其ノ旨  
十三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償  
還ヲ了ヘザル總額  
十四 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アル  
トキハ其ノ商號  
十五 社債ノ募集額ガ總額ニ達セザル場合  
ニ於テ前項ノ會社ガ其ノ殘額ヲ引受クベ  
キコトヲ對シタルトキハ其ノ旨

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テ  
ハ社債權者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記  
載スルコトヲ要ス  
第六十三條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債  
ノ總額ヲ引受タル場合ニハ之ヲ適用セズ社  
債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ら社債ノ  
一部ヲ引受タル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦  
同ジ  
第六十四條 社債ノ募集ガ完了シタルトキ  
ハ取締役ハ通函ナク各社債ニ付其ノ金額又  
ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス  
第六十五條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メ第五百六十  
條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ  
得  
第六十六條 會社ハ第六十四條ノ拂込ア  
リタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週  
間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ社  
債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スル  
コトヲ要ス  
一 第五百六十二條第二項第二號乃至第六號  
及第十四號ニ掲グル事項  
二 各社債ニ拂込ミタル金額  
第四十條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用  
ス  
外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登  
記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ  
登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル時ヨリ  
之ヲ起算ス  
第六十七條 第五十六條ノ規定ハ社債ガ數  
人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス  
第六十八條 債券ハ社債全額ノ拂込アリタ  
ル後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

債權者ハ第六十二條第二項第一號乃至第  
六號、第九號及第十四號ニ掲グル事項與ニ  
番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要  
ス  
第六十九條 社債權者ハ何時ニテモ其ノ記  
名式ノ債券ヲ無記名式ト爲シ又ハ其ノ無記  
名式ノ債券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スル  
コトヲ得但シ債券ヲ記名式又ハ無記名式ニ  
限ル旨ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第七十條 記名社債ノ移轉ハ取得者ノ氏名  
及住所ヲ會社原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ社  
債ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ  
他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
第七十一條 記名社債ヲ以テ質權ノ目的ト  
爲スニハ債券ヲ交付スルコトヲ要ス  
前項ノ質權ノ設定ハ質權者ノ氏名及住所ヲ  
社債原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ債券ニ記載  
スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三  
者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
第七十二條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ハ自己ノ名ヲ以テ社債權者ノ爲メ社債ノ  
償還ヲ受ケルニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ  
裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
前項ノ會社ガ社債ノ償還ヲ受ケタルトキハ  
通函ナク之ヲ公告シ且知レタル社債權者ニ  
ハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ社債募集ノ委託ヲ受ケタ  
ル會社ハ社債權者ニ對シ債券ヲ引換ニ償還  
額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ有ス  
第七十三條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ニ於テアルトキハ其ノ權限ニ關スル行爲  
ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第七十四條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ニ於テアルトキハ第七十二條第三項ニ

定ムル義務ハ之ヲ連帶トス  
第七十五條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ハ社債ヲ發行シタル會社及社債權者集會  
ノ同意ヲ得テ辭任スルコトヲ得已ムコトヲ  
得ザル事由アル場合ニ於テ法院ノ許可ヲ得  
タルトキ亦同ジ  
第七十六條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會  
社ガ其ノ事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ  
其ノ他正當ノ事由アルトキハ法院ハ社債ヲ  
發行シタル會社又ハ社債權者集會ノ請求ニ  
因リ之ヲ辭任スルコトヲ得  
第七十七條 前二條ノ場合ニ於テ社債募集  
ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタルトキ  
ハ社債ヲ發行シタル會社及社債權者集會ノ一  
致ヲ以テ其ノ事務ヲ承繼者ヲ定ムルコトヲ得  
已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ利害關係  
人ハ事務承繼者ノ選任ヲ法院ニ請求スルコ  
トヲ得  
第七十八條 無記名社債ヲ償還スル場合ニ  
於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ相當スル  
金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ既ニ支拂期ノ  
到來シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ヲ引換  
ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得  
第七十九條 社債ノ償還請求權ノ時効期間  
ハ十年トス  
第八十條 社債第三項ノ規定ニ依リ社債權者  
ノ有スル請求權亦前項ニ同ジ  
利息及前條第二項ノ請求權ノ時効期間ハ五  
年トス  
第八十一條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載ス  
ルコトヲ要ス  
一 社債權者ノ氏名及住所  
二 債券ノ番號

三 第五百六十二條第二項第二號乃至第七號  
及第十四號ニ掲グル事項  
四 各社債ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年  
月日  
五 債券發行ノ年月日  
六 各社債ノ取得ノ年月日  
七 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其  
ノ數、番號及發行ノ年月日  
第八十二條 會社ガ或社債權者ニ對シテ爲  
シタル辨濟、和解其ノ他ノ行爲ガ著シク不  
公正ナルトキハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル  
會社ハ訴ヲ以テ其ノ行爲ノ取消ヲ請求スル  
コトヲ得但シ其ノ行爲ニ因リテ利益ヲ受ケ  
タル者又ハ轉得者ガ其ノ行爲又ハ轉得ノ當  
時善意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ訴ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社  
ガ取消ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ六  
月、行爲ノ時ヨリ一年以内ニ之ヲ提起スル  
コトヲ要ス  
第八十三條 前條第一項ノ訴ハ社債ヲ發行  
シタル會社ノ本店ノ所在地ノ方法法院ノ管  
轄ニ專屬ス  
第八十四條 第五百八十一條ノ規定ニ依リテ  
爲シタル取消ハ總社債權者ノ利益ノ爲ニ其  
ノ效力ヲ生ズ  
第八十五條 第七十九條第一項及第二項ノ  
規定ハ社債募集者又ハ社債權者ニ對スル通  
知及催告ニ之ヲ準用ス  
第八十六條 本節ノ規定ニ依リ爲スベキ公  
告ハ社債ヲ發行シタル會社ノ定款ニ定メラ  
ル公告方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二款 社債權者集會  
第八十七條 社債權者集會ハ本法ニ規定ア  
ル場合ヲ除クノ外法院ノ許可ヲ得テ社債權







ノ内容  
 第二百十六條 會社が特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ新株ノ引受權ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第二百十條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス  
 第二百十七條 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
 一 會社ノ商號  
 二 増加スベキ資本ノ額  
 三 資本増加ノ決議ノ年月日  
 四 第一回拂込ノ金額  
 五 第二十二條第二項第五號第六號及第二百十五條第一號乃至第三號ニ掲グル事項  
 六 數種ノ株式アルトキハ異種ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ内容及數  
 七 一定ノ時期迄ニ第二百十八條ノ總會ガ終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキコト  
 第二百十八條 資本増加ノ場合ニ於テ各新株ニ付第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ取締役ハ選卸ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス  
 新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同一ノ權利ヲ有ス  
 第二百十九條 新株ノ引受人ハ株金拂込期日ヨリ利益又ハ利息ノ應當ニ付株主ト同一ノ權利ヲ有ス  
 第二百二十條 會社ノ成立後二年以内ニ其ノ資本ヲ増加スル決議ヲ爲シ又ハ資本ノ倍額以上ニ増加スル場合ニ於テ第二百十五條第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ヲ定メタルト

キハ取締役ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲検査役ノ選任ヲ法院ニ請求スルコトヲ要ス  
 第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百二十一條 監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ第二百十八條ノ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス  
 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ  
 二 第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ  
 三 監査役ハ前條第一項ノ検査役ノ報告書ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス  
 株主總會ハ第一項ノ調査及報告ヲ爲サシムル爲特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得  
 第二百二十二條 第二百二十條第一項ノ場合ニ於テハ第二百十八條ノ株主總會ノ決議ハ第二百十條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ  
 第二百二十三條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百二十四條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百二十五條 引受ナキ株式又ハ第一回ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其ノ株式ヲ引受ケ又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込ガ取消サレタルトキ亦同シ  
 前項ノ規定ハ取締役ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ  
 第二百二十六條 會社ハ第二百十八條ノ株主總會終結ノ日又ハ第二百二十二條第二項ノ手續終了ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在テハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 一 増加シタル資本ノ額  
 二 資本増加ノ決議ノ年月日  
 三 各新株ニ付拂込ミタル株金額  
 四 數種ノ株式アルトキハ異種ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ内容及數  
 第四十條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百二十五條 資本ノ増加ハ本店ノ所在地ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
 第二百二十六條 資本増加ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ株主ガ其ノ引受ケタル新株ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉換ヲ請求シ得ベキ期間及轉換ニ因リテ受クベキ株式ノ内容ヲ定ムルコトヲ要ス  
 第二百二十七條 前條ノ場合ニ於テハ株式申込證、株券及株主名簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
 一 株式ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト  
 二 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容  
 三 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間  
 四 資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第二百二十八條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ左ノ事項ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス  
 一 請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數及請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百二十九條 轉換ハ其ノ請求ヲ爲シタル時ノ屬スル營業年度ノ終ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ  
 第二百三十條 轉換ニ因リテ生ジタル各種額ノ株式ノ數ノ増減ハ每營業年度ノ終ヨリ一月以内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第二百三十一條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十二條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十三條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十四條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十五條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十六條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十七條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十八條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十九條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十一條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十二條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十三條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十四條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十五條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

コトヲ要ス  
 前項ノ請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數ヲ示シ請求ノ年月日ヲ記載シテ之ニ署名スルコトヲ要ス  
 第二百三十五條 第六十一條第一項及第二百二十九條ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十六條 轉換ニ因リテ生ジタル資本ノ増加及社債ノ減少ハ每營業年度ノ終ヨリ一月以内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第二百三十七條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十七條 第二十二條第一項第三項、第二十三條乃至第二十八條、第三十一條第二項、第四十一條、第四十二條第一項及第四十三條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十八條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百三十九條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十一條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十二條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十三條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十四條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十五條 規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二百四十條 第三百三條、第三百四條第二項乃至第四項、第三百五條、第三百六條、第三百九十三條及第三百九十九條ノ規定ハ前條ノ訴ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十一條 資本ノ増加ヲ無効トスル判決ヲ確定シタルトキハ資本ノ増加ニ因リテ發行シタル新株ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ  
 前項ノ場合ニ於テハ會社ハ選卸ナク其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル旨ヲ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ  
 第二百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ會社ハ新株ノ株主ニ對シ其ノ拂込ミタル株金ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ金額ガ前條第一項ノ判決確定ノ時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ照シ著シク不相當ナルトキハ法院ハ會社又ハ前項ノ株主ノ請求ニ因リ前項ノ金額ノ増減又ハ未拂込株金額ノ拂込ヲ命ズルコトヲ得  
 第六十一條第一項及第六十二條第一項第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二百四十三條 會社ガ資本ノ増加後二年以内ニ其ノ増加前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ増加資本ノ二十分ノ一以上ノ對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲スニハ第二百十條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス  
 第二百四十四條 資本減少ノ場合ニ於テハ其ノ決議ニ於テ減少ノ方法ヲ定ムルコトヲ要ス  
 第二百四十五條 資本減少ノ決議アリタルト



キハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間以内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百四十六條 會社ハ前條ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ資本減少ニ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ異議ヲ述ベタルキハ會社ハ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二百四十七條 株式ノ併合ヲ爲サントスルキハ會社ハ其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

株式ノ併合ハ前項ノ期間満了ノ時、若前條ノ手續ガ未ダ終了セザルキハ其ノ終了ノ時ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第二百四十八條 株式ノ併合アリタル場合ニ於テ株券ヲ提出スルコト能ハザル者アルトキハ會社ハ其ノ者ノ請求ニ因リ利害關係人ニ對シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ其ノ期間經過後ニ於テ新株券ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ノ費用ハ請求者ノ負擔トス

第二百四十九條 併合ニ適セザル株式ヲ

ルトキハ其ノ併合ニ適セザル部分ニ付新ニ發行シタル株式ヲ發賣シ且株數ニ應ジテ其ノ代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス

第六十八條 第一項但書及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ無記名式ノ株券ニシテ第二百四十七條第一項ノ規定ニ依ル提出ナカリシモノニ之ヲ準用ス

第二百五十條 資本減少ノ無効ハ本店ノ所在地ニ於テ資本減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月以内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ資本ノ減少ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得債權者ガ第一項ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第二百四十四條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七節 會社ノ整理

第二百五十一條 會社ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ支拂不能又ハ債務超過ニ陥ルノ虞アリト認ムルトキハ法院ハ取締役、監査役、三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主又ハ拂込株金額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者ノ申立ニ因リ會社ニ對シ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ支拂不能又ハ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

會社ノ業務ヲ監督スル官廳ハ會社ニ前項ニ掲グル事由アリト認ムルトキハ法院ニ其ノ旨ヲ通告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ職權ヲ以テ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得

得

整理開始ノ申立方權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ法院ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第二百五十二條 法院ガ整理ノ開始ヲ命ズタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ整理開始ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第二百五十三條 整理開始ノ申立又ハ通告アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ破産手続ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ命令アリタルトキハ破産ノ申立又ハ會社財產ニ對スル強制執行、假差押若ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ズ破産手續並ニ既ニ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ之ヲ中止ス

整理開始ノ命令ガ確定シタルトキハ前二項ノ規定ニ依リテ中止シタル手續ハ整理ノ關係ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第二百五十四條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ニ適應シ且發賣申立人ニ不當ノ損害ヲ及ボスノ虞ナキモノト認ムルトキハ法院ハ相當ノ期間ヲ定メ拍賣法ニ依ル發賣手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第二百五十五條 整理開始ノ命令アリタルトキハ會社ノ債權者ノ負擔ニ付テハ整理開始ノ取消ノ登記又ハ整理終結ノ登記ノ日ヨリ二月以内ハ時効完成セズ

第二百五十六條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ズ

一 會社ノ債權者ガ整理開始ノ命令アリタル後會社ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ

二 會社ノ債權者ガ整理開始ノ命令アリタル

ル後其ノ命令前ニ生ジタル他人ノ債權ヲ取得シタルトキ

三 會社ノ債務者ガ整理開始ノ申立又ハ通告アリタルコトヲ知リテ整理開始ノ命令前ニ生ジタル會社ニ對スル債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得ガ法定ノ原因ニ基クトキ、債務者ガ整理開始ノ申立若ハ通告アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生ジタル原因ニ基クトキ又ハ整理開始ノ命令ノ時ヨリ一年以前ニ生ジタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百五十七條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 會社ノ業務ノ制限其ノ他會社財產ノ保全處分

二 株主ノ名稱轉換ノ禁止

三 會社ノ業務及財產ニ對スル検査ノ命令

四 整理ニ關スル立案及實行ノ命令

五 取締役又ハ監査役ノ解任

六 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ禁止

七 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ取消但シ整理ノ開始ヨリ一年以前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ目的ニ出デタルモノニ限ル

八 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ査定

九 前條ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シテ爲ス保全處分

十 會社ノ業務及財產ニ關スル監督ノ命令

十一 會社ノ業務及財產ニ關スル管理ノ命令

整理開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ法院ハ其ノ開始前ト雖モ第二百五十一條第一項ニ掲グル者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前項第一號乃至第三號、第九號又ハ第十號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百五十八條 法院ガ前條第一項第五號、第十號又ハ第十一號ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ旨ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス前條第一項第一號ノ業務ノ制限ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同ジ

前條第一項第一號又ハ第九號ノ處分ニシテ登錄又ハ登記ヲ爲スベキ財產ニ關スルモノニ付テハ法院ハ直ニ其ノ旨ノ登錄又ハ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第二百五十九條 第二百五十七條第一項第三號ノ検査ハ會社ノ業務及財產ノ狀況其ノ他會社ノ整理ニ必要ナル事項ニ付法院ノ委任シタル検査役之ヲ爲ス

検査役ハ會社ノ業務ガ不良ト爲リタル事情及發起人、取締役又ハ監査役ニ不正又ハ弊意ナカリシヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス

第二百六十條 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス

一 整理ノ見込アリヤ否ヤ

二 發起人、取締役又ハ監査役ニ第四十四條、第四十五條、第二百二十六條、第四百三十九條又ハ第二百二十三條ノ規定ニ依リテ責任スベキ事實アリヤ否ヤ

三 會社ノ業務及財產ニ付監督又ハ管理ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

四 會社財產ノ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

五 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取

得

發起人又ハ監査役ノ財產ニ對シ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

第二百六十一條 検査役數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ法院ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得

第二百六十二條 検査役ハ發起人、取締役、監査役及支配人其ノ他ノ使用人ニ對シ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ付報告ヲ求メ會社ノ帳簿、書類、金銭其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ヲ爲スニ當リ法院ノ許可ヲ得テ執行官又ハ警察官更ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二百六十三條 第四百十七條ノ規定ハ検査役ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ注意ヲ怠リタル検査役ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二百六十四條 検査役ハ會社ヨリ費用ノ前拂及報酬ヲ受タルコトヲ得其ノ額ハ法院之ヲ定ム

第二百六十五條 第二百五十七條第一項第四號ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ整理委員ヲ選任スルコトヲ得

整理委員ハ整理ニ關スル立案ノ任ニ當リ且取締役ガ其ノ實行ヲ爲スニ付テ之ト協力ス

第二百六十六條、第二百六十二條第一項、第二百六十三條及前條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二百六十六條 整理ノ實行上株金ノ拂込ヲ爲サシムル爲必要アリト認ムルトキハ取締役ハ各株主ニ對シ其ノ有スル株式ノ數及未拂込株金額ヲ通知シ異議アラバ一定ノ期間



内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ報告スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ  
株主ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ通知シタル事項ヲ承認シタルモノト看做ス  
株主ガ異議ヲ述ベタルトキハ取締役ハ其ノ確定ヲ法院ニ請求スルコトヲ要ス  
第二百六十七條 取締役ハ前條ノ承認又ハ確定アリタル事項ニ付株主表ヲ作ルコトヲ要ス  
取締役株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキハ其ノ拂込金額ニ付法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス  
會社ハ株主ニ對シ前項ノ認可ノ記載アル株主表ノ抄本ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得  
第二百六十八條 第二百五十七條第一項第八號ノ規定ニ依リテ爲シタル査定ニ不服アル者ハ査定ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月以内ニ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
査定ヲ認可シ又ハ之ヲ變更シタル判決ハ強制執行ニ關シテハ給付ヲ命ズル判決ト同一ノ效力ヲ有ス  
第二百六十九條 第四百條第二項第三項ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス  
第二百七十條 前條第一項ノ期間内ニ訴ノ提起ナキトキハ査定ハ給付ヲ命ズル確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス訴ガ却下セラレタルトキ亦同ジ  
第二百七十一條 査定ノ申立ハ時効ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス職權ニ依ル査定手續ノ開始亦同ジ  
第二百七十二條 第二百五十七條第一項第十號ノ規定ハ法院ノ選任シタル監督員之ヲ爲ス

取締役ガ法院ノ指定シタル行爲ヲ爲スニハ監督員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
第二百六十五條 第三項ノ規定ハ監督員ニ之ヲ準用ス  
第二百七十二條 第二百五十七條第一項第十號ノ規定ハ法院ノ選任シタル監督員之ヲ爲ス  
會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財産ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ管理人ニ專屬ス第二百二十九條、第二百三十九條、第二百五十條、第二百九十二條及第二百九十八條ノ規定ニ依ル取締役ノ權利亦同ジ  
第二百六十一條 乃至第二百六十四條ノ規定ハ管理人ニ之ヲ準用ス  
第二百七十三條 管理人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル  
第二百七十四條 管理人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得  
前項ノ代理人ノ選任ハ法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス  
第二百七十五條 整理ガ終了シ又ハ整理ノ必要ナキニ至リタルトキハ法院ハ第二百五十一條第一項ニ掲グル者、検査役、整理委員、監督員又ハ管理人ノ申立ニ因リ整理終結ノ裁定ヲ爲スコトヲ得  
第二百七十六條 第二百五十二條及第二百五十八條ノ規定ハ整理終結ノ裁定又ハ整理開始ノ命令ヲ取消ス裁定ガ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第二百七十七條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ整理ノ見込ナキトキハ法院ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第八節 解散及設立ノ無効  
第二百七十八條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス  
一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生  
二 株主總會ノ決議  
三 會社ノ合併  
四 營業全部ノ廢渡  
五 會社ノ破産  
六 解散ヲ命ズル裁判  
第二百七十九條 解散ノ決議ハ第二百十條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ  
第二百八十條 會社ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除クノ外取締役ハ過期ナク株主ニ對シテ其ノ旨ヲ通知シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス  
第二百八十一條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百八十二條 第二百七十八條第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ第二百十條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得  
會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ前項ノ決議ヲ爲スコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百八十三條 會社ガ合併ヲ爲スニハ合併契約書ヲ作り株主總會ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス  
合併契約書ノ要領ハ第八十七條ニ定ムル通

知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス  
第一項ノ決議ハ第二百十條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ  
第二百八十四條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 存続スル會社ノ增加スベキ資本ノ額  
二 存続スル會社ノ發行スベキ新株ノ種類、數及拂込金額並ニ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ對スル新株ノ割當ニ關スル事項  
三 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ支拂フ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定  
四 各會社ニ於テ前條第一項ノ決議ヲ爲スベキ株主總會ノ期日  
五 合併ヲ爲スベキ時期ヲ定メタルトキハ其ノ規定  
第二百八十五條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 合併ニ因リテ設立スル會社ノ目的、商號、資本ノ總額、一株ノ金額及本店ノ所在地  
二 合併ニ因リテ設立スル會社ノ發行スベキ株式ノ種類、數及拂込金額並ニ各會社ノ株主ニ對スル株式ノ割當ニ關スル事項  
三 各會社ノ株主ニ支拂フ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定  
四 前條第四號及第五號ニ掲グル事項  
第二百八十六條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場合ニ於テハ其ノ取締役ハ第二百四十六條ノ手續ヲ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジ

タル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ合併後存続スル會社ニ於テ第二百四十九條ノ規定ニ依リテ後述ノ事項ヲ報告スルコトヲ要ス  
第二百八十八條 第二項ノ規定ハ前項ノ株主總會ニ之ヲ準用ス  
第二百八十七條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ設立委員ハ第二百四十六條ノ手續ヲ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ第二百四十九條ノ規定ニ依リテ後述ノ事項ヲ報告スルコトヲ要ス  
九條ノ處分ヲ爲シタル後過期ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス  
創立總會ニ於テハ定款變更ノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ合併契約ノ趣旨ニ反スルコトヲ得ズ  
第二百九十二條 第二項、第三十一條第一項、第三十二條及第三十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ創立總會ニ之ヲ準用ス  
第二百八十八條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第二百八十六條ノ株主總會又ハ前條ノ創立總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ登記ノ第三十六條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス  
合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併ニ因リテ社債ヲ募集シタルトキハ前項ノ登記ト同時ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百八十九條 會社ノ合併ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ

其ノ本店ノ所在地ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
第二百九十條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス  
第二百九十一條 第二百四十五條及第二百四十六條ノ規定ハ會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第二百四十七條 乃至第二百四十九條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式ノ併合ニ之ヲ準用ス  
第六十一條 第一項及第六十二條第三項ノ規定ハ株式ヲ併合セザル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株式ヲ目付トスル買權ニ之ヲ準用ス  
第二百九十二條 會社ノ合併ノ無効ハ合併ノ日ヨリ六月以内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得  
前項ノ訴ハ各會社ノ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限リテ之ヲ提起スルコトヲ得  
第二百九十三條 前條第一項ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ合併ノ無効ノ原因タル瑕疵ガ補完セラレタルトキ又ハ會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ合併ヲ無効トスルコトヲ不適當ト認ムルトキハ法院ハ請求ヲ棄却スルコトヲ得  
第二百九十四條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ回復ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百九十五條 合併ヲ無効トスル判決ハ合



併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社、其ノ株主及第三者ノ間ニ生ジタル權利義務ニ影響ヲ及ボサズ

第二百九十六條 合併ノ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ合併ヲ爲シタル會社ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併後負擔シタル債務ニ付連帶シテ債務ノ責ニ任ズ

第二百九十七條 第三百三條、第三百四條第二項、第三百五條、第三百六條及第三百七條第一項ノ規定ハ第二項ノ準用ス

第二百九十八條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年以内ニ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第二百九十九條 會社ノ設立ノ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百條 設立ノ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準ジテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第三百一條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外清算ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二條 會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタルトキハ法院ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス第一項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第三百三條 取締役ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間以内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百四條 清算人ノ氏名及住所

一 清算人ノ氏名及住所

二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

三 數人ノ清算人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ定アルトキハ其ノ規定

清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第四百十條ノ規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百四條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二週

人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第三百一條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外清算ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二條 會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタルトキハ法院ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス第一項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第三百三條 取締役ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間以内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百四條 清算人ノ氏名及住所

一 清算人ノ氏名及住所

二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

三 數人ノ清算人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ定アルトキハ其ノ規定

清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第四百十條ノ規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百四條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二週

第三百一條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外清算ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二條 會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタルトキハ法院ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス第一項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第三百三條 取締役ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間以内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百四條 清算人ノ氏名及住所

一 清算人ノ氏名及住所

間以内ニ左ノ事項ヲ法院ニ提出スルコトヲ要ス

一 解散ノ事由及其ノ年月日

二 清算人ノ氏名及住所

三 現務ノ了了

四 債權ノ取立及債務ノ辨濟

五 殘餘財産ノ分配

第三百六條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第三百七條 取締役ガ清算人ト爲リタル場合ニ於テハ從前ノ定ニ從ヒテ會社ヲ代表ス

法院ガ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スベキ者ヲ定メ又ハ數人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定ムルコトヲ得

第三百八條 會社ヲ代表スベキ清算人ハ其ノ職務ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三百九條 清算人ハ就職ノ後過期ナク會社ノ財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

清算人ハ前項ノ承認ヲ得タル後過期ナク財産目録及貸借對照表ヲ法院ニ提出スルコトヲ要ス

第三百十條 清算人ハ財産目録、貸借對照表及事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ二週間以前ニ之ヲ調査役ニ提出スルコトヲ要ス

第三百十一條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二個月以内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ請求ヲ申出ヅベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ

對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百二十二條 清算人ハ前條ノ承認アリタル後本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ清算了了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二十三條 會社ノ帳簿並ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算了了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ清算人其ノ他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ法院之ヲ選任ス

會社清算當時ノ株主、債權者其ノ他ノ利害關係人ハ法院ノ許可ヲ得テ前項ノ書類ヲ閲覧スルコトヲ得

第三百二十四條 第八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第九十九條第二項、第一百條、第一百零一條第二項、第一百零二條、第一百零三條、第一百零四條、第一百零五條、第一百零六條、第一百零七條、第一百零八條、第一百零九條、第一百一十條、第一百一十一條、第一百一十二條、第一百一十三條、第一百一十四條、第一百一十五條、第一百一十六條、第一百一十七條、第一百一十八條、第一百一十九條、第一百二十條、第一百二十一條、第一百二十二條、第一百二十三條、第一百二十四條、第一百二十五條、第一百二十六條、第一百二十七條、第一百二十八條、第一百二十九條、第一百三十條、第一百三十一條、第一百三十二條、第一百三十三條、第一百三十四條、第一百三十五條、第一百三十六條、第一百三十七條、第一百三十八條、第一百三十九條、第一百四十條、第一百四十一條、第一百四十二條、第一百四十三條、第一百四十四條、第一百四十五條、第一百四十六條、第一百四十七條、第一百四十八條、第一百四十九條、第一百五十條、第一百五十一條、第一百五十二條、第一百五十三條、第一百五十四條、第一百五十五條、第一百五十六條、第一百五十七條、第一百五十八條、第一百五十九條、第一百六十條、第一百六十一條、第一百六十二條、第一百六十三條、第一百六十四條、第一百六十五條、第一百六十六條、第一百六十七條、第一百六十八條、第一百六十九條、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十二條、第一百七十三條、第一百七十四條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十七條、第一百七十八條、第一百七十九條、第一百八十條、第一百八十一條、第一百八十二條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條、第一百八十六條、第一百八十七條、第一百八十八條、第一百八十九條、第一百九十條、第一百九十一條、第一百九十二條、第一百九十三條、第一百九十四條、第一百九十五條、第一百九十六條、第一百九十七條、第一百九十八條、第一百九十九條、第二百條

第三百二十五條 清算ノ遂行ニ著シキ支障ヲ來スベキ事情アリト認めタルトキハ法院ハ債權者、清算人、調査役若ハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ニ對シ特別清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ債務超過ノ疑アリト認めタルトキ亦同ジ

會社ニ債務超過ノ疑アルトキハ清算人ハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

二月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ニハ債權者ガ期間内ニ申出ヅベキ旨ヲサザルトキハ清算ヨリ除外セラレベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十二條 清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

知レタル債權者ハ之ヲ清算ヨリ除外スルコトヲ得ズ

第三百十三條 清算人ハ第三十一條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトナシ

清算人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ法院ノ許可ヲ得テ少額ノ債權及擔保アル債權其ノ他之ヲ辨濟スルモ他ノ債權者ヲ宜スルノ慮ナキ債權ニ付辨濟ヲ爲スコトヲ得

第三百十四條 會社ハ辨濟期ニ至ラザル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ無利息債權ニ付テハ辨濟期ニ至ル迄ノ法定利息ヲ加算シテ其ノ債權額ニ連スベキ金額ヲ辨濟スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ利息附債權ニシテ其ノ利率ガ法定利率ニ違セザルモノニ付テハ準用ス

第一項ノ場合ニ於テハ條件附債權、存続期間ノ不確定ナル債權其ノ他債權ノ不確定ナル債權ニ付テハ法院ノ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス



第二百五十一條第二項及第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十六條 特別清算開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ法院ハ其ノ開始前ト雖モ前條第一項ニ掲グル者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第三百五十二條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百二十七條 第二百五十二條乃至第二百五十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條 特別清算ノ場合ニ於テハ清算人ハ會社ノ株主及債權者ニ對シ公平且誠實ニ清算事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第三百二十九條 重要ナル事由アルトキハ法院ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三百三十條 法院ハ何時ニテモ清算事務及財産ノ狀況ヲ報告ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條 清算ノ監督上必要アリト認ムルトキハ法院ハ第三百五十二條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十二條 會社ノ債務ハ其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨別スルコトヲ要ス

第三百三十三條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十三條 清算ノ實行上必要アリト認ムルトキハ清算人ハ債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

申出ル場シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ債權額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ハ會社ノ目的タル事項及招集

ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ清算人ニ提出シテ債權者集會ヲ招集ヲ請求スルコトヲ得

第九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

債權者ガ會社財産ノ上ニ擔保權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ擔保權ノ行使ニ依リテ辨別ヲ受クルコトヲ得ベキ金額ハ之ノ第二項ノ債權額ニ算入セズ

第三百三十四條 前條第四項ノ債權者ハ擔保權ノ行使ニ依リテ辨別ヲ受タルコトヲ得ベキ債權額ニ付テハ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

債權者集會ノ招集ハ前項ノ債權者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス債權者集會又ハ其ノ招集者ハ第一項ノ債權者ノ出席ヲ求メテ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第三百三十五條 債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使セシムベキヤ否ヤ及如何ナル金額ニ付之ヲ行使セシムベキヤハ各債權ニ付清算人ノ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ付異議アルトキハ法院之ヲ定ム

第三百三十六條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ出席債權者ノ過半數ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ノ總債權額ノ半額ヲ超ユル債權者有スル者ノ同意アルコトヲ要ス

第三百三十七條 第八十七條第一項第二項、第九十四條第三項、第九十五條第一項、第九十八條、第九十九條及第一百八十八條第二項ノ規定ハ債權者集會ニ之ヲ準用ス

第八十七條第一項及第二項ノ規定ハ第三百三十四條第二項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條 清算人ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査書、財産目録並ニ貸借對照表

ヲ債權者集會ニ提出シ且清算ノ實行ノ方針及見込ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ要ス

第三百三十九條 債權者集會ハ監査委員ヲ選任スルコトヲ得

監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

前二項ノ決議ハ法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第三百四十條、第二百六十一條、第二百六十二條第一項、第二百六十三條、第二百六十四條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第三百四十一條 清算人左ノ行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、若シ監査委員ナキトキハ債權者集會ノ決議アルコトヲ要ス但シ三千圓以上ノ債權額ヲ有スルモノニ關セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 會社財産ノ處分

二 借財

三 訴ノ提起

四 和解及仲裁契約

五 權利ノ拋棄

債權者集會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テ急迫ナル事情アルトキハ清算人ハ法院ノ許可ヲ得テ前項ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得

清算人前二項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責任ヲ負フ

第三百四十二條 特別清算ノ場合ニハ之ヲ準用ス

第三百四十一條 清算人ハ數額ニ依リテ財産ヲ換價スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ

第三百四十二條 清算人ハ拍賣法ニ依リ擔保ノ目的トナル會社ノ財産ヲ換價スルコトヲ得擔保者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ擔保者ノ受クベキ金額ガ未ダ確定セザルトキハ清算人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス

第三百四十三條 清算人ハ監査委員ノ意見ヲ聽キ債權者集會ニ對シテ議定ノ申出ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條 協定ノ條件ハ各債權者ノ間ニ平等ナルコトヲ要ス但シ少額ノ債權ニ付別段ノ定ヲ爲シ其ノ他債權者間ニ差等ヲ設クルモ衡平ヲ害セザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百四十五條 協定案ノ作成ニ當リ必要アリト認ムルトキハ清算人ハ第三百三十三條第四項ノ債權者ノ参加ヲ求ムルコトヲ得

第三百四十六條 協定ヲ可決スルニハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ出席債權者ノ過半數ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ノ總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル債權者有スル者ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第三百四十七條 前條ノ協定ハ認可ノ裁定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第三百四十八條 協定ハ債權者全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス

協定ハ債權者ガ會社ノ保證人其ノ他會社ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及會社ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ボサズ

第三百四十九條 協定ノ實行上必要アルトキハ協定ノ條件ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ前六條ノ規定ヲ準用ス

第三百五十條 會社財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ法院ハ清算人、監査役、監査委員、三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ申出ヲ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者有スル者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ業務及財産ノ検査ヲ命ズルコトヲ得

第二百五十九條、第二百六十二條及第三百三十三條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 検査役ハ検査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス

一 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ニ

第四百四條、第四百五條、第四百二十六條、第四百二十九條、第二百二十三條又ハ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ責任ニ任ズベキ事實アリヤ否ヤ

二 會社財産ノ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

三 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ財産ニ對シ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

第三百五十二條 前條ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 會社財産ノ保全處分

二 株主ノ名義書換ノ禁止

三 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ノ免除ノ禁止

四 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ノ免除ノ取消但シ特別清算ノ開始ヨリ一年以前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正

ノ目的ニ出デタルモノニ限ル

五 發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ査定

六 前項ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役、監査役又ハ清算人ノ財産ニ對シテ爲ス保全處分

第二百五十八條第二項ノ規定ハ前項第一號又ハ第六號ノ處分アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條乃至第二百七十條ノ規定ハ第一項第五號ノ査定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十三條 特別清算開始ノ命令アリタル場合ニ於テ協定ノ見込ナキトキハ法院ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス協定ノ實行ノ見込ナキトキ亦同ジ

第三百五十四條 特別清算ガ終了シ又ハ特別清算ノ必要ナキニ至リタルトキハ法院ハ第三百二十五條第一項ニ掲グル者、監査委員又ハ検査役ノ申立ニ因リ特別清算終結ノ議定ヲ爲スコトヲ得

第三百五十五條 第二百五十六條、第二百六十六條、第二百六十七條及第二百七十六條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百六十四條及第二百七十四條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第三章 合名會社

第一節 設立

第三百五十六條 合名會社ヲ設立スルモハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第三百五十七條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス



一 目的  
 二 商號  
 三 社員ノ姓名及住所  
 四 本店及支店ノ所在地  
 五 社員ノ出資ノ目的及其ノ價格又ハ評價ノ標準

第三百五十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 一 前條第一號乃至第三號ニ掲グル事項  
 二 本店及支店  
 三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルキハ其ノ時期又ハ事由  
 四 社員ノ出資ノ目的、財産ヲ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分  
 五 社員ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ姓名  
 六 數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定  
 第三百五十九條 會社ノ爲スベキ公告ハ法院ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三百六十條 合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ準禁治產者ハ社員タル資格ニ基ク行爲ニ關シテハ之ノ能力者ト看做ス

第二節 會社ノ内部ノ關係  
 第三百六十一條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス  
 第三百六十二條 社員ガ債權ヲ以テ出資ノ目

的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ債務ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其ノ債務ノ責任ニ任ズ此ノ場合ニ於テハハノ利息ヲ支拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三百六十三條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ  
 第三百六十四條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
 第三百六十五條 定款ノ變更其ノ他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス  
 第三百六十六條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ  
 第三百六十七條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ全部又ハ一部ヲ取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ  
 社員ガ前項ノ規定ニ違反シテ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ取引ガ自己ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ會社ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得第三者ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ會社ハ社員ニ對シ其ノ取得シタル報酬ノ交付ヲ請求スルコトヲ得  
 會社ガ社員ニ對シ前項ノ權利ヲ行使スルニハ他ノ社員ノ過半数ノ同意アルコトヲ要ス  
 第二項ニ定ムル權利ハ他ノ社員ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過

シタルトキ亦同ジ  
 前項ノ規定ハ會社ヨリ社員ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ  
 第三百六十八條 社員ハ他ノ社員ノ過半数ノ同意アリタルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ社員ガ其ノ取引ニ付會社ヲ代表スルコトヲ妨グズ

第三節 會社ノ外部ノ關係  
 第三百六十九條 業務ヲ執行スル社員ハ各自會社ヲ代表ス但シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員中特ニ會社ヲ代表スベキ者ヲ定ムルコトヲ得  
 第三百七十條 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得  
 第三百七十一條 第二百十條ノ規定ハ會社ヲ準用ス  
 第三百七十二條 第二百十一條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス  
 第三百七十三條 會社ガ社員ニ對シ又ハ社員ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其ノ訴ニ付會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社員ノ過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス  
 第三百七十四條 會社ノ財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルトキハ各社員連帶シテ其ノ債務ノ責任ヲ負フ  
 會社ノ財產ニ對スル強制執行ガ其ノ效力ヲ及ベザルトキ亦前項ニ同ジ  
 前項ノ規定ハ社員ガ會社ニ債務ノ實力アリ

且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ之ヲ適用セズ  
 第三百七十五條 社員ハ會社ニ屬スル抗辯ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得  
 會社ガ其ノ債權者ニ對シ相殺權、取消權又ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ社員ハ其ノ者ニ對シ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得  
 第三百七十六條 會社ノ成立後加入シタル社員ハ其ノ加入前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ  
 第三百七十七條 社員ニ非ザル者ニ自己ヲ社員ナリト誤認セシムベキ行爲アリタルトキハ其ノ者ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第四節 社員ノ退社  
 第三百七十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存続スベキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但シ六月以前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス  
 會社ノ存立時期ヲ定メタルトキハ各社員ハ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得  
 第三百七十九條 前條及第三百八十四條第一項ニ定ムル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス  
 一 定款ニ定メタル事由ノ發生  
 二 總社員ノ同意  
 三 死亡  
 四 破産  
 五 禁治產  
 六 除名  
 第三百八十條 社員ニ付左ノ事由アルトキハ

會社ハ他ノ社員ノ過半数ノ同意ヲ以テ其ノ社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ法院ニ請求スルコトヲ得  
 一 出資ノ義務ヲ履行セザルコト  
 二 第三百六十七條第一項ノ規定ニ違反シタルコト  
 三 業務ヲ執行スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ業務ヲ執行ニ干與シタルコト  
 四 會社ヲ代表スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ會社ヲ代表シタルコト  
 五 其ノ他重要ナル義務ヲ盡サザルコト  
 社員ガ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ著シク不適任ナルトキハ會社ハ前項ノ規定ニ從ヒ其ノ社員ノ業務執行權又ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得  
 社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ判決確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三百八十一條 規定ハ第一項及第二項ノ訴ニ之ヲ準用ス  
 第三百八十二條 除名セラレタル社員ト會社トノ間ノ計算ハ除名ノ訴ヲ提起シタル時ニ於ケル會社財產ノ狀況ニ從ヒテ之ヲ爲シ且其ノ時ヨリ法人利息ヲ附スルコトヲ要ス  
 第三百八十三條 退社員ハ義務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其ノ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第三百八十四條 社員ノ持分ノ押押ハ社員ガ將來利益ノ配當及持分ノ拂戻ヲ請求スル權利ニ對シテモ亦其ノ效力ヲ有ス  
 第三百八十五條 社員ノ持分ヲ押押ハタル債

第三百八十六條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負フ  
 前項ノ責任ハ前項ノ登記後二年以内ニ請求又ハ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅ス  
 前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節 解散並ニ設立ノ無効及取消  
 第三百八十七條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス  
 一 第二百七十八條第一號、第三號、第五號及第六號ニ掲グル事由  
 二 總社員ノ同意  
 三 社員ガ一人ト爲リタルコト  
 第三百八十八條 第二百八十一條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス  
 第三百八十九條 會社ガ存立時期ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生又ハ總社員ノ同意ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社シタルモノト看做ス

民法法 商法 會社法 合名會社 社員ノ退社 解散並ニ設立ノ無効及取消



第三百八十七條第三號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第二百八十二條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第三百九十一條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ株式會社ナルトキ又ハ合併ニ因リテ設立スル株式會社株式會社ナルトキハ合名會社ニ於テハ總社員ノ同意ヲ得テ合併契約書ヲ作ルコトヲ要ス

第二百八十四條及第二百八十五條ノ規定ハ前項ノ合併契約書ニ之ヲ準用ス

第三百九十二條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第三百五十八條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百九十三條 合併ノ無効ノ訴ハ各會社ノ社員、清算人、破産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百九十四條 第二百八十九條、第二百九十二條、第二百九十一條第一項、第二百九十二條第一項、第二百九十三條乃至第二百九十六條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條 第三百九十四條、第三百九十六條及第三百九十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三條及第三百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十六條 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ或社員ヲ有限責任社員ト爲シ又ハ新ニ有限責任社員ヲ加入セシメテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第三百八十九條第二項ノ規定ニ依リ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十七條 合名會社ガ前條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ合名會社ニ付テハ解散ノ登記、合資會社ニ付テハ第四百二十六條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百九十八條 第三百九十六條第一項ノ場合ニ於テ從前ノ社員ニシテ有限責任社員ト爲ラタル者ハ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ無限責任社員ノ責任ヲ免ルルコトナシ

第三百八十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十九條 會社設立ノ無効ノ訴ハ社員ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第四百條、第四百三條第三項第四項、第四百六條、第四百九十三條、第四百九十五條、第四百九十八條第一項、第四百九十九條及第五百條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第四百條 設立ノ無効ノ原因ガ成社員ノミル場合ニ於テ其ノ無効ノ原因ガ成社員ノミル場合ニ於テ其ノ無効ノ原因ニ拘ラズ他ノ社員ノ一致ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ無効ノ原因ノ存スル社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第三百八十九條第二項及第三百九十七條ノ規定ハ前

項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百一條 會社ノ設立ノ取消ハ訴ヲ以テノミ之ヲ請求スルコトヲ得

第四百二條 社員ガ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ會社ヲ設立シタルトキハ債權者ハ其ノ社員及會社ニ對スル訴ヲ以テ會社ノ設立ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第四百三條 前二條ノ訴ハ會社成立ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第四百四條 第四百三條第三項第四項、第四百六條、第四百九十五條、第四百九十九條、第五百條及第四百條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節 清算

第四百四條 第三百一一條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第四百五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財產ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間以内ニ財產目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ會社ガ解散ヲ命ズル裁判又ハ社員ガ一人ト爲リタルコトニ因リ解散シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百六條 第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七條 第一項ノ場合ニ於テ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百八條 會社ガ前條第三項ノ規定ニ違反シテ其ノ財產ヲ處分シタルトキハ會社ノ債權者ハ訴ヲ以テ其ノ處分ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ處分ガ會社ノ債權者ヲ害セザルモノナルトキ又ハ其ノ處分ニ因リテ

利益ヲ受ケタル者若ハ轉得者ガ其ノ處分若ハ轉得ノ當時善意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ訴ハ債權者ガ取消ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年、處分ノ時ヨリ十年以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第四百七條 第四百三條ノ規定ハ前條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第四百八條 第四百六條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ズ

第四百九條 會社ガ第四百五條第四項ノ規定ニ違反シテ其ノ財產ヲ處分シタルトキハ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者ハ會社ニ對シ其ノ持分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百十條 第四百五條第一項ノ規定ニ依リテ會社財產ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ第四百十一條乃至第四百十九條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十一條 業務執行社員ハ清算人ト爲ル但シ社員ノ過半数ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百十二條 會社ガ解散ヲ命ズル裁判又ハ社員ガ一人ト爲リタルトキハ因リテ解散シタルトキハ法院ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

第四百十三條 清算人ハ總務期ニ拘ラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百十六條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十四條 清算人ガ會社ノ營業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スルニハ社員ノ過半数ノ同意

アルコトヲ要ス

第四百十五條 清算人ハ就職ノ後遅滞ナク會社財產ノ現況ヲ調査シ財產目錄及貸借對照表ヲ作リ之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第四百十六條 社員ガ選任シタル清算人ハ何時ニモ之ヲ解任スルコトヲ得此ノ解任ハ重要ナル事由アルトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百十七條 清算人ノ任務ガ終了シタルトキハ清算人ハ遅滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員ガ一月以内ニ異議ヲ述べザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百十八條 清算ガ終了シタルトキハ清算人ハ前條ノ承認アリタル後本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十九條 第三百三條、第三百五條乃至第三百八條、第三百十四條、第三百十七條及第三百十九條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第四百一十條 第二百一十七條、第二百二十條第二項、第二百二十一條、第二百二十六條、第三百六十八條、第三百六十九條及第三百七十條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第四百二十條 會社ノ帳簿及其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ第四百五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ

爲シタル後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第四百二十三條 第二項ノ規定ハ前項ノ書類ニ之ヲ準用ス

第四百二十四條 社員ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ相続人又ハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第四百二十五條 第三十七條第四項ニ定ムル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年以内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後五年ヲ經過シタルトキ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後モ分配セザル殘餘財產仍存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ清算ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四章 合資會社

第四百二十三條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第四百二十四條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十五條 合資會社ノ定款ニハ第三百五十七條ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第四百二十六條 合資會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ第三百五十八條第一項ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

有限責任社員ニ付テハ登記シタル事項ノ公告ニハ其ノ員數及出資ノ總額ノミヲ掲グ變







會社法施行法

(康徳四年十一月二十五日)

附則 (康徳四年十一月二十五日) (國務總理、司法部大臣)

分ニ違反シタルトキ 第二十三條 第三百九十九條若ハ第四百九十九條第一項ノ規定ニ違反シテ破産ノ申立ヲ爲ス...

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役又ハ會社ヲ代表スベキ社員ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス...



前項ノ規定ハ會社法施行後株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第二十九條 會社法施行前ニ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ買入ル目的トシテ之ヲ受ケタル株式會社ハ會社法施行後過期ナク又ハ會社法施行後相當ノ時期ニ會社法第六十五條ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三十條 株式會社ガ會社法施行前ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ニ付失物豫告ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ爾餘ノ手續ハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第三十一條 會社法第六十八條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ會社法施行前ニ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル者ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第三十二條 會社法第七十三條第二項ノ規定ハ會社法施行前ニ株式ヲ引込ケタル發起人ニ付テハ之ヲ適用セズ  
 第三十三條 會社法第七十五條ノ規定ハ會社法施行前株式ヲ讓渡シタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第三十四條 會社法施行前ニ發行シタル株式ハ會社法第八十一條第一項ノ規定ニ違反スルモノ之ヲ改ムルコトヲ要セズ  
 第三十五條 會社法施行前ニ發行シタル株式ノ名式ノ殊券ハ會社法第八十二條第一項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ  
 第三十六條 會社法施行前ニ爲シタル株主總會召集ノ通知及公告ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第三十七條 會社法第八十八條第一項ノ規定ハ會社法施行前ニ總會召集ノ通知又ハ公告ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

ハ會社法施行前ニ總會召集ノ通知又ハ公告ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第三十八條 株主ノ爲シタル總會召集ノ請求ガ會社法施行前ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ株主ノ有スル株式ノ株式總數ノ二十分ノ一以上ナルヲ以テ足ル  
 第三十九條 株主總會ガ會社法施行後開カルベキトキト雖モ其ノ召集ノ公告ガ會社法施行前ニ爲サレタル場合ニ於テハ無記名式株式ヲ有スル株主ハ會日ヨリ五日以前ニ株券ヲ會社ニ供託スルヲ以テ足ル  
 第四十條 會社法第三條乃至第八條ノ規定ハ會社法施行前ニ提起シタル株主總會ノ決議無効ノ宣告ヲ求ムル訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ會社法施行前ニ確定シタルトキハ會社法第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ  
 第四十一條 會社法第九條ノ規定ハ會社法施行前ニ提起シタル株主總會ノ決議無効ノ請求スル訴ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第十六條但書ノ規定ヲ準用ス  
 第四十二條 會社法第十五條第一項ノ規定ハ會社法施行前ヨリ法律又ハ定款ニ定メタル職務ノ員數ヲ缺キタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第四十三條 會社法施行前ヨリ取締役ノ職務ヲ代行スル者ハ會社法施行後ト雖モ仍其ノ權限ヲ有ス  
 第四十四條 取締役ガ會社法施行前ヨリ會社ト同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ取締役タルトキハ他ノ會社ニ於ケル現在ノ任期満了ニ至ル迄仍取締役タルコトヲ妨ゲズ

會社法第二百二十四條第二項、第三項及第五項ノ規定ハ取締役ガ會社法施行前ニ爲シタル取引ニ付テモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ會社法第二百二十四條第二項ニ定ムル會社ノ權利ハ取引ノ時ヨリ一年以内ニ之ヲ行使セザルトキハ消滅ス  
 第四十四條 會社法第二百六條及第三百零八條ノ規定ハ損害賠償ノ原因タル取締役ノ行為ガ會社法施行前ニ在リタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第四十五條 會社法第二百八條第一項ノ請求ハ會社法施行前ニ株主總會ニ於テ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四十六條 會社法施行前株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ガ會社ノ爲ニ取締役又ハ監査役ニ對シテ提起シタル訴ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第四十七條 會社法第三十條第三項ノ登記ハ會社法施行前ニ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止シ又ハ之ヲ代行スル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社法施行後過期ナク之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四十八條 株主總會ノ會日ガ會社法施行後ナルトキハ其ノ施行前ニ召集ノ通知又ハ公告アリタル場合ト雖モ會社ノ計算書類ノ提

出及備置ニ於テハ會社法第四百十條及第四百一十一條第一項ノ規定ニ從フヲ以テ足ル  
 第四十九條 會社法第四百十四條ノ規定ハ會社法施行前到來シタル決算期ニ作成スル財産目録ニ記載スル財産ノ評價ニハ之ヲ適用セズ  
 第五十條 株式會社ガ會社法施行前ニ會社法第四百十五條ニ掲グル金額又ハ税額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ日ヨリ五年、若會社法施行後利息ノ配當ヲ止メタルトキハ之ヲ止メタル後五年以内ニ會社法第四百十五條ノ規定ニ依リテ償却ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五十一條 株式會社ガ會社法施行前會社法第四百十六條ノ差額又ハ利息ノ配當額ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ日ヨリ會社法第四百十六條又ハ第五百十二條第三項ノ規定ニ依リテ償却ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五十二條 會社法第四百十七條第二項及第四百十八條ノ規定ハ會社法施行前到來シタル決算期ニ作成スル貸借對照表及營業報告書ニハ之ヲ適用セズ  
 第五十三條 會社法第五百十三條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リテ資本ヲ増加スル場合又ハ會社法施行後更ニ其ノ資本ヲ増加スル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第五十四條 會社法第五百十五條ノ規定ハ會社法施行前ニ作成シタル定款ニ付テモ亦之ヲ適用ス但シ會社法施行前定款ノ規定ニ依

リ消滅シタル利益又ハ利息ノ配當請求權ハ之ガ爲ニ回復スルコトナシ  
 第五十五條 株主ガ會社法施行前會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ檢査役ノ選任ヲ請求シタル場合ニ於テハ其ノ株主ノ有スル株式ノ數ハ株式總數ノ二十分ノ一以上ニ當ルヲ以テ足ル  
 第五十六條 會社法施行前債ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ爾餘ノ手續ハ從前ノ規定ニ依ル但シ債ノ登記ハ會社法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五十七條 會社法第八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス  
 第五十八條 從前ノ規定ニ依リテ債ノ登記ヲ爲シタル會社ハ會社法施行ノ日ヨリ六月ヲ除クノ外債ノ登記シタル事項  
 第五十九條 會社法第九條ノ規定ニ從ヒテ登記スル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第六十條 會社法施行前ニ債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ債ノ募集ヲ爲スコトヲ得  
 第六十一條 會社法第七十二條乃至第七十七條及第八十一條乃至第八十三條ノ規定ハ會社法施行前ニ債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ債ノ募集ヲ爲スコトヲ得

定ハ會社法施行前ニ債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者ガ會社タル銀行又ハ信託會社ナル場合ニモ亦之ヲ適用ス  
 第六十一條 會社法第八十一條第一項及第二百八條ノ定ムル訴ハ會社法施行前一年以内ニ爲シタル行為ニ付テハ會社法施行後六月以内ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得但シ行為ノ時ヨリ一年以内ハ之ヲ提起スルコトヲ妨ゲズ  
 第六十二條 會社法施行前ニ發行シタル株式券ハ會社法第六十八條第二項ノ規定ニ違反スルモノ之ヲ改ムルコトヲ要セズ  
 第六十三條 債ノ償還請求權及債ノ利息ノ請求權ノ時効期間ハ會社法施行前ニ其ノ進行ヲ始メタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第六十四條 會社法第八十七條第四項及第八十八條第二項第三項ノ供託ハ提存法ニ依リテ之ヲ爲シ又ハ司法部大臣ノ指定スル銀行ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六十五條 株式會社ガ會社法施行前新株ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ爾餘ノ手續ハ從前ノ規定ニ依ル但シ資本増加ノ登記ニ在リテハ會社法第二百二十四條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第六十六條 會社法第七十九條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス  
 第六十七條 會社法施行前ニ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ニ對シテハ會社法施行ノ日ヨリ六月以内ニ限リ會社法ノ規定ニ從ヒテ其ノ無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
 第六十八條 會社法施行後從前ノ規定ニ依リテ爲シタル資本ノ増加又ハ減少ノ訴ハ本店ノ所在地ニテ其ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月以







損害賠償ノ額ハ其ノ引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但シ延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ減失又ハ毀損ノ爲支拂フコトヲ要セザル運送貨物ノ他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第十六條 前條ノ規定ハ運送品ガ運送人又ハ其ノ運送ニ關シ使用シタル者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ減失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條 貨物、有價證券其ノ他ノ高價品ニ付テハ荷送人ガ運送ヲ委託スルニ當リ其ノ種類及價格ヲ明示スルニ非ザレバ運送人ハ損害賠償ノ責任ニ任セズ

第十八條 數人ノ運送人ガ相次テ運送ヲ引受クル場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ減失、毀損又ハ延著ニ付連帶シテ損害賠償ノ責任ニ任ズ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ運送人ノ中孰レガ損害ヲ生ゼシメタルカ不明ナルトキハ各運送人ハ其ノ運送貨物ノ割合ニ應ジテ損害ヲ分擔ス但シ自己又ハ運送ニ關シ使用シタル者ガ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 荷送人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其ノ他ノ指圖ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ズル運送費、附隨ノ費用、立替金及其ノ指圖ニ因リテ生ジタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

貨物引換證ノ發行アリタルトキハ前項ニ定ムル指圖ハ其ノ所持人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 運送品ガ到達地ニ達シタル後荷

受人ガ其ノ引渡ヲ請求シタルトキハ荷送人ハ前條第一項ニ定ムル權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第二十二條 運送品ガ到達地ニ達シタルトキハ荷送人ハ荷送人ト同一ノ權利ヲ取得ス

第二十三條 荷送人ガ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送費、附隨ノ費用及立替金ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第二十四條 運送人ノ責任ハ荷受人ガ担保ヲ爲サズシテ運送品ヲ受取リ且運送費、附隨ノ費用及立替金ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ運送品ニ直ニ發見スルコト能ハザル毀損又ハ一部減失アリタル場合ニ於テ荷受人ガ受取ノ日ヨリ二週間以内ニ運送人ニ對シ其ノ通知ヲ發シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 運送品ノ減失、毀損又ハ延著ニ因リテ生ジタル運送人ニ對スル損害賠償請求權ノ時効期間ハ二年トス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部減失ノ場合ニ於テハ其ノ引渡アルベカリシ日ヨリ、其ノ他ノ場合ニ於テハ荷受人ガ運送品ヲ受取リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二十六條 前二條ノ規定ハ損害ガ運送人又ハ其ノ運送ニ關シ使用シタル者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十七條 運送人ハ運送費、附隨ノ費用及立替金ニ付其ノ占有ニ係ル運送品ノ上ニ質權ヲ有ス

第二十八條 運送人ノ質權ガ互ニ競合スル場合ニ於テハ後ニ生ジタルモノノ前ニ生ジタルモノニ優先ス

第二十九條 運送人ノ質權ト海上運送人又ハ

運送取扱人ノ質權ト競合スル場合ニ於テハ生ジタルモノノ前ニ生ジタルモノニ優先ス

第三十條 運送人ノ質權ト他ノ質權ト競合スル場合ニ於テハ法律ニ別段ノ定ナキ限り運送人ノ質權ハ他ノ質權ニ優先ス

第三十一條 數人ノ運送人アル場合ニ於テハ最終ノ運送人ハ前者ニ代リテ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ後者ガ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ數人ノ運送人及海上運送人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 荷受人ヲ確知スルコト能ハザルトキハ運送人ハ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付指圖ヲ爲スベキ旨ヲ催告シ其ノ期間内ニ荷送人ガ指圖ヲ爲サザルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

第三十三條 前條ノ規定ハ荷受人ガ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザル場合ニ之ヲ準用ス但シ運送人ハ荷送人ニ對スル催告ニ先チ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告スルコトヲ得

第三十四條 荷送人及荷受人ヲ確知スルコト能ハザルトキハ運送人ハ權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ヅベキ旨ヲ公告シ其ノ期間内ニ權利ヲ申出ヅル者ナキトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

前項ノ期間ハ六月ヲ下ルコトヲ得ズ

第三十五條 運送品ガ損毀ノ虞アルモノナルトキハ催告又ハ公告ヲ爲サズシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

第三十六條 運送品ヲ競賣シタルトキハ運送人ハ運送品ヲ知レタル荷送人及荷受人ニ對

シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十七條 運送品ヲ競賣シタルトキハ運送人ハ其ノ代價ヲ供託スルコトヲ要ス但シ其ノ全部又ハ一部ヲ運送費、附隨ノ費用及立替金ノ辨濟ニ充當スルコトヲ妨ゲズ

第三十八條 運送人ノ荷受人又ハ荷受人ニ對スル債權ノ時効期間ハ二年トス

第二節 旅客運送

第三十九條 運送人ハ自己又ハ運送ニ關シ使用シタル者ガ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ旅客ガ運送ノ爲ニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得

第四十條 運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

第四十一條 運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケザル手荷物ノ減失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ運送ニ關シ使用シタル者ノ故意又ハ過失アル場合ヲ除クノ外損害賠償ノ責任ニ任セズ

第二章 運送取扱營業

第四十二條 本法ニ於テ運送取扱人トハ本法又ハ海商法ノ規定ニ依ル物品運送ノ取次、代理又ハ媒介ヲ爲スコトヲ引受クル業トスル者ヲ謂フ

第四十三條 運送取扱人ハ自己又ハ運送取扱人ニ關シ使用シタル者ガ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人若ハ海上運送人又ハ運送取扱人ノ選擇其ノ他運送取扱ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ運送品ノ減失、毀損又ハ延著ニ付損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第四十四條 運送品ガ運送人又ハ海上運送人ニ引渡サレタルトキハ運送取扱人ハ直ニ其

ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 運送取扱人ハ報酬、附隨ノ費用及立替金ニ付其ノ占有ニ係ル運送品ノ上ニ質權ヲ有ス

第四十六條 第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ運送取扱人ノ質權ニ之ヲ準用ス

第四十七條 數人ノ運送取扱人アル場合ニ於テハ最終ノ運送取扱人ハ前者ニ代リテ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ後者ガ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第四十八條 運送取扱人ガ運送人又ハ海上運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人又ハ海上運送人ノ權利ヲ取得ス

第四十九條 運送ノ取次ヲ引受ケタル運送取扱人ハ自ら運送ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人又ハ海上運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テモ運送取扱人ハ報酬ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五十條 運送取扱契約ヲ以テ運送ニ關スル費用ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ自ラ運送ヲ爲スモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ運送取扱人ハ特約アルニ非ザレバ報酬ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 運送取扱人ノ委託者ニ對スル債權ノ時効期間ハ二年トス

第五十二條 第十七條、第二十五條及第二十六條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

附則

第五十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(應德四年十一月勅令第三二七號)

第五十四條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ

其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨ゲズ

第五十五條 本法施行前既ニ進行ヲ始メタル時効期間及本法施行前ニ發行シタル貨物引換證ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第五十六條 湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ハ交通部大臣之ヲ定ム

第五十七條 第三十四條ニ規定スル公告ノ方法ハ司法部大臣之ヲ定ム

○倉庫法

(應德四年六月二十四日勅令第一三四號)

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ倉庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、司法部長大臣)

倉庫法

第一條 本法ニ於テ倉庫營業者トハ物品ヲ倉庫ニ保管スルコトヲ引受クル業トスル者ヲ謂フ

第二條 倉庫營業者ハ寄託者ノ承諾アリタルトキニ限り寄託物ヲ種類及品質ノ同一ナル他ノ寄託物ト混和シテ保管スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各寄託者ハ寄託物入庫ノ當時ニ於ケル數量ノ割合ニ應ジテ寄託物ヲ共有ス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ハ他ノ寄託者ノ承諾ヲ得ズシテ各寄託者ニ對シ其ノ持分ヲ返還スルコトヲ得

第四條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ得

第五條 倉庫證券ニハ左ノ事項ヲ記載スベ



一 受寄物ノ種類、品質、數量並ニ其ノ荷  
 運ノ種類、箇數及記載  
 二 寄託者ノ氏名又ハ商號及住所  
 三 保管ノ場所  
 四 保管料  
 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間  
 六 混和シテ保管スルトキハ其ノ旨  
 七 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金  
 額、保險期間及保險者ノ氏名又ハ商號  
 八 倉庫證券ノ作成地及作成ノ年月日  
 九 倉庫證券ニハ倉庫營業者之ニ署名又ハ記名  
 捺印スルコトヲ要ス  
 第十條 倉庫證券ハ記名式ナルトキト雖モ裏  
 書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ倉庫  
 證券ニ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ  
 此ノ限ニ在ラス  
 第十一條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ倉  
 庫證券ニ寄託者ノ氏名又ハ商號ト共ニ其ノ  
 證券ノ所持人ニ寄託物ノ引渡ヲ爲スベキ旨  
 ヲ記載スルコトヲ要ス  
 第十二條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ寄託ニ  
 關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ  
 於テハ倉庫證券ノ定ムル所ニ依ル  
 第十三條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ寄託物  
 ニ關スル處分ハ倉庫證券ヲ以テスルニ非ザ  
 レバ之ヲ爲スコトヲ得ズ  
 第十四條 倉庫證券ニ依リ寄託物ヲ受取ルコト  
 ヲ得ベキ者ニハ倉庫證券ヲ引渡シタルトキハ  
 其ノ引渡ハ寄託物ノ上ニ行使スル權利ノ取  
 得ニ付寄託物ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス  
 第十五條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ之ト  
 引換ニ非ザレバ寄託物ノ返還ヲ請求スルコ  
 トヲ得ズ

第十二條 倉庫證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ  
 對シ寄託物ヲ分譲シ且其ノ各部分ニ對スル  
 倉庫證券ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ  
 得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ前ノ倉庫證券  
 ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス  
 第十三條 規定ニ依リ寄託物ノ分譲及倉庫證券  
 ノ交付ニ要スル費用ハ所持人ノ負擔トス  
 第十四條 倉庫證券ヲ以テ寄託物ヲ買入シタ  
 ル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託  
 者ハ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ  
 得此ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ハ返還シタ  
 ル寄託物ノ種類、品質及數量ヲ倉庫證券ニ  
 記載スルコトヲ要ス  
 第十五條 倉庫營業者ハ寄託物ヲ受取リタル  
 トキハ過期ナク之ヲ検査シ容易ニ知リ得ベ  
 キ減失又ハ毀損アルトキハ直ニ之ヲ寄託者  
 又ハ知レタル倉庫證券ノ所持人ニ通知スル  
 コトヲ要ス  
 第十六條 倉庫營業者ハ受寄物ニ變質其ノ他  
 其ノ價格ヲ低下セシムル虞アル變更ヲ生ジ  
 タルコトヲ發見シタルトキハ過期ナク之ヲ  
 寄託者又ハ知レタル倉庫證券ノ所持人ニ通  
 知スルコトヲ要ス  
 第十七條 前二條ノ場合ニ於テ倉庫營業者ガ  
 通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ之ニ因リ  
 テ生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ  
 第十八條 倉庫營業者ハ自己又ハ倉庫寄託ニ  
 關シ使用シタル者ガ受寄物ノ保管ニ關シ注  
 意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ  
 受寄物ノ減失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ責ヲ  
 免ルルコトヲ得ズ  
 第十九條 寄託者又ハ倉庫證券ノ所持人ハ營  
 業時間内何時ニモ倉庫營業者ニ對シテ寄  
 託物ノ點檢若ハ其ノ見本ノ提出ヲ求メ又ハ

其ノ保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得  
 第二十條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非  
 ザレバ保管料、附隨ノ費用及立替金ノ支拂  
 ヲ請求スルコトヲ得但シ保管期間經過ノ  
 後ハ出庫前ト雖モ其ノ支拂ヲ請求スルコト  
 ヲ得  
 第二十一條 倉庫證券ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ倉庫營業  
 者ハ其ノ割合ニ應ジ保管料、附隨ノ費用及  
 立替金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得  
 第二十二條 寄託者ガ寄託者ノ責ニ歸スベキ事由  
 ニ因リ保管期間ノ經過前ニ終了シタルトキ  
 ハ倉庫營業者ハ保管料ノ全額ヲ請求スルコ  
 トヲ得  
 第二十三條 倉庫營業者ガ保管期間ヲ定メザリシ  
 トキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六  
 月ヲ經過スルニ非ザレバ其ノ返還ヲ爲スコ  
 トヲ得ズ  
 第二十四條 倉庫營業者ハ受寄物ノ返還ヲ爲スニハ  
 前項ノ場合ニ於テ受寄物ノ返還ヲ爲スニハ  
 二週間以前ニ豫告ヲ爲スコトヲ要ス  
 第二十五條 已ムコトヲ得ザル事由アルトキ  
 ハ倉庫營業者ハ前條ノ規定ニ拘ラズ何時ニ  
 テモ受寄物ノ返還ヲ爲スコトヲ得  
 第二十六條 倉庫營業者ノ責任ハ寄託者又ハ  
 倉庫證券ノ所持人ガ留保ヲ爲サズシテ寄託  
 物ヲ受取リ且保管料、附隨ノ費用及立替金  
 ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ寄託物ニ直  
 ニ發見スルコト能ハザル毀損又ハ一部減失  
 アリタル場合ニ於テ寄託者又ハ倉庫證券ノ  
 所持人ガ受取ノ日ヨリ二週間以内ニ倉庫營  
 業者ニ對シテ其ノ通知ヲ發シタルトキハ此  
 ノ限ニ在ラス  
 第二十七條 寄託物ノ減失又ハ毀損ニ因リテ  
 生ジタル倉庫營業者ニ對スル損害賠償請求  
 權ノ時効期間ハ二年トス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部減失ノ場合ニ於  
 テハ倉庫營業者ガ寄託者又ハ倉庫證券ノ所  
 持人若其ノ所持人知レザルトキハ寄託者ニ  
 對シ其ノ減失ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ、其  
 ノ他ノ場合ニ於テハ出庫ノ日ヨリ之ヲ起算  
 ス  
 第二十五條 前二條ノ規定ハ損害ガ倉庫營業  
 者又ハ其ノ倉庫寄託ニ關シ使用シタル者ノ  
 故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場  
 合ニハ之ヲ適用セズ  
 第二十六條 倉庫營業者ハ保管料、附隨ノ費  
 用及立替金ニ付其ノ占有ニ係ル受寄物ノ上  
 ニ質權ヲ有ス  
 第二十七條 倉庫營業者ノ質權ト運送人若ハ  
 海上運送人又ハ運送取扱人ノ質權ト組合ス  
 ル場合ニ於テハ後ニ生ジタルモノ前ニ生ジ  
 タルモノニ優先ス  
 第二十八條 倉庫營業者ノ質權ト他ノ質權ト  
 組合スル場合ニ於テハ法律ニ別段ノ定メナ  
 限リ倉庫營業者ノ質權ハ他ノ質權ニ優先  
 ス  
 第二十九條 寄託者又ハ倉庫證券ノ所持人ガ  
 寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ル  
 コト能ハザルトキハ倉庫營業者ハ寄託者又  
 ハ倉庫證券ノ所持人ニ對シ相當ノ期間ヲ定  
 メ寄託物ノ受取ヲ催告シ其ノ期間内ニ受取  
 ヲ爲サザルトキハ之ヲ賣買スルコトヲ得此  
 ノ場合ニ於テハ過期ナク寄託者又ハ倉庫證  
 券ノ所持人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ  
 要ス  
 第三十條 寄託者又ハ倉庫證券ノ所持人ヲ確  
 知スルコト能ハザルトキハ倉庫營業者ハ權  
 利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出  
 ヲベキ旨ヲ公告シ其ノ期間内ニ權利ヲ申出

ザル者ナキトキハ受寄物ヲ賣買スルコトヲ  
 得  
 第三十一條 前項ノ期間ハ六月ヲ下ルコトヲ得ズ  
 第三十二條 受寄物ガ損毀ノ虞アルモノナル  
 トキハ催告又ハ公告ヲ爲サズシテ之ヲ賣買  
 スルコトヲ得  
 第三十三條 受寄物ヲ賣買シタルトキハ倉庫  
 營業者ハ其ノ代價ヲ供託スルコトヲ要ス但  
 シ其ノ全部又ハ一部ヲ保管料、附隨ノ費用  
 及立替金ノ辨濟ニ充當スルコトヲ妨グズ  
 第三十四條 倉庫營業者ノ寄託者ニ對スル債  
 權ノ時効期間ハ二年トス  
 第三十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之  
 ヲ定ム(康徳四年十一月勅令第三二八號)  
 第三十六條 本法ノ施行ハ一月ヨリ施行ス  
 第三十七條 本法ノ施行ニ必要ナル事項ニモ亦之ヲ適用  
 ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ  
 妨グズ  
 第三十八條 本法施行前既ニ進行ヲ始メタル  
 時効期間及本法施行前ニ發行シタル倉庫證  
 券ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 第三十九條 第三十條ニ規定スル公告ノ方法  
 ハ司法部大臣之ヲ定ム

○手形法

(康徳四年五月十三日)  
 勅令第八九號  
 朕組織法(四十一條)ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ  
 經テ手形法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 (國務總理、司法大臣 署)

第一編 爲替手形  
 第一章 爲替手形ノ振出及方式  
 第一條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベ  
 シ  
 一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フ  
 ル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ  
 示ス文字  
 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル  
 委託  
 三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱  
 四 満期ノ表示  
 五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示  
 六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指圖ス  
 ル者ノ名稱  
 七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示  
 八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名  
 第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證  
 券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數  
 項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモ  
 ノト看做ス  
 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示  
 ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所  
 地タルモノト看做ス  
 振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱  
 ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノ  
 ト看做ス  
 第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之  
 ヲ振出スコトヲ得爲替手形ハ振出人ノ自己  
 宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得  
 爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出ス  
 コトヲ得  
 第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地在ルト  
 又ハ其ノ他ノ地在ルトトテ四ハズ第三者ノ



住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得  
 第五條 一覽後定期拂ノ爲替手形  
 ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズ  
 ベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ  
 爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲  
 サザルモノト看做ス  
 利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ  
 表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲  
 サザルモノト看做ス  
 利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振  
 出ノ日ヨリ發生ス  
 第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ  
 記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アル  
 トキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金  
 額トス  
 爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以  
 テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額  
 ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス  
 第七條 爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力  
 ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名  
 又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者  
 若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハ  
 ザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務  
 ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲタルコトナシ  
 第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ  
 爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形  
 ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタル  
 トキハ本人ト同一權利ヲ有ス權限ヲ起エタ  
 ル代理人ニ付亦同ジ  
 第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス  
 振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコ  
 トヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ  
 之ヲ記載セザルモノト看做ス  
 第十條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ據

メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合  
 ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗  
 スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ同意又ハ重大  
 ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキ  
 ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第二條 裏書  
 第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザル  
 トキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコト  
 ヲ得  
 振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ  
 之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタル  
 トキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル  
 方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡  
 スルコトヲ得  
 裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂  
 人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ  
 爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書ス  
 ルコトヲ得  
 第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ  
 附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做  
 ス  
 一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス  
 持受人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力  
 ヲ有ス  
 第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタ  
 ル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スル  
 コトヲ要ス  
 裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又  
 ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコ  
 トヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ  
 裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲ス  
 ニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ  
 第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ  
 權利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ  
 一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地  
 ヲ補充スルコトヲ得  
 二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ  
 手形ヲ裏書スルコトヲ得  
 三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手  
 形ヲ裏書スルコトヲ得  
 第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受  
 及支拂ヲ擔保ス  
 裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ  
 場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被  
 裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ  
 第十六條 爲替手形ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ  
 依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ  
 所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場  
 合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係  
 ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地  
 式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書  
 ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ  
 取得シタルモノト看做ス  
 事由ノ何タルヲ問ハズ爲替手形ノ占有者失  
 ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規  
 定ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ手形ヲ  
 返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ  
 同意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタ  
 ルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第十七條 爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者  
 ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的  
 關係ニ基テ抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコ  
 トヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ爲スル  
 コトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ  
 限ニ在ラズ  
 第十八條 裏書ニ「同收ノ爲」、「取立ノ爲」、  
 「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言ヲ

ルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切  
 ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代  
 理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗  
 スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコ  
 トヲ得ベカリシモノニ限ル  
 代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡  
 又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ  
 終了セズ  
 第十九條 裏書ニ「擔保ノ爲」、「買入ノ爲」其  
 ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持  
 人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使  
 スルコトヲ得但シ所持人ノ爲シタル裏書ハ  
 代理ノ爲ノ裏書トシテノ效力ノミヲ有ス  
 債務者ハ裏書人ニ對スル人的關係ニ基テ抗  
 辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ  
 所持人ガ其ノ債務者ヲ爲スルコトヲ知リテ  
 手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第二十條 満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書ト同  
 一ノ效力ヲ有ス但シ支拂拒絶證書作成後ノ  
 裏書又ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏  
 書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス  
 日附ノ記載ナキ裏書ハ支拂拒絶證書作成期  
 間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス  
 第二十一條 爲替手形ノ所持人又ハ單ナル占  
 有者ハ満期ニ至ル迄引受ノ爲支拂人ニ其ノ  
 住所ニ於テ之ヲ呈示スルコトヲ得  
 第二十二條 振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ  
 又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示スベキ旨  
 ヲ記載スルコトヲ得  
 振出人ハ手形ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ズル旨  
 ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第三者方ニ  
 テ若ハ支拂人ノ住所ニ非ザル地ニ於テ支

拂フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期拂ナ  
 ルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 振出人ハ一定ノ期日前ニハ引受ノ爲ノ呈示  
 ヲ爲スベカラザル旨ヲ記載スルコトヲ得  
 各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受  
 ノ爲手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ  
 得但シ振出人ガ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ジタル  
 トキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第二十三條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ其ノ  
 日附ヨリ一年以内ニ引受ノ爲之ヲ呈示スル  
 コトヲ要ス  
 振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スル  
 コトヲ得  
 裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得  
 第二十四條 支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第  
 二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ  
 得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒絶證書ニ記載  
 セラレタルトキニ限り之ニ應ズル呈示ナカ  
 リシコトヲ主張スルコトヲ得  
 所持人ハ引受ノ爲ニ呈示シタル手形ヲ支拂  
 人ニ交付スルコトヲ要セズ  
 第二十五條 引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載スベ  
 シ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有  
 スル文字ヲ以テ表示シ支拂人署名スベシ手  
 形ノ裏面ニ爲シタル支拂人ノ單ナル署名ハ  
 之ヲ引受ト看做ス  
 一覽後定期拂ノ手形又ハ特別ノ記載ニ從ヒ  
 一定ノ期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲スベキ  
 手形ニ於テハ所持人ガ呈示ノ日ノ日附ヲ記  
 載スベキコトヲ請求シタル場合ヲ除ク外  
 引受ニハ之ヲ爲シタル日ノ日附ヲ記載スル  
 コトヲ要ス日附ノ記載ナキトキハ所持人ハ  
 裏書人及振出人ニ對スル請求權ヲ保全スル  
 爲ニハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶證書

ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ證スルコト  
 ヲ要ス  
 第二十六條 引受ハ單純ナルベシ但シ支拂人  
 ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得  
 引受ニ依リ爲替手形ノ記載事項ニ加ヘタル  
 他ノ變更ハ引受ノ拒絶タル效力ヲ有ス但シ  
 引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ  
 第二十七條 振出人ガ支拂人ノ住所地下異ル  
 支拂地ヲ爲替手形ニ記載シタル場合ニ於テ  
 第三者方ニテ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ定メザリ  
 シトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第  
 三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキ  
 ハ引受人ハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス義  
 務ヲ負ヒタルモノト看做ス  
 手形ガ支拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキモノ  
 ナルトキハ支拂人ハ引受ニ於テ支拂地ニ於  
 テル支拂ノ場所ヲ定ムルコトヲ得  
 第二十八條 支拂人ハ引受ニ因リ満期ニ於テ  
 爲替手形ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ  
 支拂ナキ場合ニ於テハ所持人ハ第四十八條  
 及第四十九條ノ規定ニ依リテ請求スルコト  
 ヲ得ベキ一切ノ金額ニ付引受人ニ對シ爲替  
 手形ヨリ生ズル直接ノ請求權ヲ有ス所持人  
 ガ振出人ナルトキト雖モ亦同ジ  
 第二十九條 爲替手形ニ引受ヲ記載シタル支  
 拂人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタル  
 トキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ  
 證券ノ返還前ニ之ヲ爲シタルモノト推定  
 ス  
 前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以テ所  
 持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知  
 ヲ爲シタルトキハ此等ノ者ニ對シ引受ノ文  
 言ニ從ヒテ責任ヲ負フ  
 第四條 保匯







書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人ノ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同シ

第四十八條 所持人ハ請求ヲ受ケタル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息

二 年六分ノ率ニ依ル滿期以後ノ利息

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

滿期前ニ請求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前項ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絶證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人ノ事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 參加

第一節 通則

第五十五條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

爲替手形ハ請求ヲ受クベキ何レノ債務者ノ爲ニ參加ヲ爲ス者ニ於テモ本章ニ規定スル條件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

參加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

參加人ハ其ノ被參加人ニ對シ二取引日以内ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 參加引受

第五十六條 參加引受ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ゼザル爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ニ爲替手形ヲ呈示シ且拒絶證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ證明スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

參加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ參加引受

三 其ノ支出シタル費用

第五十條 請求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取ノ證書、記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條 一節引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ請求ヲ爲スコトヲ得シムル爲手形ノ證明書本及拒絶證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂トシテ振出し且其ノ住所ニ於テ支拂フベキ新形手形(戻手形)ニ依リ請求ヲ爲スコトヲ得

戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印花稅ヲ含ム

所持人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ニ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住所ニ宛テ振出す一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所ニ於テ前者ノ住所ニ宛テ振出す一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三條 左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ

三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶ニ因リ請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

第五十四條 法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ滿期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコトヲ得

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期拂ノ爲替手

ヲ拒ムコトヲ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル請求權ヲ失フ

第五十七條 參加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ參加人署名スベシ參加引受ニハ被參加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十八條 參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ

被參加人及其ノ前者ハ參加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絶證書及受取ノ證書ヲ記載ヲ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節 參加支拂

第五十九條 參加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スベキ金額ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有スル參加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ豫備支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支拂拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ拒絶證書ノ作成ナキトキハ豫備支拂人ヲ記載シタル者又ハ被參加人及

其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一條 參加支拂ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベカラシ者ニ對シ請求權ヲ失フ

第六十二條 參加支拂ハ被參加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

爲替手形ハ參加支拂人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ之ヲモ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 參加支拂人ハ被參加人及其ノ前者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ

被參加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

參加支拂ノ場合ニ於テハ最も多數ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ參加シタル者ハ義務ヲ免ルベカラシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第九節 複本

第六十四條 爲替手形ハ同一ノ内容ノ數通ヲ以テ之ヲ振出すコトヲ得

此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス

一通限ニテ振出す旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シテ其ノ請求ヲ爲シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ手續ヲ爲スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及

民事法 商法 手形法 爲替手形 參加 通則 參加引受 參加支拂 複本及複本 複本



ブベキモノト各裏書人ハ新ナル債本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五條 債本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ債本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支拂人ハ引受ヲ爲シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條 引受ノ爲メ債本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名稱ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對シテ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ左ノ事實ヲ證明スルニ非ザレバ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

一 引受ノ爲メ送付シタル一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト

二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受タルコト能ハザリシコト

第六十七條 爲替手形ノ所持人ハ其ノ債本ヲ作ル權利ヲ有ス

債本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス

第六十八條 債本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ債本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレ

ザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ債本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ニ對シ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

債本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ債本ニ爲シタルモノノミ効力ヲ有ス」ノ文句其ノ他之ト同一ノ宣義ヲ有スル文句ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス

第六十九條 爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第七十條 引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ種ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ種ル

裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ種ル

第七十一條 時効ノ中断ハ其ノ中断ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ

第七十二條 滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受ノ爲メ示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前

項ノ行爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ満了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四條 恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトハ之ヲ認メズ

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束

三 滿期ノ表示

四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受タル者ヲ指稱スル者ノ名稱

六 手形ヲ提出ス日及地ノ表示

七 手形ヲ提出ス者(振出人)ノ署名

第七十六條 前條ニ掲ゲタル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ事項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且振出人ノ住所タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十七條 左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

一 裏書(第三十一條乃至第三十二條)

二 滿期(第三十三條乃至第三十七條)

三 支拂(第三十八條乃至第四十二條)

四 支拂拒絕ニ因ル請求(第四十三條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十四條)

五 參加支拂(第五十五條、第五十九條乃至第六十三條)

六 債本(第六十七條及第六十八條)

七 變造(第六十九條)

八 時効(第七十條及第七十一條)

九 休日、期間ノ計算及恩惠日ノ禁止(第七十二條乃至第七十四條)

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂ヲ爲スベキ爲替手形(第四條及第二十七條)、利息ノ約定(第五條)、支拂金額ニ關スル記載ノ差異(第六條)、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ爲シタル者ノ署名ノ效果(第八條)及自地爲替手形(第十條)ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス

保證ニ關スル規定(第三十條乃至第三十二條)モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ於テ何人ノ爲メ保證ヲ爲シタルカヲ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ爲メ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル期間内ニ振出人ノ一覽ノ爲メ之ヲ表示スルコトヲ要ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絕證書ニ依リテ之ヲ證明ス

ルコトヲ要ス(第二十五條)其ノ日附ハ一覽ノ後期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法ハ康慶四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十一條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十二條 第三十八條第二項(第七十七條第一項)ニ於テ準用スル場合ヲ含ムノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第八十三條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人ノ引受人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中断ス

前項ノ規定ニ因リテ中断シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ進行ヲ始ム

第八十六條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十七條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ本國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ

國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第八十八條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラズルコトナシ

滿洲國人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ滿洲國ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ滿洲國人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第八十九條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル效力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ請求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 爲替手形ノ引受人ヲ形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第九十二條 拒絕證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又



ハ保存ニ必要ナル行為ノ方式ハ拒絕證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行為ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十三條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

### ○小切手法

(庚辰四年五月十三日勅令第九〇號)

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ小切手法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、司法部長)

#### 小切手法

##### 第一章 小切手ノ振出及方式

第一條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用テタル語ヲ以テ記載スル小切手ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱

四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

五 小切手ヲ振出ス日及地ノ表示

六 小切手ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ小切手タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ比ノ限ニ在ラズ

支拂ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ト看做ス支拂人ノ名稱ニ數箇ノ地ノ附記アルトキハ小切手ハ初頭ニ記載シタル地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

トキト雖モ證券ノ小切手タル效力ヲ妨グズ

第四條 小切手ハ引受テ得ズ小切手ニ爲シタル引受ノ手續ヲ爲サザルモノト看做ス

第五條 小切手ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

一 記名式又ハ指圖式

二 記名式ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載スルモノ

三 持參人拂式

前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ振出地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 小切手ハ其ノ呈示ノ時ニ於テ振出人ノ處分シ得ル資金アル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ資金ヲ小切手ニ依リ處分スルコトヲ得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振出スベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザル

記名ノ小切手ニシテ「又ハ持參人ニ」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス受取人ノ記載ナキ小切手ハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

第六條 小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

第七條 小切手ニ記載シタル利息ノ約定ハ之ヲ爲サズルモノト看做ス

第八條 小切手ハ支拂人ノ住所ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト開ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得但シ其ノ第三者ハ銀行タルコトヲ要ス

第九條 小切手ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ小切手金額トシテ文字ヲ以テ記載シタル金額ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小額ヲ小切手金額トス

第十條 小切手ニ小切手債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ小切手ノ署名者若ハ其ノ本人ニ債務ヲ負ハシムルコト能ハズル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲メ其ノ效力ヲ妨グザルモノトナシ

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ小切手ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ小切手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂フ爲メシタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第十二條 振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十三條 未完成ニテ振出シタル小切手ニ對シテ其ノ合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對シタル過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

記名式小切手ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルモノハ指圖讓渡ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テ之ヲ讓渡スルコトヲ得

裏書ハ振出人ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

第十五條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

支拂人ノ裏書モ亦之ヲ無効トス

持參人トシテ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

支拂人ニ對シテ爲シタル裏書ハ受取證書タル效力ノミヲ有ス但シ支拂人ガ數箇ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ振出テラレタル營業所以外ノ營業所ニ對シテ爲シタル裏書ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 裏書ハ小切手又ハ之ト結合シタル紙片(補書)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ小切手ノ裏面又ハ補書ニ之ヲ爲スニ非デレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十七條 裏書ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ小切手ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得

第十八條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り支拂ヲ擔保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ寫ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ小切手ノ裏面ニ被裏書人ニ對シテ擔保ノ實ヲ負フコトナシ

第十九條 裏書シ得ベキ小切手ノ占有者ガ裏書ノ讓渡ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス

第二十條 持參人拂式小切手ニ裏書ヲ爲シタルトキハ裏書人ハ更ニ關スル規定ニ從ヒ責任ヲ負フ但シ之ガ爲メ證券ハ指圖式小切手ニ變ズルコトナシ

第二十一條 事由ノ何タルヲ問ハズ小切手ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切手ヲ取得シタル所持人ハ小切手ガ持參人トシテ其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ該意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人ノ他ノ所持人ノ前者ニ對シタル關係ニ基テ抗辯ヲ以テ所持人ニ對シタルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ裏書スルコトヲ知リテ小切手ヲ取得シタルトキハ此



ノ限ニ在ラズ  
 第二十三條 裏書ニ「回収ノ爲」「取立ノ爲」  
 「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アリ  
 ルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ  
 權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理  
 ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗  
 スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコ  
 トヲ得ベカリシモノニ限ル  
 代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡  
 又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ  
 終了セズ  
 第二十四條 拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ  
 有スル宣言ノ作成後ノ裏書又ハ呈示期間經  
 過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ  
 有ス  
 日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絶證書若ハ之ト同  
 一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成前又ハ呈示期  
 間經過後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス  
 第三十條 保證  
 第二十五條 小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部  
 又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコト  
 ヲ得  
 支拂人ヲ除ク外第三者ハ前項ノ保證ヲ爲  
 スコトヲ得小切手ニ署名シタル者ト雖モ亦  
 同ジ  
 第二十六條 保證ハ小切手又ハ補箋ニ之ヲ爲  
 スベシ  
 保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有ス  
 ル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スベシ  
 小切手ノ裏面ニ爲シタル單ナル署名ハ之ヲ  
 保證ト看做ス但シ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ  
 在ラズ  
 保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカラ表示スル  
 コトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲  
 ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第二十七條 保證人ハ保證セラレタル者ト同  
 一ノ責任ヲ負フ  
 保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ  
 除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ効ナルトキ  
 ト雖モ之ヲ有效トス  
 保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保  
 證セラレタル者及其ノ者ノ小切手上ノ債務  
 者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス  
 第四條 呈示及支拂  
 第二十八條 小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ  
 反スル一切ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看  
 做ス  
 振出ノ日附トシテ記載シタル日ヨリ前ニ支  
 拂ノ爲呈示シタル小切手ハ呈示ノ日ニ於テ  
 之ヲ支拂ベキモノトス  
 第二十九條 國內ニ於テ振出シ且支拂ベキ  
 小切手ハ十日以内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スル  
 コトヲ要ス  
 支拂ノ爲スベキ國ト異ル國ニ於テ振出シタ  
 ル小切手ハ振出地及支拂地ガ同一洲ニ存ス  
 ルトキハ二十日以内又異ル洲ニ存スルトキ  
 ハ七十日以内ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス  
 前項ニ關シテハ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ振出  
 シ地中海沿岸ノ一國ニ於テ支拂ベキ小切  
 手又ハ地中海沿岸ノ一國ニ於テ振出シ歐羅  
 巴洲ノ一國ニ於テ支拂ベキ小切手ハ同一  
 洲内ニ於テ振出シ且支拂ベキモノト看做  
 ス  
 本條ニ掲グル期間ノ起算日ハ小切手ニ振出  
 ノ日附トシテ記載シタル日トス  
 第三十條 小切手ガ裏面ニ署名スル地ノ間ニ  
 振出シタルモノナルトキハ振出ノ日ヲ支拂  
 地ノ應當日ニ換フ  
 第三十一條 手形交換所ニ於ケル小切手ノ呈  
 示ハ支拂ノ爲ノ呈示タル效力ヲ有ス  
 第三十二條 小切手ノ支拂委託ノ取消ハ呈示  
 期間經過後ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ  
 支拂委託ノ取消ナキトキハ支拂人ハ期間經  
 過後ト雖モ支拂ノ爲ニ付得  
 第三十三條 振出ノ後振出人ガ死亡シ又ハ能  
 カラ失フモ小切手ノ效力ニ影響ヲ及ボスコ  
 トナシ  
 第三十四條 小切手ノ支拂人ハ支拂ノ爲スニ  
 當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取ヲ請スル記  
 帳ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スル  
 コトヲ得  
 所持人ハ一部支拂ヲ拒ムコトヲ得ズ  
 一部支拂ノ場合ニ於テハ支拂人ハ其ノ支拂  
 アリタル旨ノ小切手上ノ記載及受取證書ノ  
 交付ヲ請求スルコトヲ得  
 第三十五條 裏書シ得ベキ小切手ノ支拂ノ爲  
 ス支拂人ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義  
 務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ  
 第三十六條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以  
 テ支拂ベキ旨ヲ記載シタル小切手ニ付テ  
 ハ其ノ呈示期間内ニ支拂ノ日ニ於ケル價格  
 ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ノ爲スコト  
 ヲ得呈示ノ爲スモ支拂ナカリシトキハ所持  
 人ハ其ノ選擇ニ依リ呈示ノ日又ハ支拂ノ日  
 ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ小切手ノ  
 金額ヲ支拂ベキコトヲ請求スルコトヲ  
 得  
 外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ  
 定ム但シ振出人ハ小切手ニ定メタル換算率  
 ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スル  
 コトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ  
 支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂文句)ヲ記  
 載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル  
 通貨ニ依リ小切手ノ金額ヲ定メタルトキハ  
 支拂地ノ通貨ニ依リ之ヲ定メタルモノト  
 推定ス  
 第五條 振引小切手  
 第三十七條 小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小  
 切手ニ振引ヲ爲スコトヲ得振引ハ次條ニ定  
 ムル效力ヲ有ス  
 振引ハ小切手ノ表面ニ二條ノ平行線ヲ引キ  
 テ之ヲ爲スベシ振引ハ一般又ハ特定タルコ  
 トヲ得  
 二條ノ線内ニ何等ノ指定ヲ爲サザルカ又ハ  
 「銀行」若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ  
 記載シタルトキハ振引ハ之ヲ一般トス二條  
 ノ線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載シタルトキハ振  
 引ハ之ヲ特定トス  
 一般振引ハ之ヲ特定振引ニ變更スルコトヲ  
 得ルモ特定振引ハ之ヲ一般振引ニ變更スル  
 コトヲ得ズ  
 振引又ハ被指定銀行ノ名稱ノ抹消ハ之ヲ爲  
 サザルモノト看做ス  
 第三十八條 一般振引小切手ハ支拂人ニ於テ  
 銀行ニ對シ又ハ支拂人ノ取引先ニ對シテノ  
 ミ之ヲ支拂フコトヲ得  
 特定振引小切手ハ支拂人ニ於テ被指定銀行  
 ニ對シテノミ又ハ被指定銀行ガ支拂人ナルト  
 キハ自己ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フ  
 コトヲ得但シ被指定銀行ハ他ノ銀行ヲシテ  
 小切手ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得  
 銀行ハ自己ノ取引先又ハ他ノ銀行ヨリノミ  
 振引小切手ヲ取得スルコトヲ得銀行ハ此等  
 ノ者以外ノ者ノ爲ニ振引小切手ノ取立ヲ爲  
 スコトヲ得ズ  
 數箇ノ特定振引アル小切手ハ支拂人ニ於テ  
 之ヲ支拂フコトヲ得ズ但シ二箇ノ振引アル  
 場合ニ於テ其ノ一ガ手形交換所ニ於ケル取  
 立ノ爲ニ爲サレタルモノナルトキハ此ノ限  
 ニ在ラズ  
 前四項ノ規定ヲ遵守セザル支拂人又ハ銀行  
 ハ之ガ爲ニ生ジタル損害ニ付小切手ノ金額  
 ニ連スル迄賠償ノ責任ヲ負  
 第六條 支拂拒絶ニ因ル請求  
 第三十九條 適法ノ時期ニ呈示シタル小切手  
 ノ支拂ナキ場合ニ於テ左ノ何レカニ依リ支  
 拂拒絶ヲ證明スルトキハ所持人ハ裏書人、  
 振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ請求權ヲ  
 行フコトヲ得  
 一 公正證書(拒絶證書)  
 二 小切手ニ呈示ノ日ヲ表示シテ記載シ且  
 日附ヲ附シタル支拂人ノ宣言  
 三 適法ノ時期ニ小切手ヲ呈示シタルモ其  
 ノ支拂ナカリシ旨ヲ證明シ且日附ヲ附シ  
 タル手形交換所ノ宣言  
 第四十條 拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有  
 スル宣言ハ呈示期間經過後ニ之ヲ作ラシム  
 ルコトヲ要ス  
 期間ノ末日ニ呈示アリタルトキハ拒絶證書  
 又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ之ニ次  
 グ第一ノ取引日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ  
 得  
 第四十一條 所持人ハ拒絶證書又ハ之ト同一  
 ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ日ニ次グ又ハ  
 無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日  
 ニ次グ四取引日以内ニ自己ノ裏書人及振出  
 人ニ對シ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スル  
 コトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ  
 次グ二取引日以内ニ前ノ通知者全員ノ名稱  
 及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己  
 ノ裏書人ニ通知シ願次振出人ニ及ボモノト  
 ス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ  
 進行ス  
 前項ノ規定ニ從ヒ小切手ノ署名者ニ通知ヲ  
 爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一  
 ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス  
 裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載  
 ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接  
 ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル  
 通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテ  
 モ之ヲ爲スコトヲ得單ニ小切手ヲ返付スル  
 ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得  
 通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ  
 爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期  
 間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場  
 合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看  
 做ス  
 前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權  
 利ヲ失フコトヲナシ但シ過失ニ因リテ生ジタ  
 ル損害アルトキハ小切手ノ金額ヲ超エザル  
 範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責任ヲ負  
 第四十二條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證  
 券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」(拒  
 絶證書不要)ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義  
 ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ選  
 求權ヲ行フ爲ノ拒絶證書又ハ之ト同一ノ効  
 力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ免除スルコトヲ  
 得  
 前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於  
 ケル小切手ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スル  
 コトヲシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ



支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得

支拂保證ハ小切手ノ表面ニ「支拂保證」其ノ他支拂ヲ爲ス旨ノ文字ヲ以テ表示シ日附ヲ附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス

支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈示アリタル場合ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂人キ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコトハ第三十九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ提出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セララルル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

小切手ニ關スル行為ヲ爲ス爲メ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言

第三 其ノ支出シタル費用

第四十六條 請求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及小切手ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

小切手ヲ受取シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第四十七條 法定ノ期間内ニ於ケル小切手ノ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ガ遅クベカラザル障礙(國ノ法令ニ依リテ其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且小切手又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク支拂ノ爲小切手ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ヲ通知シタル日ヨリ十五日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示期間經過前ニ其ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコトヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テハ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第七十條 本

第四十八條 一國ニ於テ提出シ他ノ國ニ於テ若ハ提出國ノ海外領土ニ於テ支拂ベキ小切手、一國ノ海外領土ニ於テ提出シ其ノ國ニ於テ支拂ベキ小切手、一國ノ同一海外領土ニ於テ提出シ且支拂ベキ小切手又ハ一國ノ同一海外領土ニ於テ提出シ其ノ國ノ海外領土ニ於テ支拂ベキ小切手ハ持參人拂ノモノヲ除クノ外同一内容ノ數額ヲ以テ之ヲ提出スコトヲ得數額ヲ以テ小切手ヲ提出シタルトキハ其ノ體面ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第四十九條 複本ノ一連ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム

數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第五十條 小切手ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第九十條 時効

第五十一條 所持人ノ裏書人、提出人其ノ他ノ債務者ニ對スル請求權ハ呈示期間經過後六月ヲ以テ時効ニ罹ル

小切手ノ支拂ヲ爲スベキ債務者ノ他ノ債務者ニ對スル請求權ハ其ノ債務者ガ小切手ノ受取ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十二條 時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテ之ニ其ノ效力ヲ生ズ

第十條 支拂保證

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得

支拂保證ハ小切手ノ表面ニ「支拂保證」其ノ他支拂ヲ爲ス旨ノ文字ヲ以テ表示シ日附ヲ附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス

支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈示アリタル場合ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

支拂人キ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコトハ第三十九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ提出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セララルル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

小切手ニ關スル行為ヲ爲ス爲メ呈示又ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言

ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ満了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第六十一條 本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第六十二條 恩惠日ハ法律上ノモノタルト認判上ノモノタルト認ハズ之ヲ認メズ

第六十三條 本法ハ康德四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 本法施行前ニ提出シタル小切手ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六十五條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第六十六條 勅令ヲ以テ指定スル亞細亞洲ノ地域ニ於テ提出シ滿洲國ニ於テ支拂ベキ小切手ノ呈示期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六十七條 第三十一條ノ手形交換所ハ司法

第六十八條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十九條 小切手ノ提出人が第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七十條 小切手ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ提出人、裏書人又ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 裏書人ノ他ノ裏書人及提出人ニ對スル小切手上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對

シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ續判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第七十二條 提出人又ハ所持人ガ證券ノ表面ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ記載ヲ有スル文言ヲ記載シテ現金ノ支拂ヲ要シタル小切手ニシテ外國ニ於テ提出シ滿洲國ニ於テ支拂ベキモノハ一經引小切手タル效力ヲ有ス

第七十三條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第七十四條 小切手ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依リコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ稱タル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領土ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依リテ能力ヲ有スベキトキハ實任ヲ負フ

第七十五條 小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ支拂人タルコトヲ得ザル者ヲ支拂人トシタル爲小切手が無効ナルトキト雖モ之ト同一ノ規定ナキ他ノ國ニ於テ其ノ小切手ニ爲シタル署名日ヲ生ズル債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラズルコトナシ

第七十六條 小切手上ノ行為ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ支拂地ノ屬スル國ノ法律ノ規定スル方式ニ依ルヲ以テ足ル

小切手上ノ行為ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナ



ラザル場合ト雖モ後ノ行為ヲ爲シタル地ノ  
關スル國ノ法律ニ依リテ適式ナルトキハ後  
ノ行為ハ前ノ行為ガ不適式ナルコトニ因リ  
其ノ效力ヲ妨ゲララルコトナシ滿洲國人ガ  
外國ニ於テ爲シタル小切手ノ行為ハ其ノ  
行爲ガ滿洲國ノ法律ニ規定スル方式ニ適合  
スル限り他ノ滿洲國人ニ對シ其ノ效力ヲ有  
ス  
第七十七條 小切手ヨリ生ズル義務ノ效力ハ  
署名ヲ爲シタル地ノ國ノ法律ニ依リ  
之ヲ定ム但シ題求權ヲ行使スル期間ハ一切  
ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法  
律ニ依リ之ヲ定ム  
第七十八條 左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ屬  
スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム  
一 小切手ハ一覽拂タルコトヲ要スルヤ否  
ヤ、一覽後定期拂トシテ振出シ得ルヤ否  
ヤ及先日附小切手ノ效力  
二 呈示期間  
三 小切手ニ引受、支拂保證、確認又ハ查  
證ヲ爲シ得ルヤ否ヤ及此等ノ記載ノ效力  
四 所持人ハ一部支拂ヲ請求シ得ルヤ否ヤ  
及一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤ  
五 小切手ニ捺引ヲ爲シ得ルヤ否ヤ、小切  
手ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意  
義ヲ有スル文言ヲ記載シ得ルヤ否ヤ及捺  
引又ハ「計算ノ爲」ノ文字若ハ之ト同一ノ  
意義ヲ有スル文言ノ記載ノ效力  
六 所持人ハ資金ニ對シ特別ノ權利ヲ有ス  
ルヤ否ヤ及此ノ權利ノ性質  
七 振出人ハ小切手ノ支拂ヲ委託ヲ取消シ  
又ハ支拂差止ノ手續ヲ爲シ得ルヤ否ヤ  
八 小切手ノ喪失又ハ廢雜ノ場合ニ爲スベ  
キ手續

九 裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對ス  
ル題求權保全ノ爲拒絶證書又ハ之ト同一  
ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トスルヤ否ヤ  
第七十九條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ  
他小切手ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナ  
ル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ  
其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ  
依リ之ヲ定ム

○海商法  
(明治四年六月二十四日)  
(勅令第135號)  
朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ  
經テ海商法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(國務總理、司法部長大臣)  
海商法目次  
第一章 船舶及船舶所有者  
第二章 船長

第三章 運送  
第一節 物品運送  
第一款 總則  
第二款 船荷證券  
第四章 共同海損  
第五章 船舶ノ衝突  
第六章 海難救助  
第七章 船舶債權及船舶抵押權  
附則  
海商法  
第一條 船舶及船舶所有者  
本法ニ於テ船舶トハ航海ノ用ニ供ス  
ルモノヲ謂フ  
本法ハ官署又ハ公署ノ所有船舶ニシテ非營  
利事業ノ爲使用スルモノニハ之ヲ適用セズ  
端舟其ノ他機杼ノミヲ以テ運轉シ又ハ主ト  
シテ機杼ヲ以テ運轉スル舟ニ付亦同ジ  
第二條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其  
ノ從物ト推定ス  
第三條 噸數二十噸以上ノ船舶ハ之ヲ登記  
スルコトヲ要ス  
第四條 民法第七十七條乃至第八十條ノ  
規定ハ登記シタル船舶ニ之ヲ準用ス  
第五條 航海中ニ在ル船舶ヲ保護シタル場合  
ニ於テ特約ナキトキハ其ノ航海ニ因リテ生  
ズル損益ハ該受人ニ歸スベキモノトス  
第六條 船舶ノ持分ノ移轉ニ因リ該船舶ノ所有  
ニ關スル船舶ガ滿洲國ノ國籍ヲ喪失スベキ  
トキハ合名會社ニ在リテハ他ノ社員、合資  
會社ニ在リテハ他ノ無限責任社員ハ相當ノ  
代價ヲ以テ其ノ持分ヲ買取ルコトヲ得  
第七條 船主又ハ假令押ハ發航ノ準備ヲ終リ  
タル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但

シ其ノ航海ヲ爲ス爲ニ生ジタル債務ニ付テ  
ハ此ノ限ニ在ラズ  
第八條 本法ノ適用ニ付テハ船舶ハ左ノ場合  
ニ於テ修繕スルコト能ハザルニ至リタルモ  
ノト看做ス  
一 船舶ガ其ノ現在地ニ於テ修繕ヲ受タル  
コト能ハズ且其ノ修繕ヲ爲スベキ地ニ到  
ルコト能ハザルトキ  
二 修繕費ガ船舶ノ價額ノ四分ノ三ヲ超ユ  
ルトキ  
前項第二號ノ價額ハ船舶ガ航海中毀損シタ  
ル場合ニ於テハ其ノ發航ノ時ニ於ケル價額  
トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ毀損前ニ有  
セシ價額トス  
第九條 船舶所有者ハ船長其ノ他ノ海員又ハ  
水先人ガ其ノ職務ヲ行フニ付故意又ハ過失  
ニ因リテ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責  
任ヲ負フ  
第十條 船舶所有者ハ船長ガ其ノ法定ノ權限  
内ニ於テ爲シタル行為ニ因リテ生ジタル債  
務又ハ前條ニ定ムル債務ニ付テハ航海ノ終  
ニ於テ船舶、運送貨物及船舶所有者ガ其ノ船  
舶ニ付有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ  
債權者ニ委付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ  
ハ船舶所有者ハ其ノ委付シタル財產ヲ以テ  
ノミ解決ヲ爲ス義務ヲ負フ  
前項ノ規定ハ海員ノ雇入ニ因リテ船舶所有者  
者ニ生ジタル債務ニ付テハ之ヲ適用セズ  
第十一條 船舶所有者ハ左ニ掲グル場合ニ於  
テハ前條第一號ノ委付權ヲ有セズ  
一 船舶所有者ニ故意又ハ過失アリタルト  
キ  
二 船舶所有者ガ船長ノ行為ニ對シ特ニ權  
限ヲ與ヘ又ハ承認ヲ爲シタルトキ

第十二條 登記シタル船舶ヲ委付スルニハ其  
ノ登記簿ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ場合ヲ除クノ外委付ハ債權者ノ一人  
ニ對シテ其ノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ル  
第十三條 船舶所有者ガ債權者ノ同意ヲ得ズ  
シテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第十條  
第一號ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ  
第十四條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ  
利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格  
ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
第十五條 船舶共有者ハ其ノ持分ノ價格ニ應  
ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコト  
ヲ要ス  
第十六條 船舶共有者ガ新ニ航海ヲ爲シ又ハ  
船舶ノ大修繕ヲ爲スベキコトヲ決議シタル  
トキハ其ノ決議ニ對シ異議アル者ハ他ノ共  
有者ニ對シ相當ノ代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ  
買取ルベキコトヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求ハ決議ニ加リタル者ニ付テハ決  
議ノ日ヨリ、決議ニ加ラザリシ者ニ付テハ  
其ノ決議ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内  
ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其ノ  
通知ヲ發シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第十七條 船舶共有者ハ其ノ持分ノ價格ニ應  
ジ船舶ノ利用ニ付テ生ジタル債務ヲ解決ス  
ル責ニ任ズ  
第十八條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船  
舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス  
第十九條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキ  
ト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ズ  
シテ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡  
スルコトヲ得但シ船舶管理人ハ此ノ限ニ在  
ラズ  
第二十條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任ス



ルコトヲ要ス  
 船長共有者ニ非ズル者ヲ船長管理人ト爲ス  
 ニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス  
 船長管理人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之  
 ヲ登記スルコトヲ要ス  
 第二十一條 船長管理人ハ左ニ掲グル行爲ヲ  
 除ク外船長共有者ニ代リテ船長ノ利用ニ  
 關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲  
 ス權限ヲ有ス  
 一 船長ヲ賃貸スルコト  
 二 船長ヲ抵押ト爲スコト  
 三 船長ヲ保險ニ付スルコト  
 四 新ニ航海ヲ爲スコト  
 五 船長ノ大修繕ヲ爲スコト  
 六 借財ヲ爲スコト  
 船長管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ  
 以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ  
 船長管理人ノ代理權ハ船長共有者ノ死亡ニ  
 因リテ消滅セズ  
 第二十二條 船長管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之  
 ニ船長ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載ス  
 ルコトヲ要ス  
 船長管理人ハ航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其  
 ノ航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船長共有者  
 ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス  
 第二十三條 船長共有者ノ移轉又ハ其  
 ノ國籍喪失ニ因リテ船長ガ滿洲國ノ國籍ヲ  
 喪失スベキトキハ他ノ共有者ハ相當ノ代價  
 ヲ以テ其ノ持分ヲ買取り又ハ其ノ發賣ヲ法  
 院ニ請求スルコトヲ得  
 第二十四條 船長ノ賃貸借アリタルトキハ賃  
 借人ハ特約ナキ限り賃貸人ニ對シ其ノ賃貸  
 借ノ登記ヲ爲スニ付協力スベキコトヲ請求  
 スルコトヲ得

船長ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ船長  
 其ノ船長ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シテ  
 モ其ノ効力ヲ生ズ  
 第二十五條 自己ノ所有ニ屬セザル船長ノ航  
 海ノ用ニ供スル者ハ其ノ船長ノ利用ニ關ス  
 ル事項ニ付テハ第三條ニ對シテ船長共有者  
 ト同一ノ權利義務ヲ有ス  
 前項ノ場合ニ於テ船長ノ利用ニ付シタル  
 船長債權者ノ質權ハ船長共有者ノ否認ス  
 ルコトヲ得ズ但シ船長債權者ガ其ノ利用ノ  
 違法ナルコトヲ知リ又ハ重大ナル過失ニ因  
 リテ之ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第二十六條 船長ハ其ノ職務ヲ行フニ付注意  
 ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ船  
 長共有者、債權者、荷送人其ノ他ノ利害關  
 係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ  
 得ズ  
 船長ハ船長共有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト  
 雖モ船長共有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ  
 定ムル責任ヲ免ルルコトヲ得ズ  
 第二十七條 船長ガ已ムコトヲ得ザル事由ニ  
 因リテ自ラ船長ヲ指揮スルコト能ハザルト  
 キハ他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシム  
 ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船長ハ其ノ選  
 任ニ付船長共有者ニ對シテ其ノ責任ヲ免  
 第二十八條 船長ハ發航前船長ノ航海ニ支障  
 ナキヤ否キ其ノ他航海ニ必要ナル準備ノ整  
 頓セルヤ否キヲ檢査スルコトヲ要ス  
 第二十九條 船長ハ左ニ掲グル書類ヲ船中ニ  
 備置クコトヲ要ス  
 一 船長名簿  
 二 海員名簿  
 三 船長名簿

航海日誌  
 四 旅客名簿  
 五 運送契約及積荷ニ關スル書類  
 六 稅關ヨリ交付シタル書類  
 七 前項第三號乃至第五號ニ掲グル書類ハ外國  
 ニ航行セザル船長ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備  
 フルコトヲ要セザルモノト定ムルコトヲ  
 得  
 第三十條 船長ハ自己ニ代リテ船長ヲ指揮ス  
 ベキ者ニ其ノ職務ヲ委任シタル後ニ非ザレ  
 バ荷物ノ積積及旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ  
 陸揚及旅客ノ上陸ノ時迄其ノ指揮スル船長  
 ヲ去ルコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事  
 由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第三十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルト  
 キハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ  
 除ク外豫定ノ航路ヲ變更セズシテ到達港  
 迄航行スルコトヲ要ス  
 第三十二條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重  
 要ナル事項ヲ船長共有者ニ報告スルコトヲ  
 要ス  
 船長ハ航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其ノ航海  
 ニ關スル計算ヲ爲シテ船長共有者ノ承認ヲ  
 求メ又船長共有者ノ請求アルトキハ何等  
 テモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三十三條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ  
 利益ニ適スベキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ  
 爲スコトヲ要ス  
 利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其ノ積荷ニ  
 付テ生ジタル債務ノ爲之ヲ債權者ニ委付ス  
 ルコトヲ得但シ利害關係人ニ過失アリタル  
 トキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第三十四條 船長航海外ニ於テハ船長ハ航海ノ  
 爲ニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行

爲ラズ積積ヲ有ス  
 船長ニ於テハ船長ハ特ニ權限ヲ授與セラ  
 レタル場合ヲ除ク外船長又ハ水先人ノ履  
 入及廢止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス  
 第三十五條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ  
 之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得  
 船長ノ代理權ハ船長共有者ノ死亡ニ因リテ  
 消滅セズ  
 第三十六條 船長ハ船長ノ修繕費、救助料其  
 ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨  
 スル爲ニ非ザレバ借財ヲ爲シ又ハ船長ヲ抵  
 押ト爲スコトヲ得ズ  
 第三十七條 船長航海外ニ於テ船長ガ修繕スル  
 コト能ハザルニ至リタルトキハ船長ハ航海  
 官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ發賣スルコトヲ得  
 第三十八條 船長ハ船長ノ修繕費、救助料其  
 ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨  
 スル爲積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却シ又ハ之  
 ヲ質入スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其ノ積  
 荷ノ到達スベカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價  
 額ニ依リテ之ヲ定ム但シ支拂フコトヲ要セ  
 ザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス  
 積荷ノ賣却ニ依リテ得タル金額ガ前項ノ金  
 額ヲ超過スルトキハ其ノ得タル賣却額ヲ賠償  
 スルコトヲ要ス  
 第三十九條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲必要ナル  
 ルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得  
 此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用  
 ス  
 第四十條 船長ガ特ニ委任ヲ受ケズシテ航海  
 ノ爲ニ費用ヲ支出シ又ハ積荷ヲ負擔シタル  
 トキハ船長共有者ハ船長ニ對シテ第十條ニ

定ムル權利ヲ行フコトヲ得  
 第四十一條 船長共有者ハ何時ニテモ船長ヲ  
 解任スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ  
 之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船長共有者ニ  
 對シ賠償ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請  
 求スルコトヲ得  
 船長ガ船長共有者ナル場合ニ於テ其ノ意ニ  
 反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ  
 對シ相當ノ代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ル  
 ベキコトヲ請求スルコトヲ得  
 前項ノ請求ハ解任後遲滞ナク他ノ共有者又  
 ハ船長管理人ニ對シテ其ノ通知ヲ發シテ之  
 ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四十二條 船長ノ船長共有者ニ對スル債權  
 ノ時効期間ハ二年トス  
 第三章 運送  
 第一節 物品運送  
 第四十三條 船長ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送  
 契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相  
 手方ノ請求ニ因リ備置契約書ヲ交付スルコ  
 トヲ要ス  
 第四十四條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズ  
 シテ積積シタル運送品ハ海上運送人ニ於テ  
 何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船長又ハ積荷ニ  
 危險ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコ  
 トヲ得  
 契約ニ依ラズシテ積積シタル運送品ヲ運送  
 シタルトキハ海上運送人ハ其ノ積積ノ地及  
 時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送價ヲ  
 請求スルコトヲ得  
 第四十五條 船長、船長、船長其ノ他ノ危險性  
 アル運送品ヲ其ノ性質ヲ知ラズシテ積積シ  
 タル場合ニ於テハ海上運送人ハ何時ニテモ

之ヲ陸揚シ、若シ船長又ハ積荷ニ危險ヲ及ボ  
 ス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得  
 海上運送人ガ其ノ性質ヲ知リテ積積ヲ積積  
 シタルトキト雖モ其ノ運送品ガ船長又ハ積  
 荷ニ對シ危險ヲ及ボス虞アルニ至リタル場  
 合ニ於テハ海上運送人ハ前項ニ定ムル處分  
 ヲ爲スコトヲ得  
 第四十六條 前二條ノ規定ハ海上運送人其ノ  
 他ノ利害關係人ガ運送品ヲ積積シタル者ニ  
 對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ  
 第四十七條 備置者又ハ荷送人ハ海上運送人  
 ニ通知シタル運送品ノ種類、重量、容積、  
 箇數又ハ記載ガ正確ナラザリシコトニ因リ  
 海上運送人ニ生ジタル損害ノ賠償スル責任  
 任ズ  
 第四十八條 船長ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目  
 的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ積積スル  
 ニ必要ナル準備ガ整頓シタルトキハ海上運  
 送人ハ遲滞ナク積積者ニ對シテ其ノ通知ヲ  
 發スルコトヲ要ス  
 備置者ガ運送品ヲ積積スベキ期間ノ定アル  
 場合ニ於テハ其ノ期間ハ前項ノ通知ヲ發シ  
 タル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其ノ期間經過  
 ノ後運送品ヲ積積シタルトキハ海上運送人  
 ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求ス  
 ルコトヲ得  
 前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ積積ヲ  
 爲スコト能ハザル日ヲ算入セズ  
 第四十九條 海上運送人ガ第三條ヨリ運送品  
 ヲ受取ルベキ場合ニ於テ其ノ者ヲ確知スル  
 コト能ハザルトキハ其ノ者ガ運送品ヲ積積  
 シタルトキハ海上運送人ハ直ニ積積者ニ  
 對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス此ノ場  
 合ニ於テハ積積者ニ於テ運送品ヲ積積スル











得  
前項ニ掲グル事由ガ發航後ニ生ジタルトキ  
海上運送人ハ其ノ選擇ニ從ヒ運送貨ノ四  
分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應ジテ運  
送貨ヲ請求スルコトヲ得  
第百十五條 旅客運送契約ハ第八十五條第一  
項第一號乃至第三號ニ掲グル事由ニ因リテ  
終了ス但シ其ノ事由ガ航海中ニ生ジタルト  
キハ旅客ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ支  
拂フコトヲ要ス  
第百十六條 旅客ガ死亡シタルトキハ船長ハ  
最モ其ノ相續人ノ利益ニ適スベキ方法ニ依  
リテ其ノ船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコ  
トヲ要ス  
第百十七條 海上運送人ハ旅客ノ運送貨ニ付  
其ノ船中ニ在ル手荷物ノ上ニ質權ヲ有ス  
第八十二條ノ規定ハ前項ノ質權ニ之ヲ準用  
ス  
第百十八條 第六十六條、第六十八條、第八  
十六條及第八十九條ノ規定ハ旅客運送ニ之  
ヲ準用ス  
第四十四條乃至第四十七條及第八十條ノ規  
定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス  
第百十九條 旅客運送ヲ爲ス爲船中ノ全部又  
ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場  
合ニ於テハ海上運送人ト船中者トノ關係ニ  
付テハ前節第一號ノ規定ヲ準用ス  
第四章 共同海損  
第百二十條 船舶及積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ  
免レシムル爲船長ノ爲シタル處分ニ因リテ  
生ジタル損害及費用ハ之ヲ共同海損トス  
第百二十一條 共同海損ハ保存セラレタル船  
舶又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海  
損タル損害ノ額トノ割合ニ應ジテ各利害關

係人ノ之ヲ分擔ス  
第百二十二條 前二條ノ規定ハ危險ガ過失ニ  
因リテ生ジタル場合ニ於テ利害關係人ノ損  
害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ  
前項ノ場合ニ於テ過失ニ付責任ニ付分擔ヲ  
ハ自己ニ生ジタル損害又ハ費用ニ付分擔ヲ  
請求スルコトヲ得ズ  
第百二十三條 左ニ掲グル損害ハ利害關係人  
ニ於テ分擔スルコトヲ要セズ  
一 甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害  
但シ沿岸ノ小航海ニ在リテハ此ノ限ニ在  
ラズ  
二 艙具目錄ニ記載セザル艙具ニ加ヘタル  
一 損害  
三 船長ノ承諾ナクシテ積積セラレタル積  
荷ニ加ヘタル損害  
四 船積ヲ爲スニ當リ船長ニ其ノ種類及性  
質ヲ明告セズシテ積込マレタル貨物、有  
價證券其ノ他ノ高價品ニ加ヘタル損害  
前項ニ掲グル物品ノ利害關係人ト雖モ共同  
海損ヲ分擔スル責ヲ免ルコトヲ得ズ  
第百二十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到達  
ノ地及於ケル積荷ノ價格又ハ陸揚ノ地  
及時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム  
但シ積荷ニ付テハ其ノ減失又ハ毀損ノ爲支  
拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除ス  
ルコトヲ要ス  
第百二十五條 船積ノ際故意ニ積荷ノ實價ヨ  
リ低キ價格ヲ申告シタルトキハ其ノ積荷ニ  
加ヘタル損害ノ額ハ申告セラレタル積額ニ  
依リテ之ヲ定ム  
前項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスベ  
キ事項ニ付賠償ノ申告ヲ爲シタル場合ニ之  
ヲ準用ス

第百二十六條 共同海損タル費用ニ對シテハ  
其ノ支出ノ日ヨリ、船舶ニ生ジタル損害ニ  
付テハ到達ノ日ヨリ、積荷ニ生ジタル損害  
ニ付テハ陸揚ノ日ヨリ共同海損ノ計算ノ終  
了スル日迄ノ法定利息ヲ加算スルコトヲ要  
ス  
第百二十七條 共同海損ノ分擔額ヲ定ムルニ  
付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及時ニ於ケル  
價格トス但シ船舶ニ工作ヲ加ヘ又ハ修繕ヲ  
爲シタルトキハ之ニ因リ増加シタル價格ヲ  
控除スルコトヲ要ス  
第百二十八條 共同海損ノ分擔額ヲ定ムルニ  
付テハ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及時ニ於ケル  
價格トス但シ其ノ價格中ヨリ減失ノ場合ニ  
於テ支拂フコトヲ要セザル運送貨其ノ他ノ  
費用ヲ控除スルコトヲ要ス  
第百二十九條 船積ノ際故意ニ積荷ノ實價ヨ  
リ高キ價格ヲ申告シタルトキハ其ノ積荷ノ  
利害關係人ハ其ノ申告シタル價格ニ應ジテ  
共同海損ヲ分擔ス  
前項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスベ  
キ事項ニ付賠償ノ申告ヲ爲シタル場合ニ之  
ヲ準用ス  
第百三十條 船舶ニ備附ケタル武器、海員ノ  
給料、旅客ノ手荷物、海員及旅客ノ食料及  
衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付其ノ價格ヲ算入  
セズ但シ此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利  
害關係人ノ之ヲ分擔ス  
第百三十一條 共同海損ヲ分擔スベキ者ハ船  
舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存ス  
ル積額ノ限度ニ於テノ其ノ實ニ任ズ  
第百三十二條 荷受人ガ運送品ヲ受取リタル  
トキハ共同海損ノ分擔額ヲ支拂フ義務ヲ負

第百三十三條 共同海損ニ因リテ生ジタル損  
害ヲ有スル者ハ積荷ノ上ニ質權ヲ有ス  
前項ノ質權ハ積荷ノ引渡アリタル後善意ニ  
テ之ヲ取得シタル者ニ對シテハ之ヲ行使ス  
ルコトヲ得ズ  
第八十二條ノ規定ハ第一項ノ質權ニ之ヲ準  
用ス  
第百三十四條 海上運送人ハ前條第一項ノ債  
權者ノ爲ニ其ノ有スル質權ヲ行使スル權利  
ヲ有シ義務ヲ負フ  
第百三十五條 船舶所有者ハ航海終了後運送  
ナク共同海損ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス  
第百三十六條 共同海損ニ因リテ生ジタル債  
權ノ時効期間ハ其ノ計算終了ノ日ヨリ二年  
トス  
第百三十七條 本章ノ規定ハ船舶ガ不可抗力  
ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ發航  
爲ス爲ニ要スル費用ニ之ヲ準用ス  
第五章 船舶ノ衝突  
第百三十八條 船舶ノ衝突ガ避クベカラザル  
事故若ハ不可抗力ニ因リテ生ジタルトキ又  
ハ衝突ノ原因ガ不明ナルトキハ衝突ニ因リ  
船舶又ハ船舶内ニ在リタル人若ハ物ニ生ジ  
タル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ  
第百三十九條 船舶ノ衝突ガ一方ノ船舶ノ海  
員ノ過失ニ因リテ生ジタルトキハ其ノ船舶  
ノ所有者ハ之ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償  
スル責任ヲ負フ  
第百四十條 船舶ノ衝突ガ雙方ノ船舶ノ海員  
ノ過失ニ因リテ生ジタルトキハ各船舶ノ所  
有者ハ過失ノ輕重ニ應ジテ船舶又ハ船舶内ニ  
在リタル物ニ生ジタル損害ノ賠償スル責任ヲ  
負フ  
前項ノ場合ニ於テ過失ノ輕重ヲ判定スルコ

ト能ハザルトキ又ハ過失ノ程度同等ナリト  
認ムベキトキハ各船舶所有者ノ責任ハ平等  
トス  
第百四十一條 前條第一項ニ定ムル船舶ノ衝  
突ニ因リ船舶内ニ在リタル人ノ死傷セシメ  
タルトキハ其ノ損害ハ各船舶所有者運送シ  
テ賠償ノ責任ヲ負フ  
前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル船舶所有  
者間ノ責任部分ニ付之ヲ準用ス  
第百四十二條 水先人ハ本章ノ規定ノ適用ニ  
付テハ之ヲ海員ト看做ス強制水先人ト雖モ  
亦同ジ  
第百四十三條 船舶ノ衝突ニ因リテ生ジタル  
損害賠償請求權ノ時効期間ハ衝突ノ日ヨリ  
二年トス  
第百四十四條 前六條ノ規定ハ船舶ノ運用上  
ノ行為若ハ不作爲又ハ法令ノ違反ニ因リ他  
ノ船舶又ハ其ノ船舶内ニ在リタル人若ハ物  
ニ損害ヲ生ゼシメタル場合ニ之ヲ準用ス  
第百四十五條 本章ノ規定ハ船舶ト湖川又ハ  
運河ノ航行ノ用ニ供スル船舶トノ間ニ事故  
ノ生ジタル場合ニ之ヲ準用ス  
第六章 海難救助  
第百四十六條 船舶又ハ船舶内ノ物ガ海難ニ  
遭遇セル場合ニ於テ義務ヲシテ之ヲ救助  
シタル者ハ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ  
得船舶ガ湖川又ハ運河ノ航行ノ用ニ供スル  
船舶又ハ其ノ船舶内ノ物ヲ救助シタルトキ  
亦同ジ  
第百四十七條 救助料ハ救助ノ結果ヲ得タル  
場合ニ非ズレバ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

第百四十八條 船長ガ明ニ救助ヲ拒絶シタル  
ニ拘ラズ之ニ從事シタル者ハ救助料ヲ請求  
スルコトヲ得ズ但シ其ノ拒絶ガ正當ノ事由  
ニ因ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第百四十九條 船舶ハ曳船契約ノ履行ニ關ス  
ルモノト認ムルコトヲ得ザル特別ノ義務ニ  
服シタルトキハ非ズレバ被曳船又ハ其ノ船  
舶内ニ在リタル物ノ救助ニ付救助料ヲ請求  
スルコトヲ得ズ  
第百五十條 救助料ハ同一ノ所有者ニ關スル  
船舶ノ間ニ救助アリタルトキト雖モ之ヲ請  
求スルコトヲ得  
第百五十一條 救助料ノ額ニ付特約ナキトキ  
ハ一切ノ事情ヲ斟酌シテ法院之ヲ定ム  
數人が共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於ケ  
ル救助料ノ分配亦前項ニ同ジ  
第百五十二條 救助料ノ額ヲ決定スルニ付テ  
ハ特ニ救助ノ結果、救助者ノ努力、救助セ  
ラレタル船舶及其ノ船舶内ニ在リタル人又  
ハ物ノ遭遇セル危險、救助ニ當リタル人及  
船舶ノ遭遇セル危險、救助ノ爲ニ要シタル  
時間、費用及之ニ因リテ生ジタル損害、救  
助者ノ冒シタル責任負擔ノ危險及其ノ他ノ  
危險、救助者ガ使用シタル物ノ價值並ニ救  
助料ガ特別ノ設備ヲ有スルモノナルトキハ  
其ノ事情ヲ斟酌ス  
前項ニ掲グル事情ノ外尙救助セラレタル物  
ノ價值及保存セラレタル運送貨ノ額ヲ斟酌  
ス  
前二項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ救  
助料ヲ分配スル場合ニ之ヲ準用ス  
第百五十三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ  
救助セラレタル物ノ價值ニ超ユルコトヲ得



第五百四十四條 救助契約が海難に際シ其ノ影響ノ下ニ爲サレ且其ノ内容が公平ナラザルトキハ法院ハ當事者ノ申立ニ因リ之ヲ無効トシ又ハ其ノ内容ヲ變更スルコトヲ得...

第五百五十六條 船舶ガ救助ニ從事シタル場合ニ於テハ救助料中ヨリ救助ニ因リテ船舶ノ受ケタル損害及費用ヲ賠償シ其ノ殘額ハ左ノ方法ニ依リテ之ヲ分配スルコトヲ要ス...

第六百六十七條 船長ハ船舶所有權者ニ代リテ救助料ノ請求ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス...

第五百五十八條 船員ガ前條ノ分配額ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其ノ告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得...

第六百七十四條 船舶債權者ハ債務者ガ船舶ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ト雖モ其ノ船舶ニ付債權ヲ行フコトヲ得...

海商法施行法 第一條 海商法ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス...

海商法施行法

(昭和四年十一月二十五日) 勅令第三一九號



必要ナル準備ガ整頓シタル旨ノ通知ヲ發シタル場合ニハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九條 海商法第六十二條ニ定ムル公告ノ方法ハ司法部大臣之ヲ定ム

第十條 海商法第六十六條第二項及第六十八條ノ規定ハ海商法施行前ニシタル運送契約ニハ之ヲ適用セズ

第十一條 海商法第六十九條ノ規定ハ海上運送人ガ海商法施行前運送ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 海商法第七十四條但書ニ定ムル期間ハ海商法施行前荷受人ガ留保ヲ爲サズシテ運送品ヲ受取リ且海商法第五十九條第一項ノ金額ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ海商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 海商法第九十條ノ規定ハ海商法施行前第三者ガ請給者ト運送契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 海商法施行前シタル共同海損ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十五條 沿岸小航路ノ範圍ハ交通部大臣之ヲ定ム

第十六條 海商法施行前シタル海上保險契約ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十七條 海商法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

附則  
本法ハ海商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(康慶四年十二月一日)

○保險業法

(康慶四年十二月二十七日)  
(勅令第四九〇號)

テ保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(國務總理、經濟部大臣)

第一條 保險業ハ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタル株式會社ニ非ザレバ之ヲ營業ムコトヲ得ズ

第二條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第三條 同一ノ保險會社ハ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ生命保險ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條ノ規定ニ依ル許可ノ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 定款

二 事業方法

三 普通保險約款

四 保險料及責任準備金算出ノ基礎

五 財産ノ利用方法

第五條 經濟部大臣保險業ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保險會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第六條 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ供託金ノ額額ヲ命ジ又ハ其ノ減額ヲ認可スルコトヲ得

第七條 保險會社ハ經濟部大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以前二項ノ供託金ニ代フルコトヲ得

第八條 保險會社ハ其ノ商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第九條 保險會社ニ非ザル者ハ其ノ商號又ハ名稱中ニ保險業者タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第十條 保險會社代理店ヲ設置セントスルト

キハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第八條 保險會社ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得

第九條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十一條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十二條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十三條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十四條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

第十五條 保險會社ノ設立費用及最初ノ五年復代理店ヲ設ケタルコトヲ得ズ

停止又ハ休止スルコトヲ得ズ

第十六條 經濟部大臣ハ保險會社ノ業務ニ關シ第四條ニ掲グル事項ノ變更又ハ財産ノ供託若ハ事業ノ停止ヲ命ジ其ノ他公益上又ハ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條 經濟部大臣ハ保險會社ノ決議ガ法令若ハ第四條ニ掲グル事項ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルコトヲ認メタルトキハ之ヲ解散スルコトヲ得

第十八條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ決算ヲ爲シ株主總會總括ノ後通稱ナク財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及二準備金及利益ノ配當ニ關スル決議書ヲ經濟部大臣ニ提出スルコトヲ要ス

第十九條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルベキ者ハ保險會社ノ定時總會總括ノ後前條ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其ノ原本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其ノ原本又ハ抄本ノ交付ニ付手数料ヲ支拂フコトヲ要ス

第二十條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各營業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付通稱ナク責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 經濟部大臣ハ事業ノ停止ヲ命ジタル保險會社ニ對シ其ノ後ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十二條 前條ノ規定ニ依ル許可ノ取消ヲ

ラタルトキハ保險會社ハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テハ經濟部大臣ハ保險會社ノ解散ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第二十三條 本法施行地内ニ本店、主事務所又ハ住所ヲ有セザル者ハ本法施行地内ニ於テ保險業ヲ營業メントスルトキハ本法施行地内ニ支店又ハ事務所ヲ設ケ經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ本法施行地内ニ於テ保險會社トシテ此ノ場合ニ於テハ第四條、第九條、第十條、第十二條乃至第十五條、第十七條、第十八條及前條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタルコトヲ得

經濟部大臣ハ第一項ノ許可ニ付テハ特ニ必要ナル制限ヲ附スルコトヲ得

第二十四條 許可ヲ受ケズシテ保險業ヲ營業シタルモノハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第三條ノ規定ニ違反シテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ營業シタル者

三 第十六條ノ規定ニ依ル事業ノ停止命令ニ違反シタル者

四 第二十三條第三項ノ制限ニ違反シタル者

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第二項ノ供託金ノ増額命令ニ違反シタル者

二 認可ヲ受ケズシテ第四條ニ掲グル事項ヲ變更シタル者

三 認可ヲ受ケズシテ代理店ヲ設置シタル者

第八條ノ規定ニ違反シタル者

第十一條ノ規定ニ違反シテ保險會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ヲ報告セザル者

第六條ノ規定ニ違反シテ利益金ノ處分ヲ爲シタル者

第七條ノ規定ニ違反シテ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止シタル者

第八條ノ規定ニ違反シタル者

第九條ノ規定ニ違反シタル者

命令ニ違反シタル者

第二十七條 經濟部大臣ノ許可ヲ受ケザル保險會社ノ爲ニ保險契約者ヲ募集シ又ハ募集セシメタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 正當ノ理由ナクシテ第十九條ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スベキ書類ヲ閲覧セシメズ又ハ其ノ原本若ハ抄本ヲ交付セザリシ者

第三十條 使用人其ノ他ノ從業員使用主ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ觸ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外使用主ヲモ處罰ス但シ使用主心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

第三十一條 法人ノ使用人其ノ他ノ從業員法人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ觸ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外法人ノ業務ヲ執行スル職員又ハ社員ヲモ處罰ス



法人ノ業務ヲ執行スル職員又ハ社員前項ノ行為ヲ爲シタルトキハ其ノ職員又ハ社員ヲ處罰ス

第三十二條 第三十條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ處罰ヲ受クベキ使用主、法定代理人、職員又ハ社員當該違反行為ヲ防止スルノ途ヲカリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ

附則

第三十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 本法施行ノ際現ニ保險業ヲ營ム者ハ其後五年六月三十日迄ニ本法ニ依ル許可ノ申請ヲ爲スベシ

第三十五條 本法施行ノ際現ニ保險業ヲ營ム者ノ現ニ有スル代理店ニ付テハ其後五年六月三十日迄ニ本法ニ依ル認可ノ申請ヲ爲スベシ

第三十六條 前二條ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ申請ヲ拒否セラレ途ノ間仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第三十七條 滿洲生命保險株式會社ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル許可ヲ受ケタルモノト看做ス

四 民事手續法



○民事訴訟法

(德意志國四月三十日勅令第二〇六號)

改正 德意志七年四月勅令第五九號  
朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ  
經テ民事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(國務總理、司法大臣)

民事訴訟法目次

第一章 總則  
第一節 法院  
第二節 法院職員ノ除斥、忌避及同  
第二章 當事者  
第一節 當事者能力及訴訟能力  
第二節 共同訴訟  
第三節 訴訟參加  
第四節 訴訟代理人及輔佐人  
第三章 訴訟費用  
第一節 訴訟費用ノ負擔  
第二節 訴訟費用ノ擔保  
第四章 訴訟上ノ救助  
第一節 送達  
第二節 期日及期間  
第三節 訴訟手續ノ中斷及中止  
第二章 第一審ノ訴訟手續  
第一章 地方法院ノ訴訟手續  
第一節 訴ノ提起及變更

民事手續法

民事訴訟法

總則

法院

管轄

第二節 口頭辯論

第三節 證據  
第一款 證據規則  
第二款 證人訊問  
第三款 鑑定  
第四款 書證  
第五款 檢證  
第六款 當事者訊問  
第七款 證據保全  
第四節 裁判  
第五節 和解  
第六節 訴ノ取下  
第七節 區法院ノ訴訟手續  
第三章 上訴  
第一款 控訴  
第二款 抗告  
第四章 再審  
第五章 督促手續  
附則

民事訴訟法

第一章 總則  
第一節 法院  
第二節 當事者  
第一節 當事者能力及訴訟能力  
第二節 共同訴訟  
第三節 訴訟參加  
第四節 訴訟代理人及輔佐人  
第二章 訴訟費用  
第一節 訴訟費用ノ負擔  
第二節 訴訟費用ノ擔保  
第三章 訴訟上ノ救助  
第一節 送達  
第二節 期日及期間  
第三節 訴訟手續ノ中斷及中止  
第二章 第一審ノ訴訟手續  
第一章 地方法院ノ訴訟手續  
第一節 訴ノ提起及變更

裁判所ヲ有セザルトキハ其ノ者ノ普通裁判  
所ハ新東京特別市ニ在ルモノトス

第三條 國ノ普通裁判所ハ訴訟ニ付國ヲ代表  
スル官署ノ所在地ニ依リテ定マル  
其ノ主タル事務所又ハ財團ノ普通裁判所ハ  
其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リ、事務  
所又ハ營業所ナキトキハ主タル業務擔當者  
ノ住所ニ依リ、其ノ住所ナキトキハ居所ニ依  
リテ定マル  
前項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁  
判所ニ付テハ滿洲國ニ於ケル事務所、營業  
所又ハ業務擔當者ニ之ヲ適用ス  
第四條 財產權ニ基クテ訴ハ業務履行地ノ法院  
ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
第五條 手形上ノ權利ニ基クテ訴ハ支拂地ノ法  
院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
第六條 學生、雇人其ノ他ノ寄寓者ニ對スル  
財產權ニ基クテ訴ハ寄寓地ノ法院ニ之ヲ提起  
スルコトヲ得  
第七條 軍人、軍艦又ハ海員ニ對スル財產權  
ニ基クテ訴ハ軍事用ノ處所所在地又ハ艦船  
ノ本籍若ハ船籍ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起  
スルコトヲ得  
第八條 滿洲國ニ住所ナキ者又ハ住所ノ知レ  
ザル者ニ對スル財產權ニ基クテ訴ハ請求若ハ  
其ノ擔保ノ目的又ハ差押フルコトヲ得ベキ  
被告ノ財產ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スル  
コトヲ得  
第九條 事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對ス  
ル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務  
ニ關スルモノニ限リ、其ノ所在地ノ法院ニ之  
ヲ提起スルコトヲ得  
第十條 船舶又ハ航行ニ關シ船舶所有者其ノ  
他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船舶ノ



所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十一條 船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基クテ訴ハ船舶ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十二條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タルノ資格ニ基クモノニ限リ會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判所所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十三條 前項ノ規定ハ社團又ハ財團ヨリ役員ニ對スル訴及會社ヨリ發起人又ハ検査役ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス  
 第十四條 會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基クモノニ限リ前條ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十五條 前二條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ検査役タルシ者ニ對スル訴及社員タルシ者ヨリ社員ニ對スル訴ニ之ヲ準用ス  
 第十六條 不法行為ニ關スル訴ハ行為アリタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十七條 船舶ノ衝突其ノ他水上ノ事故ニ基クテ損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶ガ最初ニ到達シタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十八條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶ガ最初ニ到達シタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第十九條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十條 登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スベキ地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十一條 相続權ニ關スル訴又ハ遺留分若ハ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生ズベキ行

爲ニ關スル訴ハ相續開始ノ時ニ於ケル被相續人ノ普通裁判所所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十二條 被相續人ガ滿洲國人ニシテ相續開始ノ時ニ滿洲國ニ普通裁判所ヲ有セザルトキハ其ノ者ノ普通裁判所ハ新京特別市ニ在ルモノトス  
 第二十三條 相續債權其ノ他相續財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ相續財產ノ全部又ハ一部ガ前條ノ法院ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限リ其ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十四條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル法院ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
 第二十五條 法院組織法ニ依リ管轄ガ訴訟ノ目的ノ價格ニ依リテ定ムルトキハ其ノ價格ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス  
 第二十六條 前項ノ價格ヲ算定スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ハ二千圓ヲ超過スルモノト看做ス  
 第二十七條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ價格ヲ合算ス  
 第二十八條 損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求ガ訴訟ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價格ハ之ヲ算定スルコトヲ得  
 第二十九條 左ノ場合ニ於テハ關係アル法院ニ共通スル直近上級法院ハ申立ニ因リ裁定ヲ以テ管轄法院ヲ指定ス  
 第三十條 管轄法院及法院組織法第九十一條ノ規定ニ依リテ其ノ事務ヲ代行使スベキ法院ガ法律上又ハ事實上裁制權ヲ行使スルコト能ハザルトキ  
 第三十一條 法院ノ管轄區域ノ境界明確ナラザル爲

管轄法院ガ定マラザルトキ  
 三 數人ヲ共同被告トシテ訴ヲ提起セントスル場合ニ於テ其ノ數人ニ共通ノ裁判所ナキトキ但シ第五十八條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第三十二條 前項ノ裁定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得  
 第三十三條 當事者ハ第一審ニ限リ合意ニ依リ管轄法院ヲ定ムルコトヲ得  
 第三十四條 前項ノ合意ハ一定ノ法律關係ニ基クテ訴訟ノ目的且書面ヲ以テ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ  
 第三十五條 被告ガ第一審法院ニ於テ管轄權ノ抗辯ヲ提出セズシテ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ其ノ法院ハ管轄權ヲ有ス  
 第三十六條 第一條、第四條乃至第二十一條、第二十四條第一項第三號及前二條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セズ  
 第三十七條 法院ノ管轄ハ訴提起ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム  
 第三十八條 法院ハ訴訟ノ全部又ハ一部ガ其ノ管轄ニ屬セズト認ムルトキハ裁定ヲ以テ之ヲ管轄法院ニ移送ス  
 第三十九條 法院ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著シキ損害又ハ混淆ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ關スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄法院ニ移送スルコトヲ得  
 第四十條 移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル法院ヲ請求ス  
 第四十一條 移送ヲ受ケタル法院ハ更ニ訴訟ヲ他ノ法院ニ移送スルコトヲ得ズ

第三十二條 移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 第三十三條 移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ  
 第三十四條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル法院ニ屬シタルモノト看做ス  
 第三十五條 前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル法院ノ書記官ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ移送ヲ受ケタル法院ノ書記官ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス但シ訴訟ノ一部ヲ移送スル場合ニ於テハ訴訟記録ニ代ヘ其ノ一部ヲ送付スルコトヲ得  
 第三十六條 第二節 法院職員ノ除斥、忌避及回避  
 第三十七條 審判官ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル  
 第三十八條 一 審判官又ハ配屬者若ハ配屬者タルシ者ガ事件ノ當事者ナルトキ又ハナリシトキ  
 二 審判官又ハ配屬者若ハ配屬者タルシ者ガ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者又ハ債權債務者タル關係ヲ有スルトキ  
 三 審判官ガ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ  
 四 審判官ガ當事者ノ親見人又ハ家長若ハ家族ナルトキ  
 五 審判官ガ事件ニ付當事者ノ代理人若ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ  
 六 審判官ガ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲ラタルトキ  
 七 審判官ガ事件ニ付仲裁判所ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ法院ノ屬託ニ因リ

受託審判官トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨グズ  
 第三十九條 除斥ノ原因アルトキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス  
 第四十條 審判官ニ對シテ公正ヲ妨グベキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得  
 第四十一條 當事者ガ審判官ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ其ノ審判官ヲ忌避スルコトヲ得但シ忌避ノ原因ガ其ノ後ニ生ジ又ハ當事者ガ其ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 第四十二條 除斥又ハ忌避ノ申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ其ノ審判官所屬ノ法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四十三條 除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ證明スルコトヲ要ス前條ノ第二項但書ノ事實ニ付亦同シ  
 第四十四條 區法院ノ審判官ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ法院ノ所在地ノ管轄スル地方法院ノ裁定ニ於テ、其ノ他ノ法院ノ審判官ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ審判官ガ所屬スル法院ノ裁定ニ於テ之ヲ爲ス  
 第四十五條 審判官ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ關與スルコトヲ得ズ  
 第四十六條 前項ノ規定ニ依リ審判官ガ裁判ニ關與スルコト能ハザル爲法院ガ裁定ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ直近上級法院ニ於テ裁判ヲ爲ス  
 第四十七條 審判官ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付前條ノ法院ニ意見書ヲ提出スルコトヲ得  
 第四十八條 除斥又ハ忌避ノ原因アリトスル裁定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ其ノ原因ナシトスル裁定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲ス

第二章 當事者  
 第四十九條 第一節 當事者能力及訴訟能力  
 第五十條 當事者能力及訴訟能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從フ  
 第五十一條 法人ニ非ザル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルコトヲ得  
 第五十二條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ其ノ中ヨリ一員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルベキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得  
 第五十三條 訴訟ノ繫屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルベキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ脫退ス



第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者中死亡其ノ他事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 未成年者、禁治産者及禁治産者ハ法定代理人ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者ガ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 外國ハ其ノ本國法ニ依レバ訴訟能力ヲ有セザルトキト雖モ滿洲國ノ法律ニ依レバ訴訟能力ヲ有スベキトキハ之ヲ訴訟能力者トス

第五十一條 法定代理權ハ書面ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ要ス第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更ニ付亦同シ

第五十二條 訴訟能力又ハ法定代理權ノ欠缺アルトキハ法院ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命ジ若シ過期ノ爲損害ヲ生ズル虞アルトキハ一時訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十三條 訴訟能力又ハ法定代理權ノ欠缺アル者ガ爲シタル訴訟行爲ハ其ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ニ於テ追認ヲ爲シタルトキハ行爲ノ時ニ適リテ其ノ效力ヲ生ズ

第五十四條 前二條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ガ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人ガ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者、禁治産者又ハ禁治産者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サントスルハ過期ノ爲損害ヲ受タル虞アルコトヲ證明シテ受訴法院

ノ審判官ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得相續人未定ノ場合ニ之ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サントスル者亦同シ

法院ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

特別代理人ハ事件ニ付一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ事件ノ取下、控訴若ハ上告ヲ爲ス權利ノ拋棄、控訴若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十條ノ規定ニ依ル脱退ニ付テハ親族會ノ同意アルコトヲ要ス

特別代理人ノ選任及改任ノ裁定ハ特別代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第五十六條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非ズレバ其ノ效力ヲ有セズ

第五十七條 本法中法定代理及法定代理人ニ關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非ズシテ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第五十八條 訴訟ノ目的タル權利又ハ義務ガ數人ニ付共通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クトキハ其ノ數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得

訴訟ノ目的タル權利又ハ義務ガ同種ニシテ事實上及法律上同種ノ原因ニ基クトキ亦前項ニ同シ

第五十九條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ

繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受訴法院ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生ジタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサズ

第六十一條 訴訟ノ目的ガ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニシテ確定スベキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中断又ハ中止ノ原因アルトキハ其ノ中断又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ズ

第六十二條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ訴訟ノ繫屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得

第六十三條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 當事者ガ參加ニ付異議ヲ述べタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ法院ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第六十五條 當事者ガ參加ニ付異議ヲ述べタル

シテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述べル權利ヲ失フ

第六十六條 參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許サザル裁判確定セザル間ハ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

參加人ノ訴訟行爲ハ當事者ガ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許サザル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第六十七條 參加人ハ訴訟ニ付攻撃又ハ防禦ノ方法ノ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得ザルモノハ此ノ限ニ在ラズ參加人ノ訴訟行爲ガ被參加人ノ訴訟行爲ト抵觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セズ

第六十八條 前條ノ規定ニ依リテ參加人ガ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得又ハ其ノ訴訟行爲ガ效力ヲ有セザル場合、被參加人ガ參加人ノ訴訟行爲ヲ妨ゲタル場合及被參加人ガ參加人ノ爲スコト能ハザル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザル場合ヲ除ク外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルベキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部ガ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十一條及第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲メ訴訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十一條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第六十九條ノ規定ニ依リテ訴訟參加ヲ爲シタルトキハ其ノ參加ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ適リテ時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ズ

第七十二條 訴訟ノ繫屬中第三者ガ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ法院ハ當事者ノ申立ニ因リテ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ要ス

法院ハ前項ノ規定ニ依リテ裁定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十三條 規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 訴訟ノ目的ガ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニシテ確定スベキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ法院ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者ガ參加セザリシ場合ニ於テモ第六十八條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ベカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス參加ヲ過期シタル

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十七條 法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外律師ニ非ズレバ訴訟代理人タルコトヲ得但シ地方法院及區法院ニ於テハ法院ノ許可ヲ受ケ律師ニ非ズル者ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ得

法院ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七十八條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ要ス

前項ノ書面ガ私文書ナルトキハ法院ハ書記官ノ認許ヲ受ケベキ旨ヲ訴訟代理人ニ命ズルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者ガ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ法院書記官ガ認許ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七十九條 訴訟代理人ハ事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得

左ニ掲グル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受ケルコトヲ要ス

一 反訴ノ提起

二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十條ノ規定ニ依ル脱退

三 控訴、上告又ハ控訴、上告ヲ爲ス權利ノ拋棄若ハ控訴、上告ノ取下

四 代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ズ但シ律師ニ非ズル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨



第八十一條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス當事者ガ前項ノ規定ニ異ル定メ爲スモ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十二條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者ガ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十三條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因リ消滅又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅變更ニ因リテ消滅セズ

第八十四條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セズ

第八十五條 第五十一條第二項、第五十二條、第五十三條及第五十六條第一項ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十六條 當事者又ハ訴訟代理人ハ法院ノ許可ヲ受テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人ガ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セザルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三章 訴訟費用

第八十七條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第八十八條 法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴ヲ提起シタル者ガ其ノ代理權ヲ證明スルコト能ハズ又ハ追認ヲ得ザリシ爲メ訴ヲ却下セラレタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴ヲ提起シタル者ノ負擔トス

第八十九條 訴訟費用ノ負擔ハ當事者ノ負擔トス

第九十條 當事者ガ適當ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲メ又ハ期間日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ訴訟ヲ通過セシメタルトキハ法院ハ之ヲ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スベキ訴訟費用ハ法院ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ法院ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 第八十七條乃至第九十二條ノ規定ハ當事者ガ參加ニ付異議ヲ述べタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 訴訟費用ノ負擔ハ原告ノ負擔トス

第九十五條 原告ガ被告ノ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十六條 被告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ被告ノ負擔トス

第九十七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十九條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零一條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零二條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零三條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零四條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零五條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零六條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十條 當事者ガ適當ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲メ又ハ期間日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ訴訟ヲ通過セシメタルトキハ法院ハ之ヲ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スベキ訴訟費用ハ法院ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ法院ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 第八十七條乃至第九十二條ノ規定ハ當事者ガ參加ニ付異議ヲ述べタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 訴訟費用ノ負擔ハ原告ノ負擔トス

第九十五條 原告ガ被告ノ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十六條 被告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ被告ノ負擔トス

第九十七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十九條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零一條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零二條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零三條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零四條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零五條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零六條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零九條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十一條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十二條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十三條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十四條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十五條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十六條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十條 當事者ガ適當ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲メ又ハ期間日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ訴訟ヲ通過セシメタルトキハ法院ハ之ヲ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スベキ訴訟費用ハ法院ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ法院ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條 第八十七條乃至第九十二條ノ規定ハ當事者ガ參加ニ付異議ヲ述べタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生ジタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 訴訟費用ノ負擔ハ原告ノ負擔トス

第九十五條 原告ガ被告ノ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十六條 被告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ被告ノ負擔トス

第九十七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第九十九條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零一條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零二條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零三條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零四條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零五條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零六條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百零九條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十一條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十二條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十三條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十四條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十五條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十六條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十七條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

第一百十八條 原告ガ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ於テ原告ノ負擔トス

民事訴訟法 總則

訴訟費用



第百十五條 法院ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ裁定ヲ以テ擔保ノ變換ヲ命ズルコトヲ得

第百十六條 第百八條、第百九條第一項、第百十條乃至第百十二條、第百十三條第一項及前二條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴訟ノ提起ニ付供スベキ擔保ニ之ヲ準用ス

第百十七條 訴訟費用ヲ支拂フ實力ナキ者ニ對シテハ法院ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非ザルトキニ限ル

第百十八條 訴訟上ノ救助ハ各審級ニ於テ之ヲ與フ

第百十九條 訴訟上ノ救助ハ訴訟、強制執行、假押及假處分ニ付左ノ效力ヲ生ズ

一 裁判及執行ノ費用ノ支拂ノ擔保

二 法院ニ於テ附添テ命ジタル律師ノ報酬及立替金ノ支拂ノ擔保

三 訴訟費用ノ擔保ノ免除

第百二十條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニシテ其ノ效力ヲ有ス

第百二十一條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ガ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス實力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル法院ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニモ救助ヲ取消シ得

第百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ

支拂フ擔保シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命ゼラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ律師ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル執行名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得

第百二十三條 當事者ガ虛偽ノ事實ヲ述べ訴訟救助ヲ受ケタルトキハ法院ハ裁定ヲ以テ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章 訴訟手續

第一節 送達

第百二十五條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百二十六條 送達ニ關スル事務ハ法院書記官之ヲ取扱フ

前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區法院ノ書記官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第百二十七條 送達ハ送達吏又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

第百二十八條 送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス吏員トス

第百二十九條 當該事件ニ付出現シタル者ニ對シテハ法院書記官自ラ送達ヲ爲スコトヲ得

第百三十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受ケベキ者ニ送達スベキ書類ノ原本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

送達スベキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタルトキハ其ノ調書ノ原本又ハ抄本ヲ交付シ

テ送達ヲ爲ス

第百三十一條 訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス

第百三十二條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

第百三十三條 當事者ガ訴訟代理人ニ依リテ訴訟ヲ爲ストキハ送達ハ訴訟代理人ニ之ヲ爲ス

第百三十四條 數人ガ共同シテ代理權ヲ行フベキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第百三十五條 送達ハ之ヲ受ケベキ者ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ住所又ハ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

送達ヲ受ケベキ者ガ滿洲國ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スルコト判明ナラザルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スル者ガ送達ヲ受ケタルコトヲ拒マザルトキニ限ル

第百三十六條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受託法院ノ所在地ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有セザルトキハ其ノ法院ノ所在地ニ於テ送達ヲ受ケベキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ヅルコトヲ要ス

前項ノ届出ハ送達ヲ受ケベキ者ガ受託法院ノ所在地ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ法院ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第百三十七條 送達ヲ爲スベキ場所ニ於テ送達ヲ受ケベキ者ニ出會ハザルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事務ヲ辦スルニ足ルベキ知識ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

第百三十八條 書類ノ交付ヲ受ケベキ者ガ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受ケタルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スベキ場所ニ書類ヲ差置タルコトヲ得

第百三十九條 前二項ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ法院書記官書類ヲ審判官ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第百四十條 前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第百四十一條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ送達吏ニ依リ送達ヲ爲スニハ審判官ノ許可アルコトヲ要ス

前項ノ許可アリタルトキハ法院書記官ハ送達スベキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受ケベキ者ガ之ヲ受取リタル場合ニ限リ之ヲ効力ヲ有ス

第百四十二條 外國ニ於テ爲ル送達ハ審判官其ノ國ノ管轄官署又ハ其ノ國ニ駐在スル滿洲國ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第百四十三條 出陣ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ審判官其ノ上級司令官ニ囑託シテ之ヲ爲ス

前項ノ送達ニ付テハ第百三十一條ノ規定ヲ

準用ス

第百四十四條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ法院ニ提出スルコトヲ要ス

第百四十五條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スベキ場所ガ知レザル場合又ハ外國ニ於テ爲スベキ送達ニ付第百四十二條ノ規定ニ依ルコト能ハズ若ハ之ニ依ルモ其ノ効力ナシト爲ムベキ場合ニ於テハ申立ニ因リ審判官ノ許可ヲ受ケ公示送達ヲ爲スコトヲ得

訴訟ノ進行ヲ遅クル爲必要アリト認ムルトキハ審判官ノ許可ヲ受ケ職權ヲ以テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百四十六條 公示送達ハ法院書記官送達スベキ書類ヲ法院ノ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス但シ送達書類ノ保管シ何時ニテモ送達ヲ受ケベキ者ニ交付スベキ旨ヲ揭示場ニ揭示シテ送達書類ノ貼附ニ代フルコトヲ得

法院ハ公示送達アリタルコトヲ政府公報若ハ新聞紙ニ掲載シ又ハ適當ノ方法ヲ以テ公示スベキコトヲ命ズルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スベキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

第百四十七條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依リ貼附ヲ爲シ又ハ揭示ヲ始メタル日ヨリ三週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ但シ第百四十五條第三項ノ公示送達ハ貼附ヲ附シ又ハ揭示ヲ始メタル日ヨリ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ズ

第百四十八條 送達ニ關スル審判官ノ權限ハ

受命審判官、受託審判官及送達地ノ區法院ノ審判官亦之ヲ有ス

第二節 期日及期間

第百四十九條 期日ハ審判官之ヲ定ム

受命審判官又ハ受託審判官ノ審問ノ期日ハ其ノ審判官之ヲ定ム

期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

期日ハ顯著ナル事由存スル場合ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

第百五十條 期日ノ指定ハ日及時ヲ定メテ之ヲ爲ス

期日ハ日ムコトヲ得ザル場合ニ非ザレバ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得ズ

第百五十一條 期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付出現シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル

第百五十二條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス

第百五十三條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ

期間ノ末日ガ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第百五十四條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メザルトキハ其ノ期間ハ裁判ガ效力ヲ生ジタル時ヨリ進行ヲ始ム

第百五十五條 法院ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラズ

不變期間ニ付テハ法院ハ建前ノ地又ハ交通不便ノ地ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得

審判官、受命審判官又ハ受託審判官ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコト

民事手續法 民事訴訟法 裁判

訴訟手續 期日及期間

一六三



トコトヲ要ス  
 第五百五十六條 當事者ガ其ノ責ニ關スベカラ  
 行爲ヲ爲スコトニ關シテハ其ノ責ニ關スベカラ  
 行爲ヲ爲スコトニ關シテハ其ノ責ニ關スベカラ  
 第五百五十七條 當事者ガ其ノ責ニ關スベカラ  
 行爲ヲ爲スコトニ關シテハ其ノ責ニ關スベカラ  
 行爲ヲ爲スコトニ關シテハ其ノ責ニ關スベカラ  
 第五百五十八條 前條ニ規定スル追完ノ申立ハ  
 申立ノ理由及理由ヲ具シ訴訟行爲ヲ追完ス  
 ベキ法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百五十九條 前條ニ規定スル追完ノ申立ハ  
 申立ノ理由及理由ヲ具シ訴訟行爲ヲ追完ス  
 ベキ法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百六十條 當事者ガ死亡シタルトキハ訴訟  
 手續ハ申立ノ場合ニ於テハ相續人、相  
 續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ履行  
 スベキ者ハ訴訟手續ヲ受繼グコトヲ要ス  
 第五百六十一條 當事者タル法人ガ合併ニ因リ  
 テ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ申立ノ場合  
 ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人  
 又ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼  
 グコトヲ要ス

第五百六十二條 當事者ガ訴訟能力ヲ失ヒタル  
 トキ又ハ其ノ法定代理人ガ死亡シ若ハ代理  
 權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ申立ノ場合  
 ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有  
 スルニ至ラサル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼グ  
 コトヲ要ス  
 第五百六十三條 一定ノ資格ヲ有スル者ガ自己  
 ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タル場合  
 ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シ又ハ死亡シタルト  
 キハ訴訟手續ハ申立ノ場合ニ於テハ同  
 一ノ資格ヲ有スル者其ノ他法令ニ依リ訴訟  
 ヲ履行スベキ者ハ訴訟手續ヲ受繼グコトヲ  
 要ス  
 第五百六十四條 前條ニ規定セラレタル  
 當事者ノ全員ガ其ノ資格ヲ喪失シ又ハ死亡  
 シタルトキハ訴訟手續ハ申立ノ場合ニ  
 於テハ法定代理人タル者ノ職員又ハ新ニ當  
 事者トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ  
 受繼グコトヲ要ス  
 第五百六十五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關  
 スル破産手續ハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ申  
 立ノ場合ニ於テハ破産法ニ依リテ受繼アル迄  
 ニ破産手續ヲ停止アリタルトキハ破産者ハ  
 當然訴訟手續ヲ受繼ス  
 第五百六十六條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關  
 スル訴訟手續ヲ受繼アリタル後破産手續ノ  
 停止アリタルトキハ訴訟手續ハ申立ノ場合  
 ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼グコトヲ  
 要ス  
 第五百六十七條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關  
 スル訴訟手續ヲ受繼アリタル後破産手續ノ  
 停止アリタルトキハ訴訟手續ハ申立ノ場合  
 ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼グコトヲ  
 要ス

第五百六十八條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百六十九條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十一條 天災其ノ他ノ事故ニ因リ法院  
 ガ職務ヲ行フコト能ハザルトキハ訴訟手續  
 ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス  
 第五百七十二條 當事者ガ不定期間ノ故障ニ因  
 リ訴訟手續ヲ履行スルコト能ハザルトキハ  
 法院ハ裁定ヲ以テ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ  
 得  
 第五百七十三條 前項ノ裁定ハ之ヲ取消スコトヲ得  
 第五百七十四條 前項ノ裁定ハ之ヲ取消スコトヲ得  
 第五百七十五條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十七條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十八條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十九條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十一條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十二條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十三條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十四條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十五條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十七條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十八條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百八十九條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十一條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十二條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十三條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十四條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十五條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十七條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十八條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百九十九條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零一條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零二條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零三條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零四條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零五條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零六條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零七條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零八條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百零九條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス  
 第六百一十條 訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於  
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス



審判官ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハザル  
 審判官ハ發言ヲ禁ズルコトヲ得  
 第九十六條 審判官ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラ  
 シムル爲事實及法律上ノ事項ニ關シ當事  
 者ニ對シテ問フ事又ハ立證ヲ促スコトヲ  
 得  
 當事者ハ審判官ニ對シテ必要ナル發問ヲ求ム  
 ルコトヲ得  
 第九十七條 審判官ハ前條ノ規定ニ依リテ  
 當事者ヲシテ聲明セシムベキ事項ヲ指示シ  
 口頭辯論期日前準備ヲ爲スベキコトヲ命ズ  
 ルコトヲ得  
 第九十八條 當事者ガ辯論ノ指揮ニ關スル  
 審判官ノ命又ハ前二條ノ規定ニ依ル審判官  
 ノ處置ニ對シ異議ヲ述べタルトキハ法院ハ  
 決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス  
 第九十九條 法院ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシ  
 ムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
 一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭  
 ヲ命ズルコト  
 二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文  
 書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スル  
 モノヲ提出セシムルコト  
 三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其  
 ノ他ノ物件ヲ法院ニ留置クコト  
 四 檢査ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命ズルコト  
 五 必要ナル調査ヲ囑付スルコト  
 前項第一號ノ場合ニ於テ當事者本人又ハ其  
 ノ法定代理人ハ法院ノ許可ヲ受ケ自己ニ代  
 リ事情ヲ熟知セラル者ヲ出頭セシムルコトヲ  
 得  
 第一百條 第四號ニ規定セル檢査及鑑定ニ關  
 五號ニ規定セル調査ノ囑付ニ付テハ前條

ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第二百條 法院ハ口頭辯論ノ制限、分置若ハ  
 併合ヲ命ジ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得  
 第二百一條 法院ハ終結シタル口頭辯論ノ再  
 開ヲ命ズルコトヲ得  
 第二百二條 法院ハ口頭辯論ニ通事ヲ立會ハ  
 シムルコトヲ得  
 當事者又ハ受託者ニ對シテハ文字ヲ以テ問ヒ又  
 ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第二百三條 法院ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシム  
 ル爲必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハザル當事  
 者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁ジ辯論續  
 行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁ジタル場合ニ  
 於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ律師ノ  
 附添ヲ命ズルコトヲ得  
 訴訟代理人ノ陳述ヲ禁ジ又ハ律師ノ附添ヲ  
 命ジタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコ  
 トヲ要ス  
 第二百四條 攻擊又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規  
 定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至  
 ル迄之ヲ提出スルコトヲ得  
 第二百五條 原告又ハ被告ガ最初ニ爲スベキ  
 口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ出頭スルモ  
 本案ノ辯論ヲ爲サザルトキハ其ノ者ノ提出  
 シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記  
 載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做  
 シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命ズルコトヲ  
 得  
 第二百六條 當事者ガ故意又ハ重大ナル過失  
 ニ因リ時ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防  
 禦ノ方法ハ之ガ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシム  
 得

ベキモノト認ムルトキハ法院ハ申立ニ因リ  
 又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ  
 得  
 攻擊又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナ  
 ラザルモノニ付當事者ガ必要ナル聲明ヲ爲  
 サズ又ハ聲明ヲ爲スベキ期日ニ出頭セザル  
 トキ亦前項ニ同シ  
 第二百七條 當事者ガ口頭辯論ニ於テ相手方  
 ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハザルトキハ其  
 ノ事實ヲ明白シタルモノト看做ス但シ辯論  
 ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト  
 認ムベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラザル旨ノ陳  
 述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノ  
 ト推定ス  
 第二百八條 當事者雙方ガ口頭辯論ノ期日ニ  
 出頭セズ又ハ辯論ヲ爲サズシテ退庭シタル  
 トキハ審判官ハ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ  
 呼出スコトヲ要ス  
 前項ノ新期日又ハ其ノ後ノ期日ニ當事者雙  
 方が出頭セズ又ハ辯論ヲ爲サズシテ退庭シ  
 タルトキハ訴訟ノ取下アリタルモノト看做  
 ス  
 第二百九條 法院ハ當事者雙方ニ異議ナキ場  
 合ニ限リ口頭辯論ヲ經ズシテ判決ヲ爲スコ  
 トヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ期間ヲ定メ  
 書面ヲ以テ陳述スベキコトヲ當事者ニ命ズ  
 ルコトヲ得  
 第二百十條 當事者ガ訴訟手續ニ關スル規定  
 ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリ  
 シニ拘ラズ通稱ナク異議ヲ述べザルトキハ

之ヲ述ブル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ  
 得ズルモノハ此ノ限ニ在ラズ  
 第二百一十一條 口頭辯論ニ付テハ法院書記官  
 期日毎ニ圖書ヲ作ルコトヲ要ス  
 第二百一十二條 圖書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審  
 判官及法院書記官之ニ署名捺印スルコトヲ  
 要ス但シ審判官支障アルトキハ書記官其ノ  
 旨ヲ記載スルヲ以テ足ル  
 一 事件ノ表示  
 二 審判官及法院書記官ノ氏名  
 三 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及  
 通事並ニ關係シタル當事者ノ氏名  
 四 辯論ノ場所及年月日  
 五 辯論ノ公開シタルコト又ハ公開セザル  
 場合ニ於テハ其ノ理由(第七、第九、九號本條  
 中改正)  
 第二百一十三條 圖書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ  
 殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス  
 一 和解、認諾、拋棄、取下及自白  
 二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述  
 三 檢査ノ結果  
 四 審判官ノ記載ヲ命ジタル事項及當事者  
 ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項  
 五 書面ニ依ラザル裁判  
 六 裁判ノ言渡  
 第二百一十四條 審判官ハ圖書ニ書面、寫眞其  
 ノ他適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ  
 添附シテ之ヲ圖書ノ一部ト爲サシムルコト  
 ヲ得  
 第二百一十五條 圖書ノ記載ハ申立ニ因リ法庭  
 ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシ  
 メ且圖書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
 圖書ノ記載ニ付關係人ガ異議ヲ述べタルト  
 キハ圖書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百一十六條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定  
 ノ遵守ハ圖書ニ依リテノミ之ヲ證スルコト  
 ヲ得但シ圖書ガ滅失シタルトキハ此ノ限ニ  
 在ラズ  
 第二百一十七條 第二百一十一條乃至前條ノ規定  
 ハ法院ノ審訊、受託審判官ノ審問及證據調  
 査ニ之ヲ準用ス  
 第二百一十八條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規  
 定アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ  
 之ヲ爲スコトヲ得  
 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ法院書記官ノ面  
 前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ノ場合ニ於テハ書記官圖書ヲ作り之ニ  
 署名捺印スルコトヲ要ス  
 第二百一十九條 當事者ハ訴訟記録ノ閱覽若ハ  
 謄寫又ハ其ノ正本、謄本抄本若ハ訴訟ニ關  
 スル事項ノ證明書ノ交付ヲ法院書記官ニ請  
 求スルコトヲ得利害關係ヲ證明シタル第三  
 者亦同シ  
 訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正  
 本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記官  
 之ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ捺捺スルコト  
 ヲ要ス  
 第三節 證據  
 第一款 證據  
 第二百二十條 法院ニ於テ當事者ガ自白シタ  
 ル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ  
 要セズ  
 第二百二十一條 證據ノ申出ハ證スベキ事實  
 ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコト  
 ヲ得  
 第二百二十二條 證明ハ即時ニ取調ブルコト  
 ヲ得ベキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十三條 當事者ノ申出デタル證據ニ  
 シテ法院ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ  
 取調ブルコトヲ要セズ  
 第二百二十四條 證據調ニ付不定期間ノ障礙  
 アルトキハ法院ハ證據調ヲ爲サザルコトヲ  
 得  
 第二百二十五條 法院ハ當事者ノ申出デタル  
 證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハザルトキ  
 其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ  
 證據調ヲ爲スコトヲ得  
 第二百二十六條 法院ハ必要ナル調査ヲ官  
 署、公署、外國ノ官署若ハ公署又ハ學校、  
 商會、農會、取引所其ノ他ノ團體ニ囑付ス  
 ルコトヲ得  
 第二百二十七條 證據調ハ當事者ガ期日ニ出  
 頭セザル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得  
 第二百二十八條 外國ニ於テ爲スベキ證據調  
 ハ其ノ國ノ管轄官署又ハ其ノ國ニ駐在スル  
 滿洲國ノ大使、公使若ハ領事ニ囑付シテ之  
 ヲ爲スコトヲ要ス  
 外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律  
 ニ違背スルモノ本法ニ違背セザルトキハ其ノ  
 ヲ效力ヲ有ス  
 第二百二十九條 法院ハ相當ト認ムルトキハ  
 法院外ニ於テ證據調ヲ爲シ又ハ區法院ニ囑  
 付シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得  
 受託審判官ガ他ノ區法院ニ於テ證據調ヲ爲  
 スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ  
 囑付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ  
 旨ヲ受託法院及當事者ニ通知スルコトヲ要  
 ス  
 第二百三十條 受託審判官ハ別段ノ規定アル  
 場合ヲ除クノ外證據調ニ關シ受託法院及審  
 判官ト同一ノ權限ヲ有ス



受託審判官が裁判ヲ爲スベキ場合ニ於テ相  
當トシタルトキハ受託法院ニ對シ其ノ裁判  
ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ得  
第二百三十一條 受託審判官ハ受託ニ關ス  
ル記録ヲ受託法院ニ送付スルコトヲ要ス  
第二百三十二條 法院ノ爲ス證據ニ關スル  
証人ハ審判官ノ爲ス  
第二款 證人ノ取調  
第二百三十三條 法院ハ別段ノ規定アル場合  
ヲ除ク外何人ト雖モ證人トシテ之ヲ取調  
スルコトヲ得  
第二百三十四條 公務員又ハ公務員タリシ者  
ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付取調スル場  
合ニ於テハ法院ハ監督官アル官署又ハ公署  
ノ取調ヲ得ルコトヲ要ス  
第二百三十五條 國務總理大臣、官内府大臣、  
府知事、府長官、支庁知事、市長、町長、村長、  
警察官、警察長、警察署長、警察署長、  
在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付  
取調スル場合ニ於テハ法院ハ勅許ヲ得ルコ  
トヲ要ス治安部大臣又ハ其ノ職ニ在リタル  
者ヲ證人トシテ軍ノ秘密ニ關スル職務上ノ  
秘密ニ付取調スル場合亦同シ  
第二百三十六條 證人取調ノ申出ハ證人ヲ指  
定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百三十七條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項  
ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 當事者ノ表示  
二 取調事項ノ要領  
三 證人ノ出頭スベキ日時及場所  
四 證人ノ出頭セザル場合ニ於ケル法律上  
ノ制裁  
五 法院  
法院相當トシタルトキハ呼出狀ニ前項第二  
款ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第二百三十八條 證人ガ正當ノ事由ナクシテ  
出頭セザルトキハ法院ハ鑑定ヲ以テ之ニ因  
リテ生ジタル訴訟費用ノ負擔ヲ命ジ且三百  
圓以下ノ過料ニ處ス此ノ鑑定ニ對シテハ即  
時抗告ヲ爲スコトヲ得  
第二百三十九條 法院ハ正當ノ事由ナクシテ  
出頭セザル證人ノ勾引ヲ命ズルコトヲ得  
前項ノ拘引ニハ刑事訴訟法中證人ノ拘引ニ  
關スル規定ヲ準用ス  
第二百四十條 左ノ場合ニ於テハ受託審判官  
ヲシテ證人ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得  
一 證人ガ受託法院ニ出頭スル義務ナキト  
キ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能  
ハザルトキ  
二 證人ガ受託法院ニ出頭スルニ付不相宜  
ノ費用又ハ時間ヲ要スルコトキ  
第二百四十一條 證人ガ證人又ハ左ニ掲グル  
者ノ利害上ノ訴訟又ハ證據ヲ拒ムコトアル事  
項ニ關スルトキハ證人ハ取調ヲ拒ムコトヲ  
得證人ガ此等ノ者ノ取調ニ關スル事項ニ  
關スルトキ亦同シ  
一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三  
親等内ノ姻族又ハ證人ト此等ノ親族關係  
アリタル者  
二 證人ノ家ノ家長  
三 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受タル  
者  
四 證人ガ主人トシテ仕フル者  
第二百四十二條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證  
言ヲ拒ムコトヲ得  
一 第二百三十四條及第二百三十五條ノ場  
合  
二 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥商、助  
産士、律師、辯護士、鑑定士、公證人、

宗教又ハ書記ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職  
ニ在リタル者ガ職務上知リタル事實ニシ  
テ秘密スベキモノニ付取調ヲ受タルトキ  
三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付  
取調ヲ受タルトキ  
前項ノ規定ハ證人ガ職權ノ義務ヲ免ゼラレ  
タル場合ニハ之ヲ適用セズ  
第二百四十三條 證言拒絕ノ理由ハ之ヲ説明  
スルコトヲ要ス  
第二百四十四條 第二百四十二條第一項第一  
款ノ場合ヲ除ク外證言拒絕ノ當否ニ付テ  
ハ受託法院當事者ヲ審判シテ裁判ヲ爲ス  
證言拒絕ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及  
證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
第二百四十五條 證言拒絕ノ理由ナシトスル  
裁判確定シタル後證人ガ故ナク證言ヲ拒ム  
コトキハ第二百三十八條ノ規定ヲ準用ス  
第二百四十六條 審判官ハ證人ヲシテ取調前  
宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事  
由アルトキハ取調後之ヲ爲サシムルコトヲ  
得  
第二百四十七條 宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ  
行フコトヲ要ス  
第二百四十八條 審判官ハ宣誓前宣誓ノ趣旨  
ヲ指示シ取調前信證ノ編ヲ警告スルコトヲ  
要ス  
第二百四十九條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ  
朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲  
ス  
證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハザルトキハ  
審判官之ヲ代讀ス  
證人署名スルコト能ハザルトキハ法院書記  
官之ヲ代書ス  
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ブルコトヲ

誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
第二百五十條 左ニ掲グル者ヲ證人トシテ取  
調スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ズ  
一 十六歳未満ノ者  
二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハザル者  
第二百五十一條 第二百四十一條ノ規定ニ該  
當スル證人ニシテ取調拒絶ノ權利ヲ行ハザ  
ル者ヲ取調スルニハ宣誓ヲ爲サシメザルコ  
トヲ得  
第二百五十二條 證人ガ自己又ハ第二百四十  
一條ニ掲グル者ニ著シキ利害關係アル事項  
ニ付取調ヲ受タルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ  
得  
第二百五十三條 宣誓ヲ爲サシメズシテ證人  
ヲ取調シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ證書ニ  
記載スルコトヲ要ス  
第二百五十四條 第二百三十八條、第二百四  
十三條及第二百四十四條ノ規定ハ證人ガ宣  
誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス  
第二百五十五條 審判官ハ必要アリト認ムル  
トキハ證人相互ノ對質ヲ命ズルコトヲ得  
第二百五十六條 審判官ハ必要アリト認ムル  
トキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナ  
ル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二百五十七條 審判官ハ必要アリト認ムル  
トキハ後ニ取調スベキ證人ニ在庭ヲ許スコ  
トヲ得  
第二百五十八條 證人ハ書額ニ依リテ陳述ヲ  
爲スコトヲ得ズ但シ審判官ノ許可ヲ受ケタ  
ルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第二百五十九條 當事者ハ審判官ニ對シ必要  
ナル取調ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ受ケ取調ヲ發  
スルコトヲ得  
當事者ハ發問ノ許否ニ付發問ヲ違ブルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ法院取調ニ付裁判ヲ  
爲ス  
受託審判官ノ發問ノ許否ニ對スル異議ニ付  
テハ受託法院裁判ヲ爲ス  
第三款 鑑定  
第二百六十條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合  
ヲ除ク外前款ノ規定ヲ準用ス  
第二百六十一條 鑑定ニ必要ナル學識經驗ア  
ル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ  
第二百六十二條 又ハ第二百五十二條ノ規定  
ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一  
ノ地位ニ在ル者及第二百五十條ニ掲グル者  
ハ鑑定人タルコトヲ得ズ  
第二百六十三條 鑑定人ハ之ヲ拘引スルコト  
ヲ得ズ  
第二百六十四條 鑑定人ハ受託法院又ハ受託  
審判官之ヲ指定ス  
第二百六十五條 鑑定人ニ公正ニ鑑定ヲ爲ス  
コトヲ妨グベキ事情アルトキハ當事者ハ之  
ヲ回避スルコトヲ得  
鑑定人ガ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲シ又ハ書面  
ヲ提出シタルトキハ其ノ鑑定人ヲ回避スル  
コトヲ得ズ但シ回避ノ原因ガ其ノ後ニ生ジ  
又ハ當事者ガ其ノ原因アルコトヲ知ラザリ  
シトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第二百六十六條 回避ノ申立ハ其ノ原因ヲ開  
示シテ受託法院又ハ受託審判官ニ之ヲ爲ス  
コトヲ要ス  
回避ノ原因及前條第二項但書ノ事實ハ之ヲ  
證明スルコトヲ要ス  
回避ノ理由アリトスル鑑定ニ對シテハ不服  
ヲ申立ツルコトヲ得ズ之ヲ理由ナシトスル  
鑑定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百六十六條 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公正  
ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコト  
ヲ要ス  
第二百六十七條 審判官ハ鑑定人ヲシテ書面  
又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ  
述ベシムルコトヲ得  
第二百六十八條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知  
リ得タル事實ニ關スル取調ニ付テハ證人取  
調ニ關スル規定ニ依ル  
第二百六十九條 法院必要アリト認ムルトキ  
ハ宣誓、公署、外國ノ官署若ハ公署又ハ相  
當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ  
得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除  
ク外本款ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ場合ニ於テ法院必要アリト認ムルト  
キハ宣誓、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲ  
シテ鑑定書ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得  
第四款 書證  
第二百七十條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又  
ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命ゼンコト  
ヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二百七十一條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所  
持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ズ  
一 當事者ガ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ  
自ラ所持スルトキ  
二 證言者ガ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡  
又ハ閲覧ヲ求ムルコトヲ得ルトキ  
三 文書ガ學識者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ  
又ハ學識者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律  
關係ニ付作成セラレタルトキ  
四 當事者ガ其ノ商業帳簿ヲ自ラ所持スル  
トキ  
第二百七十二條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事  
項ヲ明ニスルコトヲ要ス







第三百十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關シタル審判官之ヲ爲ス  
審判官ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス  
第三百十八條 判決ハ言渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
第三百十九條 判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス  
審判官ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告グルコトヲ得  
第三百二十條 判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
判決ノ言渡ハ當事者ガ在庭セザル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得  
第三百二十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シトヲ要ス  
一 主文  
二 事實及争點  
三 理由  
四 當事者及法定代理人  
五 法廷  
事實及争點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ顯示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第三百二十二條 判決ハ言渡後過期ナク之ヲ法廷書記官ニ交付シ書記官ハ口頭辯論ノ終結並ニ判決言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス  
第三百二十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス  
第三百二十四條 判決ニ違背シ其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ法院ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正裁定ヲ爲スコトヲ得  
第三百二十五條 法院ガ請求ノ一部ニ付裁判ヲ廢止シタルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判ヲ補充スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ハ訴訟費用ノ裁判ヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第三百一十條ノ規定ニ依ル  
前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シテ法廷書記官ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴法院ハ訴訟ノ費用ニ付裁判ヲ爲ス  
前項ノ規定ハ本案判決ノ基本タル口頭辯論ノ終結並ニ對スル追完ノ申立ガ理由アル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百二十六條 財產權ニ基キ請求ニ關スル判決ニ付テハ法院ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セズシテ假執行ヲ爲シ得ベキ旨ヲ宣旨スルコトヲ得  
法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免レ得ベキ旨ヲ宣旨スルコトヲ得  
前二項ノ宣旨ハ判決主文ニ之ヲ掲グルコトヲ要ス  
第三百二十七條 第四百一十一條、第四百十二條、第四百十四條及第四百十五條ノ規定ハ前條ノ規定ニ之ヲ準用ス

保ニ之ヲ準用ス  
第三百二十八條 第三百二十五條第一項ノ規定ハ假執行ニ關スル裁判ヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百二十九條 假執行ノ宣旨ハ其ノ宣旨又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ  
本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ法院ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣旨ニ基キ被告ガ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命ズルコトヲ要ス  
假執行ノ宣旨ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス  
第三百三十條 確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス  
相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス  
第三百三十一條 外國法院ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス  
一 法令又ハ條約ニ於テ外國法院ノ裁判權ヲ否認セザルコト  
二 敗訴ノ被告ガ滿洲國人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依ラズシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケザルモ應訴シタルコト  
三 外國法院ノ判決ガ滿洲國ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セザルコト  
四 相互ノ保證アルコト  
第三百三十二條 確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承継人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的

物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス  
他人ノ爲當事者ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス  
前二項ノ規定ハ假執行ノ宣旨ニ之ヲ準用ス  
第三百三十三條 不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺ガ補正スルコト能ハザルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經ズシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得  
第三百三十四條 裁定ヲ以テ完結スベキ事件ニ付テハ法院口頭辯論ヲ爲スベキカ否ヲ定ム  
口頭辯論ヲ爲サザル場合ニ於テハ法院ハ當事者其ノ他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得  
前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セズ  
第三百三十五條 裁定ハ告知ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ  
裁定ノ告知ハ之ニ因リテ不服申立ノ期間ノ進行ヲ始ムルモノニ在リテハ裁定ヲ送達シテ之ヲ爲ス  
前項以外ノ裁定ノ告知ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ法院書記官ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁定ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス  
第三百三十六條 訴訟ノ指揮ニ關スル裁定ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得  
第三百三十七條 法院書記官ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記官所屬ノ法院裁定ヲ以テ裁判ヲ爲ス  
第三百三十八條 裁定ニハ其ノ性質ニ反セザル限リ判決ニ關スル規定ヲ準用ス  
第三百三十九條 法院ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ和解ヲ試ミ又ハ區法院ニ屬

託シテ之ヲ試ミシムルコトヲ得  
前項ノ委託ハ審判官之ヲ爲ス  
第三百四十條 法院又ハ受託審判官ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命ズルコトヲ得  
第三百四十一條 和解成立シ之ヲ圖書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス  
第六節 訴ノ取下  
第三百四十二條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下グルコトヲ得但シ相手方ガ本案ニ付準備書面ヲ提出シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス  
訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨グズ  
訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス  
第三百四十三條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ緊密ナカリシモノト看做ス  
本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ゲタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ズ  
第三百四十四條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得ズシテ反訴ヲ取下ゲルコトヲ得  
第二章 區法院ノ訴訟手續  
第三百四十五條 區法院ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス  
第三百四十六條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ訴訟參加ノ申出ニ之ヲ準用ス

第三百四十七條 當事者雙方ハ任意ニ法院ニ出頭シ訴訟ニ付口頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス  
第三百四十八條 被告ガ反訴ヲ以テ地方法院ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區法院ハ裁定ヲ以テ本案及反訴ヲ地方法院ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第三十三條ノ規定ヲ準用ス  
移送ノ裁定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ  
前二項ノ規定ハ當事者ガ第八十五條ノ規定ニ依リテ請求メタル確定判決ノ請求ガ地方法院ノ管轄ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百四十九條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セズ  
相手方ガ準備ヲ爲スニ非ザレバ陳述ヲ爲スコト能ハズト認ムベキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ラズ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ得  
第九十四條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百五十條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無並ニ請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル  
第三百三十三條第二項ノ規定ニ依ル相殺ノ主張ニ關スル判斷ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ判決ニ記載スルコトヲ要ス







テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百九十三條 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條 控訴法院ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スルコトヲ要ス

第三百九十五條 第一審ノ判決ノ手續ガ法律ニ違背シタルトキハ控訴法院ハ判決ヲ取消スルコトヲ要ス

第三百九十六條 訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴法院ハ事件ヲ第一審法院ニ送戻スルコトヲ要ス

第三百九十七條 前條ノ場合ノ外控訴法院ガ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付向辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審法院ニ送戻スルコトヲ得

第一審法院ニ於ケル訴訟手續ガ法律ニ違背シタルコトノ理由トシテ事件ヲ差戻ストキハ其ノ訴訟手續ハ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス

第三百九十八條 事件ガ管轄違ナルコトノ理由トシテ第一審判決ヲ取消ストキハ控訴法院ハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄法院ニ移送スルコトヲ要ス

第三百九十九條 判決ハ之ヲ爲シタル審判官署名捺印スルコトヲ要ス但シ審判官判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ審判官判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第四百條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得

第四百一條 訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間満了シタルトキハ法院書記官ハ判決又ハ第三百六十四條ノ規定ニ依ル

命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審法院ノ書記官ニ送付スルコトヲ要ス

第四百二條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三條 第一審判決ニ對シテハ第一審法院ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 上告ハ判決ガ法令ニ違背シタルコトノ理由トスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四百五條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シタルモノトス

一 法律ニ從ヒテ判決法院ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得ザル審判官ガ判決ニ關與シタルトキ

三 專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四 法定代理權又ハ訴訟代理權ノ欠缺アリタルトキ

五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

六 判決ニ理由ヲ附セズ又ハ理由ニ齟齬アリタルトキ

第四百六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第四百七條 上告法院ノ書記官ハ原法院ノ書記官ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ

記官ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第四百八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セザルトキハ前條ノ通知アリタル日ヨリ四十日以内ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス

第四百九條 上告人ガ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セザルトキハ上告法院ハ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得

第四百十條 審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スベキコトヲ被上告人ニ命ズルコトヲ得

第四百十一條 上告審ノ判決ハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 上告法院ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス

第四百十三條 原判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告法院ヲ羈束ス

第四百十四條 第四百二條ノ規定ニ依ル上告アリタル場合ニ於テハ上告法院ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定ガ法律ニ違背シタルコトノ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得ズ

第四百十五條 第四百十二條乃至前條ノ規定ハ法院ガ職權ヲ以テ調査スベキ事項ニ之ヲ適用セズ

第四百十六條 上告法院ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ確定ヲ以テ假執行ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第四百十七條 上告ノ理由アリトスルトキハ上告法院ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原法院ニ送戻シ又ハ同等ナル他ノ法院ニ移送スルコトヲ得

トヲ要ス

差戻又ハ移送ヲ受ケタル法院ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告法院ガ破毀ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ニ關スルモノトス

原判決ニ關與シタル審判官ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ズ

第四百十八條 左ノ場合ニ於テハ上告法院ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

一 確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ガ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

二 事件ガ通常法院ノ權限ニ屬セザルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スルトキ

第四百十九條 差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ法院書記官ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル法院ノ書記官ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第四百二十條 高等法院ガ上告審ナル場合ニ於テ法令ノ解釋ニ關シ其ノ法院若ハ他ノ高等法院又ハ最高法院ガ曾テ上告審トシテ爲シタル判決ト意見ヲ異ニスルトキハ裁定ヲ以テ訴訟ヲ最高法院ニ移送スルコトヲ要ス

第四百二十三條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル移送ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十一條 口頭辯論ヲ經ズシテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル裁定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十二條 裁定ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得ザル事項ニ付裁定ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十三條 受命審判官又ハ受託審判官ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受託法院ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判ガ受託法院ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 第一項ノ規定ハ上告審ニ屬スル事件ニ付受命審判官又ハ受託審判官ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス

第四百二十五條 抗告法院ノ裁定ニ對シテハ其ノ裁定ガ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 抗告及抗告法院ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セザル限り第一章ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ前章ノ規定ヲ準用ス

第四百二十七條 即時抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百二十八條 前二項ノ規定ハ第四百二十三條ノ規定ニ依ル異議ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四百二十九條 抗告ハ原法院又ハ抗告法院ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

抗告法院ガ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ適當ト認ムルトキハ事件ヲ原法院ニ送付スルコトヲ得

第四百三十條 原法院ガ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ヲ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

抗告ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ

事件ヲ抗告法院ニ送付スルコトヲ要ス

第四百二十九條 抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告法院又ハ原裁判ヲ爲シタル法院若ハ審判官ハ抗告ニ付裁定アル迄原裁判ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得

第四百三十條 再審

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者ガ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知りテ主張セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 法律ニ從ヒテ判決法院ヲ構成セザルトキ

二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得ザル審判官ガ判決ニ關與シタルトキ

三 法定代理權又ハ訴訟代理權ノ欠缺アリタルトキ

四 故意又ハ重大ナル過失ニ因リ公示送達ノ申立ヲ爲シ之ニ因リ當事者ガ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ゲラレタルトキ

五 判決ニ關與シタル審判官ガ事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ

六 兩事上關スベキ他人ノ行爲ニ因リ自白ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ判決ニ影響ヲ及ボスベキ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ゲラレタルトキ

七 判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件ガ偽造又ハ變造セラレタルモノナリシトキ

八 證人、鑑定人、通譯ヲ爲シタル法院書記官、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ法



九 代理人ノ遺囑ノ陳述ガ判決ノ證據ト爲  
リタルトキ  
九 判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ  
判決其ノ他ノ裁判又ハ行政處分ガ後ノ裁  
判又ハ行政處分ニ依リテ變更セラレタル  
トキ  
十 判決ニ影響ヲ及ボスベキ重要ナル事項  
ニ付判断ヲ違脱シタルトキ  
十一 不服ノ申立アル判決ガ前ニ言渡サレ  
タル確定判決ト低屬スルトキ  
前項第五號乃至第八號ノ場合ニ於テハ罰ス  
ベキ行爲ニ付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確  
定シタルトキ又ハ證據欠缺以外ノ理由ニ因  
リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁判ヲ得  
ルコト能ハザルトキニ限リ再審ノ訴ヲ提起  
スルコトヲ得  
十二 控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタル  
トキハ第一審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起  
スルコトヲ得ズ (廣七・第五九號本條中改  
正)

再審ノ事由ガ判決確定後ニ生ジタルトキハ  
前項ノ期間ハ其ノ事由ノ發生ノ日ヨリ之ヲ起  
算ス  
第四百三十四條 前條ノ規定ハ第四百三十條  
第一項第三號第四號及第十一號ニ掲グル事  
項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セ  
ズ  
第四百三十五條 訴訟ニハ左ノ事項ヲ記載ス  
ルコトヲ要ス  
一 當事者及法定代理人  
二 不服ノ申立アル判決ノ表示及其ノ判決  
ニ對シ再審ヲ求ムル旨  
三 不服ノ理由  
第四百三十六條 本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ  
範圍内ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得  
第四百三十七條 再審ノ事由アル場合ニ於テ  
モ判決ヲ正當トスルトキハ法院ハ再審ノ訴  
ヲ却下スルコトヲ要ス  
第四百三十八條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立  
ツルコトヲ得ル確定判決ニ對シタル場合ニ於  
テ第四百三十三條第一項ニ掲グル事由アルト  
キハ確定判決ニ對シ第四百三十三條乃至前  
條ノ規定ニ準ジ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
第四百三十九條 當事者又ハ其ノ代理人ガ選  
ニ再審ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ訴  
ヲ却下スル判決確定シタルトキハ法院ハ裁  
定ヲ以テ三百圓以下ノ過料ニ處ス  
前項ノ裁定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト  
ヲ得  
前二項ノ規定ハ前條ニ規定スル再審ノ申立  
ニ之ヲ準用ス  
第五百條 督促手續  
第四百四十條 金錢其ノ他代替物又ハ有價證

券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ  
付テハ法院ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令  
ヲ發スルコトヲ得但シ滿洲國ニ於テ公示送  
達ニ依ラズシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコト  
ヲ得ベキ場合ニ限ル  
第四百四十一條 督促手續ハ債權者ノ普通裁  
判管轄區法院又ハ第九條ノ規定ニ依  
ル管轄區法院ノ專屬管轄トス  
第四百四十二條 支拂命令ノ申立ニハ其ノ性  
質ニ反セザル限リ訴ニ關スル規定ヲ準用ス  
第四百四十三條 支拂命令ノ申立ガ第四百四  
十條若ハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ  
又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト  
明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコト  
ヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコ  
トヲ得ザルトキ其ノ一部ニ付亦同ジ  
申立却下ノ裁定ニ對シテハ不服ヲ申立ツル  
コトヲ得ズ  
第四百四十四條 支拂命令ハ債權者ヲ審訊セ  
ズシテ之ヲ發ス債務者ハ支拂命令ニ對シ異  
議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
第四百四十五條 支拂命令ニハ當事者、法定  
代理人或ニ請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債  
務者ガ支拂命令送達ノ日ヨリ三週間以内ニ  
異議ヲ申立テザルトキハ債權者ノ申立ニ因  
リ假執行ノ宣言ヲ爲スベキ旨ヲ附スルコト  
ヲ要ス  
第四百四十六條 支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送  
達スルコトヲ要ス  
第四百四十七條 債務者ガ假執行ノ宣言前異  
議ヲ申立テザルトキハ支拂命令ハ其ノ異議  
ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ  
第四百四十八條 債務者ガ支拂命令送達ノ日  
ヨリ三週間以内ニ異議ヲ申立テザルトキハ

法院ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續  
ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコト  
ヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタル  
トキハ此ノ限ニ在ラズ  
假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之  
ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコト  
ヲ要ス  
假執行ノ申立却下ノ裁定ニ對シテハ即時抗  
告ヲ爲スコトヲ得  
第四百四十九條 債權者ガ假執行ノ申立ヲ爲  
スコトヲ得ル時ヨリ三十日以内ニ其ノ申立  
ヲ爲サザルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失  
フ  
第四百五十條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂  
命令送達ノ日ヨリ三週間ヲ經過シタルトキ  
ハ債務者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立  
ツルコトヲ得ズ  
第四百五十一條 區法院ガ異議ヲ不適當ト認  
ムトキハ請求ガ地方法院ノ管轄ニ屬スル場  
合ニ於テモ裁定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スル  
コトヲ要ス此ノ裁定ニ對シテハ即時抗告ヲ  
爲スコトヲ得  
第四百五十二條 支拂命令ニ對シ適法ナル異  
議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付  
テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立  
ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區法院又ハ  
其ノ區法院ノ所在地ヲ管轄スル地方法院ニ  
於テ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ  
於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一  
部トス  
前項ノ規定ニ依リテ地方法院ニ訴ノ提起ア  
リタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ法  
院書記官ハ速ニ之ヲ訴訟記録ヲ地方法院ノ

書記官ニ送付スルコトヲ要ス  
第四百五十三條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支  
拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議  
却下ノ裁定確定シタルトキハ支拂命令ハ確  
定判決ト同一ノ效力ヲ有ス  
附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(廣七・第四二號勅令第三二二號)  
(以テ同年十二月一日ヨリ施行)  
附則 (勅令第七九號)  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
○民事訴訟法施行法  
(廣七・十一月二十五日)  
(勅令第三一一一號)  
除組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經  
テ民事訴訟法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ  
シム(國務總理、司法部長大臣)  
民事訴訟法施行法  
第一條 民事訴訟法ハ本法ニ別段ノ規定アル  
場合ヲ除ク外其ノ施行前ニ生ジタル事項  
ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ  
生ジタル效力ヲ妨グズ  
第二條 民事訴訟法施行前ヨリ繫屬スル事件  
ニ付民事訴訟法ニ依リ管轄權アル法院ハ從  
前ノ規定ニ依レバ管轄權ナキ場合ニ於テモ  
管轄權ヲ有ス  
第三條 民事訴訟法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタ  
ル訴訟行爲ニシテ民事訴訟法施行ノ際爲ス

ベキモノニ付テハ其ノ期間ハ民事訴訟法施  
行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
第四條 民事訴訟法中訴訟費用ノ擔保ニ關ス  
ル規定ハ民事訴訟法施行前ヨリ繫屬スル訴  
訟ニ付テハ之ヲ適用セズ  
第五條 民事訴訟法施行前ヨリ進行ヲ始メタ  
ル法定期間及其ノ計算ハ從前ノ規定ニ依ル  
第六條 民事訴訟法施行前申立テタル原狀同  
復ノ手續ハ仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ完結ス  
第七條 民事訴訟法施行前從前ノ規定ニ依リ  
テ罰鍰ニ處スベキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ  
民事訴訟法施行ノ際未ダ其ノ裁判ヲ受ケザ  
ルモノハ民事訴訟法ニ於テ過料ニ處スベキ  
場合ニ限リ民事訴訟法ニ依リ之ヲ處罰ス但  
シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ額ノ額ヲ超ユ  
ルコトヲ得ズ民事訴訟法施行前民事訴訟法  
ニ依リテ過料ニ處スベキ行爲ヲ爲シタル者  
ハ從前ノ規定ニ於テ罰鍰ニ處スベキ場合ニ  
非ザレバ之ヲ處罰スルコトヲ得ズ  
第八條 從前ノ規定ニ依リ訴ノ提起前ニ爲シ  
タル和解ノ申立ハ調停法ニ依リテ爲シタル  
調停ノ申立ト看做ス  
第九條 民事訴訟法施行前ニ爲シタル判決ニ  
對シテハ民事訴訟法第三百五十二條及第四  
百三十三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依  
リ上訴ヲ爲スコトヲ得  
第十條 民事訴訟法施行前第一審法院又ハ控  
訴法院ガ管轄權トシテ訴訟ヲ却下シタル場  
合ニ於テ上訴法院ガ第一審法院ニ其ノ管轄  
權ヲシトスルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一  
審ノ管轄法院ニ移送スルコトヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ上訴法院ガ第一審法院ニ  
管轄權アリトスルトキハ事件ヲ其ノ法院ニ  
管轄スルコトヲ要ス但シ第一審法院ガ管轄權



アリト爲シタル事件ニ付控訴法院ガ管轄場  
トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告法  
院ハ事件ヲ控訴法院ニ差戻スコトヲ得  
第十一條 民事訴訟法第四百十七條第三項ノ  
規定ハ常分ノ間之ヲ適用セズ  
第十二條 民事訴訟法施行前ニ爲シタル請求  
ノ原因ヲ正當ナリトスル中間判決ニ對シテ  
ハ仍從前ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得  
第十三條 民事訴訟法施行前ニ爲シタル判決  
ニシテ原狀回復ノ申立ヲ却下シタルモノ又  
ハ請求ノ原因ヲ不當ナリトシタルモノニ對  
シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テ其ノ理由  
アルトキハ從前ノ規定ニ依リ事件ヲ第一審  
法院ニ差戻スコトヲ要ス  
第十四條 民事訴訟法施行前ヨリ繫屬スル證  
書訴訟ハ仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ完結ス但  
シ訴訟ガ民事訴訟法施行ノ際第一審ニ繫屬ス  
ルトキハ民事訴訟法施行ノ日ヨリ通常ノ手  
續ニ於テ繫屬スルモノト看做ス

附則  
本法ハ民事訴訟法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(康徳四年十二月一日)

五 刑事法